

静岡県富士郡芝川町

# 大鹿窪遺跡 窪B遺跡

— 県営中山間地域総合整備事業袖野の里ほ場整備に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書 —

(遺物編)

2006年  
芝川町教育委員会



大鹿窪遺跡 3-1 調査区 1号竖穴状遺構出土石器



大鹿窪遺跡 3-1 調査区 1号竖穴状遺構出土押圧縄文土器



大鹿窪遺跡 3-1 調査区 52号土坑出土隆線文土器



大鹿窪遺跡 3-3 C調査区 10号竪穴状遺構出土微隆起線文土器



大鹿窪遺跡 3-3C調査区 10号竪穴状遺構出土小形有舌尖頭器



大鹿窪遺跡 3-3C調査区 10号竪穴状遺構出土石鏃



大鹿窪遺跡 3-3E調査区 8号竖穴状遺構出土尖頭器①



大鹿窪遺跡 3-3E調査区 8号竖穴状遺構出土尖頭器②

## 例 言

1. 本書は静岡県富士郡芝川町大鹿窟に所在する大鹿窟遺跡・窟B遺跡の発掘調査報告書（遺物編）である。

2. 本書に係わる調査は、平成13年10月27日から平成14年3月22日まで大鹿窟遺跡・窟B遺跡の発掘調査を実施した。

整理事業として発掘調査報告書（遺構編）は平成14年9月27日から平成15年3月17日まで実施して刊行された。

発掘調査報告書（遺物編）は平成16年度事業として平成16年9月27日から平成17年3月20日、平成17年度事業として平成17年9月5日から平成18年3月17日まで実施した。

3. 整理事業にあたっては芝川町教育委員会が主体者となり、事業を進めた。

調査主体者	芝川町教育委員会	教育長	佐野 實
		事務局長	遠藤 明男
		主 幹	政野 勝樹
		担 当	保竹 貴幸

事業主体者	静岡県富士農林事務所
指導機関	静岡県教育委員会文化課
実施機関	関東日文化財調査室

4. 整理事業は芝川町教育委員会委託のもと、株式会社東日文化財調査室が実施した。

資料整理参加者 小金澤保雄・小金澤彩可・瀬川裕市郎・渡邊恵・長谷川順子・  
秋山富士子・井倉洋子・田中洋子・成岡直美・南雲淳子・影島大地  
小谷亮二・高橋章・佐藤保子・芳村鈴子・芳村竜也・赤井とし子・  
山本和美・内山良美・山下和美  
森島富士夫・伊藤恒彦・角張淳一・関アルカ

附編の原稿執筆は以下の通りである。

「大鹿窟遺跡出土黒曜石の原産地推定」 池谷信之  
「大鹿窟遺跡出土土器の産地について 胎土の重鉱物組成と元素組成から見た」 増島淳  
「静岡県大鹿窟遺跡出土炭化物のC14年代測定」 小林謙一

5. 報告書作成においては、次の方々にご指導・ご助言を賜った。（敬称略）

植松章八・大塚達朗・岡村道雄・加藤勝仁・金子直行・金子浩之・小崎晋・小林謙一・小林達郎・  
坂井秀弥・笹原芳郎・佐野五十三・白石浩之・杉山宏夫・鈴木敏中・鈴木正博・鈴木保彦・  
高尾良之・鶴田晴徳・富樫孝志・戸田哲也・中川律子・中嶋郁夫・長野康敏・馬飼野行雄・  
町田勝則・松本一男・宮崎朝雄・向坂鋼二・守屋豊人・渡井英香

6. 本書に係わる発掘調査の記録と遺物は、芝川町教育委員会で保管している。

## 凡 例

1. 基準点測量については以下である。  
グリッド・遺物等で使用している公共測量値は旧日本測地系第8系である。
2. 土器拓影図実測図の表記については以下である。  
輪積等による接合があるもの一部を別実測図で表記する。
3. 石器実測図の表記については以下である。  
磨面はスクリーントーンで表記する。  
磨面の範囲は 直線 で表記する。  
敲面の範囲は 破線 で表記する。  
着柄等による摩滅等はスクリーントーンで表記する。
4. 土器観察表の表記については以下である。  
(外) 外面、(内) 内面を意味する。

# 目次

## 例 言

## 凡 例

### 大鹿窪遺跡

#### 1 遺 物

(1) はじめに	3
(2) 土器の群・類・種	3
(3) 調査区の遺物	7
2-2 調査区	7
2-3 調査区	7
2-4 調査区	7
2-5 調査区	10
3-1 調査区	18
3-2 A・B 調査区	144
3-3 A 調査区	155
3-3 C 調査区	158
3-3 D・E 調査区	169
3-4 調査区	176

2 小 結	180
-------	-----

窪B遺跡	189
------	-----

1 遺 物	191
-------	-----

(1) 調査区の遺物	191
------------	-----

参考・引用文献	215
---------	-----

報告書抄録	218
-------	-----

## 附 編

「大鹿窪遺跡出土黒曜石の原産地推定」 池谷信之	265
-------------------------	-----

「大鹿窪遺跡出土土器の産地について—胎土の重鉱物組成と元素組成から見た—」 増島淳	278
---	-----

「静岡県大鹿窪遺跡出土炭化物のC14年代測定」 小林謙一	295
------------------------------	-----



## 挿図目次

図1-1	大鹿窪遺跡と窪B遺跡の調査区とグリッド配置	4
図1-2	3-1調査区 縄文時代草創期 遺構全体図	5
図2-1	2-2調査区 縄文時代 遺構・グリッド出土 石器・剥片他分布図	7
図3-1	2-3調査区 弥生時代以降 グリッド出土 石器分布図	8
図3-2	2-3調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図	13
図4-1	2-4調査区 縄文時代 グリッド出土 遺物分布図	9
図4-2	2-4調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図	13
図4-3	2-4調査区 中世 遺構出土 陶磁器分布図	10
図4-4	2-4調査区 中世 34号土坑出土 陶磁器実測図	14
図5-1	2-5調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図	11
図5-2	2-5調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図	14
図5-3	2-5調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・剥片他分布図	12
図5-4	2-5調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図	15
図5-5	2-5調査区 中世 1号土壇基出土 銭貨分布図	16
図5-6	2-5調査区 中世 1号土壇基出土 銭貨拓影図	16
図6-1	3-1調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 土器分布図	19
図6-2	3-1調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図	20
図6-3	3-1調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布図	21
図6-4	3-1調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 石器実測図①～⑧	22～29
図7-1	3-1調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 土器分布図	33
図7-2	3-1調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図	34
図7-3	3-1調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布図	35
図7-4	3-1調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 石器実測図①～⑧	36～43
図8-1	3-1調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 土器分布図	45
図8-2	3-1調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図	46
図8-3	3-1調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布図	47
図8-4	3-1調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 石器実測図	48
図9-1	3-1調査区 縄文時代草創期 4、5号竪穴状遺構出土 土器分布図	51
図9-2	3-1調査区 縄文時代草創期 4号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図	52
図9-3	3-1調査区 縄文時代草創期 4、5号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布図	53
図9-4	3-1調査区 縄文時代草創期 4号竪穴状遺構出土 石器実測図①～④	54～57
図10-1	3-1調査区 縄文時代草創期 5号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図	60
図10-2	3-1調査区 縄文時代草創期 5号竪穴状遺構出土 石器実測図①～③	61～63
図11-1	3-1調査区 縄文時代草創期 6号竪穴状遺構出土 土器分布図	66
図11-2	3-1調査区 縄文時代草創期 6号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図	67
図11-3	3-1調査区 縄文時代草創期 6号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布図	68
図11-4	3-1調査区 縄文時代草創期 6号竪穴状遺構出土 石器実測図①～④	69～72
図12-1	3-1調査区 縄文時代草創期 7号竪穴状遺構出土 土器分布図	75

図12-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	7号竪穴状遺構出土	土器拓影・実測図①~②	76~77
図12-3	3-1 調査区	縄文時代草創期	7号竪穴状遺構出土	石器・剥片他分布図	79
図12-4	3-1 調査区	縄文時代草創期	7号竪穴状遺構出土	石器実測図①~⑤	80~84
図13-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	9号竪穴状遺構出土	土器分布図	87
図13-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	9号竪穴状遺構出土	土器拓影・実測図	88
図13-3	3-1 調査区	縄文時代草創期	9号竪穴状遺構出土	石器・剥片他分布図	88
図13-4	3-1 調査区	縄文時代草創期	9号竪穴状遺構出土	石器実測図	89
図14-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	11号竪穴状遺構出土	土器分布図	92
図14-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	11号竪穴状遺構出土	土器拓影・実測図	92
図14-3	3-1 調査区	縄文時代草創期	11号竪穴状遺構出土	石器・剥片他分布図	93
図14-4	3-1 調査区	縄文時代草創期	11号竪穴状遺構出土	石器実測図①~⑤	93~97
図15-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	12号竪穴状遺構出土	土器分布図	99
図15-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	12号竪穴状遺構出土	土器拓影・実測図	99
図15-3	3-1 調査区	縄文時代草創期	12号竪穴状遺構出土	石器・剥片他分布図	100
図15-4	3-1 調査区	縄文時代草創期	12号竪穴状遺構出土	石器実測図	100
図16-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	14号竪穴状遺構, 53号土坑出土	遺物分布図	101
図16-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	14号竪穴状遺構出土	土器拓影・実測図	102
図17-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	51・52号土坑出土	遺物分布図	103
図17-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	51号土坑出土	土器拓影・実測図	104
図18-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	52号土坑出土	土器拓影・実測図	105
図19-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	53号土坑出土	土器拓影・実測図	106
図19-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	53号土坑出土	石器実測図	106
図20-1	3-1 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器分布図①~④	108~111
図20-2	3-1 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器拓影・実測図①~⑨	113~121
図20-3	3-1 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器・剥片他分布図①~④	125~128
図20-4	3-1 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器実測図①~⑬	130~142
図21-1	3-2 A・B 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器分布図	145
図21-2	3-2 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器拓影・実測図①~②	146~147
図21-3	3-2 A・B 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器・剥片他分布図①~②	149~150
図21-4	3-2 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器実測図①~④	151~154
図22-1	3-3 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器分布図	155
図22-2	3-3 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器拓影・実測図	156
図22-3	3-3 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器・剥片他分布図	157
図22-4	3-3 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器実測図	157
図23-1	3-3 C 調査区	縄文時代	10号竪穴状遺構・グリッド出土	土器分布図	159
図23-2	3-3 C 調査区	縄文時代草創期	10号竪穴状遺構出土	土器拓影・実測図	160
図23-3	3-3 C 調査区	縄文時代	10号竪穴状遺構・グリッド出土	石器・剥片他分布図①~②	161~162
図23-4	3-3 C 調査区	縄文時代草創期	10号竪穴状遺構出土	石器実測図①~③	163~165
図24-1	3-3 C 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器拓影・実測図	166
図24-2	3-3 C 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器実測図	167
図25-1	3-3 D・E 調査区	縄文時代	8号竪穴状遺構・グリッド出土	石器・剥片他分布図	170

図25-2	3-3 E調査区	縄文時代草創期	8号竪穴状遺構出土	石器実測図①~③	171~173
図26-1	3-3 E調査区	縄文時代	グリッド出土	土器分布図	174
図26-2	3-3 E調査区	縄文時代	グリッド出土	土器拓影・実測図	173
図27-1	3-4調査区	縄文時代	グリッド出土	遺物分布図	176
図27-2	3-4調査区	縄文時代	グリッド出土	土器拓影・実測図	177
図27-3	3-4調査区	縄文時代	グリッド出土	石器実測図	178
図28-1	大鹿窪遺跡	縄文時代草創期	隆線文土器		180
図28-2	大鹿窪遺跡	縄文時代草創期	押圧縄文土器		181
図28-3	大鹿窪遺跡	縄文時代草創期	石器①~④		183~186

## 表目次

表1	調査区出土	土器観察表	195
表2	調査区出土	石器観察表	209

## 写真図版目次

巻頭カラー01	大鹿窪遺跡	3-1調査区	1号竪穴状遺構出土石器		
巻頭カラー02	大鹿窪遺跡	3-1調査区	1号竪穴状遺構出土押圧縄文土器		
巻頭カラー03	大鹿窪遺跡	3-1調査区	52号土坑出土隆線文土器		
巻頭カラー04	大鹿窪遺跡	3-3 C調査区	10号竪穴状遺構隆起線文土器		
巻頭カラー05	大鹿窪遺跡	3-3 C調査区	10号竪穴状遺構出土小形有舌尖頭器		
巻頭カラー06	大鹿窪遺跡	3-3 C調査区	10号竪穴状遺構出土石鏃		
巻頭カラー07	大鹿窪遺跡	3-3 E調査区	8号竪穴状遺構出土尖頭器①		
巻頭カラー08	大鹿窪遺跡	3-3 E調査区	8号竪穴状遺構出土尖頭器②		
写真1-1	2-3調査区	縄文時代	グリッド出土	石器	221
写真2-1	2-4調査区	縄文時代	グリッド出土	石器	221
写真2-2	2-4調査区	中世	34号土坑出土	陶磁器	221
写真3-1	2-6調査区	縄文時代	グリッド出土	土器	222
写真3-2	2-5調査区	縄文時代	グリッド出土	石器	222
写真3-3	2-5調査区	中世	1号土壇墓出土	銭貨	222
写真4-1	3-1調査区	縄文時代草創期	1号竪穴状遺構出土	土器	223
写真4-2	3-1調査区	縄文時代草創期	1号竪穴状遺構出土	石器①~③	224
写真5-1	3-1調査区	縄文時代草創期	2号竪穴状遺構出土	石器①~②	226
写真5-2	3-1調査区	縄文時代草創期	2号竪穴状遺構出土	石器①~②	228
写真6-1	3-1調査区	縄文時代草創期	3号竪穴状遺構出土	石器①~②	229
写真6-2	3-1調査区	縄文時代草創期	3号竪穴状遺構出土	石器	230
写真7-1	3-1調査区	縄文時代草創期	4号竪穴状遺構出土	土器	231
写真7-2	3-1調査区	縄文時代草創期	4号竪穴状遺構出土	石器①~②	231
写真8-1	3-1調査区	縄文時代草創期	5号竪穴状遺構出土	石器①~②	232
写真8-2	3-1調査区	縄文時代草創期	5号竪穴状遺構出土	石器	234

写真9-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	6号竪穴状遺構出土	土器	……………	235
写真9-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	6号竪穴状遺構出土	石器	……………	236
写真10-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	7号竪穴状遺構出土	土器①～②	……………	237
写真10-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	7号竪穴状遺構出土	石器①～③	……………	238
写真11-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	9号竪穴状遺構出土	土器	……………	241
写真11-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	9号竪穴状遺構出土	石器	……………	241
写真12-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	11号竪穴状遺構出土	土器	……………	242
写真12-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	11号竪穴状遺構出土	石器	……………	242
写真13-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	12号竪穴状遺構出土	土器	……………	243
写真13-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	12号竪穴状遺構出土	石器	……………	243
写真14-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	14号竪穴状遺構出土	土器	……………	243
写真15-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	51号土坑出土	土器	……………	244
写真16-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	52号土坑出土	土器	……………	244
写真17-1	3-1 調査区	縄文時代草創期	53号土坑出土	土器	……………	245
写真17-2	3-1 調査区	縄文時代草創期	53号土坑出土	石器	……………	245
写真18-1	3-1 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器①～⑧	……………	245
写真18-2	3-1 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器①～③	……………	252
写真19-1	3-2 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器①～②	……………	255
写真19-2	3-2 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器	……………	256
写真20-1	3-3 A 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器	……………	257
写真21-1	3-3 C 調査区	縄文時代草創期	10号竪穴状遺構出土	土器①～②	……………	257
写真21-2	3-3 C 調査区	縄文時代草創期	10号竪穴状遺構出土	石器①～②	……………	259
写真22-1	3-3 C 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器	……………	260
写真22-2	3-3 C 調査区	縄文時代	グリッド出土	石器	……………	260
写真23-1	3-3 E 調査区	縄文時代草創期	8号竪穴状遺構出土	石器	……………	261
写真24-1	3-3 E 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器	……………	262
写真25-1	3-4 調査区	縄文時代	グリッド出土	土器	……………	262

写真25-2	3-4調査区	縄文時代	グリッド出土	石器	262
窪B遺跡					

## 図版目次

図1-1	窪B遺跡	縄文時代	遺構・グリッド出土	石器・剥片他分布図	192
------	------	------	-----------	-----------	-----

# 大鹿窪遺跡

# 1 遺物

## (1)はじめに

大鹿窪遺跡の西側には新第三紀の標高 400～450 m の天守山地、その山裾には芝川がともに南北に走り、東側には古富士火山によって形成された標高 300 m の羽船丘陵があり、西・南・東を囲まれるように所在しているため、冬季昼間は、季節風が強く吹くことが極めて少なく体感温度が温かく感じられる。また遺跡内には、新富士火山初期の活発な火山活動期に形成されたと推定されている芝川溶岩流を諸所に見ることができ、遺跡内の地形に変化を与えている。このような自然環境と、発掘調査時の調査区が細長く東西約 2700 m、南北約 1950 m と広範囲に渡っているため、調査区ごとの遺構確認面の地形は一様でなく変化が認められた。それは縄文時代草創期の生活面そのものが窪みの埋没谷と小さな壁の溶岩流、その間のほぼ平坦な地形にあり、遺跡全体の景観はこれら埋没谷と溶岩流がほぼ南北方向に併行し、全体に交互に発達するという起伏に富んだ景観を呈していたことが調査によって明らかになった。当時の人々にとっての生活領域もその地形から制約を受けていたと推定される。他方、こうした地形を積極的に利用することによって生活が成り立っていたことも推定される。

3-1 調査区は縄文時代草創期の陸線土器・爪形土器・押圧縄文土器等が竪穴状遺構から出土する集落跡が検出された調査区である。調査区の西には 2-5 調査区に向かってやや急に傾斜して下がる 1 号埋没谷がある。1 号埋没谷の最も低い場所の標高は約 171 m で、集落跡が分布する縄文時代草創期の検出面から約 2 m 程低まっている。北西から南東方向にかけては芝川溶岩流が比高約 1 m 程の高さをもって地形を区切っている。これらの地形に挟まれた、東から西に向かって標高を極めて緩やかにさげる傾斜面に、11基の竪穴状遺構をはじめとする配石遺構・集石遺構・土坑が広場を囲むようにみえる配置で分布している。さらに竪穴状遺構は富士山の方向を仰ぎ見るように馬蹄形に配置されているかのようになっている。陸線土器から押圧縄文土器にかけての、炭化物 C14 年代測定によって得られた 11,380～10,890 年前の約 500 年間は、急激な温暖化と寒冷化による気候の変化と富士山の火山活動が活発な時期とあいまって厳しい自然環境が想像されるが、出土土器の量や大量に出土する磨石・石皿からみてこの時期が植物採集生活では豊かなものであったことを物語る。

3-3 C 調査区の、微隆起線土器に小型の花見山型有舌尖頭器（白石浩之 1989）が伴って出土する一時期の竪穴状遺構は、東側にのびる埋没谷の西側急斜面を住居の壁として利用するかのようになり立地している。3-3 E 調査区では、主だった土器を伴わないホルンフェルス製を主体にした尖頭器が 30 点以上纏まって出土した地点は、溶岩流に囲まれて出来たホール状の竪穴状遺構であった。

これらのことから本報告書では調査区ごとの地形環境に留意しながら時期別に遺物を記載し、調査区ごとの特色を記述することに努めた。

## (2)土器の群・類・種

本書では大鹿窪遺跡から出土した土器を、以下の分類に従って記述している。まず群は第 1～12 群に分類しほぼ土器様式に相当するものとした（小林達雄 2002）。草創期の土器を第 1～4 群の 4 群、早期の土器を第 5～11 群の 6 群、前期の土器を第 12 群として分類した。次に群をほぼ土器型式に沿って類に分類、例えば第 1 群の陸線文系土器は第 1 類太陸線文を施文する土器から第 4 類の微隆起線文を施文する土器に分類した。さらに類を土器の主に施文方法＝文様もしくは胎土・色調・焼成等によって種に分類した。

### 縄文時代草創期の土器

草創期の第 1～4 群の土器は 3-1・3-3 C 調査区の遺構から出土したものを基準資料として分類

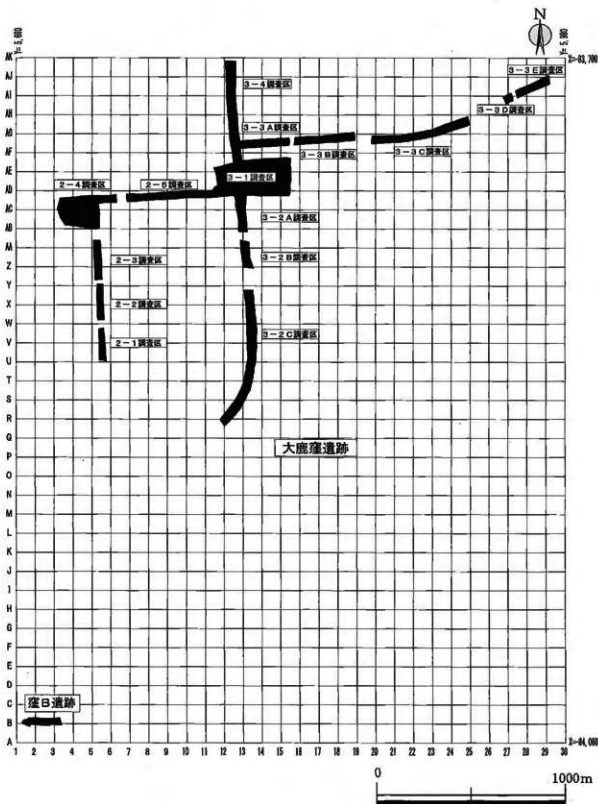


図1-1 大鹿窪遺跡と窪B遺跡の調査区とグリッド配置

の基礎資料とした。最も多く出土した土器は3-1調査区では第3群の押圧縄文系土器、3-3C調査区では第1群陸線文系土器の第4類微隆起線文土器である。3-1調査区では第1群陸線文系土器第1~3類と第2群爪形文系土器第1~2種が、少量ながら遺構とグリッドから一定量出土する。第3群



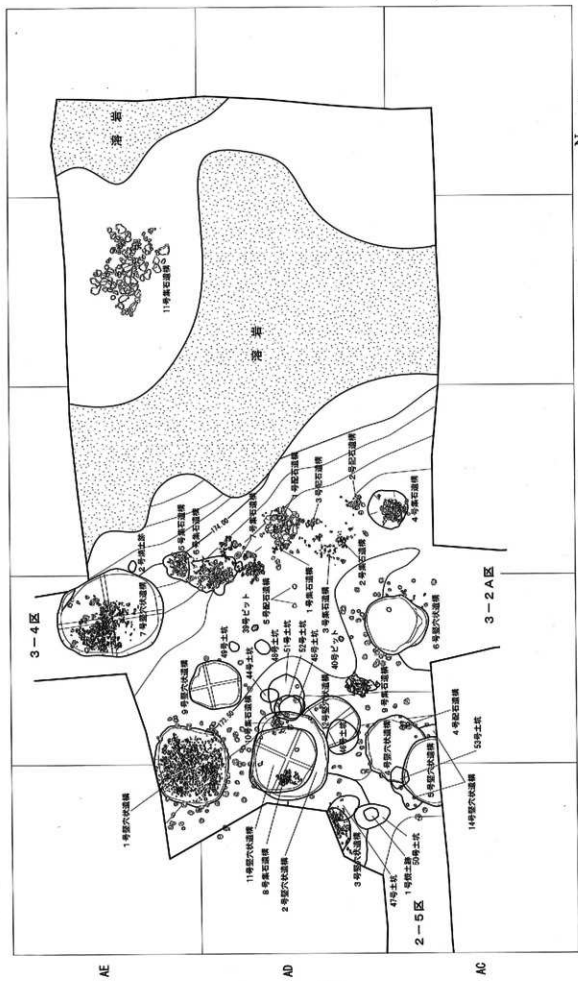


图 1-2 3-1 調査区 縄文時代等前期 遺構全体図

AE

AD

AC

押圧縄文土器は色調・胎土・調整によって第1～3種に分類した。また原体である絡条体の縄巻き間隔は密（6巻き以上/1.0cm）・狭い（5巻き/1.0cm）・やや狭い（4巻き/1.0cm）・やや広い（3巻き/1.0cm）・広い（2巻き/1.0cm）と表現した。絡条体の縄の表現は佐原眞（2005）によった。また3-1調査区では押圧縄文土器に伴って陸線文系土器・爪形文系土器と同様に遺構とグリッドから少量ながら一定量の無文・条痕文系・沈線文系土器が出土していることから、これらを第4群として取り扱った。これらの土器が関東地方・中部地方においても主体あるいは客体として出土することが指摘されていることによった（麻生優・白石浩之 2000）。

#### 縄文時代草創期

##### 第1群 陸線文系土器

- 第1類 太陸線文を施文
- 第2類 短陸線文（豆粒状）を施文
- 第3類 細陸線文を施文
- 第4類 微隆起線文を施文

##### 第2群 爪形文系土器

- 第1種 「ハ」の字文を縦位に施文
- 第2種 列状・単独に施文

##### 第3群 押圧縄文系土器

- 第1種 色調は暗く、胎土に砂粒を多く含み、外面が平滑調整で爪形文土器に似る
- 第2種 色調はやや明るく、胎土に金雲母を多く含み、調整は光沢がある
- 第3種 色調は暗く、胎土に金雲母を多く含み、調整は内面の指頭痕が顕著である

##### 第4群 無文・条痕文系・沈線文系土器

- 第1類 無文土器
- 第2類 条痕文系土器
- 第3類 沈線文系土器

#### 縄文時代早期の土器

##### 第5群 押型文系土器

- 第1種 山形押型文
- 第2種 槽円形押型文

##### 第6群 撥糸文系土器

##### 第7群 沈線文系土器

- 第1類 野島式土器
- 第2類 その他

##### 第8群 条痕文系土器

- 第1類 鶺鴒ヶ島台式土器
- 第2類 その他

##### 第9群 薄手土器

- 第1類 木島式土器

#### 縄文時代前期

##### 第9群 竹管文系土器

- 第1類 諸磯b式土器

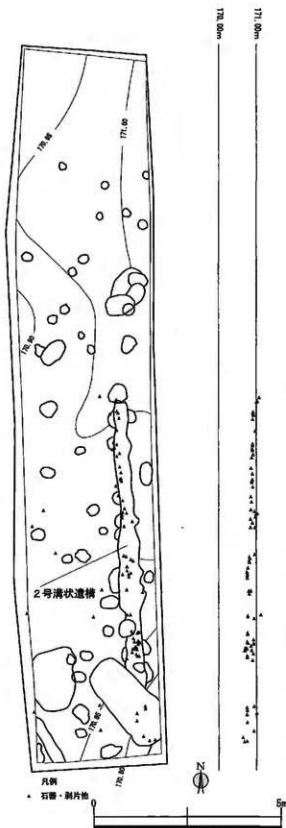


図2-1 2-2調査区 縄文時代 遺構・グリッド出土 石器・剥片他分布図

### (3)調査区の遺物

#### 2-2調査区

本調査区の縄文時代遺構確認面は2-1・2-3調査区内をほぼ南北方向に流下する2条の溶岩流に挟まれるほぼ平坦な地形の標高170.8～171.0mに位置する。本調査区からは縄文時代に属する遺構とグリッド（包含層）から計82点の遺物が出土した。遺物は調査区南半に位置する遺構の2号溝状遺構を中心に標高170.6～171.2mから出土した。

#### 縄文時代

##### 遺構

調査区にほぼ沿って南北方向に検出された縄文時代の2号溝状遺構からは礫・剥片他が52点、調査区南側の1号土坑からは礫・剥片他が7点、調査区中央の28号ピットは礫・剥片他が1点出土した。

##### グリッド

包含層からは22点が出土した。内訳は石器が磨石2点に礫・剥片他が19点である。

#### 2-3調査区

本調査区の縄文時代遺構確認面は、北側は溶岩流が南に流下し、北東から南西にかけて傾斜する地形で、標高170.8～171.2mに位置する。本調査区南端からは弥生時代以降の遺構から縄文時代に属する遺物が2点出土した。

#### 縄文時代

調査区南側の弥生時代以降の遺構である1号柱穴列跡P2から礫石器の斑瀝岩製の磨石が1点、20号土坑から剥片石器の黒曜石製の石鏃破損品が1点出土した。

#### 石器

図3-2-01(546)は敲石・磨石の複合石器である。平面形態が楕円形の礫を半割したもので、割れ口面を敲面、裏表面を磨り面としている。関東地方縄文時代早期前半撚糸文式土器形式期のスタンプ型石器と呼ばれる石器と同様の形態と機能を有している。

#### 2-4調査区

本調査区の縄文時代遺構確認面は、ほぼ東から西にかけて緩やかに傾斜する地形で、標高171.1～171.8mに位置する。本調査区中央から東側に向け

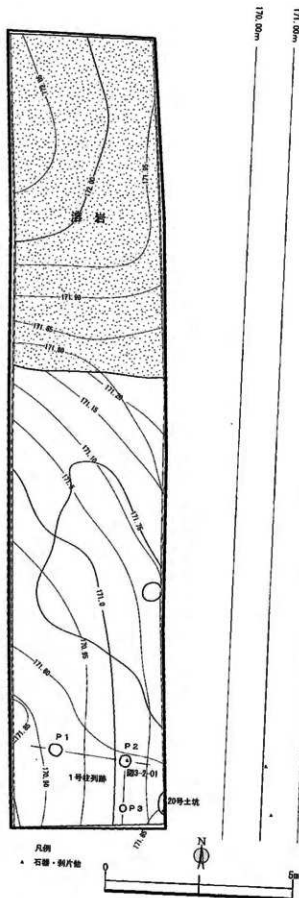


図3-1 2-3調査区 弥生時代以降 グリッド出土 石器分布図

てからは縄文時代に属するグリッド(包含層)から79点、弥生時代以降の遺構から2点の計81点が出土した。

#### 縄文時代

##### 遺構

土器は弥生時代以降の31号土坑から縄文土器が1点出土した。

##### グリッド

6層から79点が出土した。内訳は土器1点、石器・剥片他が78点の計79点である。

#### 石器

##### 打製石斧

図4-2-01 (1015) は5層から出土した頁岩製の打製石斧である。平面形態は長方形をした短冊形、側面は僅かに「S」字状に湾曲状を呈している。両側縁は両面から比較的丁寧に直接打撃の刃潰し加工のある典型的な打製石斧である。先端部は使用によると思われる剥離が残されている。基部の表面周辺に自然面を残している。

##### 敲石・磨石

図4-2-02 (1016) は敲・磨石の複合石器である。平面形態は楕円形、断面形態は表面が平坦となる不整形な楕円形を呈し、先端部を敲、表面を磨り面としている。図4-2-03(2990)は磨石で、平面・断面形態ともに楕円形と推定される破損品である。表面を磨り面としている。

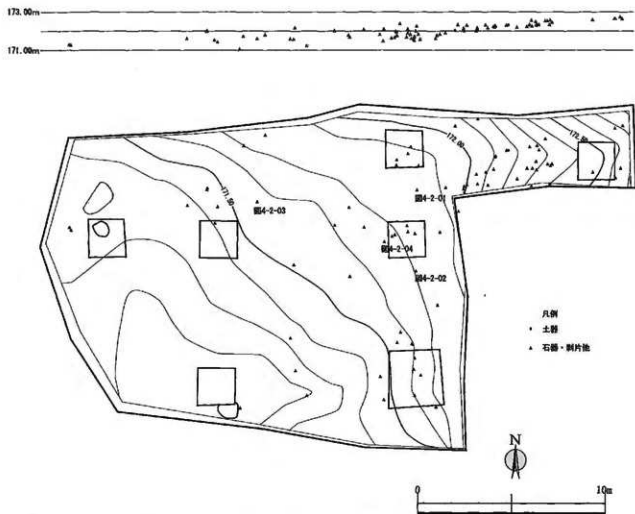


図 4-1 2-4 調査区 縄文時代 グリッド出土 遺物分布図

#### 石皿

図 4-2-04 (1599) は石皿の破損品である。平面形態は楕円形と推定、断面形態は裏表が平坦面となる形を呈し、裏表面を磨り面とするほか、表面と側面の一部を敲としている。

#### 中世

34号土坑から陶磁器が1点出土した。

#### 34号土坑

##### 陶磁器

図 4-4-01 (547) は34号土坑から出土した鏡蓮弁文青磁碗と推定される胴部小破片である。胴部は緩やかに内湾して開いて立ち上がる。外面は鱗と推定される縦位弧状の稜があり、内外面共に美しい貫入があり釉も均一で胎土も精製される等全体に丁寧な製作技法である。産地は中国からの貿易陶磁器で時期は中世に属すると推定される。

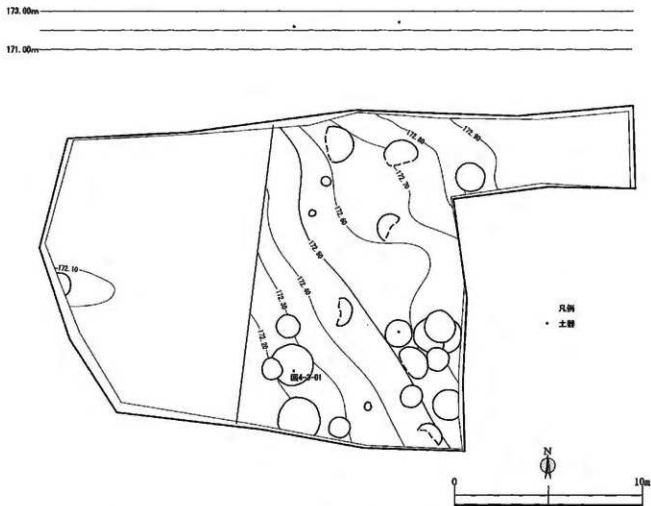


図4-3 2-4調査区 中世 遺構出土 陶磁器分布図

## 2-5調査区

本調査区からは縄文時代に属する遺構とグリッドから計1617点、中世の遺構から4点の計1621点の遺物が出土した。土器は45点出土した。調査区のほぼ中央には1号埋没谷が形成されており、その埋没谷の東側に位置する3-1調査区の遺物の一部が流下していることを示すように傾斜面から底にかけて遺物が分布している。出土した土器には縄文時代草創期の隆線文土器や押圧縄文土器、石器には石徹・磨石等が出土した。

### 縄文時代

#### グリッド

#### 土器

#### 隆線文土器

図5-2-01 (1369) は5層から出土した隆線文土器の胴部片でほぼ直線的にやや開いて立ち上がる。外面は横・斜位の擦痕に横位の幅約6mmの扁平で極めて薄い粘土紐を貼付けて隆線上を押し潰している。内面は指頭痕に棒状具によって条痕文状ヨコナデ調整が施される。硬質で胎土に砂粒を多く含み、器厚は7~8mmである。図5-2-02 (16282) は7層から出土した無文であるが調整・胎土・色調から第1群第1類隆線文土器の胴部片で図5-2-01と同一固体と推定される。ほぼ直線的にやや開いて立ち上がる。外面は斜位の擦痕、内面は指頭痕に棒状具調整具による条痕文状ヨコナデ調整が施される。硬質で胎土に砂粒を多く含み、器厚は10mmである。

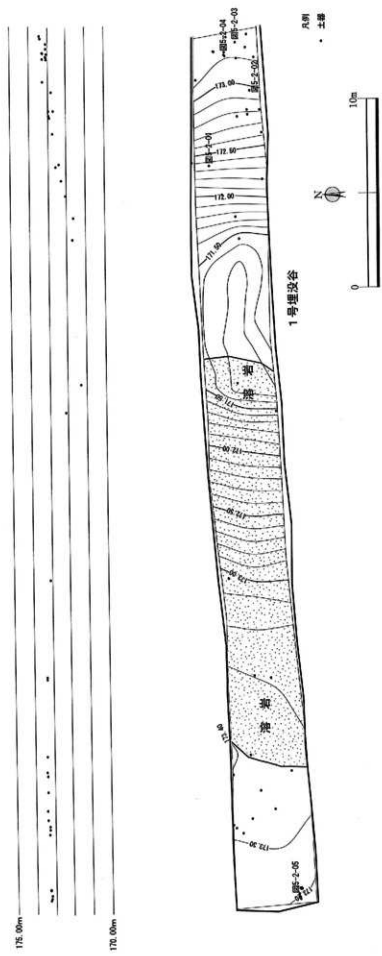
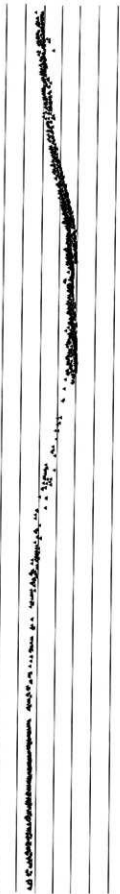


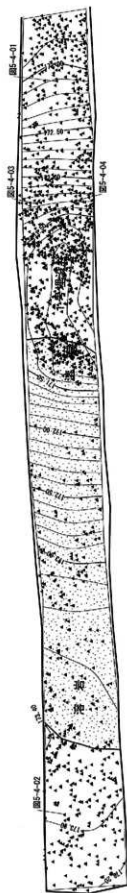
図 5-1 2-5 調査区 縄文時代 グリッド出土土 土器分布図

175.00m



170.00m

- 12 -



凡例  
● 石器・剥片類



図 5-3 2-5 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・剥片他分布図



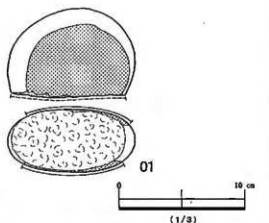


図 3-2 2-3 調査区  
縄文時代 グリッド出土  
石器実測図

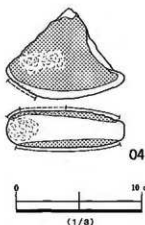
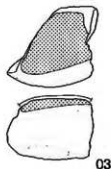
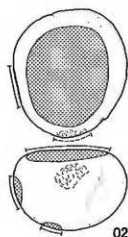
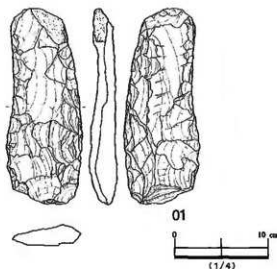


図 4-2 2-4 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図

#### 押圧縄文土器

図 5-2-03 (10457) は 7 層から出土した押圧縄文土器の胴部片ではほぼ直線的にやや開いて立ち上がる。外面の施文原体は直線的な 1 段の縄 R を細く間隔狭く密に左巻き付けた絡条体で横位に押圧縄文を施文、内面は丁寧なヨコナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土に金雲母・砂粒を多く含み、器厚は 7 mm である。図 5-2-04 (16272) は 7 層から出土した第 3 群第 2 種押圧縄文土器の胴部下半片で僅かに内湾して開いて立ち上がる。外面の施文原体は直線的な 1 段の縄 R を間隔広く右巻き付けた絡条体で斜・縦位に押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に雲母・砂粒を含み、器厚は 6 ~ 8 mm である。

#### 無文土器

図 5-2-05 (1381) は 6 層から出土した無文土器の胴部片で僅かに外反気味にやや開いて立ち上がる。外面は擦痕状のヨコナデ、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒・雲母に獣毛繊維を含み、器厚は 7 ~ 8 mm である。

#### 石器

#### 石鏃

図 5-4-01 (1798) は 6 層から出土した黒曜石製の石鏃で、平面形態は左右非対称な二等辺三角に近く、



図 4-4 2-4 調査区 中世 34号土坑出土 陶磁器実測図

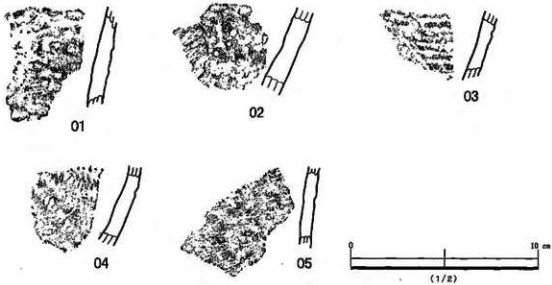


図 5-2 2-5 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図

左脚部の先端部を僅かに欠損しているやや挟りの深い凹基である。断面形態はやや薄い凸状レンズを呈し、両面加工で両側縁に調整が施される。

#### スクレイパー類

図 5-4-02 (1737) は 6 層から出土した刃部加工のある剥片石器で搔器として利用されたと推定、平面形態は長方形に近く、両面ともに素材面を残し左側縁から先端部にかけてやや粗い調整によって刃部としている。

#### 敲石・磨石・凹石

図 5-4-03 (1545) は細礫岩製の凹石の敲石・凹石・磨石の複合石器で約 1/5 が欠損、平面形態は楕円形、表面には磨り面と凹、裏面に凹、側面に敲面がある。図 5-4-04 (1575) は輝石安山岩製の敲石・凹石・磨石の複合石器の完形品で、平面形態は楕円形、表面には磨り面と凹、裏面に凹、右側面に敲面がある。中世

中世後半に属する 1 号土墳墓から銭貨が 4 地点から 6 枚出土した。

#### 1 号土墳墓

##### 銭貨

銭貨は全て中国から輸入された渡来銭で、出土地点が集中しており、いわゆる「六道銭」として埋納したものと考えられる。「近世初期 17 世紀の出土状況から、本来「六道銭」は「布ないし紙に包まれるか、小さな頭陀袋のようなものに納められ、遺体の胸元ないし、胸の所に組み合わせた手のひらの中に

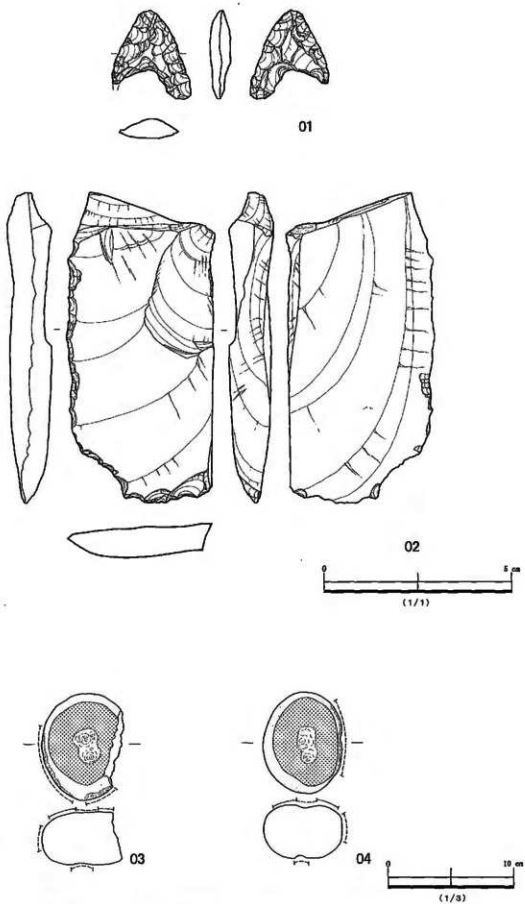


図5-4 2-5調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図

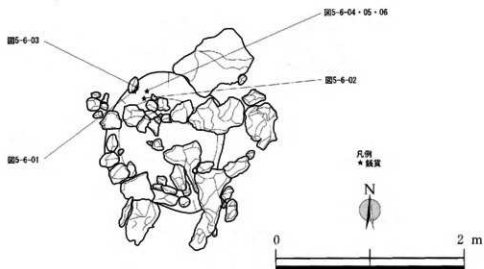


图 5-5 2-5 調查区 中世 1号土墳墓出土 錢貨分布图

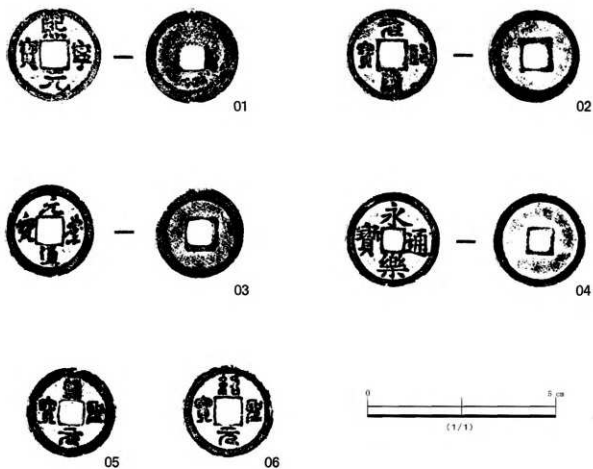


图 5-6 2-5 調查区 中世 1号土墳墓出土 錢貨拓影图

持たせるようにしていた」(鈴木公雄 2002)ことを参考にすると、出土位置が土墳墓内の北北西に集中していることから遺体が北枕で埋葬されていたと考えられる。

図 5-6-04(17)・図 5-6-05(17)・図 5-6-06(17)の3枚は出土時に青錆によって張り合わさった状況であった。整理段階で図 5-6-04 は分離できたが、図 5-6-05・図 5-6-06 は分離できなかったことから裏面がともに張り合わさったまま記載した。図 5-6-01(14)は北宋(960～1127年)の「元寧通宝」真書で、六代神宗(1068～1085)は、治平四年に熙寧と改元し、熙寧元年(1068年)に、真書、篆書の二書体で改鑄した。使用に摩滅がやや認められる。図 5-6-02(15)は北宋の「元符通宝」篆書である。七代哲宗(1086～1101)は、紹聖五年に年号を元符と改め、元符元年(西暦1098年)に篆書・行書・真書の三書体を発行した。使用による摩滅が認められる。図 5-6-03(16)は北宋の「元豊通宝」篆書で、六代神宗によって1078年に発行された。使用に摩滅があまり認められない。図 5-6-04(17)は明の「永楽通寶」で、明の第3代皇帝成祖永楽帝(洪武帝の4男)である燕王が、皇位を勝ち取り、都を南京から北京に遷して即位した1403年に発行された。日本は明とも勘合貿易によって多くの明銭が国内に流入をし、輸出専用の銭貨との説がある。16世紀以降の備蓄銭の割合は16%であったが、その他の銭貨に対して4～7倍の価値があったことから戦国期から近世初期にかけて最も好まれた銭貨であった(鈴木公雄 2002)。文字も使用による摩滅が認められないしっかりした鑄造である。図 5-6-05・06 はともに北宋の「紹聖元寶」篆書である。哲宗は、元祐九年に紹聖と改元し、紹聖元年(1094年)に紹聖元寶、紹聖通寶の二銭を鑄造した。元寶銭に行書、篆書の二書体がある。図 5-6-05 に使用による摩滅が認められる。

### 3-1 調査区

#### 縄文時代草創期の遺構と遺物

本調査区では遺構内覆土から土器・石器等が纏まって遺物が出土し、土器と石器の共伴関係や石器組成を知ることができたことが大きな成果であった。遺物が出土した主な遺構には1・2・3・4・5・6・7・9・11・12・14号竪穴状遺構、51・52・53号土坑等がある。これらの遺構からは押圧縄文土器や陸線土器に所属する時期の遺物が出土した。

#### 1号竪穴状遺構 (SB3001)

本遺構からは遺物が1164点、内土器が185点、石器・礫・剥片他が979点出土した。平面分布は遺構内の炉跡より東側を中心とした地点からやや多くの遺物が出土した。垂直分布は標高約172.9～173.7 mにかけての標高173.0 m前後にある床面から約10 cmの厚さ、また標高173.5 m前後の覆土上位層にも遺物がやや集中する傾向がみられた。

#### 土器

##### 陸線土器

図6-2-01 (16021) は遺構中央の覆土上位から出土した陸線土器の胴部片である。外面は荒れているが横位に長さ約6 mmの豆粒状の短い粘土紐を1ヵ所貼付施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。表面内部の色調が明るく、胎土に白色砂粒を多く含む特徴があり、器厚は7～9 mmである。

##### 爪形文土器

図6-2-02 (14865) は遺構中央の覆土上位から出土した爪形文土器の口縁部片で僅かに外反気味に立ち上がり、口唇部は扁平に仕上げている。外面は縦位に「ハ」の字の爪形文を施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は全体に暗く、胎土に金雲母・砂粒・繊維を含む特徴があり、器厚は5～7 mmである。

##### 押圧縄文土器

図6-2-03 (25164) は遺構中央の床面から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部にキザミ状に押圧縄文が連続施文される。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔狭く密に右巻き付けた絡条体で横位の押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に粒の大きい砂粒を含み、器厚は5～6 mmである。図6-2-04 (24289) は遺構東南隅覆土上位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部が僅かに肥厚し丸く仕上げている。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔広く左巻き付けた絡条体で横位に押圧縄文が施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。図6-2-03と器面の質は似ており色調は暗く胎土に雲母・砂粒を含み、器厚は5～6 mmである。図6-2-05 (14867) は押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体が直線的な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた絡条体で横位の押圧縄文が施文、内面は指頭痕に擦痕状が施される。03 (25164) と器面の質は似ており色調は暗く胎土に金雲母を多く含む他に繊維を含み、器厚は6～8 mmである。上下が接合部で割れたことによって上部に擬口縁の丸い凸面、下部に丸い凹面が明瞭に認められることから接合部に技法の一端を知ることができる資料である。図6-2-06 (13088) は遺構東南隅床面から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体は1段の縄Rを間隔広く左巻き付けた絡条体で横・斜位の押圧縄文が施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は雲母・砂粒を含み、器厚は6～7 mmである。図6-2-07 (21973) は遺構東南隅床面から出土した押圧縄文土器の口縁部付近片で胴部から緩やかに「S」字状に立ち上がる。外面から内面にかけて約10 mmの円孔が穿かれている。外面の施文原体は直線的で不明瞭な1段の縄Rを間隔広く左巻き付けた絡条体で斜位の押圧縄文が施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。図6-2-03と器面の質は似ており色調は暗く胎土は砂粒を含み、器厚は5～6 mmである。図6-2-08 (15205・15206・18290) は遺構中央の覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片

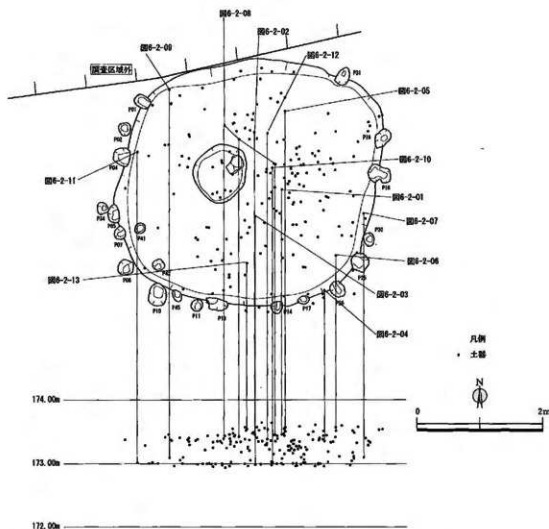


図 6-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号堅穴状遺構出土 土器分布図

である。外面の施文原体は僅かに曲線を呈する1段の縄Lを間隔やや広く左巻き付けた絡条体で縦～斜位の押圧縄文が施文、内面は指頭痕調整が施される。03 (25164) と器面の質は似ており色調は暗く胎土に粒の大きな砂粒を多く含む他に雲母・繊維を含み、器厚は5～8mmである。図6-2-09 (21972) は遺構北西隅床面から出土した押圧縄文土器の胴下半片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面の施文原体は、直線的で不明瞭な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた絡条体で斜位に押圧縄文が羽状に2施文帯をもって施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は淡色でやや明るくテカリがあり胎土に金雲母を多く含む硬質、器厚は7～8mmである。推定胴部径が最大で約17cmである。10 (24543)・11 (24544) と同一固体と推定されるが10 (24543) の内面だけが丁寧なヨコナデ調整されており違いがある。図6-2-10 (24543) は遺構中央床面から出土した押圧縄文土器の胴下半片である。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔やや広く巻き付けた絡条体で斜位に押圧縄文が羽状に2施文帯をもって施文、内面は丁寧なヨコナデ調整が施される。色調は淡色でやや明るくテカリがあり胎土に金雲母を多く含む他に砂粒を含み硬質、器厚は7～8mmである。図6-2-11 (24544) は遺構西隅床面から出土した押圧縄文土器の底部付近片で開いて直線的に立ち上がる。外面は縦位に押圧縄文が施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。底部に近い部分に爪形文に似る押圧施文が見られる。色調は淡色でやや明るくテカリがあり胎土に金雲母を多く含む。他に繊維を含み硬質、器厚は8～10mmである。

押圧縄文土器を本遺構から器面の色調・調整、胎土等から大きく2類に分けることが出来る。一つは

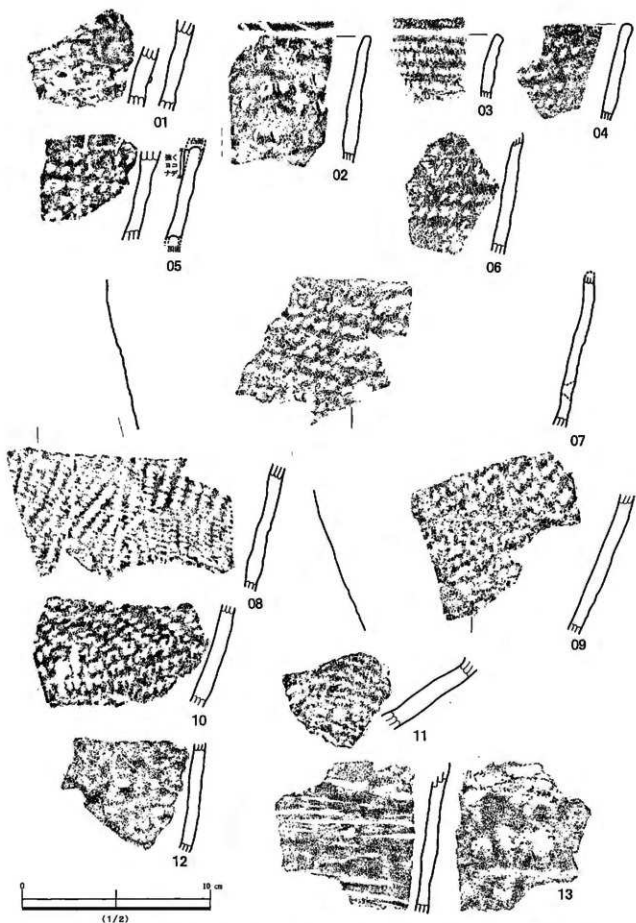


图 6-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 土器拓影・実測図



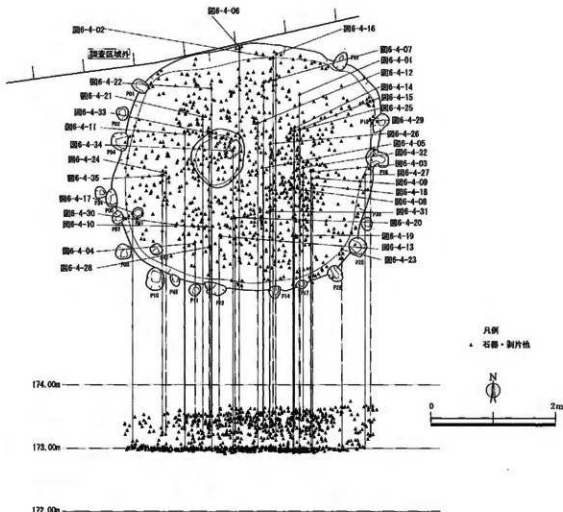


図 6-3 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 石器・制片他分布図

図 6-2-09 を代表とする色調が淡色でやや明るく、内面の調整が丁寧で指頭痕調整が目立たなく硬質な第 1 種と、図 6-2-03 を代表とする色調が暗く、内面の指頭痕調整が目立ちやや器厚が薄い第 2 種である。第 1 種が出土位置から推定すると床面および直上から出土することや色調・調整が陸線土器や一部の爪形土器に似ることを理由として第 1 種→第 2 種の変遷を 1 号竪穴状遺構では推定する。

#### 無文土器

図 6-2-12 (19071) は中央北寄覆土上位から出土した無文土器の胴部片である。外面は器面が荒れておりやや不詳、内面は指頭痕調整が施される。胎土は金雲母・砂粒を多く含む他に繊維を含み、器厚は 6～7mm である。

図 6-2-13 (14622) は西側覆土上位から出土した無文土器・沈線文の胴部片である。割れ口に接合による儀口線が残されている。外面は棒状具による横位の沈線文が粗く施文され器面全体に光沢あり、第 1 群第 4 類微隆起線文土器の器面に似ている。内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。胎土は雲母・砂粒を含み、器厚は 5～8mm である。

#### 石器

##### 石鏃

図 6-4-01 (25364) はホルンフェルス製の石鏃で左側基部の一部が欠損している無基の二等辺三角形を呈する。裏面に素材面を残し、両側縁は微細な押圧割離によって僅かに丸みをもって調整される。図

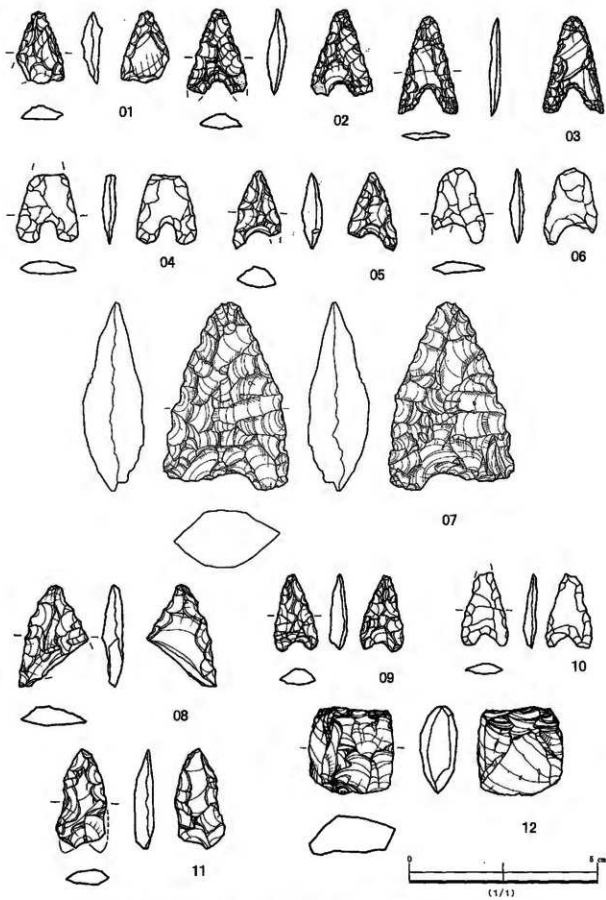


图 6-4 3-1 调查区 绳文时代草创期 1号竖穴状遺構出土 石器実測図①

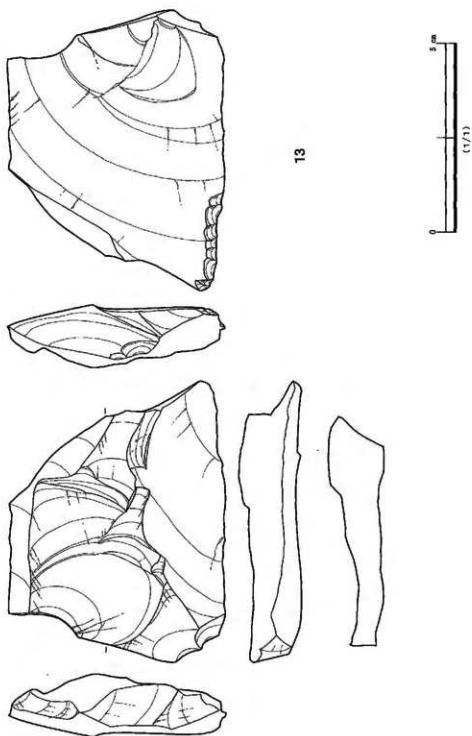


图 6-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 石器実測図②

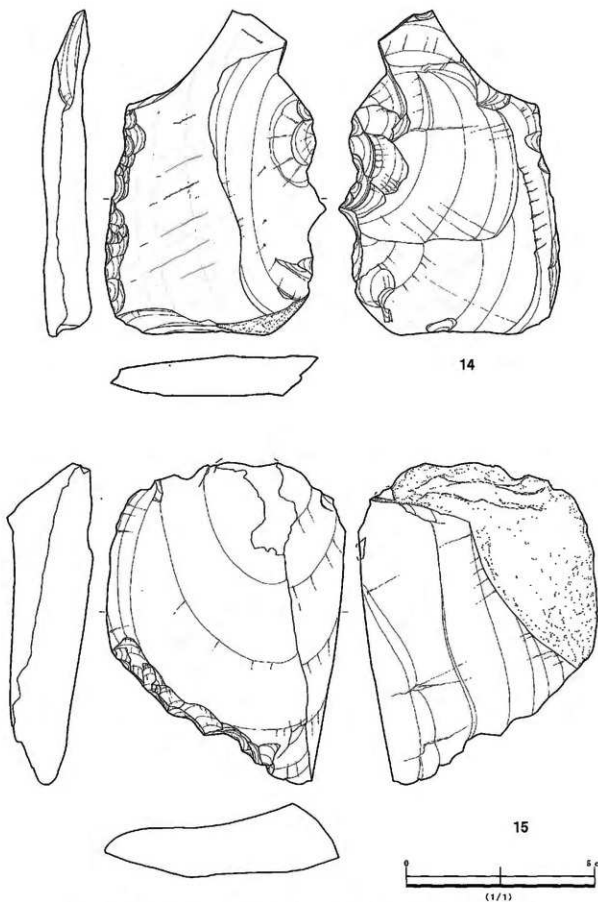


图6-4 3-1调查区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 石器実測図③

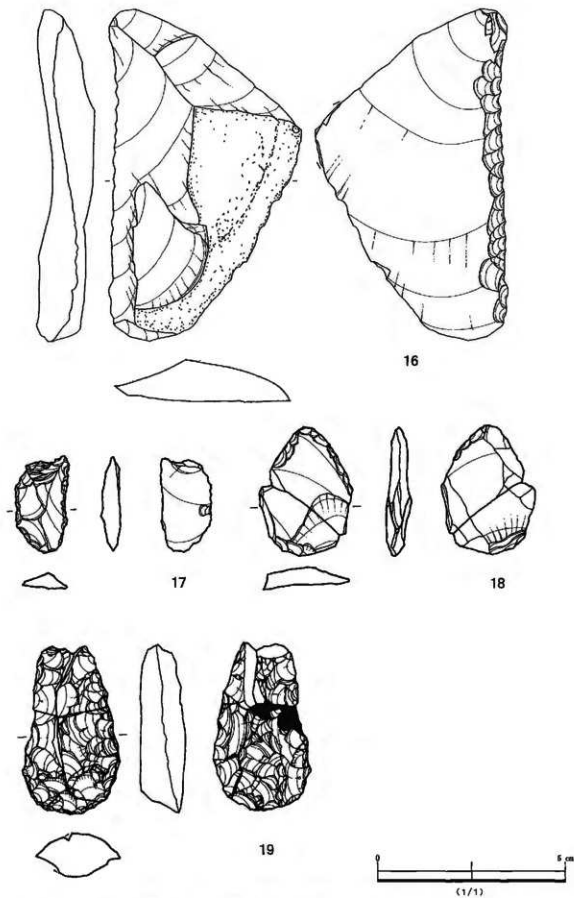


图 6-4 3-1 调查区 绳文时代草创期 1号竖穴状遺構出土 石器実測图④

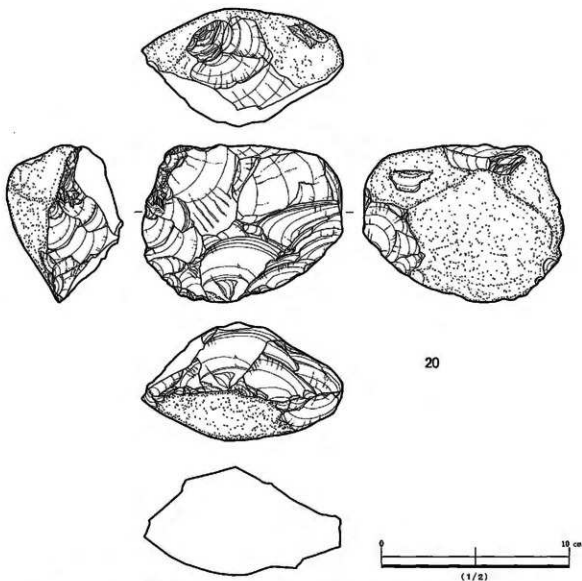
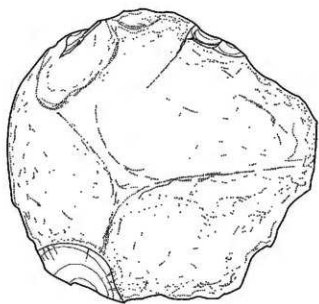


図6-4 3-1調査区 縄文時代草創期 1号壑穴状遺構出土 石器実測図⑤

6-4-02 (14856) は黒曜石製の石鏃で左右脚部先端が欠損している挟りのやや深い凹基の二等辺三角形を呈する。両面調整が施され右側脚部の一部に自然面が僅かに残され、両側縁は微細な押圧剥離によって直線的に調整される。図6-4-03 (14857) はチャート製の石鏃の完形品で挟りのやや深い凹基の均整とれた二等辺三角形を呈する。両面に素材面を残し、先端部はやや丸く、両側縁は直線的に微細な押圧剥離によって調整される。図6-4-04 (15184) はホルンフェルス製の石鏃で先端部が欠損している挟りのやや深い凹基の二等辺三角形を呈する。両面に素材面を残し、両側縁は僅かに丸みに調整される。図6-4-05 (16029) は黒曜石製の石鏃で右脚部先端が欠損している挟りのやや深い凹基の二等辺三角形を呈する。両面調整が施され、両側縁は微細な押圧剥離によって僅かに丸み調整される。図6-4-06 (16055) はホルンフェルス製の石鏃で左脚部先端が欠損している挟りのやや深い凹基の二等辺三角形を呈する。裏面に素材面を残し、先端部は小さく丸く、両側縁は僅かな凹凸をもって丸みに調整される。図6-4-07 (18252) は黒曜石製の両面加工石器で平面形態が石鏃に似ており全長5.0cmのやや大形な完形品である。挟りのやや浅い凹基の左右脚部が不均整となる左右非対称な二等辺三角形を呈する。ソフトハンマーの直接打撃と、押圧剥離で成形される両面調整され先端部は小さく丸く、両側縁はやや丸く押圧剥離される。特に左側縁はさらに微細な剥離調整がされる。非対称な平面形態から表面を90度左回転させると



21

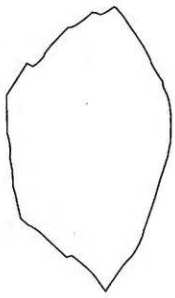
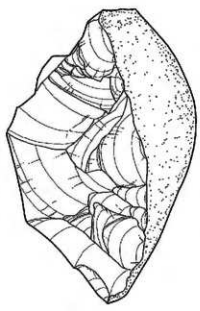
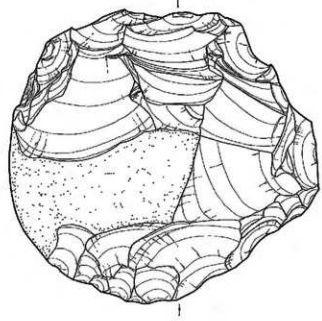
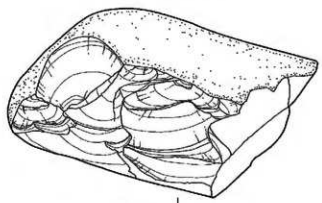
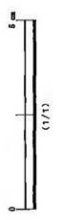


图6-4 3-1 调查区 縄文時代草創期 1号壑穴状遺構出土 石器実測図⑥

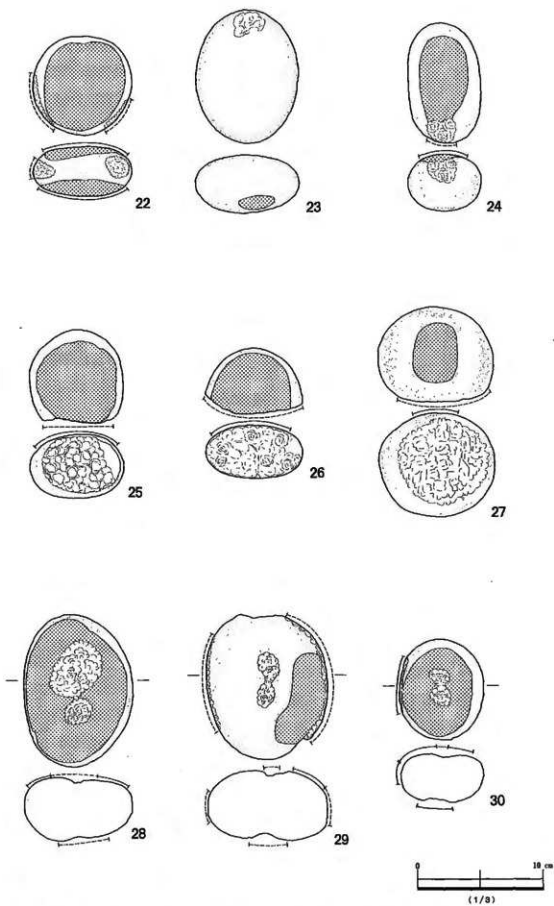


图 6-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号壑穴状遺構出土 石器実測図⑦



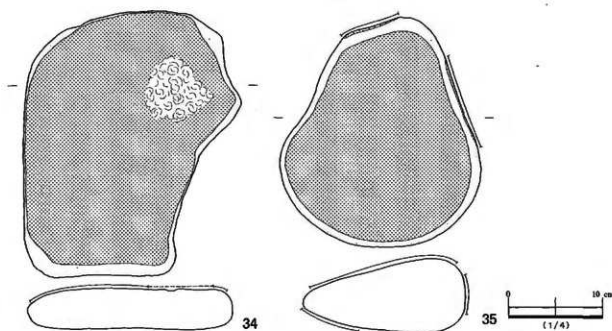
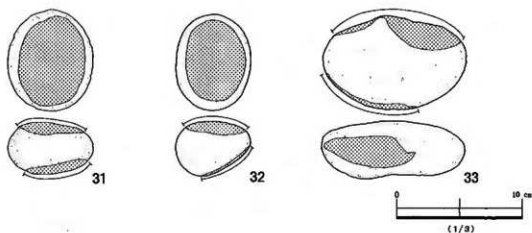


図6-4 3-1調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 石器実測図⑧

左側縁の剥離調整部分を刃部、右脚部をツマリと推定すると石匙の形態と機能を示す可能性が考えられる。図6-4-08 (25044) はガラス質黒色安山岩製の石鎌で右脚部が欠損している挟りの幅が広い凹基の二等辺三角形を呈する。裏面に素材面を残し、両側縁は微細な押圧剥離によって丸みに調整される。図6-4-09 (25554) はチャート製の石鎌で完形品である。挟りのやや浅い凹基の二等辺三角形を呈する。両面調整が施され、両側縁は僅かに丸みに押圧剥離によって調整される。図6-4-10 (25594) はホルンフェルス製の石鎌で先端部が欠損している挟りのやや深い凹基の二等辺三角形を呈する。裏面に素材面を残し、両側縁は僅かな凹凸をもって丸みに調整される。図6-4-11 (25580) は流紋岩製の石鎌で左右脚部先端が欠損している挟りのやや深い凹基の二等辺三角形を呈する。両面調整が施され、両側縁は押圧剥離によって僅かな凹凸をもって調整される。

#### 両極石器（楔形石器）

図6-4-12 (24462) は黒曜石製の両極石器（楔形石器）である。平面形態が正方形を呈し裏面に素材面を残し、端部は加撃を受けた直線的な縁辺部で対辺に向かって剥離があり、縦断面形態は凸レンズ状となる。

## スクレイパー

図 6-4-13 (15189) は頁岩製の削器である。平面形態は不定形な台形を呈し、縦長剥片の側縁を刃部にしてある。刃部加工は風化で溶けて不明瞭であるが鋸歯縁の押圧剥離と考えられる。図 6-4-14 (21782) は頁岩製の鋸歯縁削器である。平面形態は不定形な台形を呈し、一部に自然面を残し、横長剥片素材に末端縁に急角度の押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成している。図 6-4-15 (25238) は頁岩製の鋸歯縁削器である。平面形態は不定形な台形に近い形を呈し、一部に自然面を残し、縦折を生じた縦長剥片の側縁に急角度の間接打撃で鋸歯状の刃部を形成している。図 6-4-16 (25699) は頁岩製の鋸歯縁削器である。平面形態は不定形な三角形に近い形を呈し、一部に自然面を残し、垂直打撃で生じた縦長剥片の側縁に急角度の押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成している。図 6-4-17 (23607) は頁岩製の不定形な小形な鋸歯縁削器である。裏面は素材面を残し両側縁に押圧剥離調整が施される。図 6-4-18 (25049) は頁岩製の不定形な鋸歯縁削器である。平面形態は二等辺三角形に近く、両側縁から先端部にかけてと基部の一部に押圧剥離調整が施される。

## 鏃状石器

図 6-4-19 (21796) は黒曜石製の鏃状石器・搔器である。平面形態は尖頭器の尖塔部が欠損した形に近く、刃部は円形に近い形を呈し、両面・両側縁加工が施される。刃部は微細な急角度の押圧剥離調整が施され搔器と同様の調整が施されている。

## 石核・礫器

図 6-4-20 (19043) は頁岩製の円盤状の石核である。末端縁が燻剥離になる矩形剥片を剥離している。

図 6-4-21 (21805) は頁岩製の片刃礫器である。円礫の一端にハードハンマーの直接打撃で粗い刃部を形成している。片面全体と一部に自然面を残している。

## 敲・凹・磨石

図 6-4-22 (14602) は細礫岩製敲・磨石の複合石器である。平面形態は円形に近く断面形態は扁平の強い楕円形を呈し、両面を磨り面、側面を敲面として利用している。図 6-4-23 (19276) は中粒砂岩製の敲石である。平面形態は楕円形で断面形態は扁平の強い楕円形を呈し、端部を敲面として利用している。図 6-4-24 (19050) は閃緑岩製の敲・磨石の複合石器である。平面形態は扁平の強い楕円形で断面形態はやや扁平の弱い楕円形を呈し、片面を磨り面、端部を敲面として利用している。図 6-4-25 (14873) はアブライト製の敲・磨石の複合石器である。平面形態は楕円形の礫を約 1/3 を割り、断面形態は楕円形を呈し、片面を磨り面、割れ口を敲面として利用している。平坦な割れ口を敲面として利用していることから縄文時代早期畿内土器型式期に盛行する「スタンプ形」石器に似た形状と機能を有していると考えられ、また敲面は平滑で光沢がみられることから植物繊維等の比較的柔らかなものを敲いていたと推定される。図 6-4-26 (21783) は閃緑岩製の敲・磨石の複合石器である。平面形態は楕円形の礫を約 1/2 に割り、断面形態は楕円形を呈し、片面を磨り面、割れ口を敲面として利用しており、30 と同様「スタンプ形」石器に似た形状と機能を有している。図 6-4-27 (24903) は凝灰岩製の敲・磨石の複合石器である。平面形態・断面形態ともに扁平の強い球形の約 1/4 を割り、片面を磨り面、平坦な割れ口を敲面として利用する「スタンプ形」石器と同様である。図 6-4-28 (15220) は粗粒砂岩製の凹・磨石の複合石器である。平面形態は扁平な楕円形で断面形態はやや扁平の強い楕円形を呈し、両面に 2 ヶ所の凹による凹があり、全体を磨り面としている。図 6-4-29 (25767) は輝石安山岩製の凹・磨石の複合石器である。平面形態は楕円形で断面形態はやや扁平の強い楕円形を呈し、両面に凹による 2 ヶ所の凹、側面にも凹、磨り面としている。図 6-4-30 (15186) は粗粒砂岩製の凹・磨石の複合石器である。平面形態は楕円形で断面形態はやや扁平の強い楕円形を呈し、両面に凹による 2 ヶ所の凹、側面を磨り面としている。図 6-4-31 (21812) は閃緑岩製の磨石である。平面形態は楕円形で断面形態はやや扁平の強い

楕円形を呈し、両面を磨り面としている。図 6-4-32 (14870) は角閃石安山岩製の磨石である。平面形態は楕円形で断面形態は卵状の楕円形を呈し、両面を磨り面としている。図 6-4-33 (21798) は閃緑岩製の磨石である。平面形態・断面形態ともにやや扁平の強い楕円形を呈し、両側面を磨り面としている。

#### 石皿

図 6-4-34 (22250) は床面中央炉跡脇から出土した輝石安山岩製の石皿である。平面形態は台形に近い不整形で断面形態は中央部が僅かに凹む極めて扁平な形で全体に板状を呈する。平坦部全体を磨り面とし張り出した部分に敲痕が認められる。図 6-4-35 (19051) は閃緑岩製の石皿である。平面形態は洋梨状で断面形態は扁平の強い楕円形を呈し、表裏面の緩やかな曲面と側面を磨り面としている。

## 2号竪穴状遺構 (SB3002)

本遺構からは遺物が932点、内土器が170点、石器・礫・剥片他が762点出土した。平面分布は遺構内のほぼ全体から遺物が出土した。垂直分布は標高約172.8～173.6 mにかけての標高173.0 m前後にある床面から約20cmの厚さの層と標高173.5 m前後の覆土上位層にもやや集中する2層がみられた。

### 土器

#### 隆縁文土器

図7-2-01 (22185) は遺構東隅床面から出土した隆縁文土器で、口唇部がやや尖る口縁部片である。外面は斜位の幅約6mmの扁平で薄い粘土紐貼付けが剥離しており、隆縁上を爪形状に押圧する。内面は指頭痕にナデ調整が施される。胎土に金雲母を少量含み、器厚は4～5mmである。図7-2-02 (15160) は遺構西側覆土から出土した隆縁文土器の胴部片である。外面は斜位に幅約3mmの丸みのある粘土紐を貼付け隆縁上をへら状具でキザミ状に連続押圧し、器面は内面ともにヨコナデ調整が施される。胎土に粒の大きい砂粒を多く含み、器厚は6～12mmである。

#### 爪形文土器

図7-2-03 (18158) は遺構北西側覆土中位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は縦位に「ハ」の字の爪形文が連続施文される。内面は指頭痕に条痕状調整が施される。胎土に金雲母を多く含む他に砂粒を含み、器厚は4～7mmである。

#### 押圧縄文土器

図7-2-04 (21823) は遺構北東隅覆土下位から出土した押圧縄文土器で爪形文に近似する施文の胴部片である。外面は横位に施文原体が1段の縄R左巻きで「ハ」の字に近似する爪形文が連続施文される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒を含み、器厚は9～10mmで他の爪形文土器の焼成・色調・胎土と共通する。図7-2-05 (16082) は遺構中央押覆土下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部に特徴があり折返し状に肥厚させキザミ状押圧が施文される。外面の施文原体が直線的な棒状で1段の縄Rを間隔狭く右巻き付けた施文具（絡条体）で横位から斜位の押圧縄文が2施文帯をもって施文、器面はヨコナデに調整される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は4～5mmである。図7-2-06 (21970) は遺構北東側床面から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部に特徴がありやや強く外反し丸く納められる。外面の施文原体が直線的な1段の縄Rを間隔やや広く右巻き付けた施文具（絡条体）で斜位の押圧縄文が施文される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調が明るく胎土は粒の大きな砂粒と金雲母を少量含み、器厚は4～5mmと薄手である。図7-2-07 (21439) は遺構西側隅覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片で外反を強めて立ち上がる。外面の施文原体が直線的な1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）では斜位～横位の押圧縄文が3施文帯をもって施文、内面は指頭痕が目立ち強いヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土は金雲母を多く含む他に砂粒・繊維を含み、器厚は5～8mmである。図7-2-08 (18146) は遺構南東側覆土中位から出土した押圧縄文土器の口縁部片でやや外反して立ち上がり口唇部を平坦気味に仕上げている。外面の施文原体が直線的な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は黄色をやや強く胎土に金雲母を多く含む他に繊維を含み、器厚は5～6mmである。図7-2-09 (21958) は遺構中央床面から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部をやや肥厚させキザミ状押圧が施文される。外面の施文原体が直線的な1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で上位から下位にかけて横・斜位に押圧縄文が2施文帯をもって施文、内面は指頭痕が目立ちヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に粒の大きい砂粒を多く含み、器厚は6～10mmである。内面に輪積みによる接合部の肥厚が明瞭に認められる。図7-2-10 (19018) は遺構西側隅覆土中位から出土した押圧縄文土器の口縁部片

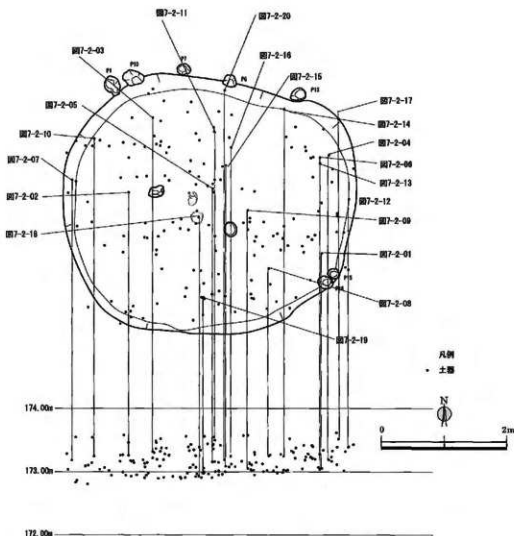


図7-1 3-1調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 土器分布図

で口唇部を丸く仕上げている。外面の施文原体が直線的な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に押圧縄文が施文される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が丁寧に施される。また輪積による接合部の肥厚が顕著である。色調は暗く胎土に金雲母を多く含む他に砂粒を含み、器厚は5～10mmである。推定口径は約18cmである。図7-2-11（11206）は遺構北側覆土下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部を細く丸く仕上げ小さな波状に押圧している。外面の施文原体が直線的な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に押圧縄文が施文される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が丁寧に施される。また接合部の凹が認められる。色調は淡色で胎土に金雲母・砂粒を含み、器厚は3～9mmである。図7-2-12（14000）は遺構東側隅覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体が直線的で不明瞭な縄を間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で横・斜位に押圧縄文が施文される。内面は指頭痕が顕著でヨコナデ調整が丁寧に施される。色調は暗く胎土に金雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は7～10mmである。図7-2-13（21831）は遺構北東側隅覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体が直線的で1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で斜・横位の押圧縄文が2施文帯をもって施文、内面は指頭痕調整が施される。色調はやや暗く硬質で胎土は粒の大きな砂粒を多く含む他に繊維を含み、器厚は7～8mmである。図7-2-14（21818）は遺構北東側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体が直線的で1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で横・斜位に押圧縄文が施文される。内面は指頭

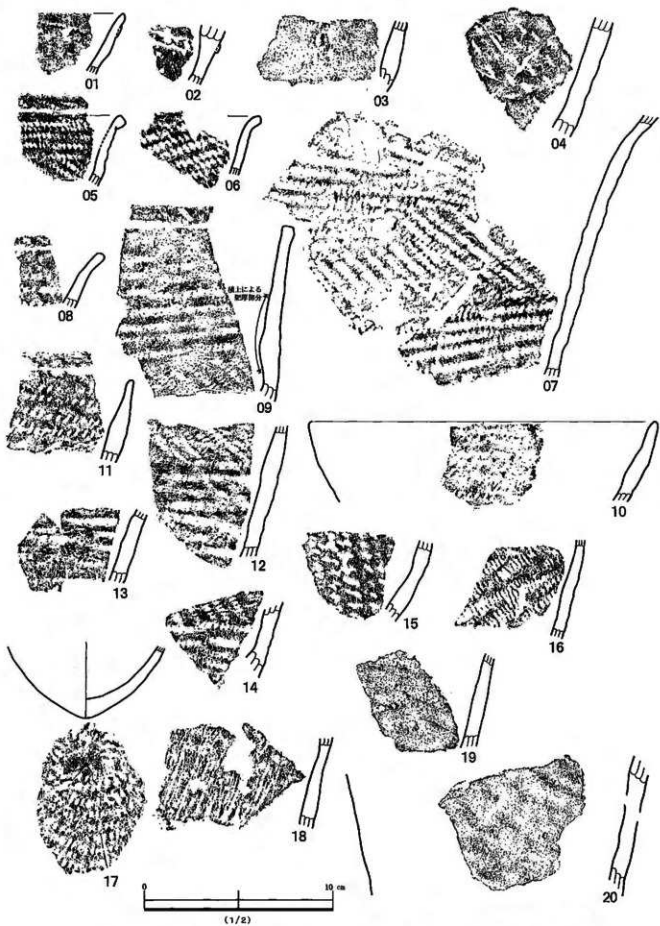


图7-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 土器拓影・実測図

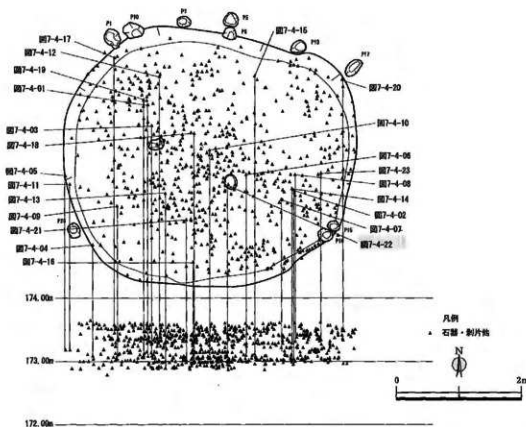


図7-3 3-1調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布図

痕が顕著でナデ調整が施される。色調はやや暗く硬質で胎土は粒の大きな砂粒に繊維を含み、器厚は7～10mmとやや厚手で、爪形文土器に似た色調・胎土等である。図7-2-15 (16084) は遺構中央覆土下位から出土した押圧縄文土器の底部付近片である。外面の施文原体が直線的で1段の縄Lを間隔広く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に押圧縄文が施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく硬質で胎土は金雲母・砂粒を少量含み、器厚は6～10mmである。図7-2-16 (19265) は遺構中央北側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体が直線的で1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位の押圧縄文が施文、内面は指頭痕に条痕文状調整が施される。色調はやや明るく硬質で胎土は金雲母を多く含む他に粒の大きな砂粒を含み、器厚は6～7mmである。図7-2-17 (13642) は遺構北東隅覆土上位から出土した押圧縄文土器の尖底部片で乳房状である。外面の施文原体が直線的で1段の縄Rを間隔やや狭く右巻き付けた施文具(絡条体)で斜位の押圧縄文が施文、内面は丁寧なナデ調整が施される。色調はやや明るく硬質で胎土は金雲母・砂粒を含み、器厚は4～10mmと尖底部としては薄手である。

#### 条痕文土器

図7-2-18 (22205) は遺構中央床面から出土した条痕文系の胴部片である。外面は縦位の条痕文調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は金雲母が多く含まれる。他に砂粒を含み、器厚は6～7mmである。図7-2-19 (21886) は遺構南側床面から出土した無文の胴部片である。外

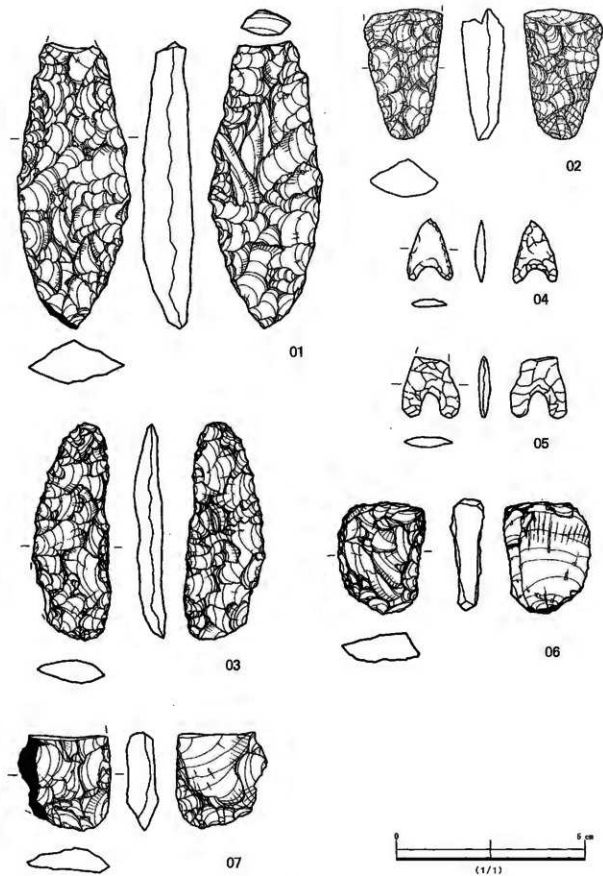


图 7-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器実測図①



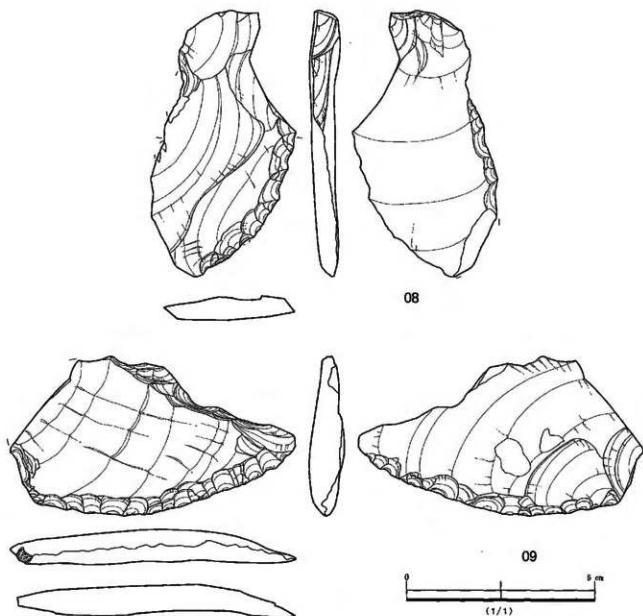


図 7-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号堅穴状遺構出土 石器実測図②

面は斜位方向に僅かに稜が走り条痕・擦痕調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土は砂粒・赤色粒を含み、器厚は5～8mmである。図7-2-20(21971)は遺構北側隣覆土下位から出土した無文の胴部片である。外面は斜位方向に僅かに稜が走り器面は丁寧なナデ調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく硬質で胎土は砂粒を少量含み、器厚は8～10mmで、隆線文土器の胴部と推定される。

#### 石器

##### 尖頭器

図7-4-01(19266)は黒曜石製の尖頭器で先頭部が欠損している。長さが推定で9cm前後の中形、身部の厚さは1.4cmとやや厚手、平面形態はほぼ左右対称の木葉形で最大幅が身部の下半にあり、そこからやや強く基部に向かって細くなり尖基を呈する。両面調整に側縁にはソフトハンマーの直接打撃による微細な剥離調整が施される。図7-4-02(22372)は黒曜石製の尖頭器で身上半が欠損している。10cm未満の中形と推定され、身部の厚さは1.1cm、平面形態はほぼ左右対称の柳葉形で基部に向かって

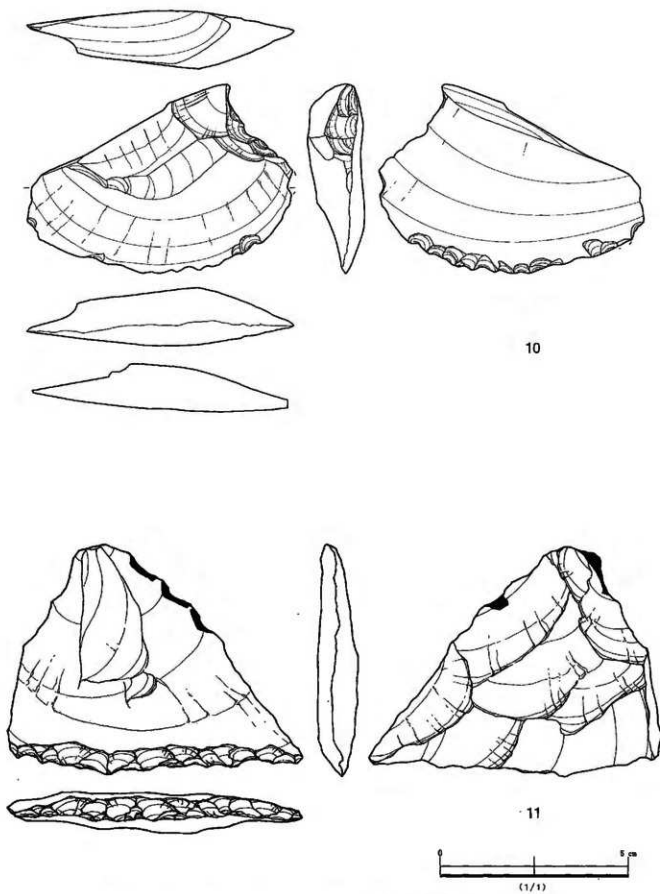


图 7-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器実測図③

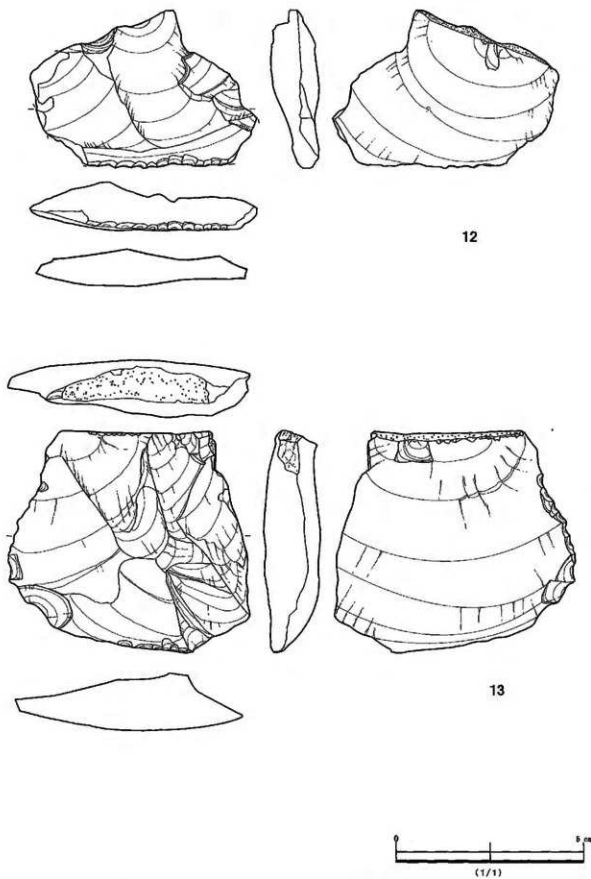


图 7-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器実測図④

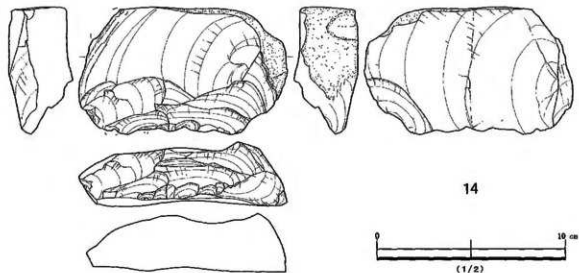


図7-4 3-1調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器実測図⑤

細くなりやや細い円基を呈する。両面調整に側縁の一部に押圧剥離による微細な剥離調整が施される。

#### 半月形石器

図7-4-03 (17606) は黒曜石製で両面加工が施され、平面形態が左右非対称で半月状を呈することから半月形石器とする。長さが5.8 cmの中形、身部の厚さは0.7 cmと薄手、最大幅が身部下半にあり、先頭部・基部は共に円基を呈する。両面調整に側縁には押圧剥離による微細な剥離調整が施される。

#### 石鏃

図7-4-04 (21412) はホルンフェルス製の石鏃の完形品で袈りのやや深い凹基の僅かに左右非対称の二等辺三角形を呈する。両面に素材面を残し、左側縁は直線的であるが右側縁は僅かに丸みをもって片面が細かく調整される。図7-4-05 (21909) はホルンフェルス製の石鏃で先端部が欠損するが袈りのやや深い凹基の僅かに左右非対称の二等辺三角形を呈すると推定される。左側縁は直線的であるが右側縁は外湾気味に丸みをもって調整される。

#### スクレイパー

図7-4-06 (19262) は黒曜石製の不定形な鋸歯縁削器である。裏面に素材面を残す片面調整、表面の右側縁が僅かに内湾気味以外は外湾気味に押圧剥離調整され、加撃を受け対辺に向う剥離面がある。図7-4-07 (19039) は黒曜石製の不定形な鋸歯縁削器である。裏面に素材面を残し、両面の先端部と表面基部には加撃を受け対辺に向う剥離面がある。加撃による剥離面から楔形石器としての利用が考えられる。

図7-4-08 (16080) は頁岩製の削器、平面形態は縦型石匙状を呈する。切子打面の縦長剥片素材の材面を多く残し全体に粗製で右側縁は外湾気味の刃部がソフトハンマーによる押圧剥離調整によって作り出される。基部近くの左側縁には袈り状の剥離が施され石匙とすることが可能である。図7-4-09 (21416) は頁岩製の不定形な鋸歯縁削器で、横長剥片素材で、末端縁に急角度の押圧剥離状の刃部を形成している。基部近くの側縁に浅い袈り状の剥離が施される。このことから石匙とするも可能である。図7-4-10 (22376) は頁岩製の不定形な鋸歯縁削器で、両面に素材面を残す粗製で丸く外湾する刃部は急角度の押圧剥離による片面調整される。基部右側縁に袈りによる剥離が施されることから石匙とすることが可能である。図7-4-11 (21908) はホルンフェルス製の鋸歯縁削器である。平面形態は三角形を呈し、表面は素材面を残し全体に粗製である。刃部はほぼ直線的に片面調整の押圧剥離調整が施される。図7-4-12

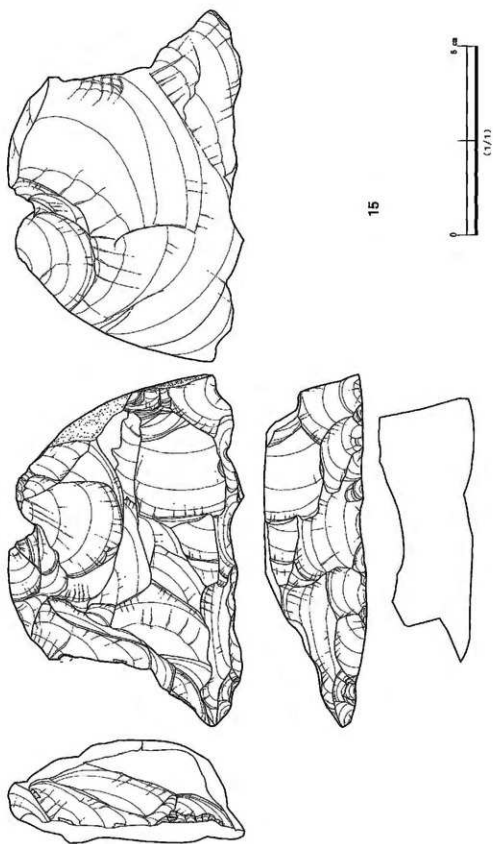


图 7-4 3-1 调查区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器実測図⑥

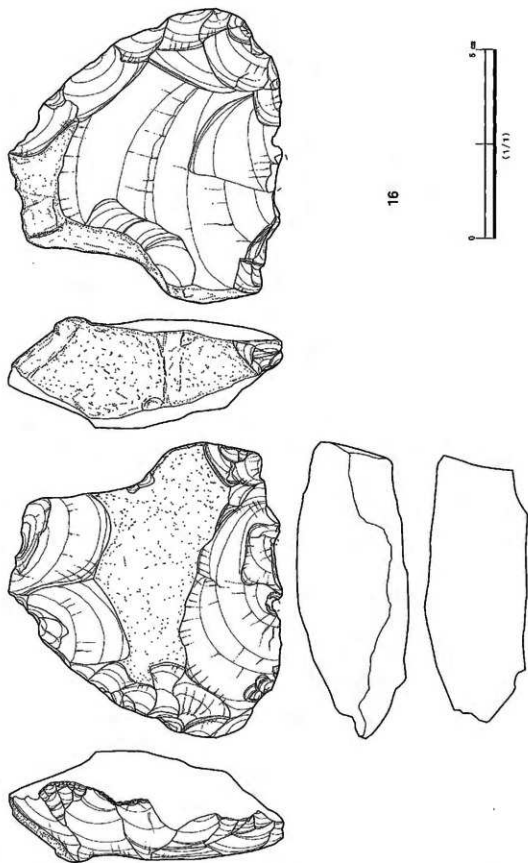


图 7-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器実測図⑦

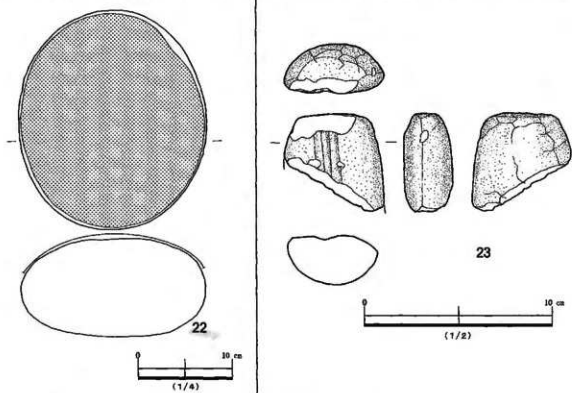
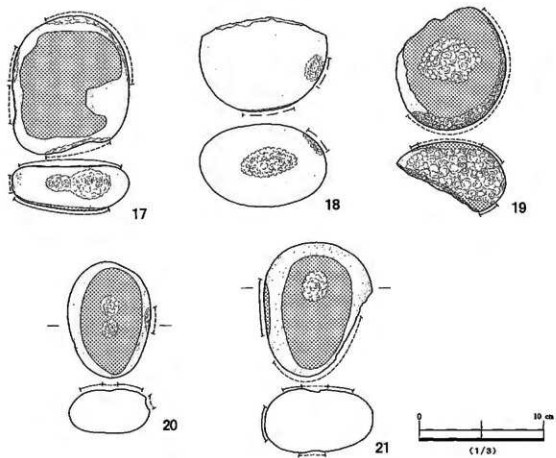


图 7-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竖穴状遺構出土 石器実測図⑧

(18156) は頁岩製の不定形な鋸歯縁削器である。両面に素材面を残し調整は全体に粗製である。刃部は片面調整で急角度の鋸歯状の細かな押圧剝離調整が施される。図 7-4-13 (22219) は頁岩製の不定形な鋸歯縁削器である。自然面と裏面は素材面を残し粗製で、刃部として利用された末端部には急角度の押圧剝離が施される。

#### 石核・礫器

図 7-4-14 (22186) は頁岩製の片刃石核石器で、分厚い剥片を素材にした鋸歯縁の鈍器である。加工調整はハードハンマーの直接打撃によっている。図 7-4-15 (19037) は頁岩製の鋸歯縁石器である。分厚い横長剥片の末端縁にコンタクトエリアの小さなハードハンマーの直接打撃で刃部を形成している。図 7-4-16 (21893) は頁岩製の両刃石核石器である。分厚い剥片を素材にしたチョッピングツール状の鈍器である。刃先は潰れておりハードハンマーによる直接打撃調整である。

#### 敲・凹・磨石

図 7-4-17 (11220) は中粒砂岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は楕円形の張りの少なく断面形態は扁平の強い楕円形を呈し、両面に磨り面、両端部に敲面がある。図 7-4-18 (21392) はアブライト製の敲石で、平面形態は楕円形と推定され断面形態は扁平する楕円形を呈し、側面と両端部に敲面がある。図 7-4-19 (22464) はアブライト製の敲・磨石の複合石器で、平面・断面形態はともに楕円形を呈し、両面に磨り面、表面と側面に敲面がある。図 7-4-20 (10641) は流紋岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面・断面形態はともにやや扁平な楕円形を呈し、表面のみに敲による 2ヶ所の凹と磨り面に右側面に敲痕がある。図 7-4-21 (22377) は閃緑岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面・断面形態はともにやや扁平な楕円形で平面の右側面下半に抉れを呈し、端部を中心とした側面に敲痕と裏表面に敲による凹と表面に磨り面がある。

#### 石皿・台石

図 7-4-22 (22222) はアブライト製の石皿で、平面は均整のとれた楕円形、断面形態は扁平な楕円形を呈し、滑らかに張る表面全体が磨り面となる。

#### 有溝砥石

図 7-4-23 (15318) は中粒砂岩製の有溝砥石で矢柄研磨器と呼ばれるものの欠損品である。平面形態は細長い胴張りの長方形と推定、断面形態はやや扁平な半円形で全体にかまぼこ形に近い形を呈している。有溝部分は径 1.2cm で浅い半円形に近い断面形態となる。



### 3号壑穴状遺構 (SB3003)

本遺構は調査区外が遺構全体の約1/2を占めていること、2・11号壑穴状遺構と50号土坑によって切り合い関係にあること、さらに遺跡保存のため範囲確認と一部をサブトレンチによる精査のため遺物は375点、内土器が89点、石器・礫・剥片他が286点と少なめの出土であった。平面分布は調査範囲である遺構内中央南側地点からやや多く出土した。垂直分布は標高約172.8～173.6mにかけての標高172.9～173.2mの層に集中する傾向がみられた。

#### 土器

##### 押圧縄文土器

図8-2-01 (22279) は遺構南西覆土から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部をやや細く丸く仕上げている。外面の施文原体が直線的で1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜・縦位に押圧縄文が施文、内面は指頭痕に条痕状調整が丁寧に施される。色調は暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は4～6mmである。推定口径は約18cmである。図8-2-02 (25753) は遺構南側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面の施文原体が直線的で不明瞭な縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜・縦位に押圧縄文が施文、内面は指頭痕にナ

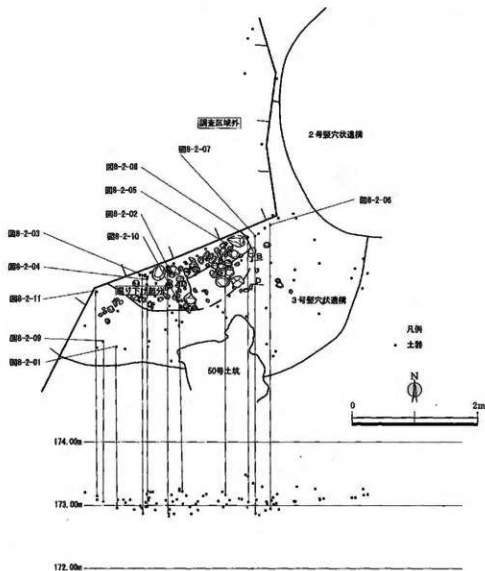


図8-1 3-1調査区 縄文時代草創期 3号壑穴状遺構出土 土器分布図

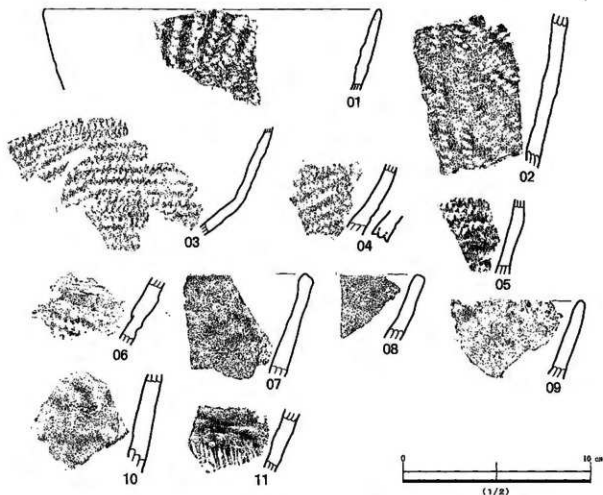


図 8-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 3号壙穴状遺構出土 土器拓影・実測図

デ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母を多く含む他に砂粒を含み、器厚は7mmである。図 8-2-03 (25740) は遺構南側覆土から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや屈曲部を持って開いて立ち上がる。外面の施文原体が直線的で1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横位に押圧縄文が施文、内面は器面が荒れて不詳である。また左右・上下の接合痕が残されている点が特徴である。色調はやや明るく胎土に金雲母に白色粒を多く含み、器厚は4~5mmで薄手で小形である。図 8-2-04 (22280) は遺構南側覆土から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや内湾して立ち上がる。外面の施文原体が直線的で1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横位に押圧縄文が施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。接合による肥厚と凹が残されている。色調はやや明るく胎土に金雲母に砂粒を多く含み、器厚は4~8mmである。図 8-2-05 (21998) は遺構中央南側覆土から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや開いて立ち上がる。外面の施文原体は直線的な棒状で1段のR縄の間隔をやや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で横位に押圧縄文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。また接合部の凹が認められる。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含み、器厚は5~6mmである。図 8-2-06 (25709) は遺構中央東側覆土から出土した押圧縄文土器の胴部片で開いて直線的に立ち上がる。外面の施文原体は直線的な棒状で不明瞭縄の間隔をやや広く右巻き付けた施文具(絡条体)で横位に押圧縄文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。また輪積による接合部の肥厚が顕著である。胎土に金雲母・砂粒を含み、器厚は5~8mmである。

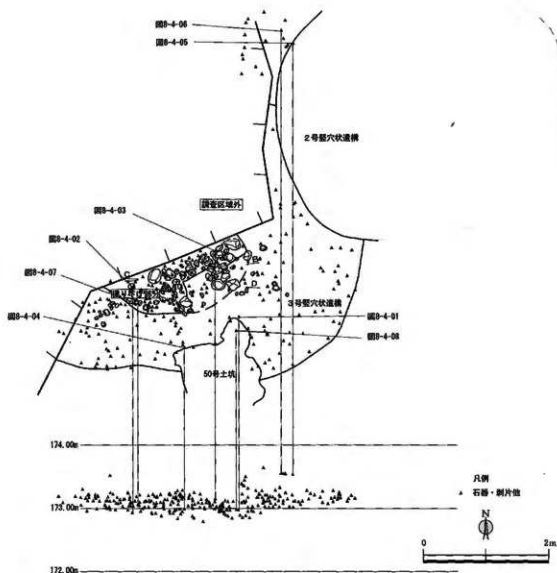


図8-3 3-1調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布図

#### 無文土器

図8-2-07 (25712) は遺構中央東側覆土下位から出土した無文土器の口縁部片で口唇部を僅かに肥厚させて仕上げている。内外面共に指頭痕にヨコナデが条線状調整される。胎土は砂粒が多く含む他に金雲母・繊維を含み、器厚は6～7mmである。図8-2-08 (25714) は遺構中央東側覆土から出土した図8-2-07と同一固体の口縁部片であるが接合しないものである。図8-2-09 (17152) は遺構南西側覆土から出土した無文土器の口縁部片で口唇部を細く丸く仕上げている。外面は丁寧にナデ調整され、内面は指頭痕にヨコナデ調整される。色調は暗く胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は6～7mmである。図8-2-10 (11084) は遺構南側覆土から出土した無文土器の胴部片である。内外面ともに丁寧に指頭痕にナデ調整される。色調はやや明るく胎土は砂粒を多く含む、器厚は7～10mmである。図8-2-11 (25736) は遺構南西側覆土から出土した無文土器の胴部片である。外面は集合沈線文と推定される施文が施される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。胎土は砂粒が含まれ他に金雲母を微量含む、器厚は6～8mmである。

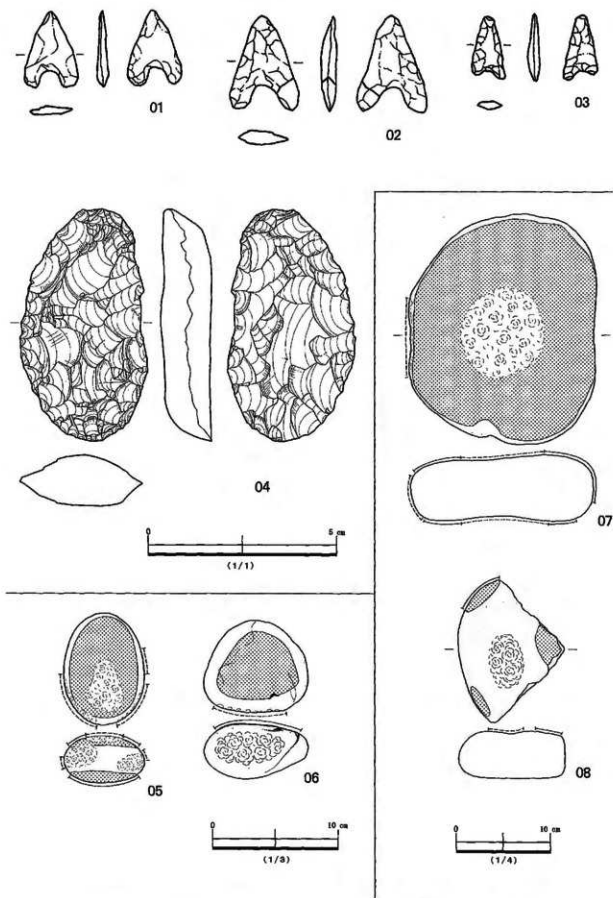


图 8-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 3号竖穴状遺構出土 石器実測図

## 石器

### 石鏃

図 8-4-01 (24155) はホルンフェルス製の石鏃の完形品で基部の括りのやや深い凹基の左右対称の二等辺三角形を呈し、厚さが 3 mm と薄手である。両面に素材面を残し、両側縁ともに僅かに丸みをもっている。全体に調整が不明瞭である。図 8-4-02 (25752) はホルンフェルス製の石鏃の完形品で基部の括りのやや深い凹基の僅かに左右非対称の二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。両側縁ともにほぼ直線的な調整加工されるが、全体に調整が不明瞭である。図 8-4-03 (23629) はホルンフェルス製の石鏃の完形品で基部の括りのやや浅い凹基の左右非対称の二等辺三角形を呈し、長さが 1.8 cm の小形である。両側縁ともにほぼ直線的な調整加工されるが、全体に調整が不明瞭である。

### 篋状石器

図 8-4-04 (22295) は黒曜石製の篋状石器である。平面形態は半月形石器に近い形、断面形態は凸レンズ状を呈している。両面調整加工で両端部が刃部となる。刃部はコンタクトエリアの小さなソフトハンマーの直接打撃で片刃に形成される。

### 敲・磨石

図 8-4-05 (13427) は輝石安山岩製の敲・磨石の複合石器で、平面・断面形態はともに楕円形を呈する。磨り面は両面全体にあり敲痕は表面と側面にある。図 8-4-06 (13425) は細礫岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は隅丸の三角形、断面形態は扁平の強い楕円形を呈する。表面に磨り面があり側面に敲痕がある。

### 石皿

図 8-4-07 (12225) は斑瀾岩製の石皿で平面形態は隅丸の台形に近く、断面形態は隅丸で中央がやや括れる板状を呈している。磨り面が両面全体にあり敲痕は両面中央の括れ部分にある。図 8-4-08 (22294) は輝石安山岩製の石皿の破損品で平面形態は楕円形と推定され約 1/4 が残存する。断面形態は隅丸で中央がやや括れる板状を呈している。磨り面が表面と側面にあり敲痕は表面中央付近の括れ部分にある。

#### 4号堅穴状遺構 (SB3004)

本遺構は5・14号堅穴状遺構と53号土坑と切り合い関係にあり遺物は486点、内土器が98点、石器・礫・剥片他が388点の出土である。平面分布は遺構内西側がやや少ないがほぼ全体から遺物が出土した。垂直分布は標高約172.8～173.6 mにかけての標高173.0 m前後にある約40 cmの厚さの層に集中する傾向がみられた。

#### 土器

##### 爪形文土器

図9-2-01 (16207)は遺構北側覆土下位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は「ハ」の字と推定される施文、内面は器面が荒れて不詳である。接合部に儀口縁が残されている。色調はやや明るく胎土に砂粒、獣毛状繊維を含み、器厚は9 mmである。

##### 押圧縄文土器

図9-2-02 (16212)は遺構中央覆土下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片である。口唇部は丸棒状具によるキザミ状押圧が施文される。外面の施文原体は直線的な棒状で1段のR縄の間隔をやや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は5 mmである。図9-2-03 (18883)は遺構中央床面から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体は直線的な棒状で不明瞭な縄の間隔をやや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で縦～斜位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は6～7 mmである。図9-2-04 (22832)は遺構東側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体は直線的な棒状で1段のR縄の間隔をやや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕にやや丁寧なヨコナデ調整が施される。また接合による重ねとミガキ状調整が顕著である。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含み他に砂粒を含み、器厚は6～7 mmである。図9-2-05 (21995)は遺構北側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体は直線的な棒状で1段のR縄の間隔をやや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。また接合による重ねが顕著である。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含み、器厚は5～7 mmである。

##### 無文土器

図9-2-06 (18886)は遺構北側覆土下位から出土した無文土器の胴部下半片である。外面は横位の沈線文調整、内面は指頭痕にやや丁寧なヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は砂粒・雲母・繊維を含んでいる。図9-2-07 (16200)は遺構南側覆土下位から出土した無文土器の胴部下半片である。外面は斜位の条痕文調整、内面は指頭痕にやや丁寧なヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は砂粒・白色粒を含んでいる。図9-2-08 (13327)は遺構北側覆土中位から出土した無文土器の胴部片である。外面はヨコナデに縦位の捺痕調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は砂粒を多く含んでいる。図9-2-09 (11938)は遺構中央覆土上位から出土した施文不詳土器の胴部片である。内面は指頭痕にヨコナデ調整される。色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒の他に金雲母・赤色粒を含んでいる。接合による肥厚と儀口縁が認められる。

#### 石器

##### 尖頭器

図9-4-01 (10530)は黒曜石製の尖頭器で身部下半が欠損している。長さが推定で10 cm以上の大形と推定、身部の厚さはやや薄出、平面形態はほぼ左右対称の木葉形と推定される。両面調整に側縁にはソフトハンマーの直接打撃とコンタクトエリアの小さなソフトハンマーの2種類が使用されている。後者

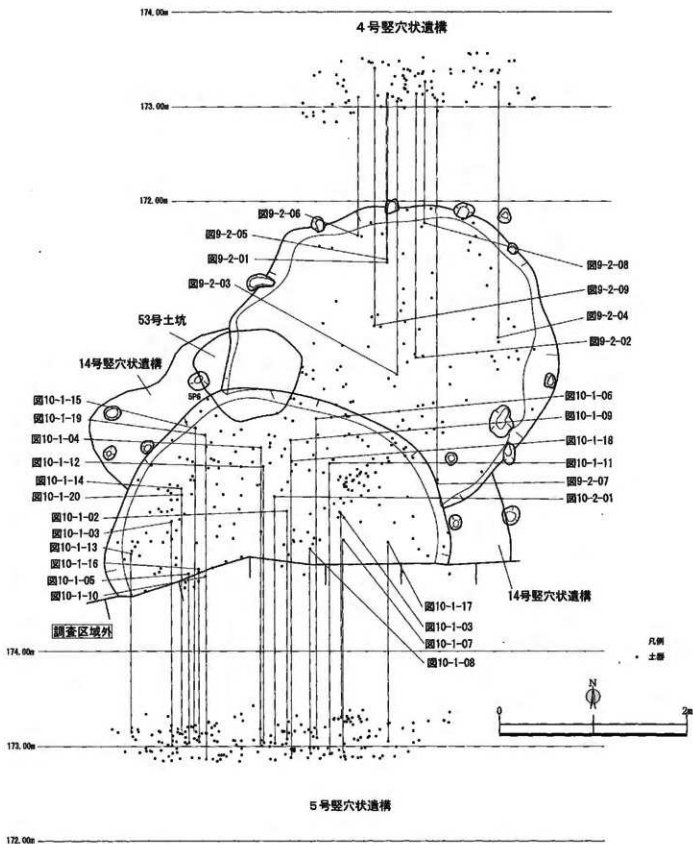


图9-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 4・5号竖穴状遺構出土 土器分布图

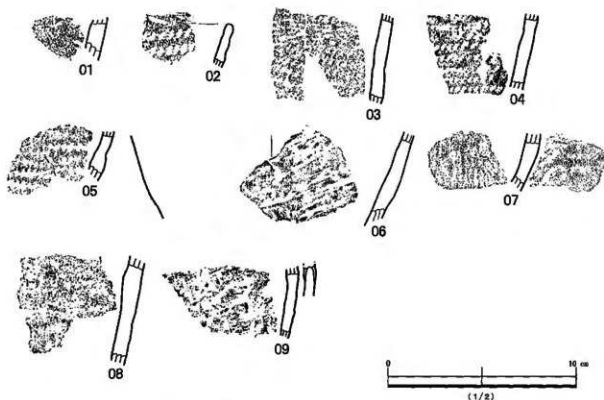


図9-2 3-1調査区 縄文時代草創期 4号壑穴状遺構出土 土器拓影・実測圖

のソフトハンマーは変形度が小さいので、ハードハンマーの剥離面様相特徴を兼ねている細かな剥離調整が施される。

#### 石鏃

図9-4-02 (25609) はホルンフェルス製の石鏃で左脚部先端が欠損している。平面形態はほぼ左右対称の二等辺三角形で基部は括れのやや深い凹基、断面形態は薄手の凸レンズ状を呈する。調整加工は側縁の一部に押圧剥離による細かな剥離調整が施されるが全体に不鮮明である。

#### 両極石器（楔形石器）

図9-4-03 (22831) は頁岩製の両極石器（楔形石器）である。平面形態が台形、上端部に自然面が残る打面の剥片素材である。上端縁表面には加撃による剥離を受け対辺に向う剥離面がある。

#### スクレイパー

図9-4-04 (18884) は頁岩製の不定形な剥片石器である。厚手の横長剥片で両面に素材面を残し、末端縁に急角度のハードハンマーによる直接打撃の正方向と反方向に連続させて二次加工されている。

#### 石核・礫器

図9-4-05 (22243) は頁岩製の石核である。平面形態が三角形を呈し、半割り面以外は自然面を残し、基部には調整加工による剥離、左側縁には加工調整と使用によるやや粗い剥離面がある円盤状石核の変異形態である。図9-4-06 (22241) は頁岩製の石核である。平面形態が台形を呈し、打割り面と使用面以外は自然面を残し、半割した礫面を作業面にした円盤状石核の変異形態である。

#### 敲・凹・磨石

図9-4-07 (11755) は中粒砂岩製の敲・磨石の複合石器で、平面・断面形態はともに楕円形を呈する。



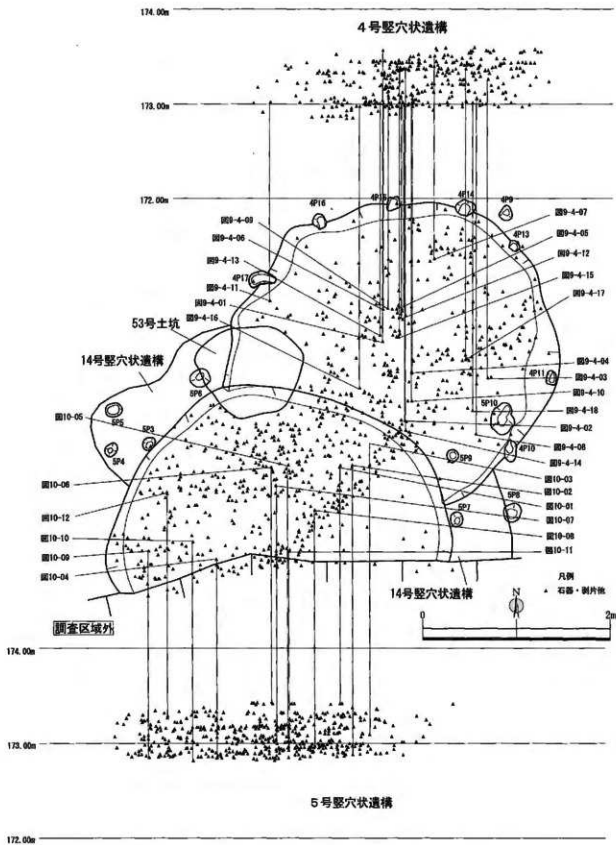


図9-3 3-1調査区 縄文時代草創期 4・5号竖穴状遺構出土 石器・剥片他分布図

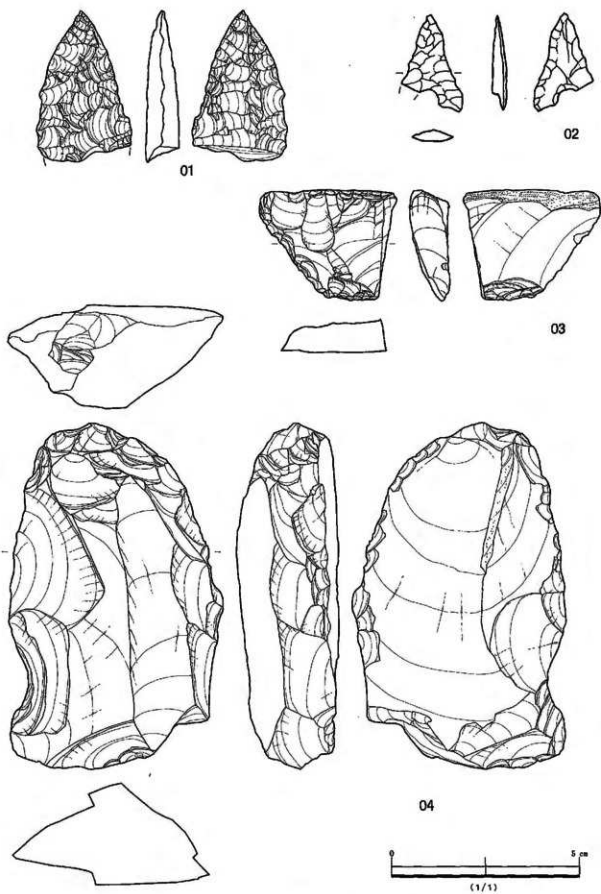


图9-4 3-1调查区 縄文時代草創期 4号整穴状遺構出土 石器実測图①

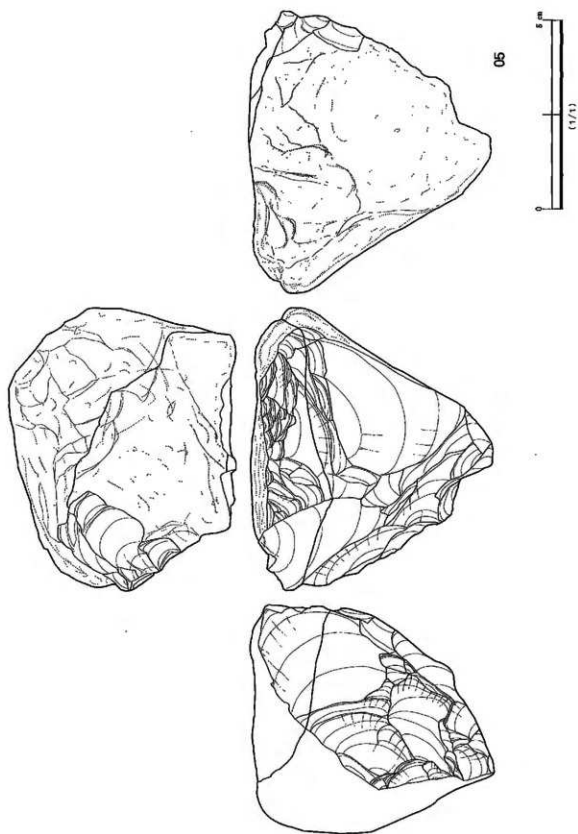


图9-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 4号竖穴状遺構出土 石器実測図②

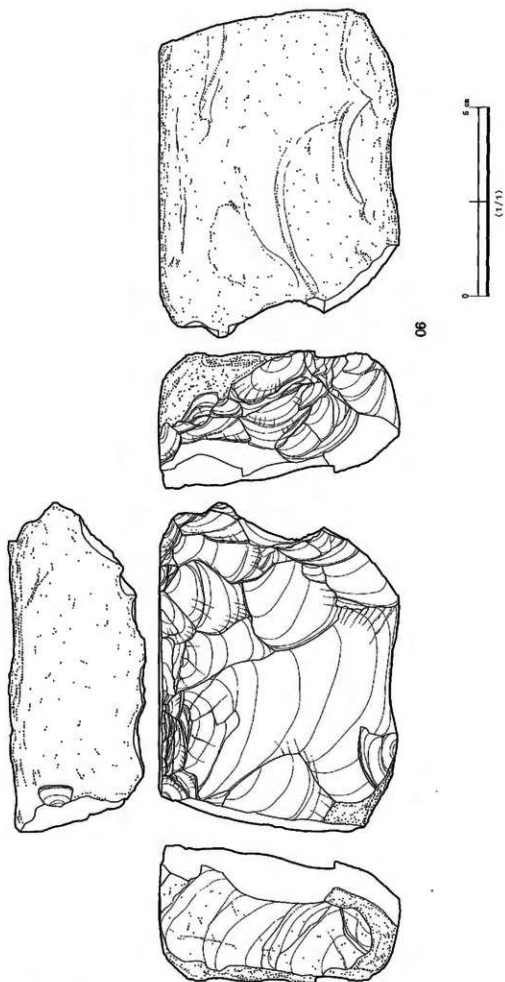


图9-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 4号竖穴状遺構出土 石器実測图③

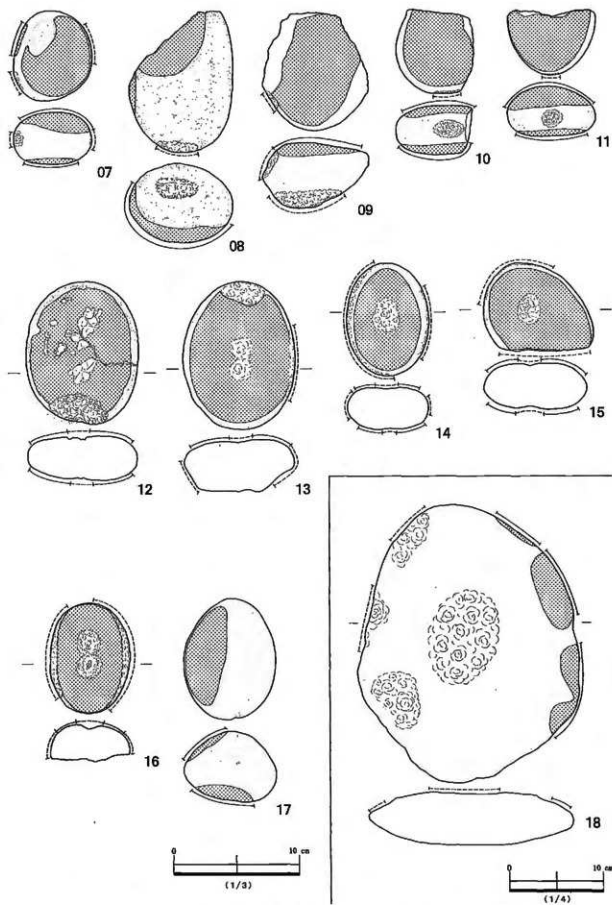


图9-4 3-1調査区 縄文時代草創期 4号竖穴状遺構出土 石器実測図④

磨り面は両面にあり敲痕は両側面にある。図 9-4-08 (25899) は閃緑岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は扁平な楕円形と推定され約 1/3 が欠損、断面形態は楕円形を呈する。両面と側面に磨り面があり端部に敲痕がある。図 9-4-09 (18875) は閃緑岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は扁平な楕円形と推定され約 1/3 が欠損、断面形態は隅丸三角形を呈する。表面に磨り面と裏面に側面に敲痕がある。図 9-4-10 (24495) は輝石安山岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は扁平な楕円形と推定され約 1/3 が欠損、断面形態も扁平な楕円形を呈する。両面に磨り面があり端部に敲痕がある。図 9-4-11 (25991) は細粒斑輝岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は扁平な楕円形と推定され約 1/2 が欠損、断面形態は楕円形を呈する。両面に磨り面があり端部に敲痕がある。図 9-4-12 (18874) は中粒砂岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面・断面形態はともに扁平な楕円形を呈する。両面に凹みと磨り面があり敲痕は端部にある。図 9-4-13 (18880) は輝石安山岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面形態は楕円形を呈する。表面に凹と磨り面があり側面と端部に敲痕がある。図 9-4-14 (22520) は中粒砂岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面・断面形態はともに扁平な楕円形を呈する。両面に凹と磨り面、敲痕は両側面にある。図 9-4-15 (13701) は中粒砂岩製の敲石・磨石・凹石の複合石器で、平面・断面形態はともに楕円形を呈する。半割して割れ口を敲面としている「スタンプ形」石器と同様である。図 9-4-16 (25985) は中粒砂岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、1/2 残存し平面・断面形態はともに楕円形を呈すると推定される。凹と磨り面は表面にあり敲痕は両側面にある。図 9-4-17 (22548) は細礫岩製磨石で、平面形態は楕円形を呈する。断面形態が隅丸三角形に近く磨り面は両面にある。

#### 石皿

図 9-4-18 (25900) は輝石安山岩製の石皿で、平面形態は扁平な楕円形と推定され約 1/3 が欠損、断面形態は楕円形を呈する。両面と側面に磨り面があり端部に敲痕がある。

## 5号竪穴状遺構 (SB3005)

本遺構は調査区南西の1号埋設谷に隣接する地点に所在し4・14号竪穴状遺構と53号土坑と切り合い関係にある。遺物は701点、内土器が201点、石器・礫・剥片他が500点の出土であった。平面分布は調査範囲である遺構内中央南側地点からやや多く出土した。垂直分布は標高約172.8～173.6 mにかけての標高172.9～173.2 mの層に集中する傾向がみられた。

### 土器

#### 爪形文土器

図10-1-01 (18049)は遺構中央覆土中位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は「ハ」の字が施文、内面は器面が荒れて不詳である。色調はやや明るく胎土に砂粒に獣毛状繊維を含んでいる。

図10-1-02 (16224)は遺構中央覆土中位から出土した爪形文土器の胴部片で、01 (18049)と同一固体であるが接合しない。図10-1-03 (22489)は遺構中央東覆土上位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は縦位に2条の連続する爪形文を施文、内面はやや丁寧なナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含み、器厚は5～7mmである。図10-1-04 (17322)は遺構中央北覆土下位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は縦位に1条の連続する爪形文を施文、内面は指頭痕にやや丁寧なナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に砂粒を多く含み、器厚は6～7mmである。

#### 押圧縄文土器

図10-1-05 (16228・21954)は遺構南西覆土中位と下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部を丸く仕上げている。外面の施文原体は0段の縄と推定される間隔を広い左巻き付けた施文具(絡条体)で横位に爪形文状に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く器面調整・胎土は微隆起線文土器に似て光沢があり僅かに砂粒を含み、器厚は6～10mmである。図10-1-06 (15231)は遺構中央北覆土中位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部を細く丸く仕上げている。外面の施文原体は1段の縄Rを間隔やや狭く右巻き付けた施文具(絡条体)で横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は金雲母を含み、器厚は5mmである。図10-1-07 (21276)は遺構北東隅覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は擦痕調整に施文原体0段と推定される縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で縦～斜位に羽状に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。接合部の肥厚が顕著である。色調はやや暗く胎土は金雲母を多く含み、器厚は5mmである。図10-1-08 (22805)は遺構中央南床面から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。接合部の凹が残される。色調はやや暗く胎土は細かな金雲母を多く含み、器厚は4～5mmである。図10-1-09 (18077)は遺構北側床面から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に施文、内面は指頭痕に丁寧なナデ調整が施される。色調は暗く胎土は金雲母を多く含み、器厚は4～7mmである。図10-1-10 (24210)は遺構南床面から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に羽状に施文、内面は指頭痕にやや丁寧なナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は細かな金雲母を多く含み、器厚は4～7mmである。図10-1-11 (18083)は遺構南西床面から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に羽状に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は金雲母に粒の大きな砂粒を含み、器厚は5～6mmである。図10-1-12 (18993)は遺構中央覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に浅く施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は雲母に砂粒を含み、器厚は5mmである。図10-1-13 (16242)は遺構南西隅覆土上位から出土した押圧縄文土器

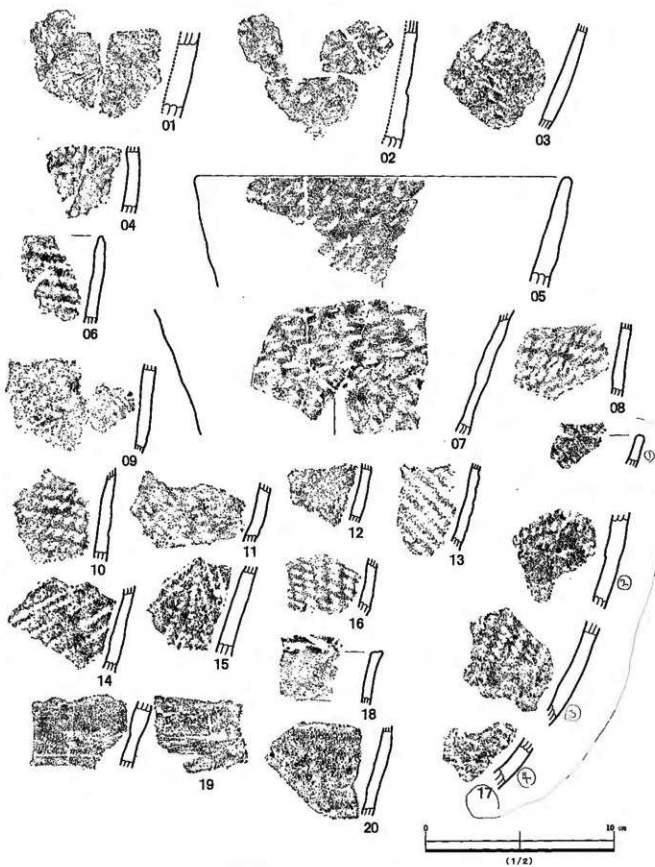


图 10-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号堅穴状遺構出土 土器拓影・実測図



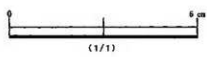
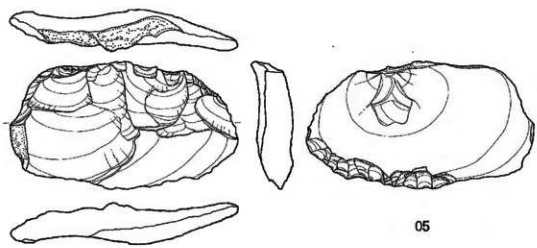
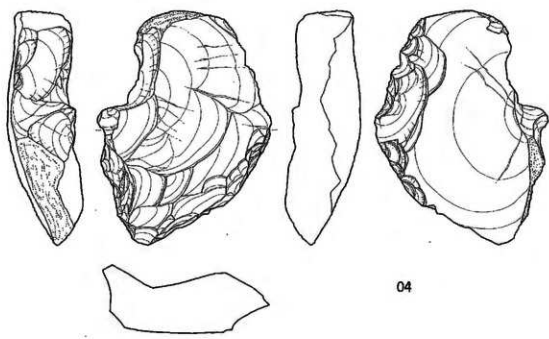
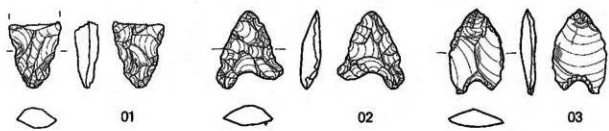


图 10-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号竖穴状遺構出土 石器実測図①

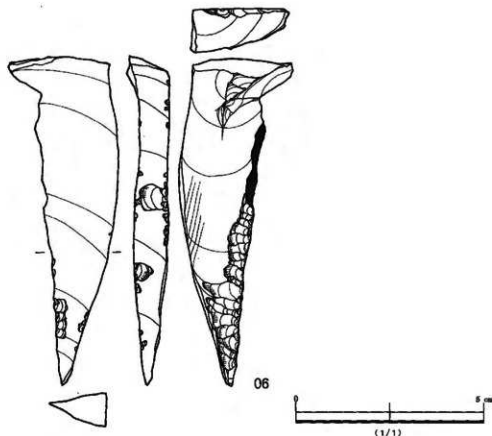


図 10-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号竪穴状遺構出土 石器実測図②

の胴部片である。外面は施文原体不明瞭な縄を間隔やや狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で斜位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は暗く胎土は金雲母を多く含み、器厚は4～5mmである。図 10-1-14 (15503) は遺構西側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体不明瞭な縄Lを間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で斜位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は金雲母を含み、器厚は5～6mmである。図 10-1-15 (13764) は遺構北西側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体不明瞭な縄を間隔やや狭く右巻き付けた施文具（絡条体）で斜位に羽状に施文、内面は指頭痕にやや丁寧なナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は金雲母を多く含み、器厚は5～7mmである。図 10-1-16 (16227) は遺構南西側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体不明瞭な0段の縄を間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は金雲母を多く含み、器厚は5～6mmである。図 10-1-17 (20001) は遺構東側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部から底部付近にかけてである。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）で縦～斜位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は金雲母を多く含み、器厚は5～8mmである。

#### 無文土器

図 10-1-18 (18075) は遺構中央覆土下位から出土した無文土器の口縁部片で口唇部に丸棒状具でやや深くキザミが施文される。内外面ともに指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は細かな白色粒を含み、器厚は4～6mmである。図 10-1-19 (13765) は遺構北西側覆土上位から出土した無文土器沈線文の胴部片である。外面は棒状具による横位の沈線文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。

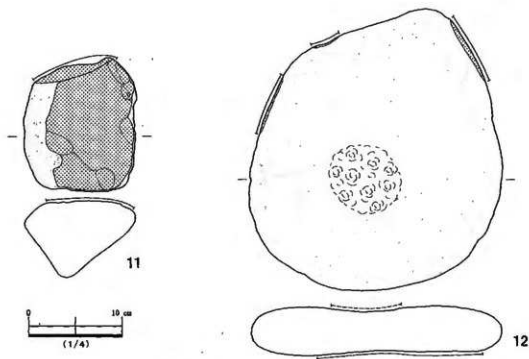
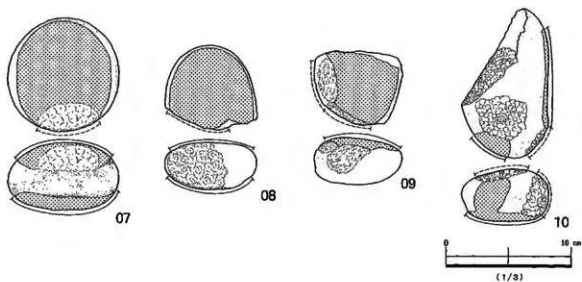


図 10-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号竪穴状遺構出土 石器実測図③

色調は暗く胎土は粒の大きな砂粒を含み、器厚は6～7mmである。図 10-1-20 (15506) は遺構西側覆土上位から出土した無文土器の胴部片である。外面はやや丁寧なナデ調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土は細かな金雲母・砂粒を含み、器厚は4～7mmである。

#### 石器

##### 尖頭器

図 10-2-01 (10516) は黒曜石製の尖頭器の破損品で基部部分である。平面形態はやや細身の柳葉形と推定され、断面形態は凸レンズ状、基部は尖基を呈する。両面加工され両側縁は細かな剝離調整される。

##### 石鏃

図 10-2-02 (22897) は凝灰岩製の石鏃の完形品である。平面形態は左右非対称、断面形態は凸レンズ状である。ハードハンマーの押圧剝離で形態形成したものである。図 10-2-03 (22710) は黒曜石製の石鏃で、

垂直打撃で生じた縦長剥片を素材として、不規則な押圧剥離で形成したものである。

#### スクレイパー

図 10-2-04 (22006) は頁岩製の不定形な剥片石器で分厚い横長剥片の末端辺に、ハードハンマーの直接打撃で正方向と反方向を連続させて二次加工をしている石器である。刃部は不明である。図 10-2-05 (16221) は頁岩製の鋸歯縁削器で横長剥片を素材として、末端辺に急角度の押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成している。図 10-2-06 (11787) は黒曜石製の片面加工剥片石器で、細長い三角形を呈している。両面とも素材面を残し、左側縁の身分の中央から先端部にかけて細かな押圧剥離調整によって刃部としている。

#### 敲・凹・磨石

図 10-2-07 (18997) は斑禰岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態はやや扁平な円形、断面形態は扁平な楕円形を呈し、両面に磨り面と端部に敲痕がある。図 10-2-08 (22748) は輝石安山岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態はやや楕円形の礫を約 1/2 に半割り、断面形態は扁平の強い楕円形を呈し、両面に磨り面と割れ口面に敲痕がある。早期畿糸文土器に共存するスタンプ形石器に近い形態と機能を有している。図 10-2-09 (22906) は細粒砂岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は角に張る不整形な楕円形、断面形態は扁平な楕円形を呈し、表面に磨り面と端部に敲痕がある。図 10-2-10 (18989) は細粒斑禰岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態は細長い楕円形の約 2/3 残存、断面形態は扁平な楕円形を呈し、裏面に磨り面と表面・端部・割れ口に敲痕がある。スタンプ形石器に近いものである。

#### 台・石皿

図 10-2-11 (22900) は輝石安山岩製の台・石皿として利用されたと考えられ、平面形態は隅丸方形、断面形態は逆三角形を呈し、緩やかに張る表面と端部の一部に磨り面がある。図 10-2-12 (15101) は斑禰岩製の石皿である。平面形態は端部がやや尖る不整形な楕円形、断面は裏表の両面が内側にやや括れる極めて扁平で角が隅丸板状を呈している。裏面に磨り面と表面中央に敲痕がある。1号壑穴状遺構から出土した石皿と形態が似ることから、この押圧縄文土器型式の石皿の特徴を示していると考えられる。

## 6号竪穴状遺構 (SB3006)

本遺構は調査区外が遺構全体の約1/2を占めていること、2・11号竪穴状遺構と50号土坑によって切り合い関係にあること、さらに遺跡保存のため範囲確認と一部をサブレンチによる精査のため遺物は375点、内土器が89点、石器・礫・剥片他が286点と少なめの出土であった。平面分布は調査範囲である遺構内中央南側地点からやや多く出土した。垂直分布は標高約172.8～173.6mにかけての標高172.9～173.2mの層に集中する傾向がみられた。

### 土器

#### 爪形文土器

図11-2-01 (13960)は遺構中央覆土下位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は連続した爪形文が横位に施文、内面はヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は砂粒を含み、器厚は10mmである。

#### 押圧縄文土器

図11-2-02 (11567)は遺構南側覆土上位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で外反して立ち上がり、口唇部にキザミを押圧させて丸く仕上げている。外面の施文原体は1段の縄Rを間隔やや広い左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土は金雲母を多く含む他に繊維を含み、器厚は6～7mmである。図11-2-03 (22914)は遺構南西端覆土上位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で、口唇部にへら上具による鋭いキザミを施文させて丸く仕上げている。外面の施文原体は不明瞭な縄を間隔やや狭く右巻き付けた施文具(絡条体)で横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土は金雲母を多く含む、器厚は3～7mmである。図11-2-04 (21952)は遺構中央西側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体は不明瞭な縄を間隔やや広い左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜～横位に3施文帯、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土は金雲母を多く含む、器厚は6～9mmである。図11-2-05 (13924)は遺構中央北側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片で内湾して立ち上がる。外面の施文原体は不明瞭な縄を間隔密(7巻/1cm)に左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に施文、内面はヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土は金雲母を多く含む、器厚は5mmである。図11-2-06 (22502)は遺構中央側覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体は1段の縄Rを間隔やや広い右巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に施文、内面は丁寧なヨコナデ調整が施される。色調は明るく器面に光沢があり胎土は砂粒を含み、器厚は5mmである。

図11-2-07 (22696)は遺構南側覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面の施文原体は1段の縄Rを間隔やや広い左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は明るく器面に光沢があり胎土は粒の大きな砂粒を含み、器厚は5cmである。

#### 無文土器

図11-2-08 (11567・13341・13481)は遺構南側覆土中位から出土した無文土器の胴部片である。外面はナデ、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は明るく胎土は砂粒を多く含む、内面には煤が付着、器厚は5～13mmである。尖底部は、外面はナデ、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は明るく胎土は砂粒・雲母・長石・繊維を含み、器厚は9～14mmである。

### 石器

#### 尖頭器

図11-4-01 (12404)は黒曜石製の尖頭器の完形品である。平面形態はやや細身の柳葉形、断面形態はやや厚みある凸レンズ状、最大幅は身部中央よりやや下にあり、基部はやや円形に近い尖基を呈する。右側縁の最大幅のある部分から基部にかけて細身で僅かに抉り気味の調整加工される。側縁を両面加工

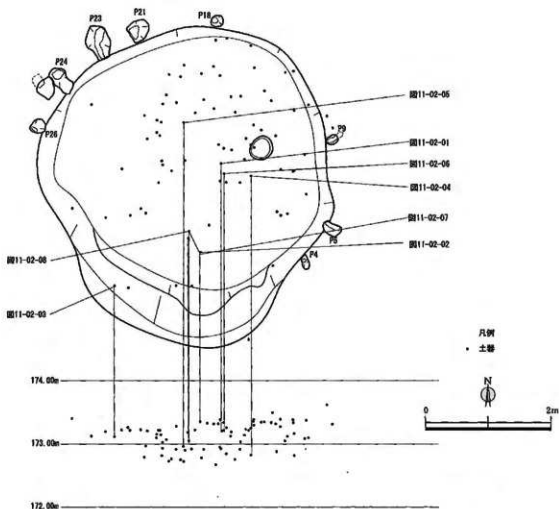


図 11-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号竪穴状遺構出土 土器分布図

され両側縁は細かな剝離調整される。図 11-4-02 (17176) は黒曜石製の尖頭器の完形品である。平面形態はやや左右非対称で細身の柳葉形、断面形態は厚みある凸レンズ状、最大幅は身部上半にあり、基部はやや円形に近い尖基を呈する。両面加工が施され、右側縁の最大幅のある部分から先端部にかけて細身で直線的な調整加工されている。両側縁は両面加工の細かな剝離調整される。

#### 石鏃

図 11-4-03 (13947) はホルンフェルス製の石鏃で右脚部先端が欠損、基部は挟りの浅い凹基の左右対称の二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁はやや張りのある僅かに丸みをもって調整加工される。図 11-4-04 (21951) は黒曜石製の両面加工石器で石鏃の凹基の平面形態を呈する。調整加工はソフトハンマーの直接打撃で加工されている。石鏃の形態にも見えるが、脚が不揃いで、尖頭部がないことから、横形石匙の可能性もあるものである。図 11-4-05 (22443) はホルンフェルス製の石鏃で右脚部先端が欠損、基部の挟りのやや深い凹基のほぼ左右対称の二等辺三角形、断面形態は薄い剥片状を呈する。裏面に素材面を残し、右側縁は僅かに張りのある丸みをもって細かな調整加工される。

#### スクレイパー

図 11-4-06 (17175) は黒曜石製の石匙と考えられるもので先端部と握み部分が欠損する。断面形態は凸レンズ状を呈している。両面に細かな剝離調整、さらに刃部は微細な押圧剝離が施される。握みを作

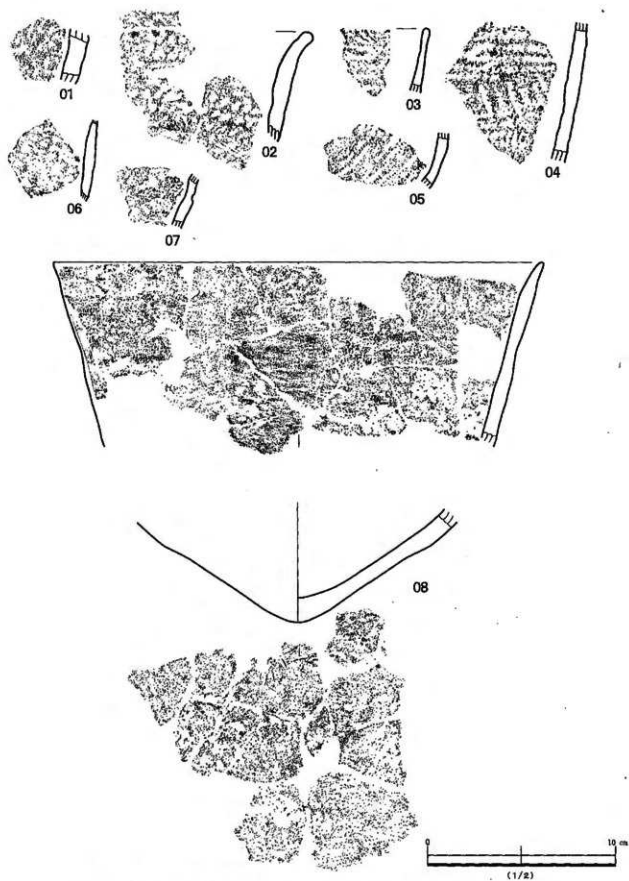


图 11-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図

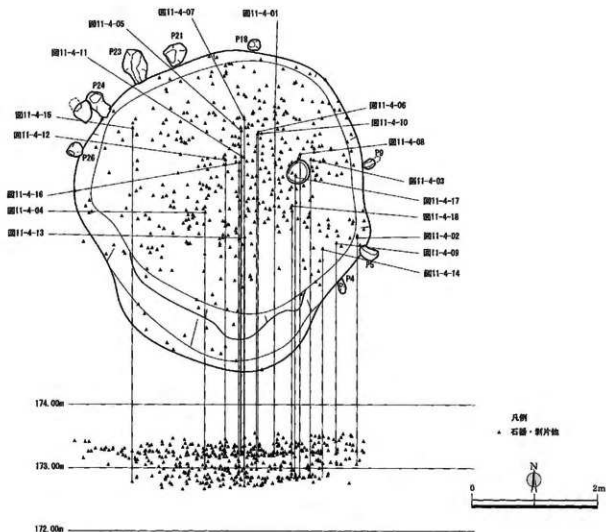


図 11-3 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号堅穴状遺構出土 石器・剥片他分布図

り出すための抉り剥離調整がされる。非対称な平面形態から刃部、ツマミとすることができることから石匙の形態と機能を示すと考えられる。図 11-4-07 (22537) は頁岩製の不定形な鋸歯縁削器である。横長剥片素材を使用し、末端縁に鋸歯状の刃部を形成している。二次加工面は風化で溶けているため不明瞭である。図 11-4-08 (13950) は頁岩製の搔器である。大形の縦長剥片の末端縁に、押圧剥離の急角度刃潰し加工で、鈍い刃部を形成したものである。図 11-4-09 (13995) は頁岩製の鋸歯縁削器である。平面形態は不定形な矩形剥片素材で、末端辺に急角度の押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成しているものである。

#### 籠状石器

図 11-4-10 (13935) は黒曜石製の籠状石器である。平面形態は先端部が細くなる木葉形に近い形、断面形態は凸レンズ状を呈している。素材は両面加工体で、尖頭器の可能性もあるものである。素材加工の技術はソフトハンマーの直接打撃による。刃部はソフトハンマーの押圧剥離。裏面に摩擦痕がみられ、使用痕とも推定される。図 11-4-11 (12122) は黒曜石製の籠状石器である。平面形態は丸みのある木葉形に近い形で刃部の一部が欠損、断面形態は凸レンズ状を呈し、両面・両側縁加工が施される。ソフトハンマーによる直接打撃で成形されている。刃部はコンタクトエリアの小さなハードハンマーの直接打撃で片刃に成形されている。



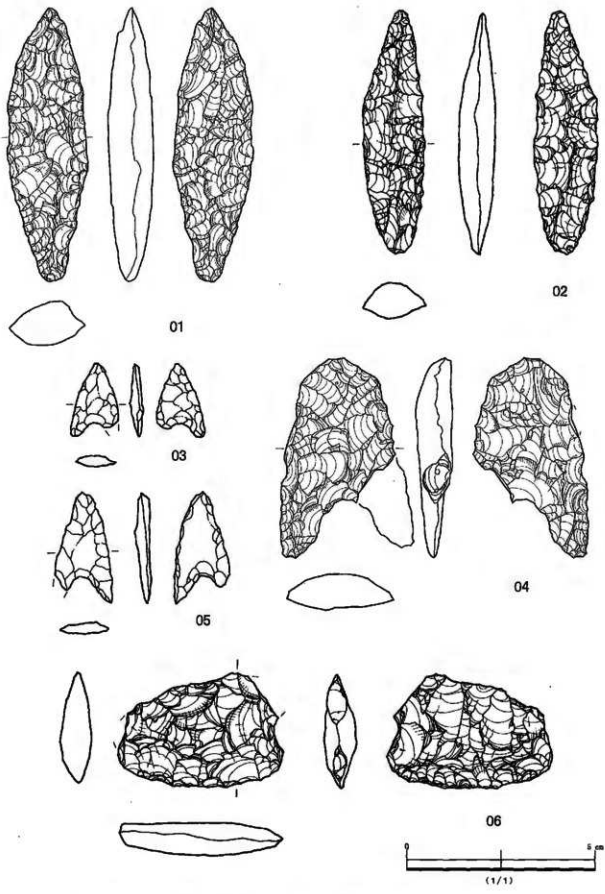


图 11-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号壑穴状遺構出土 石器実測図①

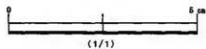
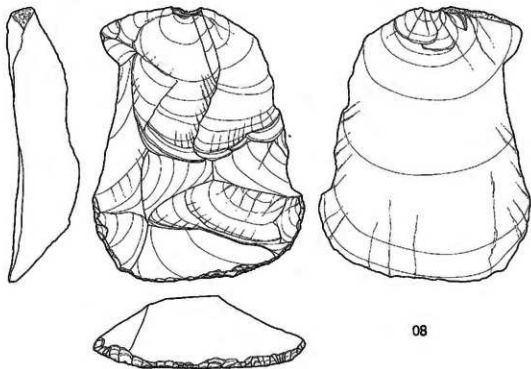
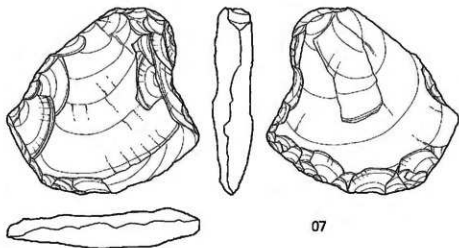
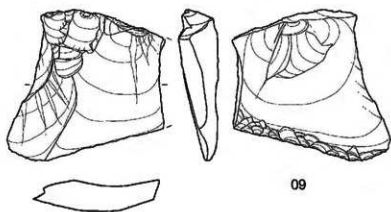
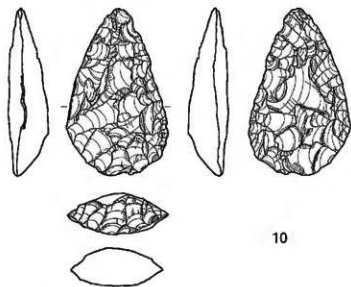


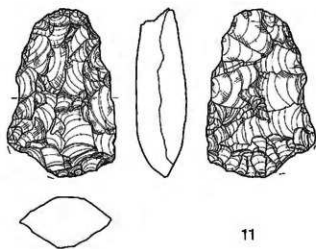
图 11-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号壑穴状遺構出土 石器実測図②



09



10



11

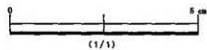


图 11-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号壑穴状遺構出土 石器実測図③

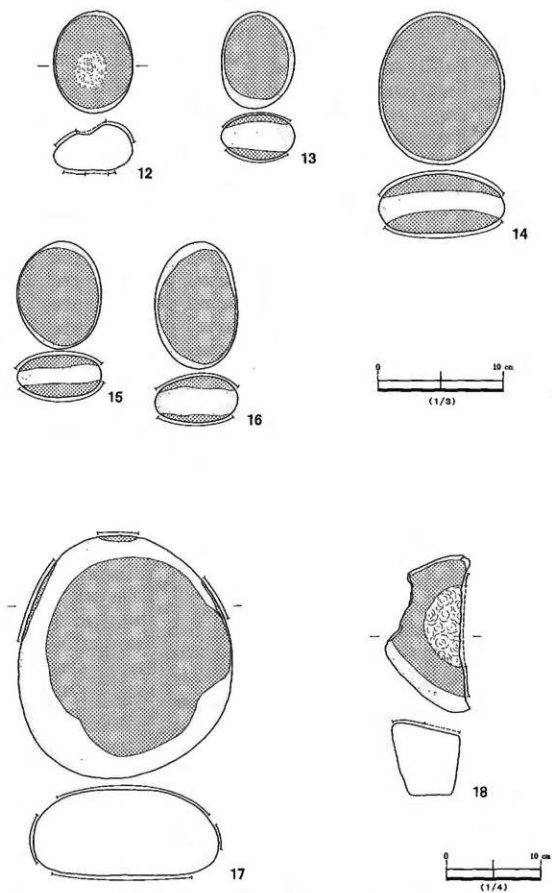


图 11-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号壑穴状遺構出土 石器実測図④

#### 凹石・磨石

図 11-4-12 (11682) は細粒斑輝岩製の凹・磨石の複合石器で、平面形態は楕円形、断面形態はやや不整で扁平な楕円形を呈し、両面に蔽による凹と磨り面がある。図 11-4-13 (22360)・14 (22455)・15 (22418)・16 (17180) は磨石である。ともに平面形態は楕円形、断面形態は扁平な楕円形を呈し、両面に磨り面がある。

#### 石皿

図 11-4-17 (22236) は角閃石安山岩製の石皿で平面形態は円形に近い楕円形、断面形態は強い扁平な楕円形で裏面は平坦を呈し、表面ほぼ全体に磨り面である。図 11-4-18 (12404) は閃緑岩製の石皿で平面形態は楕円形と推定され、断面形態は厚みある扁平で平坦を呈し、表面ほぼ全体に磨り面と中央に鼓痕がある。

## 7号竪穴状遺構 (SB3007)

本遺構は調査区北側の中央付近に単独で所在し、北側には溶岩流が隣接して検出された。遺跡保存と将来の検証のためセクションベルトを残し精査していない。遺物は2560点、内土器が213点、石器・礫・剥片が2347点検出され、3-1調査区竪穴状遺構のなかで最も多くの遺物が出土した。

平面分布は調査範囲である遺構内中央南側地点からやや多く出土した。垂直分布は標高約172.8～173.6 mにかけての標高172.9～173.2 mの層に集中する傾向がみられた。

### 土器

#### 陸線文土器

図12-2-01 (21291)は遺構中央覆土下位から出土した陸線文土器の口縁部片で、やや外反気味に立ち上がり口唇部を薄く平坦に外反して仕上げている。外面は横位に幅約5mmの陸線文が「クランク」状に貼付施文され、陸線文上をヘラ状具に連続的押圧によって押し潰している。内面は指頭痕に強いナデ調整が施される。無文部の色調はやや暗く光沢があり微隆起線文土器の器面に似る。胎土に粒の大きな砂粒を多く含む他に雲母・赤色粒を含み、器厚は6～8mmである。

#### 爪形文土器

図12-2-02 (24329)は遺構北側覆土下位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は縦位に幅9mmの爪形文が横位に連続施文され、無文部は捺痕調整、内面は指頭痕に強い棒状具によるヨコナデ調整が施される。色調はやや暗く光沢が有り胎土に砂粒を含み、器厚は7～8mmである。図12-2-03 (24019)は遺構南西側覆土下位から出土した爪形文土器の胴部片である。外面は爪形文が1ヵ所単独施文される。内面は指頭痕に条痕状にナデ調整が施される。胎土に砂粒・赤色粒・繊維を含み、器厚は9～10mmである。

#### 押圧縄文土器

図12-2-04 (21368・21998)は遺構中央北側覆土下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部にキザミ状押圧縄文が連続して施文され、肥厚させて強く外反する。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く右巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜位に3施文帯をもって羽状に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土は金雲母を含み、器厚は5～6mmである。図12-2-05 (25407)は遺構中央覆土下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部にキザミ状押圧縄文が連続して施文、僅かに肥厚させ外反させる。外面は施文原体やや不明瞭な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。外面から内面に径が10×14の楕円形の孔が穿かれている。胎土に金雲母を多く含む他に繊維を含み、器厚は5～6mmである。図12-2-06 (24542)は遺構西側覆土中位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で外反を強めながら立ち上がり口唇部を丸く仕上げている。推定口径は約21cmを測る。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く金雲母を多く含む、器厚は5～7mmである。図12-2-07 (20494)は遺構北西側覆土上位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で僅かに外反気味に開いて立ち上がり口唇部をやや丸く仕上げている。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜～横位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に金雲母・砂粒を含み、器厚は5～7mmである。図12-2-08 (25817)は遺構北東側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く右巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含む他に砂粒・繊維を含み、器厚は6～8mmである。図12-2-09 (21001)は遺構中央南側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや開いて内湾気味に立ち上がる。外面は施文原体1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で浅く横位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。積層痕の接合部の肥厚と段が明瞭に認

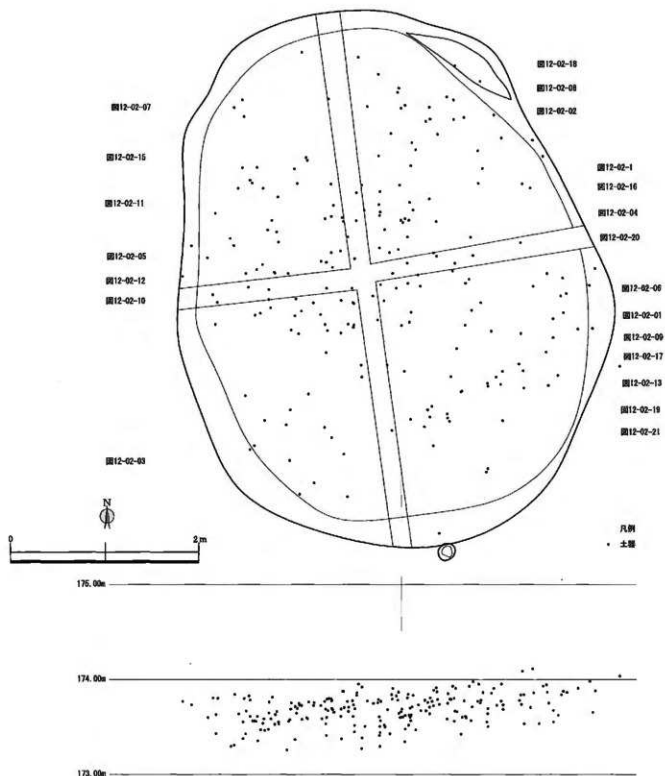


图 12-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竪穴状遺構出土 土器分布图

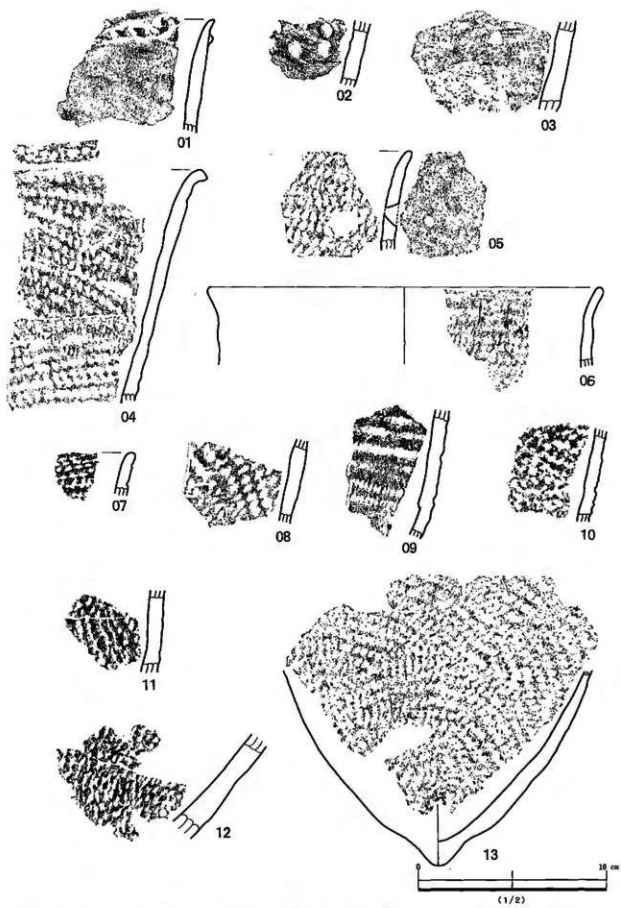


图 12-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 土器拓影・実測図①



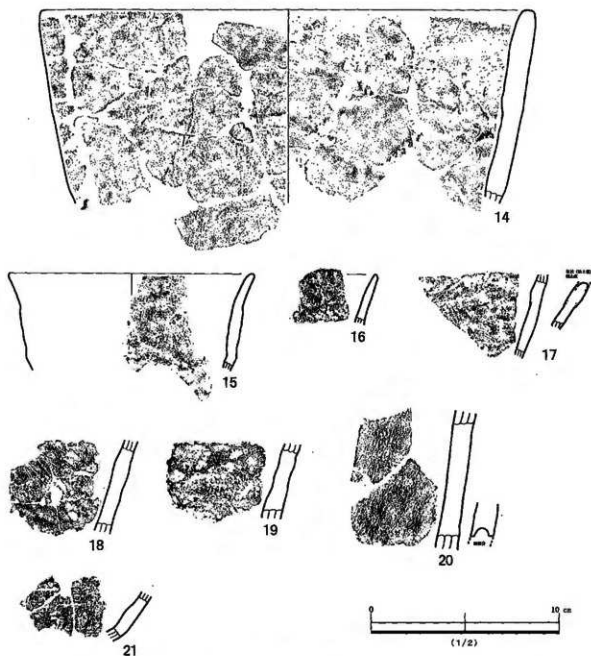


図 12-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号壑穴状遺構出土 土器実測・拓影図②

められる。色調は暗く胎土に粒の大きな砂粒を多く含む他に金雲母・繊維を含み、器厚は6～8mmである。図 12-2-10 (17647・17648) は遺構西側覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具（縞条体）で浅く横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は明るく胎土に粒の大きな砂粒を多く含む他に繊維を含み、器厚は5～7mmである。図 12-2-11 (21352) は遺構北側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は施文原体が不明瞭縄を間隔やや狭く右巻き付けた施文具（縞条体）で横系文状に縦位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。胎土に粒の大き

な砂粒を多く含む他に繊維を含み、器厚は6～8mmである。図12-2-12(20990)は遺構西側覆土下位から出土した押圧縄文土器の尖底部付近片で大きく開いて僅かに内湾気味に立ち上がる。外面は施文原体が不明瞭縄文を間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜位に施文、内面はナデ調整が施される。色調はやや明るく器面は爪形文土器に似ており、胎土に粒の大きな砂粒を多く含む他に繊維を含み、器厚は10～13mmである。図12-2-13(24401)遺構南東側覆土中位から出土した押圧縄文土器の尖底部で内湾して大きく開いて立ち上がり、器形は乳房状である。外面は施文原体が1段の縄文を間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含み、器厚は5～8mmである。

#### 無文土器

図12-2-14(22160)は遺構北東側覆土下位から出土した無文土器の口縁部片でやや開いて直線的に立ち上がり、口唇部は扁平が強く丸く仕上げている。推定口径は約26cmを測る。外面は指頭痕に条痕・擦痕状調整、内面は指頭痕に条痕状調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒を多く含む他に繊維を含み、器厚は10～12mmで厚みがある。図12-2-15(22155)は遺構北西側覆土下位から出土した無文土器の口縁部片でやや外反して立ち上がり、口唇部は丸く仕上げている。推定口径は約13cmを測る小形品である。外面は不明瞭な爪形状刺突と推定される沈線文があるが不詳、丁寧なヨコナデにミガキ状調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。器面は暗く光沢が有り胎土に砂粒を少量含み、器厚は4～7mmである。図12-2-16(25099)は遺構北東側覆土中位から出土した無文土器の口縁部片でやや開いて直線的に立ち上がり、口唇部はやや尖るように仕上げている。外面はナデ、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は3～5mmで薄手である。図12-2-17(21652)は遺構中央覆土下位から出土した無文土器の胴部片で開いて直線的に立ち上がる。外面は横～斜位に擦痕状調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に金雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は5～7mmである。接合部の擬口縁と肥厚が明瞭に認められる。図12-2-18(25881)は遺構北東側覆土下位から出土した無文土器の胴部片で開いて直線的に立ち上がる。外面は横～斜位に条痕・擦痕状調整、内面はやや丁寧な擦痕状ナデ調整が施される。胎土に砂粒を含み、器厚は7～8mmである。図12-2-19(19731)は遺構南側覆土中位から出土した無文土器の胴部片で開いて直線的に立ち上がる。外面はやや器面が荒れておりヨコナデ調整、内面は条痕・擦痕状調整が施される。色調はやや明るく隆線文土器の無文部と指定され胎土に粒の大きな砂粒を多く含む他に繊維を含み、器厚は9～10mmである。図12-2-20(21267・21268)は遺構中央覆土下位から出土した胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は縦位に擦痕調整、内面は擦痕調整が施される。色調はやや明るく胎土に粒の大きな砂粒・繊維を含み、器厚は6～11mmである。割れ口に接合部の丸い凹が認められる。図12-2-21(17614)は遺構南側覆土中位から出土した無文土器の尖底部付近片で大きく開いて内湾して立ち上がる。外面はナデ、内面は指頭痕にやや丁寧なヨコナデ調整が施される。器面やや明るく胎土に雲母・砂粒を含み、器厚は6～7mmである。

#### 石器

##### 尖頭器

図12-4-01(21767)は黒曜石製の尖頭器である。平面形態はやや細身の柳葉形と推定、断面形態はやや厚みある凸レンズ状、基部はやや不整であるが無基を呈する。両面加工で基部にかけて細身で直線的な調整加工されている。側縁を両面加工され側縁は細かな剥離調整される。図12-4-02(25802)は黒曜石製の尖頭器の基部である。基部は尖基を呈し、素材は両面加工体で、ソフトハンマーによる直接打撃とコンタクトエリアの小さなソフトハンマー押圧剥離で加工されている。

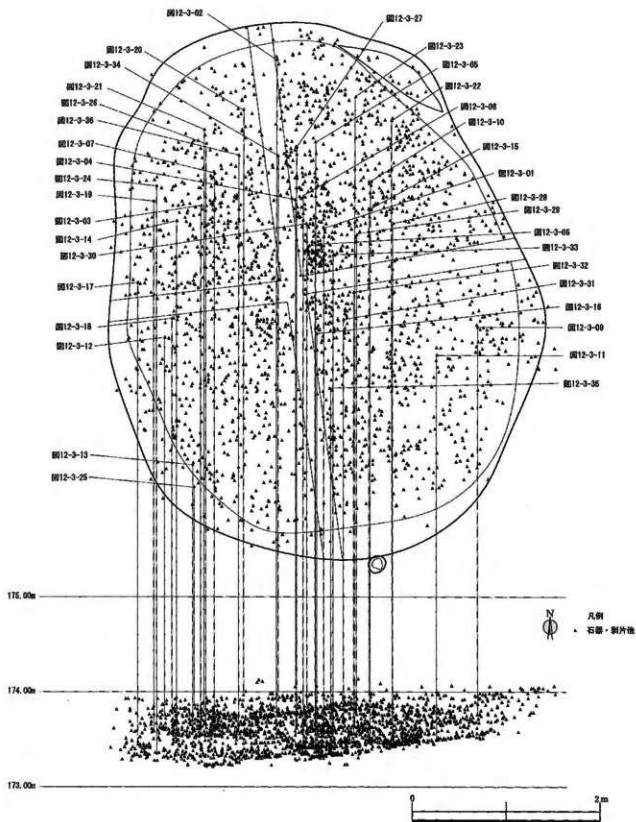


圖 12-3 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布図

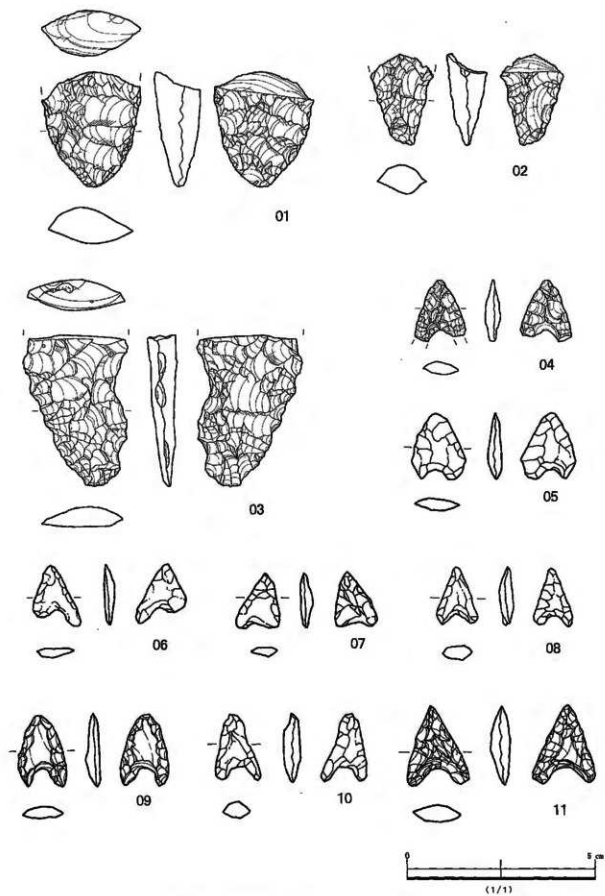


图 12-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 石器実測図①

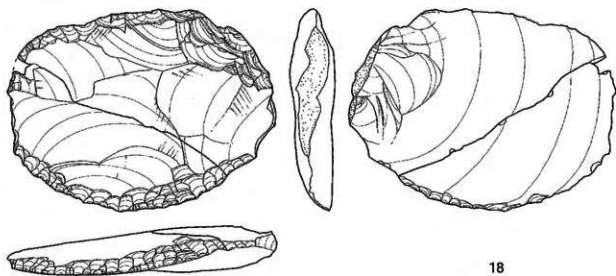
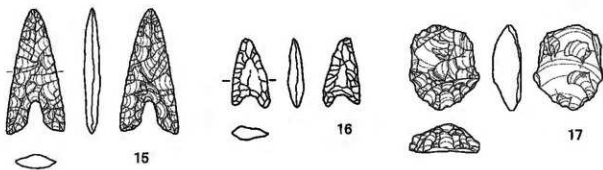
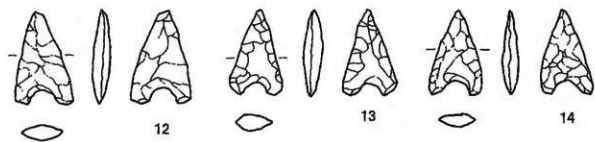


图 12-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 土器実測図②

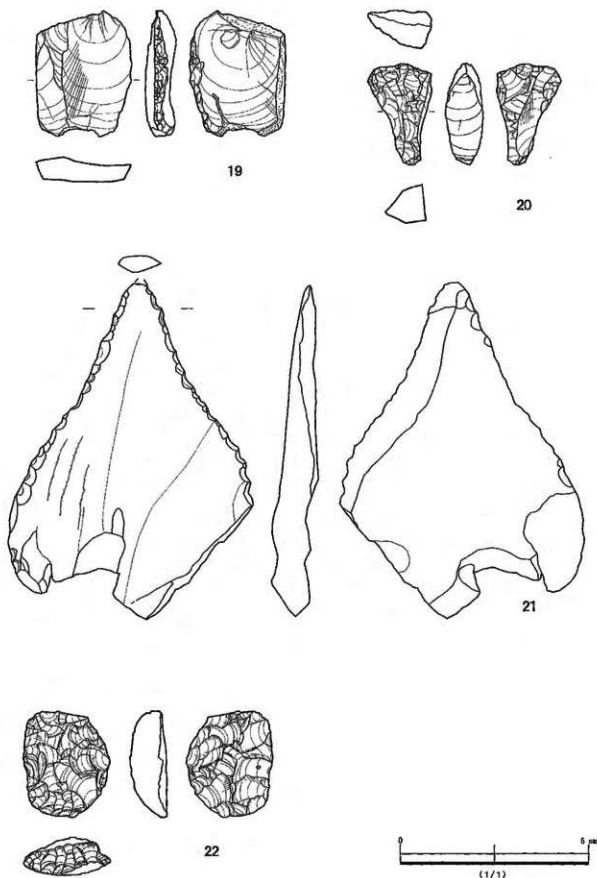


图 12-4 3-1 调查区 绳文时代草创期 7号竖穴状遺構出土 土器実測図③

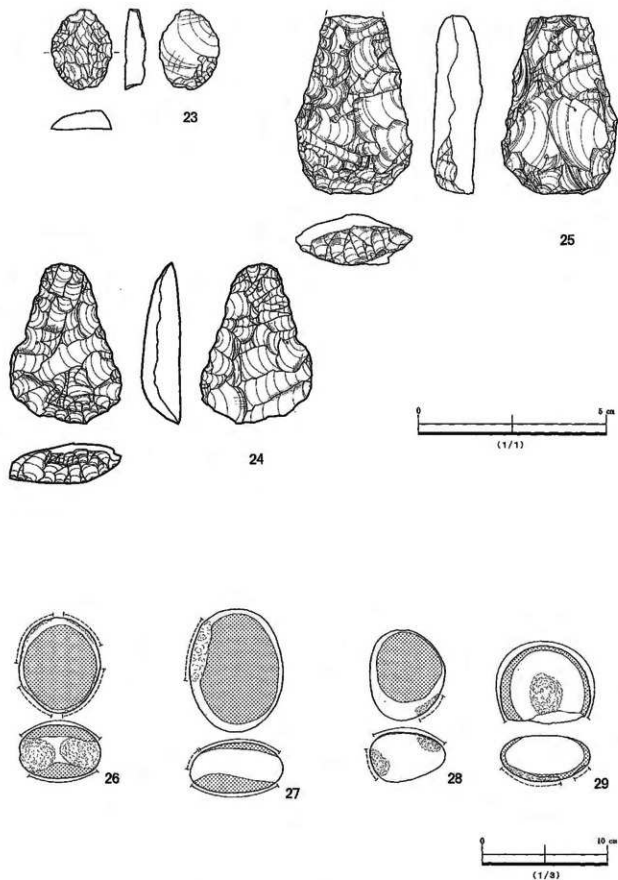


图 12-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 土器実測図④

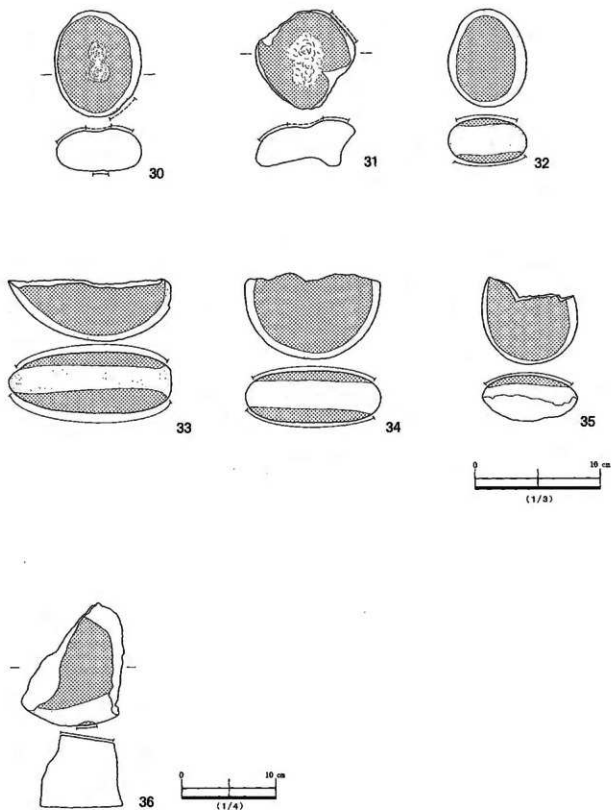


图 12-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 土器実測図⑤



## 半月形石器

図 12-4-03 (21691) は黒曜石製で約 1/2 残存、平面形態が左右非対称で半月形状を呈すると推定される。身部は薄い凸レンズ状を呈し、基部は円基に近い形を呈する。両面調整加工に側縁にはソフトハンマーによる直接打撃による細かな剝離調整が施される。

## 石鏃

図 12-4-04 (21753) は黒曜石製の石鏃で両脚部先端が欠損、基部は抉りのやや深い凹基の左右対称の二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁はやや張りのある僅かに丸みをもって細長い規則的な四角形の剝離面調整加工がされる。図 12-4-05 (23576) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りのやや浅い凹基の左右非対称の二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁はやや張りのある僅かに丸みをもって調整加工がされる。図 12-4-06 (23071) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りのやや深い凹基の左右非対称の二等辺三角形、断面形態は薄い不整な凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁はほぼ直線的な調整加工される。図 12-4-07 (21359) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りの浅い凹基の左右非対称の不整な二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、左側縁はほぼ直線的、右側縁は屈折する調整加工がされる。図 12-4-08 (23205) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りのやや深い凹基のほぼ左右対称の二等辺三角形、断面形態はやや角張る凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁はほぼ直線的な調整加工がされる。図 12-4-09 (24302) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りの深い凹基のやや左右非対称の鉞形に近く、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。両面に素材面を残し、両側縁は弧状に細かな調整加工される。図 12-4-10 (24523) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りのやや深い凹基の左右非対称の二等辺三角形、断面形態はやや厚い凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、右側縁はほぼ直線的、左側縁は僅かに凹状の調整加工がされる。図 12-4-11 (24624) は頁岩製の石鏃で完形品である。基部は抉りのやや深い凹基のほぼ左右対称の二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。細かな両面加工が施され、両側縁はほぼ直線的な微細な調整加工がされる。図 12-4-12 (17646) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りのやや浅い凹基のやや左右非対称の二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁は僅かに張りのある不明瞭な調整加工がされる。図 12-4-13 (24022) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りのやや浅い凹基のほぼ左右対称の二等辺三角形、断面形態は凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁はほぼ直線的な調整加工がされる。図 12-4-14 (21741) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りの浅い凹基のほぼ左右対称の二等辺三角形、断面形態は薄い不整な凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁は張りのある調整加工がされる。図 12-4-15 (17655) は玉髄質の理質頁岩製の石鏃で完形品である。基部は抉りの深い凹基の左右対称の細長い二等辺三角形、断面形態は薄い凸レンズ状を呈する。細かな両面加工が施され、両側縁は直線的で細長い規則的な四角形の剝離面をもつ微細な調整加工がされる。図 12-4-16 (22872) はホルンフェルス製の石鏃で完形品である。基部は抉りの浅い凹基の僅かに左右非対称の二等辺三角形、断面形態は薄い不整な凸レンズ状を呈する。両面加工が施され、両側縁は僅かに張りのある細かな調整加工がされる。

## スクレイパー

図 12-4-17 (23128) は黒曜石製の剝片石器で搔器の機能を有するものである。平面形態はやや不整形で角張る楕円形、断面形態は扁平で角が丸い五角形を呈する。加工調整はソフトハンマーの直接打撃である。図 12-4-18 (19668) は頁岩製の刮器である。平面形態は扁平なやや不整な楕円形を呈し、加工調整はハードハンマーによるの直接打撃の縦長剝片の側辺に、押圧剝離で弧状の刃部を形成したものであ

る。図 12-4-19 (21700) は黒曜石製の削器である。平面形態は不定型な五角形を呈し、縦長剥片の側辺を刃部にしており、刃部加工は押圧剥離調整である。図 12-4-20 (16418) は黒曜石製の石錐である。垂直打撃の剥片を素材にし、押圧剥離で形態形成と刃部形成を行っている。刃部は急角度の押圧剥離でノッチをつくり、小尖頭部をつくりだしている。図 12-4-21 (21722) はホルンフェルス製の鋸歯縁削器と石錐の機能を有しているものである。平面形態は不定型な菱形を呈し、2 側縁の刃部は剥離調整によって内湾気味に尖らせている。図 12-4-22 (25876) は黒曜石製の搔器・ヘラ状石器である。平面形態は不整な五角形を呈し、素材は両面加工体で、ソフトハンマーによる直接打撃で成形されている。刃部はコンタクトエリアの小さなソフトハンマーの直接打撃で片刃に成形されている。裏面に摩耗痕がみられる。図 12-4-23 (25745) は黒曜石製の剥片石器で搔器の機能を有するものである。平面形態はやや不整形な楕円形を呈し、加工調整はソフトハンマーの直接打撃で刃部を弧状に調整加工して形成している。

#### 篋状石器

図 12-4-24 (23830) は黒曜石製の篋状石器である。平面形態は楕形を呈し、ソフトハンマーの直接打撃と間接打撃で形態・刃部を形成している。素材は両面加工体の可能性があるものである。

図 12-4-25 (14740) は黒曜石製の篋状石器である。平面形態は先端部が欠損するが刃部に向けて楕円形に近い形、断面形態はやや厚い凸レンズ状を呈し、尖頭器と共通する形態を有している。両面・両側縁加工はともに細かな調整が施される。刃部は半円形で細かな押圧剥離調整が施され搔器の刃部と同様の調整加工が施されている。

#### 敲・凹・磨石

図 12-4-26 (21709)・27 (22594)・28 (23827)・29 (21265) は平面形態がともに楕円形を呈する敲・磨石の複合石器の完形品約 2/3 残存品である。表面を磨り面、主に側面を敲き面としているが 29 は表面を凹石と同様の敲痕としている。図 12-4-30 (21754)・31 (21216) は凹・磨石の複合石器で、楕円形を呈している。30 は両面に凹痕が見られる。図 12-4-32 (21926)・33 (21262)・34 (20569)・35 (22656) は磨石である。平面形態はいずれも楕円形を呈すると推定されるものである。表裏面全体に磨り面をもつものである。

#### 石皿

図 12-4-36 (22170) は石皿の破損品で、楕円形を呈すると推定されるものである。表面は磨り面で使用による摩滅で平坦面となっている。

### 9号縦穴状遺構 (SB3009)

本遺構は調査区外が遺構全体の約1/2を占めていること、2・11号堅穴状遺構と50号土坑によって切り合い関係にあること、さらに遺跡保存のため範囲確認と一部をサブトレンチによる精査のため遺物は375点、内土器が89点、石器・礫・剥片他が286点と少なめの出土であった。平面分布は調査範囲である遺構内中央南側地点からやや多く出土した。垂直分布は標高約172.8～173.6mにかけての標高172.9～173.2mの層に集中する傾向がみられた。

#### 土器

##### 押圧縄文土器

図13-2-01 (21974・22232・22328) は遺構中央北側覆土下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部に丸棒上のキザミが施文される。外面は施文原体1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で横～斜位に施文、内面は指頭痕が顕著でヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に粒の大きい砂粒、金雲母・繊維を含み、器厚は7～10mmである。図13-2-02 (22328) は遺構中央北側覆土下位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で口唇部に丸棒上のキザミが施文される。外面は施文原体不明瞭な縄を間隔狭く右巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は4～8mmである。図13-2-03 (22233) は遺構中央北側床面から出土した押圧縄文土器の胴部片で直線的にやや開いて立ち上がる。外面は施文原体1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）で横～斜位に施文、内面は指頭痕が顕著でナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に砂粒を多く含む他に雲母を含み、器厚は5～8mmである。図13-2-04 (22234)

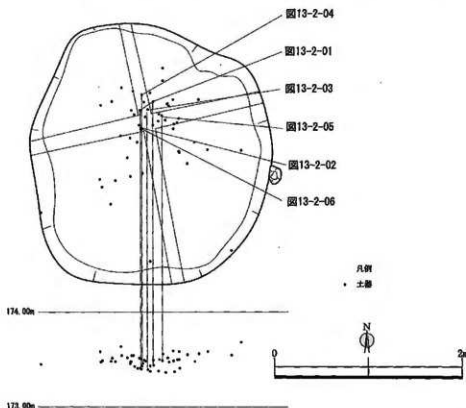


図13-1 3-1調査区 縄文時代草創期 9号堅穴状遺構出土 土器分布図

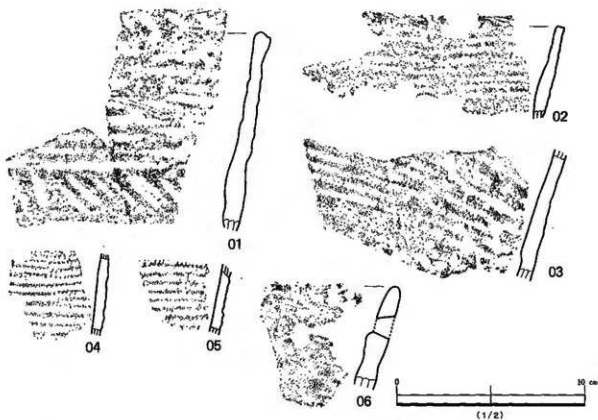


图 13-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 9号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図

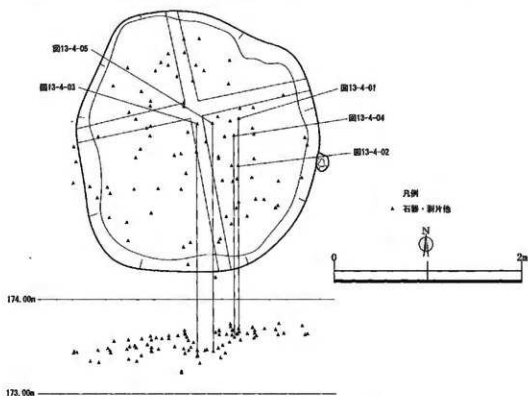


图 13-3 3-1 調査区 縄文時代草創期 9号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布图

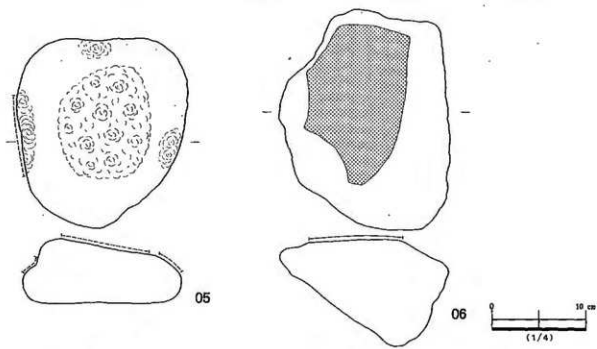
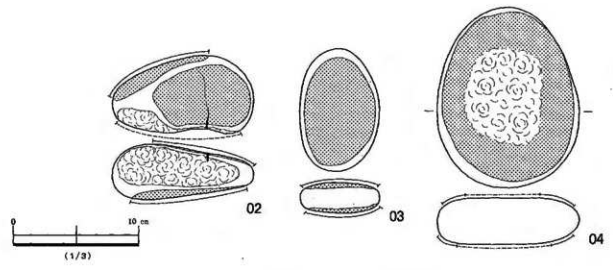
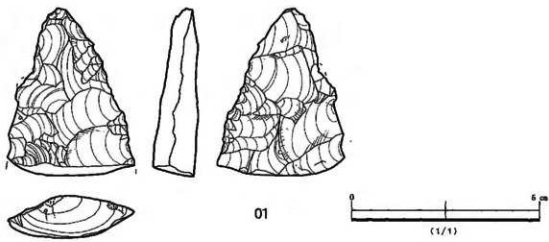


图 13-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 9号竖穴状遺構出土 石器実測図

は遺構中央北側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片で内湾気味にやや開いて立ち上がる。外面は施文原体1段の縄Rを間隔密に左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕に丁寧なヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく器面に光沢があり胎土に細かな金雲母を多く含み、器厚は5mmである。05（19166）と同一図体と推定される。図13-2-05（19166）は遺構中央北側覆土中位から出土した押圧縄文土器の胴部片で内湾気味にやや開いて立ち上がる。外面は施文原体1段の縄Rを間隔密に左巻き付けた施文具（絡条体）で横位に施文、内面は指頭痕に丁寧なヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく器面に光沢があり胎土に細かな金雲母を多く含み、器厚は5mmである。

#### 無文土器

図13-2-06（22231）は遺構中央北側床面から出土した無文土器の口縁部片で外反気味にやや開いて立ち上がり、口唇部を丸く仕上げている。外面から内面へと13×8mmの楕円孔が穿かれている。外面はヨコナデ、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土に砂粒を僅かに含み、器厚は10～11mmである。

#### 石器

##### 尖頭器

図13-4-01（14171）は黒曜石製の尖頭器の尖頭部片である。断面形態は凸レンズ状を呈し、両面調整加工はソフトハンマーの直接打撃が行われている。

##### 敲・凹・磨石

図13-4-02（10092）は敲・磨石の複合石器の完形品で、平面形態は横長の片面が内湾する礫を両面に磨り面、下側面を敲き面としている。図13-4-03（22329）は中粒砂岩製の磨石の完形品で、平面・断面形態ともに扁平の強い楕円形を呈し、両面を磨り面としている。図13-4-04（14301）は粗粒砂岩製の凹・磨石の複合石器で、大形の完形品である。平面形態は楕円形、断面形態は扁平が強く隅丸の板状である。両面に磨り面と敲による凹が認められる。法量は重さが2.14kgを計ることや板状の形態から据え置いて利用する石皿とも考えられるものである。

##### 台・石皿

図13-4-05（20002）は輝石安山岩製の石皿の完形品で、平面形態は不整形な隅丸の五角形を呈し、断面形態は扁平の強く中央が僅かに盛んでいる。重量は3.615kgを計る。表面と3側面に敲痕が認められる。図13-4-06は玄武岩製の台・石皿として利用されたと考えられる不定型な礫で、重量は6.18kgを計り重さがある。断面形態は三角形に近く、平坦部を磨り面としている。

## 11号竪穴状遺構 (SB3011)

本遺構は調査区西側にあり2-5調査区1号埋没谷に向かう緩斜面に位置する。2・3・12号竪穴状遺構、51・52号土坑と重複関係にあり、52号土坑・12号竪穴状遺構→11号竪穴状遺構→2号竪穴状遺構の新旧関係となる。

本遺構からは遺物が524点出土した。内訳は土器片が28点、石器・礫・石材他が496点である。

図示した土器は押圧縄文土器・無文土器、石器は石鏃・スクレイパー・石核・石皿等である。

### 土器

#### 押圧縄文土器

図14-2-01 (25176) は遺構北東側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に施文、内面はヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に細かな金雲母・砂粒を含み、器厚は6mmである。

#### 無文土器

図14-2-02 (23398) は遺構中央覆土下位から出土した無文土器の口縁部片でやや開いて立ち上がり、口唇部を丸く仕上げている。外面は縦位に条線調整、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母と粒の大きい砂粒を含み、器厚は5~9mmである。

### 石器

#### 石鏃

図14-4-01 (23636) は黒曜石製石鏃の先端部破損品で、平面形態は二等辺三角形と推定される無基の三角鏃である。表面に細かな押圧剥離調整が施され、裏面の一部に素材面が残されている。

図14-4-02 (25617)・03 (24204) はともにホルンフェルス製の石鏃である。02は左脚部を欠損、03は先端部を欠損するものである。平面形態は二等辺三角形の凹基で、02は細長く、03は正三角形に近い形態である。

#### スクレイパー

図14-4-04 (24584)・05 (24585) はともに頁岩製の円形に近い不定型な搔器である。素材面を残し、弧状の刃部を直接打撃によって形成している。図14-4-06 (23378) は黒曜石製の両面加工石器である。平面形態は右側縁に小さな突起が形成されている。調整加工はソフトハンマーの直接打撃と、コンタクトエリアの狭いソフトハンマーの押圧剥離の2種類が認められる。後者のハンマーは変形度が小さいので、ハードハンマーの剥離面様相の特徴も兼ね備えている。小突起を摘みとみると横形石匙の可能性はあるが、破損が重度で器種・形態の特定ができない。図14-4-07 (24471)・08 (24474) はともに黒曜石製の不定形な剥片石器で、加撃による剥離面から剥片素材の両極石器と考えられる。

#### 石核・礫器

図14-4-09 (23792) は頁岩製の石核である。自然面打面から矩形剥片を剥離する円盤状石核の変異形態である。剥離作業途上で折れているものである。図14-4-10 (25898) は頁岩製の片刃礫器である。加工調整はハードハンマーの直接打撃で刃部のみを形成したものである。

#### 台・石皿

図14-4-01 (24291) は玄武岩製の台・石皿である。平面・断面形態はともに長方形を呈し、表の平坦面を磨り面としている。

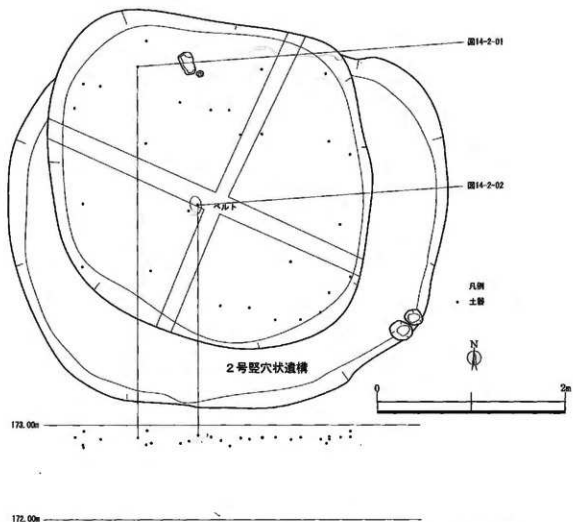


图 14-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竖穴状遺構出土 土器分布図

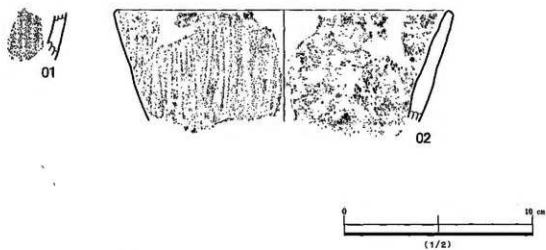


图 14-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竖穴状遺構出土 土器拓影・実測図



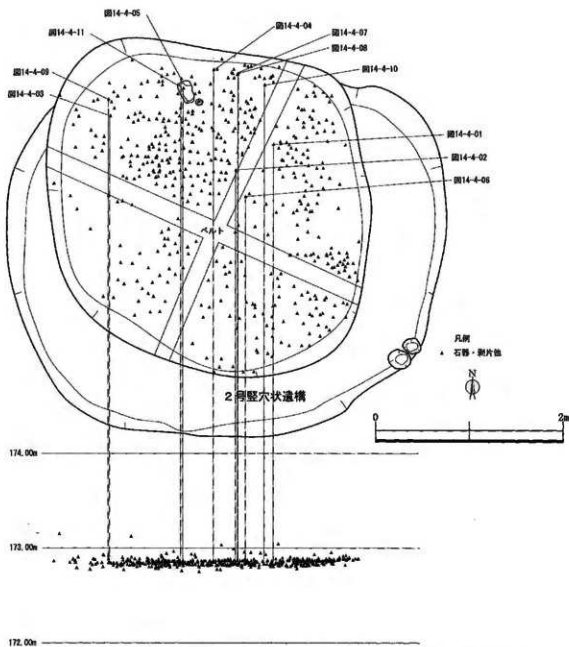


圖 14-3 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竪穴状遺構出土 石器・剥片他分布図

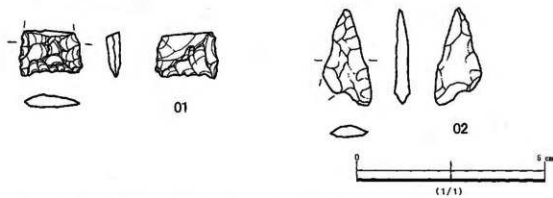


圖 14-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竪穴状遺構出土 石器実測図①

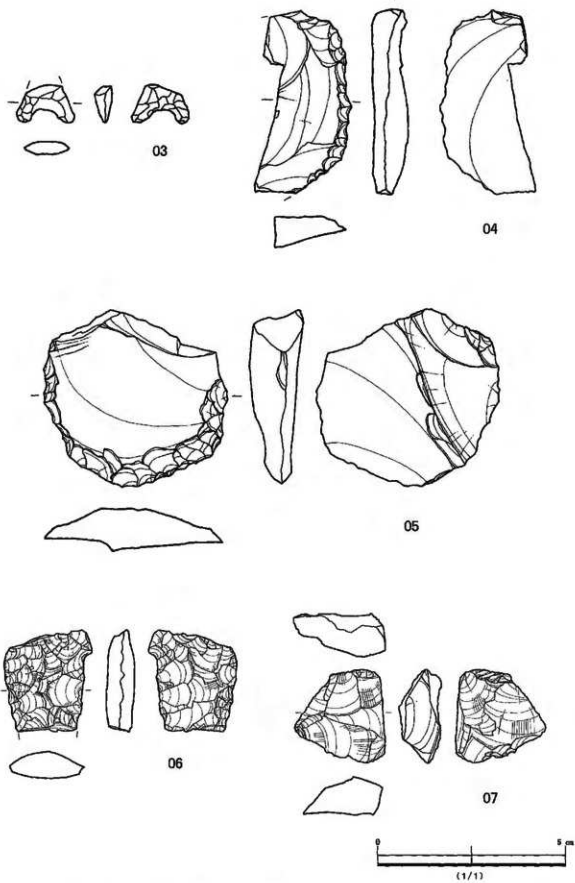
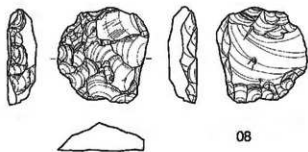
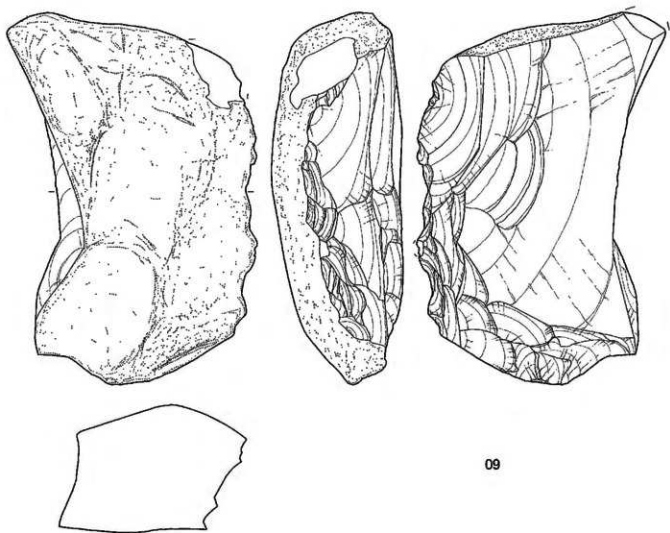


图 14-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号壑穴状遺構出土 石器実測図②



08



09

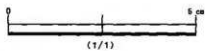


图 14-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 11 号竖穴状遺構出土 石器実測図③

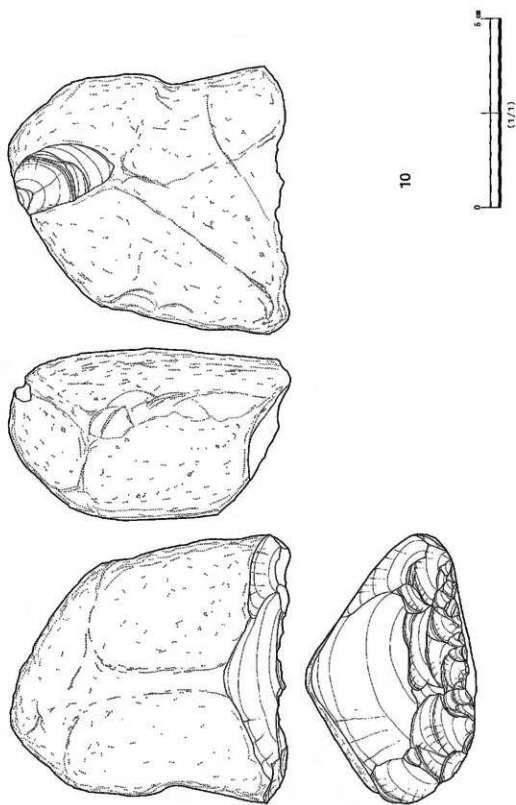


图 14-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 11 号壑穴状遺構出土 石器実測図④

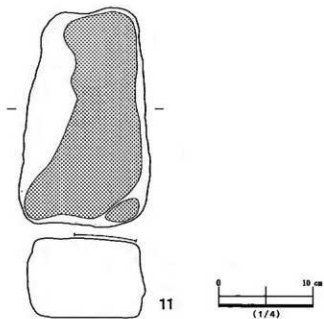


図 14-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竪穴状遺構出土 石器実測図⑤

## 12号壑穴状遺構 (SB3012)

本遺構は調査区西側2・11号壑穴状遺構と重複関係にあり、北西側が切られているため遺物は164点、内土器が28点、石器・礫・剥片他が136点と少なめの出土であった。平面分布は調査範囲である遺構内中央南側地点からやや多く出土した。垂直分布は標高約172.8～173.6mにかけての標高172.9～173.2mの層に集中する傾向がみられた。

図示した土器は押圧縄文土器・無文土器の5点、石器は石鏃、敲・凹・磨石等の2点である。

### 土器

#### 押圧縄文土器

図15-2-01 (13517)は遺構中央覆土上位から出土した押圧縄文土器の口縁部である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で斜位に施文、内面はヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含み、器厚は4～6mmである。図15-2-02 (24591)は遺構中央南側床面から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体不明瞭な縄を間隔密に左巻き付けた施文具(絡条体)で横位に施文、内面は指頭痕調整が施される。接合部は僅口縁で、その部分に炭化物が付着しており破損後も使用した可能性がある。色調はやや明るく胎土に金雲母を微量含み、器厚は4mmである。

#### 無文土器

図15-2-03・04 (24391・25597)は遺構南東と東側の床面から出土した無文土器の口縁部片で口唇部は丸く仕上げている。外面は斜位の丸棒状具による沈線文が併行に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に金雲母を含み、器厚は4～6mmである。図15-2-05 (24602)は遺構南東隅覆土下位から出土した無文土器の胴部片である。外面はナデ調整、内面は指頭痕以外に炭化物が付着しているため不詳である。色調はやや明るく粒の大きな砂粒・繊維を含み、器厚は5～6mmである。

### 石器

#### 石鏃

図15-4-01 (24592)は珪質頁岩製の石鏃で先端部を僅かに欠損してほぼ完形品である。平面形態は僅かに左右非対称な二等辺三角形にやや挟り深い凹基である。側縁調整はやや粗い押圧剥離によると考えられる。

#### 敲・凹・磨石

図15-4-02 (12854)は粗粒砂岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面形態は均整のとれた楕円形、断面形態は扁平の強い楕円形を呈し、両面に凹・磨り面、側面に敲き痕が残されている。

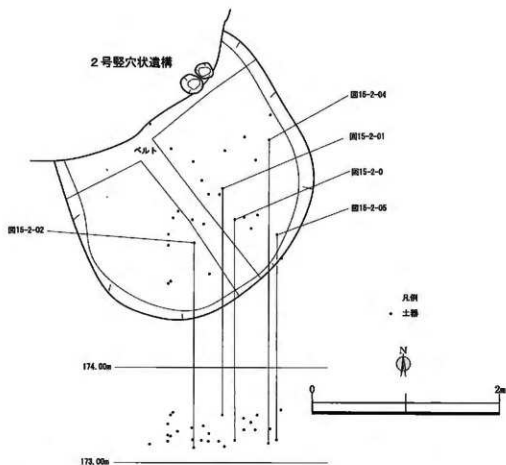


图 15-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 12号竖穴状遺構出土 土器分布図

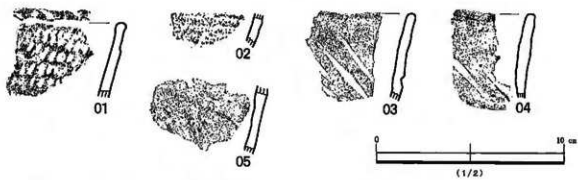


图 15-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 12号竖穴状遺構出土 土器拓影・実測図

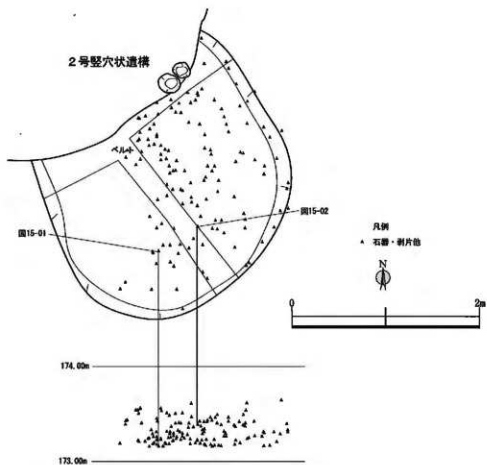


图 15-3 3-1 調査区 縄文時代草創期 12号竖穴状遺構出土 石器・剥片他分布图

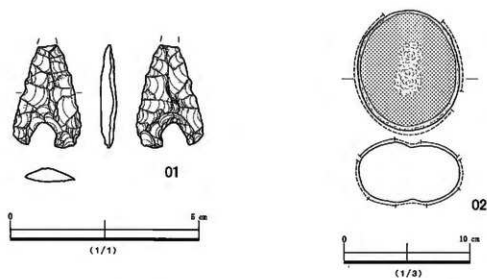


图 15-4 3-1 調査区 縄文時代草創期 12号竖穴状遺構出土 石器実測图



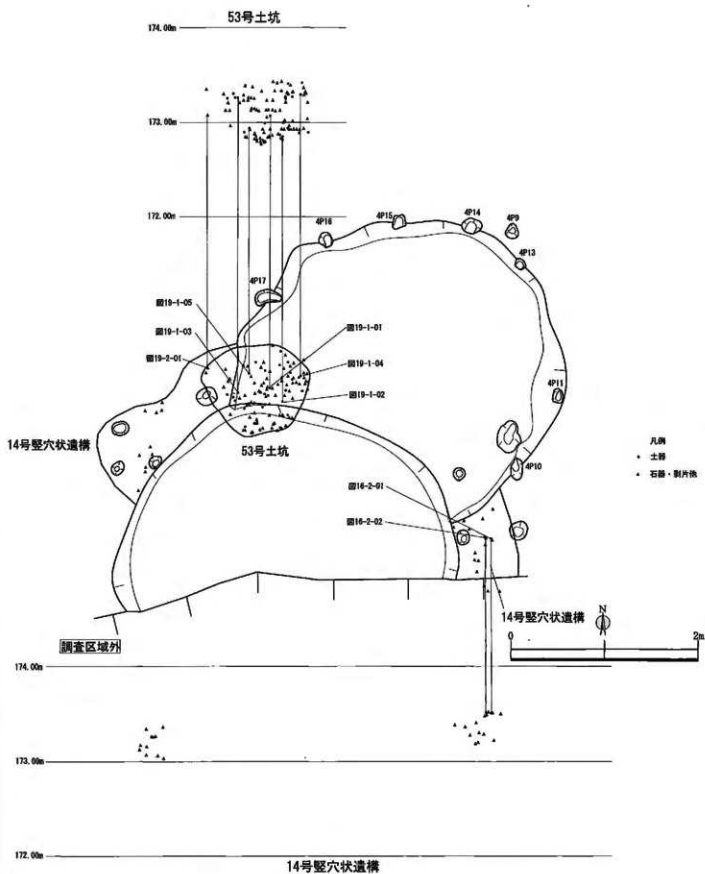


图 16-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 14号竖穴状遺構・53号土坑出土 遺物分布图

#### 14号竪穴状遺構 (SB3014)

本遺構は調査区南側4・5号竪穴状遺構、53号土坑と重複しており、14号竪穴状遺構→53号土坑→5号竪穴状遺構→4号竪穴状遺構の新旧関係となる。本遺構は遺跡保存のため範囲確認精査だけであったため遺物は26点、内土器が2点、石器・礫・剥片他が24点と少なめの出土であった。

図示した土器のみで押圧縄文土器・無文土器の2点である。

#### 土器

##### 押圧縄文土器

図16-2-01(11201)は遺構東側覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜～横位に3施文帯に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。接合による肥厚がある。色調はやや暗く胎土に砂粒を多く含み、器厚は4～7mmである。

##### 無文土器

図16-2-02(11022)は遺構東側覆土上位から出土した無文土器の胴部片である。外面は指頭痕に縦位ナデ調整、内面は指頭痕に条痕状ヨコナデ調整が施される。色調は暗く胎土に粒の大きな砂粒を含み、器厚は7～10mmである。陸縁土器の無文と推定される。

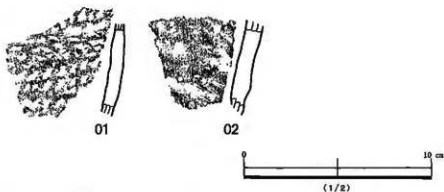


図16-2 3-1調査区 縄文時代草創期 14号竪穴状遺構出土 土器拓影・実測図

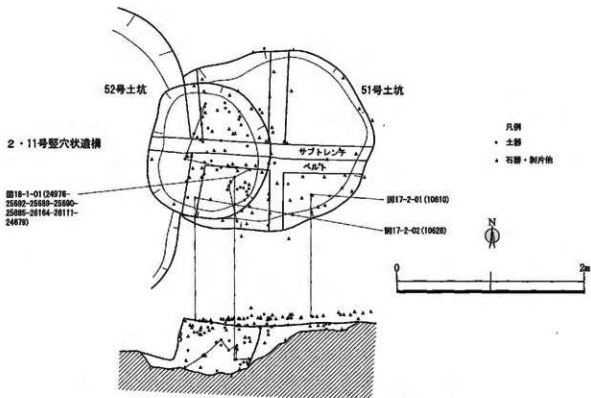


図 17-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 51・52号土坑出土 遺物分布図

### 51号土坑 (SK51)

本遺構は調査区中央に位置し、52号土坑、2・11号竪穴状遺構と重複関係にあり、52号土坑→51号土坑→2号竪穴状遺構→11号竪穴状遺構の新旧関係である。

本遺構から遺物は計 114 点、その内土器は 34 点、礫・剥片他は 80 点が出土した。

#### 土器

##### 押圧縄文土器

図 17-2-01 (10610) は遺構東南側覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体不明瞭な縄を間隔密に左巻き付けた施文具 (絡条体) で横位に施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。接合による肥厚がある。色調はやや暗く胎土に砂粒・雲母を含み、器厚は 6~7mm である。図 17-2-02 (10623) は遺構西南側覆土上位から出土した押圧縄文土器の尖底部片で、乳房状を呈する。外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや広く左巻き付けた施文具 (絡条体) で多高方向に施文、内面は指頭痕にやや丁寧なナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土に砂粒を多く含み、器厚は 5~14mm である。

### 52号土坑 (SK52)

#### 土器

##### 隆線土器

図 18-2-01 (24976 他) は隆線土器の一括で口縁から底部片で、底部は平底である。外面は横位に幅約 6mm の粘土紐が横位に 2 条貼付け、口唇部直下の隆線は途中で「クランク」状を呈し、その隆線上を爪形状施文具で連続押圧・押し潰し施文、外面は主に斜位にミガキ状に調整、内面は指頭痕に丁寧に斜位にヘラ状具による調整が施される。器面はやや明るく光沢があり胎土に細かい砂粒を含み、器厚は

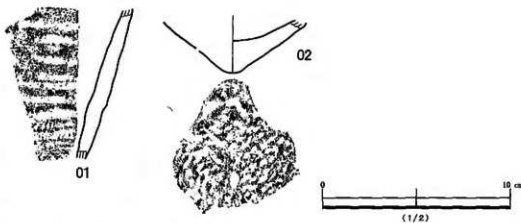


図 17-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 51号土坑出土 土器拓影・実測図

6～19mmである。

### 53号土坑 (SK53)

本遺構は調査区南側に位置し、4・5・14号竪穴状遺構と重複関係にあり、14号竪穴状遺構→53号土坑→5号竪穴状遺構→4号竪穴状遺構の新旧関係である。

本遺構から遺物は計114点、その内土器は34点、礫・剥片他は80点が出土した。

#### 土器

##### 押圧縄文土器

図 19-1-01 (14062) は遺構中央覆土中位から出土した押圧縄文土器の口縁部片で内湾気味に立ち上がり口唇部を強く外反させている。外面は施文原体不明瞭縄を間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜位に3施文帯に施文、内面はヨコナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は6～8mmである。図 19-1-02 (25324) は遺構南東側覆土下位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具(絡条体)で横～斜位に施文、内面は指頭痕にやや丁寧なヨコナデ調整が施される。接合部の肥厚がみられる。色調は暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は5～7mmである。図 19-1-03 (13742) は遺構中央西側覆土上位から出土した押圧縄文土器の胴部片である。外面は施文原体1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具(絡条体)で縦～斜位に施文、内面は指頭痕にやや丁寧なヨコナデ調整が施される。接合部の肥厚がみられる。色調はやや明るく胎土に金雲母を多く含み、器厚は4～6mmである。

##### 無文土器

図 19-1-04 (12677) は遺構東端覆土上位から出土した無文土器の胴部片である。外面は指頭痕にヨコナデ、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調はやや暗く胎土に金雲母を多く含み、器厚は6～7mmである。図 19-1-05 (25605) は遺構中央北側覆土下位から出土した無文土器の胴部片である。外面は斜位に沈線状条痕、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調はやや明るく胎土に雲母・砂粒を含み、器厚は7～8mmである。

#### 石器

##### 石鏃

図 19-2-01 (14087) はチャート製の石鏃で先端部を僅かに欠損するほぼ完形品である。平面形態は二等辺三角形の挟りのやや深い凹基である。両面加工調整で側縁の押圧剥離は規則的な四角形の剥離面である。

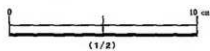
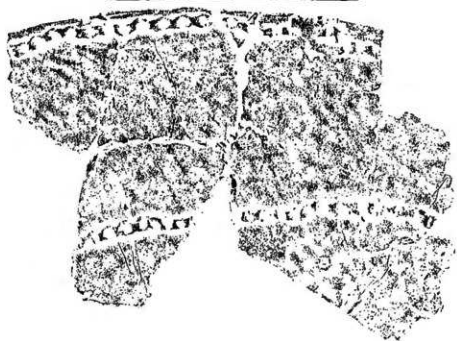
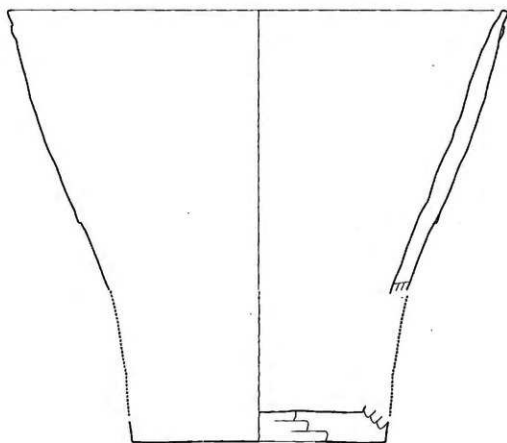


图 18-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 52号土坑出土 土器拓影・実測図

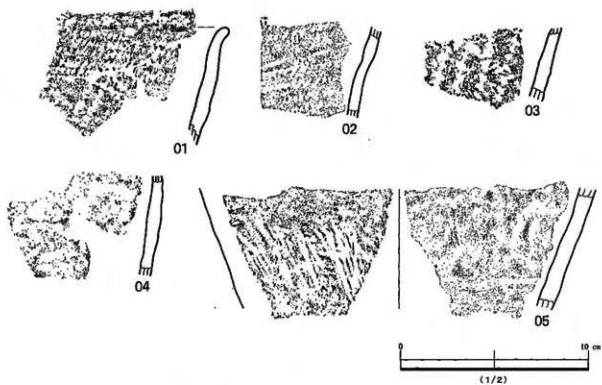


图 19-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 53号土坑出土 土器拓影・実測図

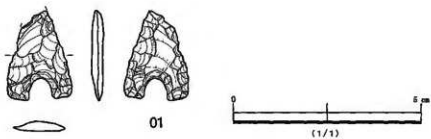


图 19-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 53号土坑出土 石器実測図

## グリッド

本調査区からは遺構以外のグリッドから合計 9958 点の遺物が出土して記録された。7 層から出土した遺物合計は 5482 点、そのうち土器が 747 点、礫・剥片その他が 4735 点である。6 層から出土した遺物合計は 4454 点、そのうち土器が 434 点、礫・剥片その他が 4020 点である。

本調査区から出土した主な時期の遺物は縄文時代草創期と早期である。土器は縄文時代草創期の押圧縄文土器を主体に陸線文土器・爪形文土器・無文土器が客体として出土した。早期では条痕文系土器を主体に押型文系土器・縞系文系土器・沈線文系土器が客体として出土した。少量であるが早期末葉の薄手土器の木島式土器や前期の竹管文系土器の諸磯式土器が出土した。

石器は縄文時代草創期の尖頭器・石鎌・スクレイパー類・石錐・礫器・敵石・磨石・凹石・石皿が出土した。最も出土した剥片石器は石鎌・スクレイパー類であった。また礫石器では敲・磨石の複合石器が最も多く出土した。

少数ではあるが溝底石のうちの断面形態が半円形を呈する矢柄研磨器が静岡県内では初めて縄文時代草創期の包含層から出土した。

## 縄文時代

### 土器

#### 縄文時代草創期

##### 陸線文土器

図 20-2-01～09 は第 1 群第 1・3・4 類陸線文土器で出土層位は 7 層である。図 20-2-01 (トレンチ一括) は口縁部片で外面は口唇部直下 2 条 1 単位に併行して走る粘土紐を横位に貼付、その陸線文上をキザミ状押圧が施されている。内面はやや幅の広いヘラ状具による調整が顕著に施される。外面に 2 条 1 単位と考えられる陸線文の施文文様は 7 層から出土した図 20-2-05 (11020)、図 20-2-06 (11018)、図 20-2-07 (5754) においても行われるが、施文位置が図 20-2-01 に見られる口唇部直下でない点と図 20-2-05 (11020)・図 20-2-06 (11018) では陸線文が直線的でなく波状あるいは山形状の施文、さらに陸線文が薄い点が相違する。7 層から出土した図 20-2-04 (7801) は 1 条であるが同様に波状あるいは山形状の施文である。内面はやや幅の広いヘラ状具と思われる条痕状の調整は 52 号土坑出土の一括陸線文土器である図 18-2-01 においても同様の内面調整が施されていることから同時期であると考えられる。図 20-2-02 (7016)、7 層から出土した図 20-2-07 (5754)、図 20-2-08 (7757) は陸線文にヘラ状具によるキザミ状押圧や器面調整が丁寧である点が共通する。

施文された陸線文の幅を基準にした土器分類「第 1 群第 1 類太陸線文土器→第 1 群第 3 類細陸線文土器→第 1 群第 4 類微陸線文土器」(麻生・白石 2000) に従えば、陸線文の幅が 6～8mm の太陸線文土器は図 20-2-01 (トレンチ一括)、陸線文の幅が 3～5mm の細陸線文土器は図 20-2-03 (トレンチ一括)・図 20-2-06 (11018) である。また微陸線文土器は 3～3C 調査区 10 号竪穴状遺構とその周辺のみから出土しており、陸線文の幅は 1～2mm で 1mm が主体である。出土したそれぞれの土器分類の特徴を概観すると太陸線文土器は外面無文部全体が擦痕状の調整、内面はヘラ状具による調整が顕著に施され、色調はやや明るく、胎土には白色粒を多く含み、器厚は 8～10mm 前後である。細陸線文土器には陸線文がやや薄く、色調が明るく、胎土に白色粒を含み、器厚が 8mm 前後のものと同様の器面調整が丁寧、色調が暗く暗褐色から黒褐色を呈し、器厚が 6～8mm 前後とやや薄い 2 種類がある。微陸線文土器は内外面の器面調整が黒光りするようになり、色調が暗く黒褐色を呈し、器厚が 4～7mm 前後とやや薄いのが特徴である。

##### 爪形文土器

図 20-2-10～12 は第 2 群第 1・2 種爪形文土器である。図 20-2-10 (グリッド一括) は口縁部片、7

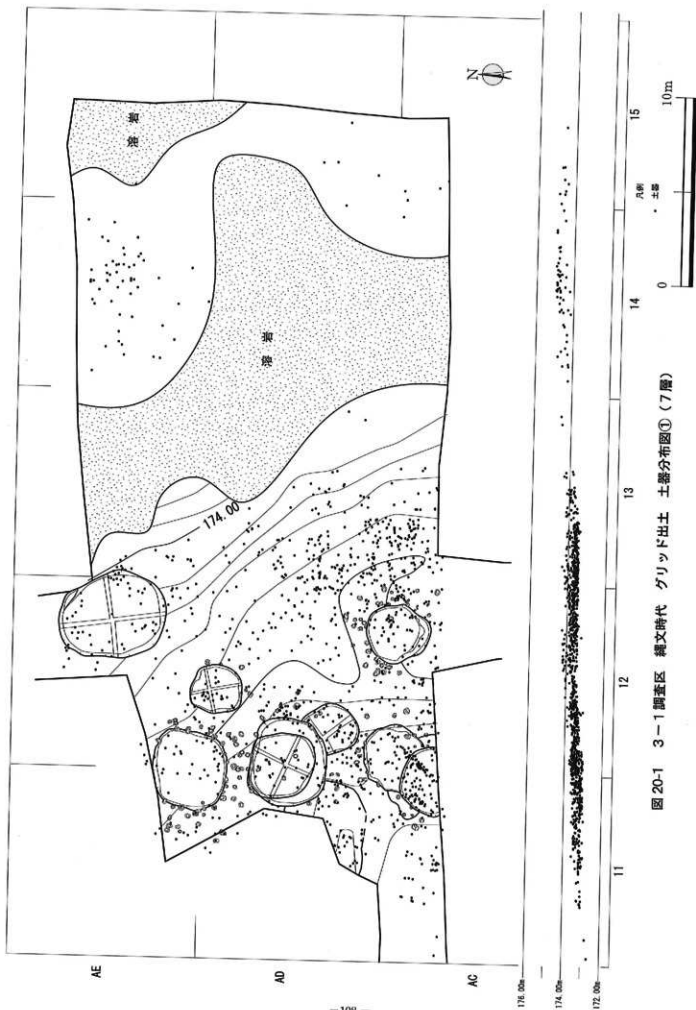
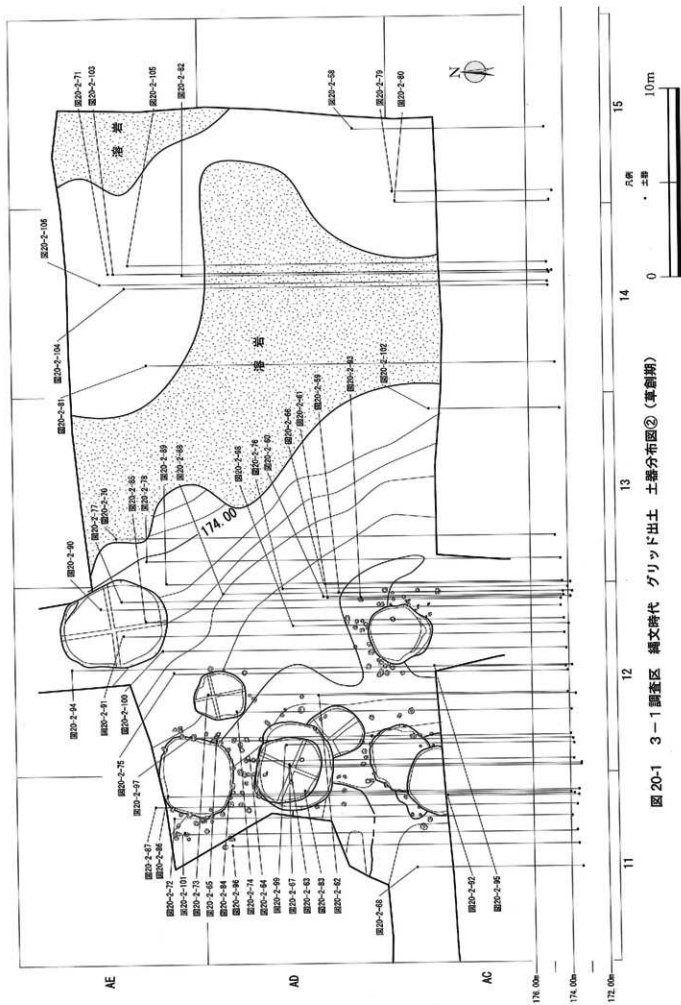


図 20-1 3-1調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図①(7層)





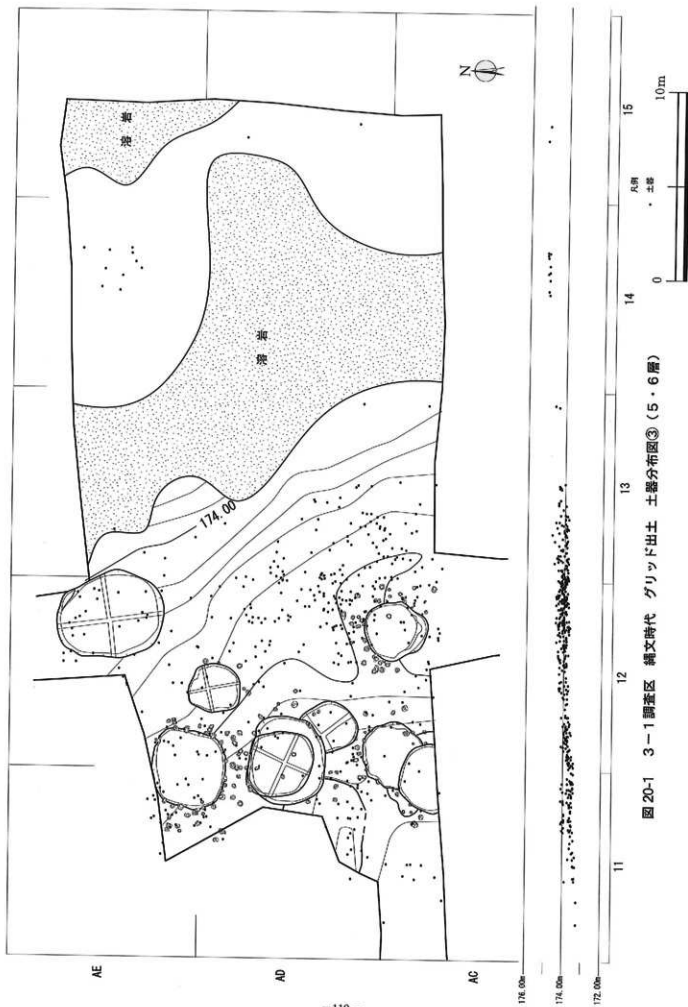


図 20-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図③ (5・6層)

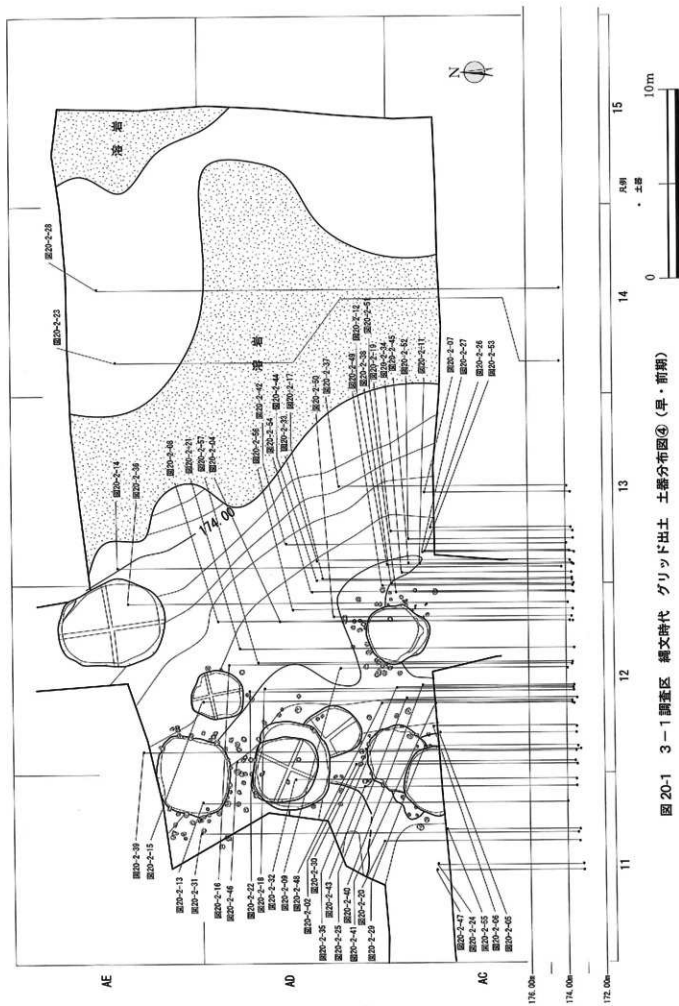


図 20-1 3-1調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図④(早・前期)

層から出土した図 20-2-11 (11588) は胴部片であるが、ともに外面は縦位の「ハ」の字の爪形文が充填される。7層から出土した図 20-2-12 (11412) は外面に横位の爪形文が少なくとも 2 条連続施文される。  
押圧縄文土器

図 20-2-13 ~ 43 は第 3 群第 1 ~ 3 種押圧縄文土器である。図 20-2-13 (3693・3695) は 6 層から出土した口縁部片で口唇部が間隔を持って押圧され小さな波状を呈する。外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや広く左巻き付けた施文具 (絡条体) を横位に施文、器面は硬質で光沢がある。接合部割れ口に凹がみられる。図 20-2-14 (15474) は 7 層から出土した口縁部片で図 20-2-13 と同様の口唇部成形がみられる。外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや広く左巻き付けた施文具 (絡条体) を横位に施文、器面は硬質で光沢がある。接合部に凹がみられる。図 20-2-15 (11151) は 7 層から出土した口縁部片で口唇部は平口縁である。外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや広く右巻き付けた施文具 (絡条体) を斜位に施文、胎土は粒の大きな砂粒の他に雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-16 (10075) は 7 層から出土した口縁部片口唇部に押圧縄文のキザミが施文される。外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや狭く左巻き付けた施文具 (絡条体) を横位に施文、接合部に凹がみられる。図 20-2-17 (10839) は 7 層から出土した口縁部片口唇部に丸棒状具によるキザミが施文される。外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔広く左巻き付けた施文具 (絡条体) を横位に施文、接合部に凹がみられる。

以下は胴部片である。図 20-2-18 (10170) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔狭く左巻き付けた施文具 (絡条体) を横位に無文帯をもって施文、胎土は粒の大きな砂粒の他に雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-19 (11598) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を間隔やや広く左巻き付けた施文具 (絡条体) を横位に施文、胎土は粒の大きな砂粒を含んでいる。図 20-2-20 (11080) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を間隔やや狭く左巻き付けた施文具 (絡条体) を横～斜位に施文、接合による肥厚が見られる。図 20-2-21 (14029) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや広く右巻き付けた施文具 (絡条体) を横位に施文、胎土は粒の大きな砂粒の他に雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-22 (10139) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を間隔狭く左巻き付けた施文具 (絡条体) を斜～横位に施文、胎土は粒の大きな砂粒の他に雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-23 (22493) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を間隔やや広く右巻き付けた施文具 (絡条体) を横位に無文帯をもって施文、胎土は粒の大きな砂粒の他に金雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-24 (20929) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄 L を間隔やや狭く左巻き付けた施文具 (絡条体) を横～斜位に施文、胎土は粒の大きな砂粒の他に雲母・繊維等を含んでいる。図 20-2-25 (9672) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を間隔狭く左巻き付けた施文具 (絡条体) を横～斜位に施文、胎土は粒の大きな砂粒を多く含んでいる。図 20-2-26 (5849) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔狭く左巻き付けた施文具 (絡条体) を斜位に羽状施文、胎土は金雲母を多く含んでいる。図 20-2-31 (8276) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや広く左巻き付けた施文具 (絡条体) を横位に施文、胎土は金雲母を多く含んでいる。接合部の肥厚と割れ口に儀口縁がみられる。図 20-2-27 (12992) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや狭く左巻き付けた施文具 (絡条体) を斜位に羽状施文、胎土は金雲母を多く含んでいる。図 20-2-28 (20936) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや広く右巻き付けた施文具 (絡条体) を横～斜位に似る施文、胎土は金雲母・砂粒を多く含んでいる。図 20-2-29 (11024) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を間隔密に左巻き付けた施文具 (絡条体) を横位に施文、胎土は金雲母・砂粒を多く含んでいる。図 20-2-30 (13329) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや狭く右巻き付けた施文具 (絡条体) を斜位に施文、胎土は金雲母を多く含ん

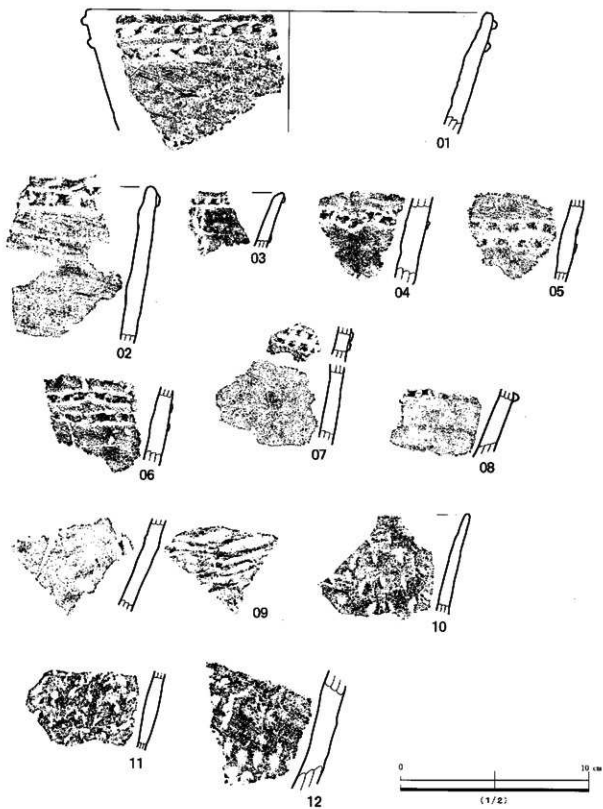


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図①

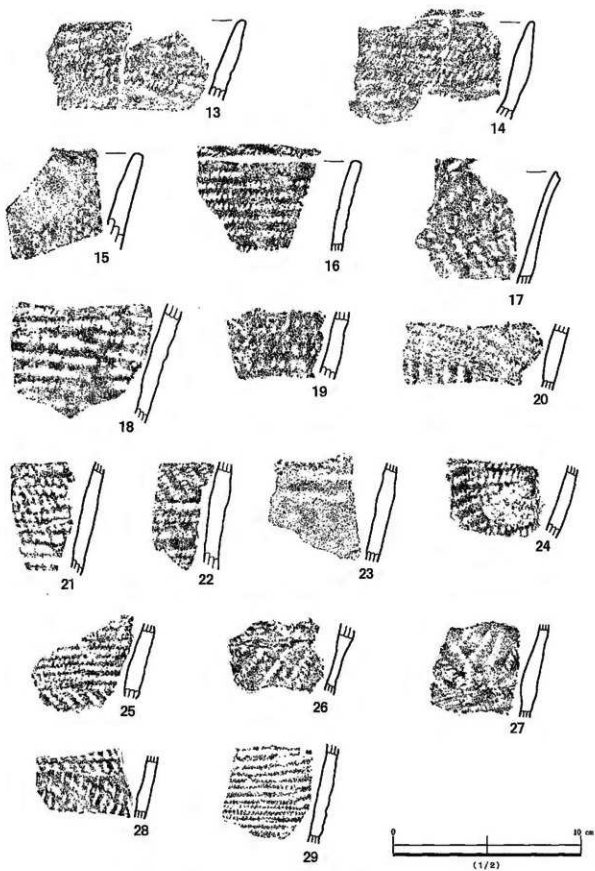


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図②

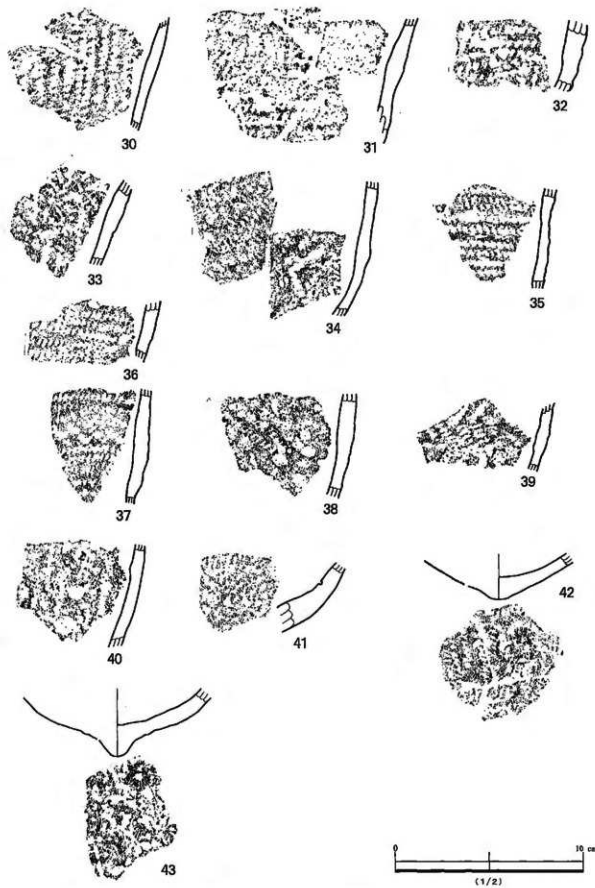


图 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図③

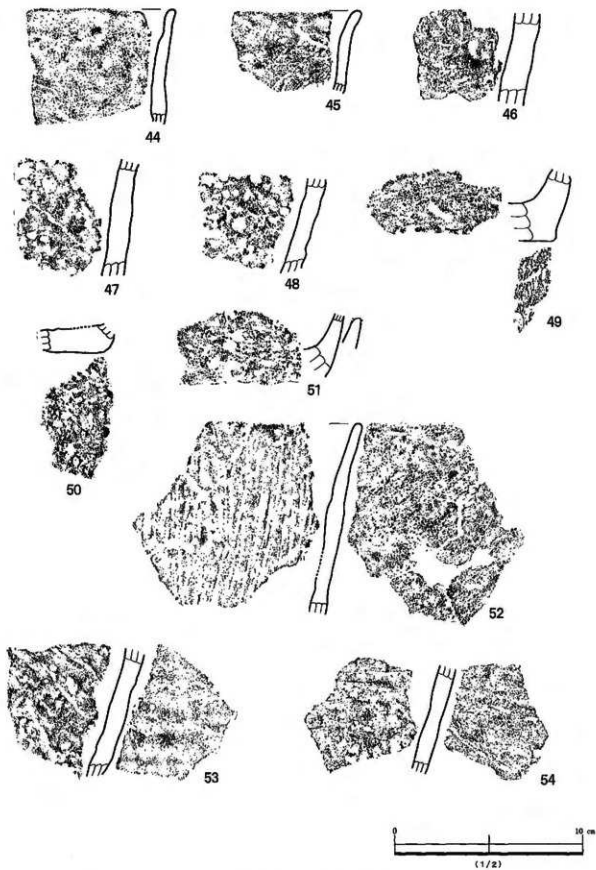


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図④



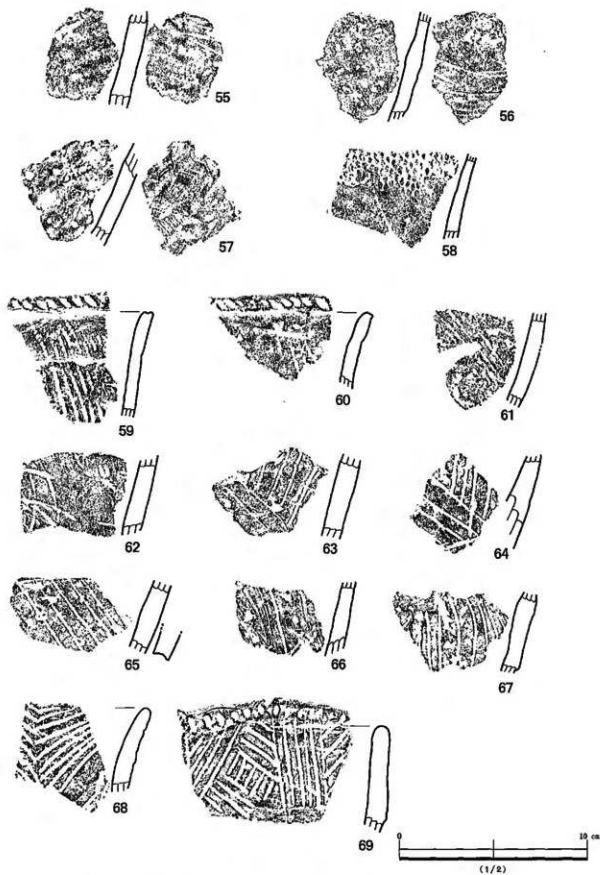


図 20-2 3-1調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図⑤

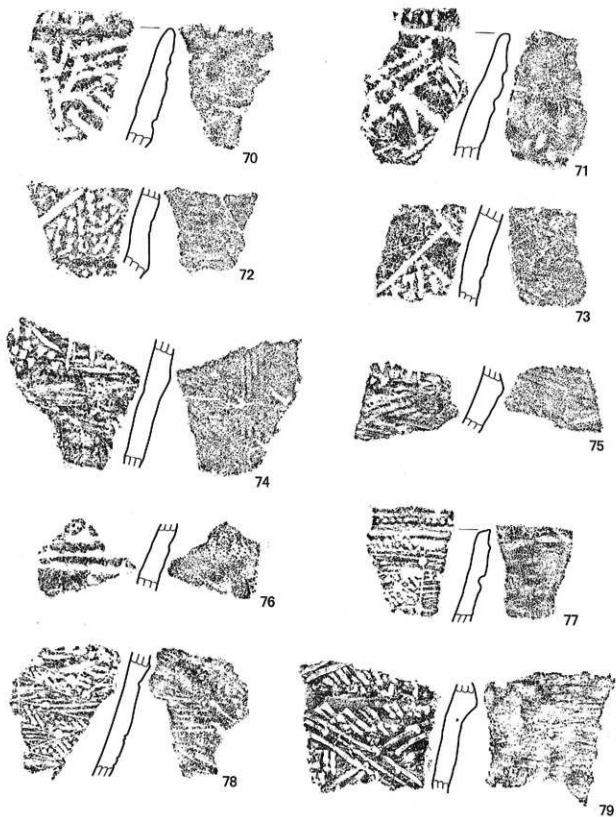


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図⑥

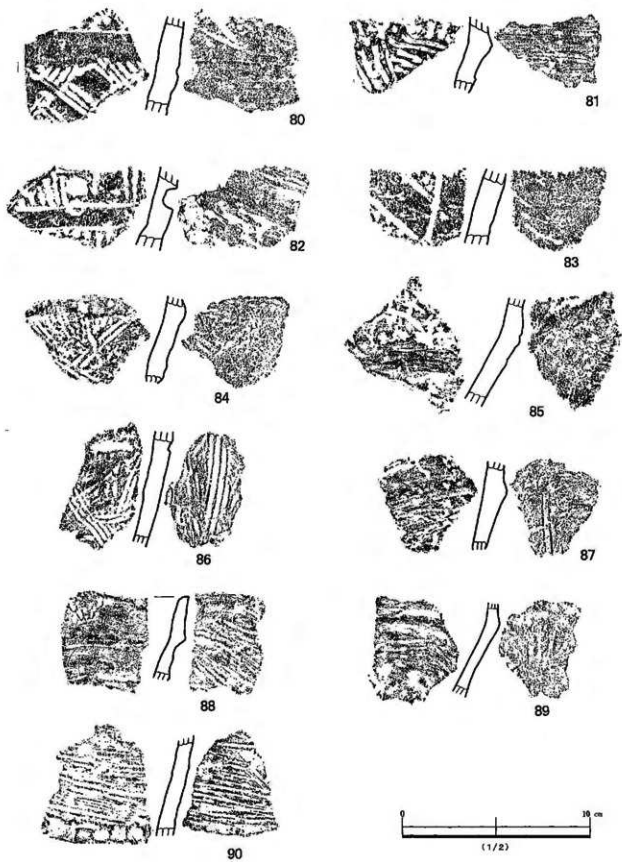


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図⑦

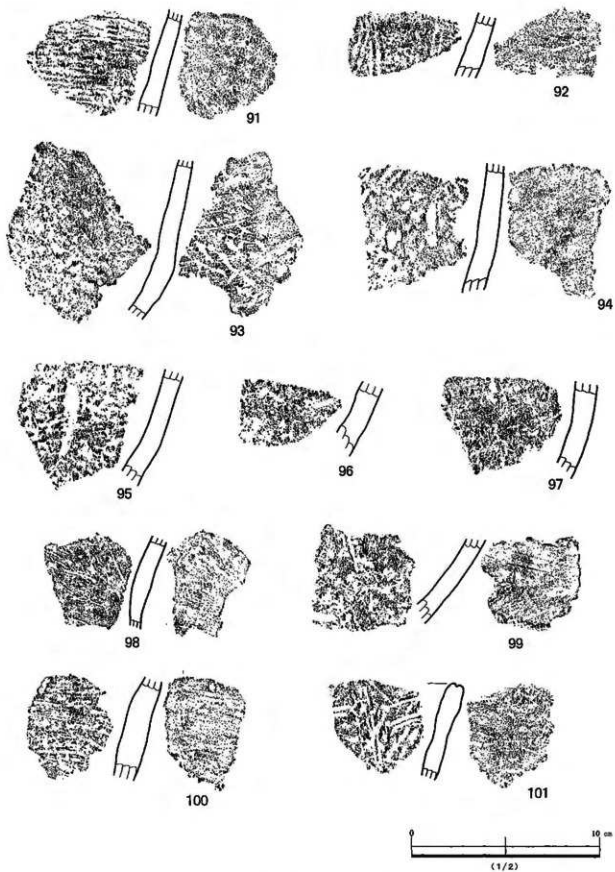


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図⑧

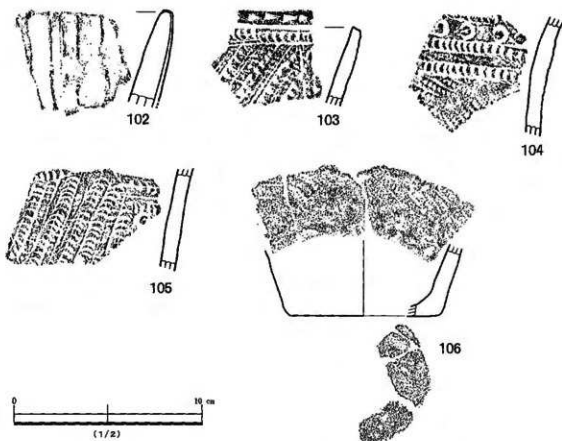


図 20-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図⑨

でいる。図 20-2-32 (13580) はグリッドから出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）を横位に施文、胎土は金雲母を多く含んでいる。接合部の肥厚と割れ口に儀口縁がみられる。図 20-2-33 (9745) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた施文具（絡条体）を斜位に羽状施文、胎土は金雲母を多く含んでいる。図 20-2-34 (10784) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を間隔やや狭く左巻き付けた施文具（絡条体）を横位に施文、胎土は金雲母・繊維を含んでいる。接合部の割れ口に儀口縁がみられる。図 20-2-35 (10925) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄Rを間隔やや狭く右巻き付けた施文具（絡条体）を横位に施文、内面はやや丁寧な調整、色調はやや明るく胎土は雲母・砂粒を含んでいる。接合部の肥厚が僅かにみられる。図 20-2-36 (15359) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具（絡条体）を斜位に羽状施文、色調はやや明るく胎土は雲母・砂粒を多く含んでいる。図 20-2-37 (19976) は 7 層から出土した胴部片で内湾気味に立ち上がる。外面は施文原体 1 段の縄Rを間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）を横～斜位に 3 施文帯で羽状施文、色調はやや明るく胎土は金雲母・砂粒を多く含んでいる。図 20-2-38 (10777) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体不明瞭な縄を浅く間隔やや狭く左巻き付けた施文具（絡条体）を斜位に施文、胎土は金雲母を含んでいる。接合部の肥厚がみられる。図 20-2-39 (26141) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた施文具（絡条体）を斜位に施文、胎土は金雲母・砂粒を多く含んでいる。接合部の肥厚と段がみられる。図 20-2-40 (11830) は 7 層から出土した胴部片で、外面は施文原体 1 段の縄Lを間隔狭く左巻き付けた施文具（絡条体）を縦位に施文、胎土は金雲母・砂粒を多く含んでいる。接合部の割れ口に儀口縁がみられる。

以下は尖底部とその付近片である。図 20-2-41 (11007) は 7 層から出土した尖底部片で、外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや広く左巻き付けた施文具 (絡条体) を多方向に施文、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を多く含んでいる。図 20-2-42 (11516) は 7 層から出土した尖底部片で、乳房状を呈している。外面は施文原体 1 段の縄 R を間隔やや狭く左巻き付けた施文具 (絡条体) を多方向に施文、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を多く、繊維も含んでいる。図 20-2-43 (9383) は 7 層から出土した尖底部片で、乳房状を呈している。外面は施文原体不明瞭な縄 R を施文具 (絡条体) に施文、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を多く、金雲母も含んでいる。

#### 無文土器・条痕文土器

図 20-2-44 (10838) は 7 層から出土した無文土器の口縁部片で、緩やかに外反してやや開いて立ち上がり口唇部を丸く仕上げている。内外面ともに指頭痕にヨコナデ調整、色調は暗く胎土は金雲母・砂粒を多く含んでいる。押圧縄文土器の器面に似る。図 20-2-45 (8757) は 7 層から出土した無文土器の口縁部片で、緩やかに「S」字状に立ち上がり口唇部をやや強く外反させて丸く仕上げている。内外面ともに指頭痕にヨコナデ調整に擦痕、色調は暗く胎土は粒の大きな砂粒が多く、繊維を含んでいる。図 20-2-46 (8129) は 7 層から出土した無文土器の胴部片で、直線的に立ち上がる。内外面ともに指頭痕にナデ調整に擦痕、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を含んでいる。器厚は 13 mm と厚手である。図 20-2-47 (9676) は 7 層から出土した無文土器の胴部片で、直線的に立ち上がる。内外面ともに指頭痕にやや丁寧なナデ調整、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を含んでいる。器厚は 13 mm と厚手である。図 20-2-48 (9300) は 7 層から出土した無文土器の胴部片で、僅かに内湾気味に立ち上がる。内外面ともに指頭痕にナデ調整、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒に繊維を含んでいる。

図 20-2-49 (10000) は 7 層から出土した無文土器の底部片で平底である。外面は指頭痕にナデ調整、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を多く含んでいる。図 20-2-50 (8640) は 7 層から出土した無文土器の底部片で平底である。外面はナデ調整、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を多く含んでいる。図 20-2-51 (8753) は 7 層から出土した無文土器の小形品で平底からほぼ直線的に立ち上がり口唇部を細く尖らせている。外面は指頭痕にナデ調整、内面は指頭痕にヨコナデ調整、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を多く含んでいる。極めて小形であることから祭祀用と推定される。

図 20-2-52 (12434) は 7 層から出土した条痕文系土器の口縁部片で、緩やかに外反してやや開いて立ち上がり口唇部を丸く仕上げている。外面は縦位に沈線状の条痕調整、色調は暗く胎土は金雲母を多く含んでいる。押圧縄文土器の器面に似る。図 20-2-53 (7643) は 7 層から出土した条痕文系土器の胴部片で、内湾気味にやや開いて立ち上がる。外面は斜位にヘラ状具による条痕調整、色調はやや明るく胎土は砂粒を多く含んでいる。図 20-2-54 (11481) は 7 層から出土した条痕文系土器の胴部片で、外反気味にやや開いて立ち上がる。外面は横位にヘラ状具による条痕調整、色調はやや暗く胎土は砂粒を多く含んでいる。図 20-2-55 (9603)・56 (17370)・57 (7820) は 7 層から出土した条痕文系土器の胴部片で、同一個体であるが未接合である。ほぼ直線的にやや開いて立ち上がる。内面は指頭痕にヨコナデ、棒状・ヘラ状具による条痕調整、色調はやや明るく胎土は粒の大きな砂粒を多く含んでいる。陸線文土器に似る。

#### 縄文時代早期

##### 押型文土器

図 20-2-58 (2067) は 6 層から出土した胴部片である。外面にはやや小さい楕円押型文が施文、胎土は金雲母を多く含んでいる。細久保式土器型式に並行するものである。

##### 線文土器

図 20-2-59 (8574)・60 (2585) は 7・6 層から出土した口縁部片で、同一個体であるが未接合である。口唇部は丸棒状具による連続キザミ、外面は原体 L の斜位襷糸文が施文される。胎土は粒のやや大きな砂粒・金雲母・長石・繊維を含んでいる。図 20-2-61 (6779) は 6 層から出土した胴部片である。外面は原体 L の斜位襷糸文が施文される。胎土は粒のやや大きな砂粒・金雲母・長石・繊維を含んでいる。図 20-2-62 (7923) は 7 層から出土した胴部片である。外面は幾何学的な襷糸文が施文される。

#### 沈線文系土器

第 7 群沈線文が施文される土器である。図 20-2-63 (13552)・64 (4892)・65 (5981) は 7・6 層から出土した胴部片である。外面はヘラ状具による横～斜の沈線文が施文される。胎土は粒のやや大きな砂粒・雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-66 (7406) は 6 層から出土した口縁部片で口唇部は丸棒状具によるキザミ、外面はヘラ状具による線形沈線文が施文される。胎土は粒のやや大きな砂粒・雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-67 (13553) は 6 層から出土した胴部片である。外面はヘラ状具による縦位沈線文間に角棒状具・竹管文具による刺突文・押し引き文が施文される。胎土は粒のやや大きな砂粒・雲母・繊維を含んでいる。図 20-2-68 (7237) は胴部片で幾何学的な線形文が施文される。

図 20-2-69 (6404) は口縁部片で直立して立ち上がり口唇部を丸く仕上げ、連続的なキザミを施文している。外面は幾何学的な沈線文が施文される。野島式に平行するものである。

#### 条痕文系土器

図 20-2-70 (1921)・71 (17797) は同一個体と推定される口縁部片で口唇部はヘラ状具によるキザミ、外面は連続押し文による幾何学文様が施される。硬質で胎土に粒の大きな砂粒・雲母・繊維が目立つもので、厚手である。図 20-4-81・82・83 (20945・17830・2977) は胴部片で、外面は連続押し文や沈線文による幾何学文様が施文、内外面に条痕文調整が施される。硬質で胎土に粒の大きな砂粒・雲母・繊維が目立つもので、厚手である。図 20-2-72 (3699)・73 (4124)・74 (5996)・75 (5997)・76 (6264) は胴部片で、外面は沈線文による区画内に連続押し文を充填施文、内は条痕文が指頭痕にヨコナダ調整が施される。硬質で胎土に粒の大きな砂粒、金雲母か雲母、繊維が目立つもので厚手である。

図 20-2-77 (2773) は 6 層から出土した口縁部片で、口唇部に竹管文具による細かな連続のキザミが施文、外面は地文として条痕文調整に沈線文と連結部に竹管文具による円形刺突文・押し引き状刺突文や細い粘土紐による隆線文が施文される。内面はやや丁寧なヨコナダ調整が施される。胎土は砂粒・雲母・繊維が含まれる。図 20-2-78 (5033) は 6 層から出土した胴部片で、外面に段を有するもので外面・内面に地文として条痕文調整が施されるものである。図 20-2-79 (20945)・80 (17860)・81 (17830)・82 (17843)・83 (13446)・84 (3650)・85 (2977) は胴部片で段を有するもので、外面の文様は浅く幅広い薄沈線文や竹管文具による沈線文によって幾何学文様が施文されるものである。84 (3650) は器面が明るく胎土に繊維が目立つものであるが、他は器面の色調は全体にやや暗く胎土に砂粒・雲母が目立つものでやや厚手である。鶯ヶ島台式土器に平行するものである。

図 20-2-86 (4103) は外面に竹管文具による沈線文によって幾何学文様が施文されるものである。器面が明るく胎土に繊維が目立つものである。図 20-2-87 (5946) は外面に竹管文具による沈線文によって幾何学文様が施文されるものである。器面が明るく胎土に繊維が目立つものである。

図 20-2-88 (2758) は内外面に条痕文調整が行われる口縁部片で段を有するものである。図 20-2-89 (5038)・90 (2775)・91 (2781)・92 (2154)・93 (7600)・94 (11255)・95 (3573)・96 (4927)・97 (3453)・98 (5567)・99 (5352)・100 (5270)・101 (4093) は内外面に条痕文調整が行われる胴部片である。いずれも胎土に粒に大きな砂粒と繊維を多く含んでいる。

図 20-2-102 (5431) は口縁部片でやや開いて立ち上がり、口唇部を丸く仕上げている。外面は縦位の半隆起状の隆帯が連続して施文される。

## 縄文時代前期

図 20-2-103 (17796) は竹管文系土器の口縁部片でほぼ直線的にやや開いて立ち上がり、口唇部を平坦に仕上げている。外面は半截竹管状具による平行沈線文と連続爪形文が施文される。内面は丁寧なナヅ調整がほどこされる。図 20-2-104 (17805)・105 (9694) は同じく竹管文系土器の胴部片である。図 20-2-106 (9696) は同じく竹管文系土器の平底部片である。共通して胎土は金雲母を多く含み、硬質である。

## 縄文時代

### 石器

#### 7層

##### 尖頭器

図 20-4-01 (14190) は黒曜石製の尖頭器で尖頭部と基部が僅かに欠損しているほぼ完形品である。両面加工の中型の木葉形で断面形態は凸レンズ状を呈している。図 20-4-02 (21197)・03 (11881)・09 (8520) は尖頭部あるいは基部のみが残存する尖頭器である。ともに推定で 10 cm を超える大型の製品と推定される。両面加工でソフトハンマーにより直接打撃で形成されている。

##### 石鏃

図 20-4-04 (9702) は黒曜石製の石鏃のほぼ完形品で、基部の袈りが深く側縁外湾する鋸形鏃である。押圧剥離は貝殻状の剥離面である。

##### 両極石器（楔形石器）

図 20-4-05 (6133) は黒曜石製の両極石器で、縦長剥片を加工した篋状石器を挟み撃ちにして形成したものである。左側縁には急角度の押圧剥離による刃部が残されている。

##### 石匙

図 20-4-06 (9426) は縦形石匙の未成品であると思われる。自然面と素材面を多く残し、基部に近い両側縁に袈りにより抉入状剥離成形が認められることから石匙としたが、不定形な部分を残すことから未成品とした。図 20-4-07 (16982) は横形石匙の小型完形品である。丁寧な両面加工によって形成されている。

##### スクレイパー

図 20-4-08 (7685)・10 (12298) は不定形な鋸歯縁削器である。08 (7685) は頁岩製の縦折を生じた縦長剥片の側面に急角度の押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成しているものである。図 20-4-11 (12984) もやや不定形な鋸歯縁削器あるいは搔器である。基部以外は左側縁に急角度の鋸歯状刃部が成形される。図 20-4-12 (8670) は黒曜石製の搔器あるいは篋状石器の破損品と考えられる。両面加工体が素材として、刃部はコンタクトエリアの小さなハードハンマーの直接打撃で形成している。図 20-4-13 (9604) は黒曜石製の搔器で、両端に刃部をもつ両刃のものである。刃部は直接打撃によって成形されている。素材は両面加工体で、素材には平坦剥離の加工がみられる。図 20-4-14 (8750) は黒曜石製の楕円形に成形された搔器である。刃部は急角度の押圧剥離によって成形される。図 20-4-15 (18848) は黒曜石製の搔器で、素材は両面加工体で、ソフトハンマーによる直接打撃で成形されている。刃部はコンタクトエリアの小さなハードハンマーの直接打撃で急角度の片刃に成形されている。図 20-4-16 (16992) は黒曜石製の欠損品の石器である。凸レンズ状の断面形態や両面加工から尖頭器の可能性が考えられるものである。右側縁に抉入状剥離面がある。

##### 石錐

図 20-4-17 (7277) はチャート製の石錐である。両側縁を押圧剥離により抉るように先端部を細く尖らせている。



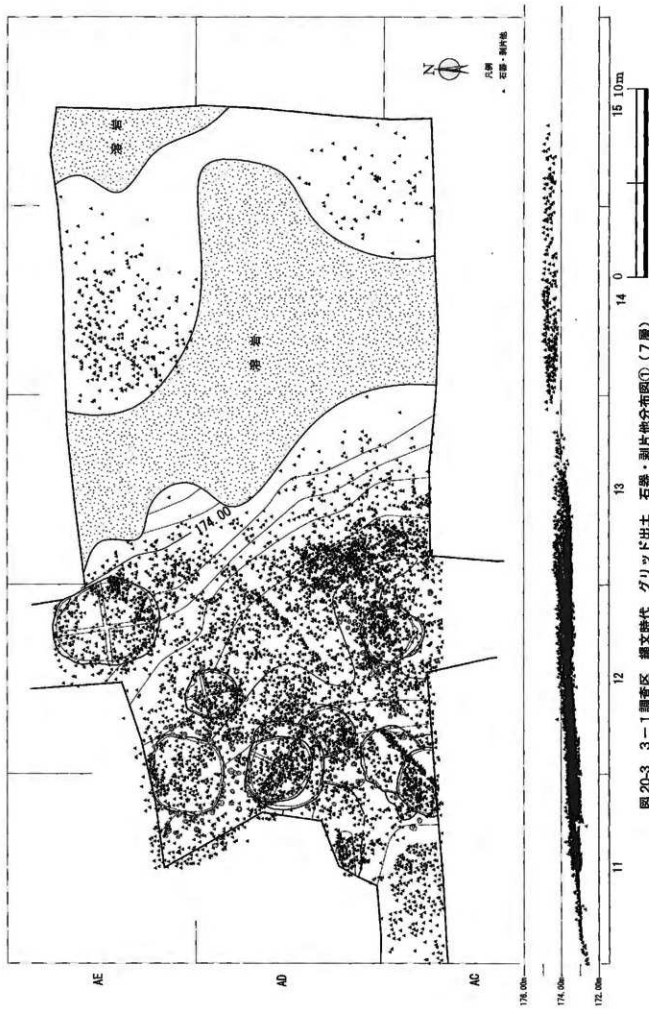


図 20-3 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・剥片他分布図①(7層)

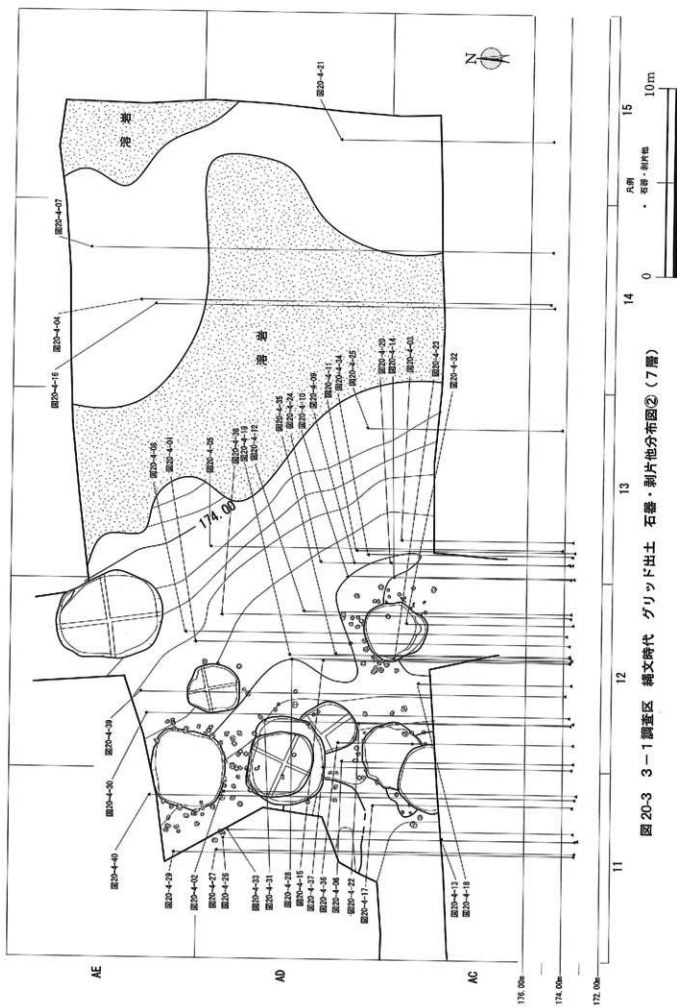


图 20-3 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・刺片他分布図② (7層)

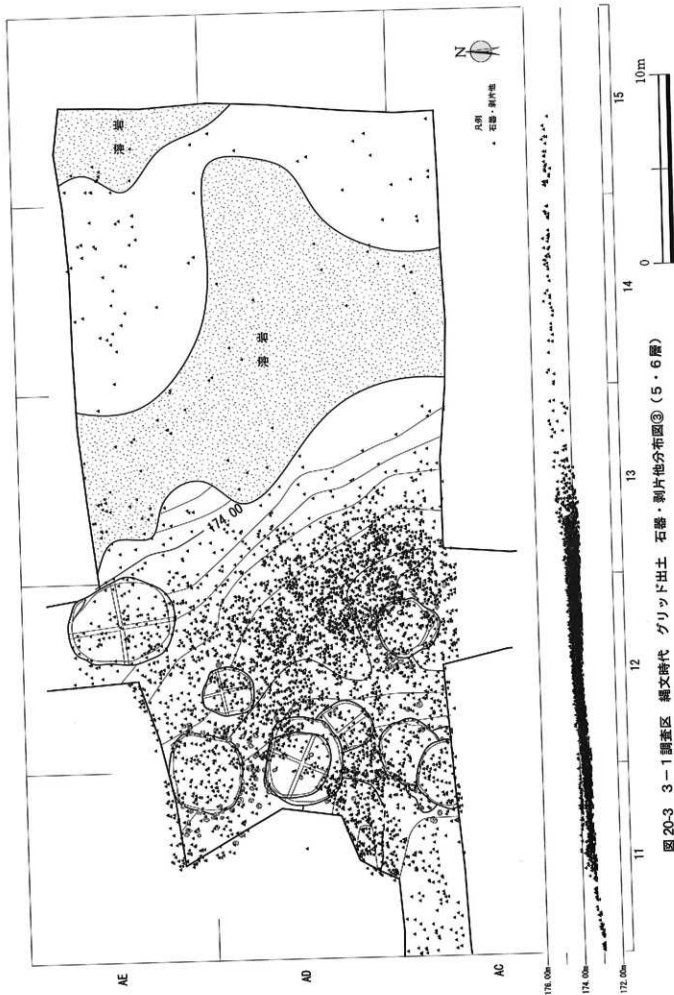


図 20-3 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・銅片他分布図③ (5・6層)

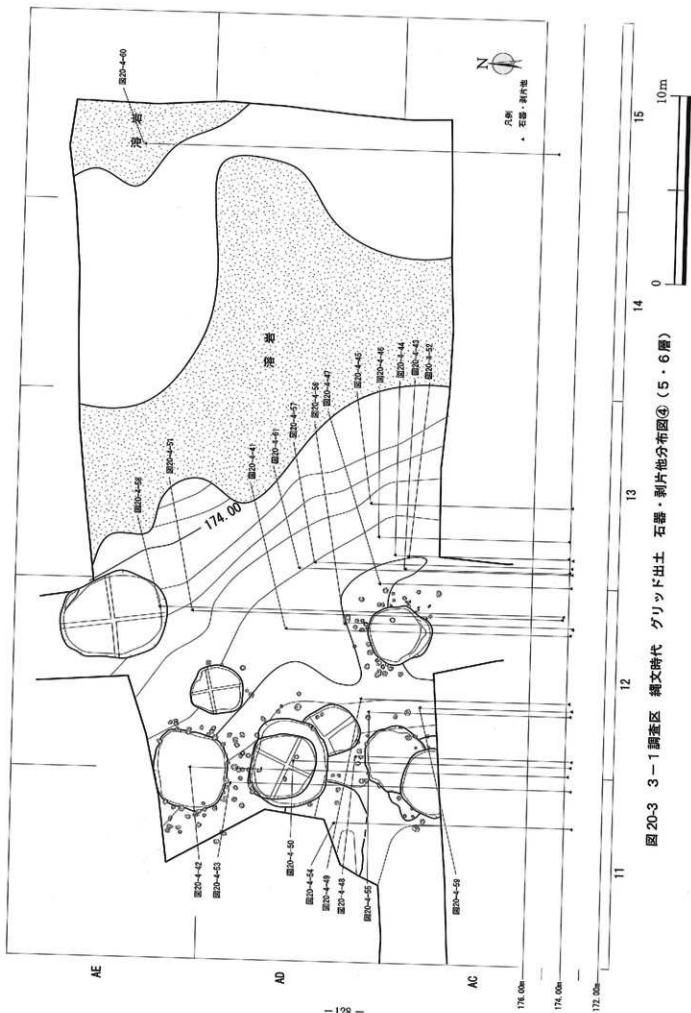


図 20-3 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・貝片地分布図④ (5・6層)

## 篋状石器

図 20-4-18 (10983) 黒曜石製の尖頭器状の平面形態を呈する篋状石器・搔器である。断面形態は厚みのある凸レンズ状を呈している。木葉形尖頭器の身上半を利用したと考えられる形態と調整加工が認められる。図 20-4-19 (7872) は黒曜石製の尖頭器から篋状石器・搔器として再利用されたものと考えられるものである。図 20-4-20 (12421) は黒曜石製の篋状石器・搔器である。素材は両面加工体で、ソフトハンマーによる直接打撃で成形されている。刃部はコンタクトエリアの小さなハードハンマーの直接打撃で急角度の片刃に成形されている。これらの石器はいずれも尖頭器からの調整加工・リダクションによって成形された石器と考えられるもので、18 (10983) は尖頭部、19 (7872)・20 (12421) は基部のリダクションと考えられる。

## 打製石斧

図 20-4-21 (17857) は砂岩製の打製石斧である。平面形態は短冊形を呈し、両側縁に刃潰しのあるものである。図 20-4-22 (8916) はホルンフェルス製の両面加工石器の未製品である。平面形態は撥形を呈し、横長剥片を素材にして、ソフトハンマーの直接打撃で平坦加工を形成している。素材の裏面側の加工で終了していることから、未製品とした。

## 敲・凹・磨石

平面・断面形態から大きく円形・楕円形・丸棒形・球形に分類することができる。図 20-4-23 (10904) は楕円形敲・磨石の複合石器、図 20-4-24 (8535)・26 (13061) は円形に近い敲・凹・磨石の複合石器、図 20-4-25 (12008) は円形の半割形敲・凹・磨石の複合石器でスタンプ形石器に似るものである。図 20-4-27 (13484)・30 (13865)・31 (10641) は丸棒形敲・凹・磨石の複合石器、図 20-4-28 (7874) は楕円形敲・凹・磨石の複合石器、図 20-4-29 (8351) は丸棒形に近い敲・凹石の複合石器である。長径の法量はいずれも約 10～12 cm を測り手に持って使用することに適したものとなっている。

以下はいずれも磨石で、図 20-4-32 (10695) は円形、図 20-4-33 (13068)・34 (9896)・36 (12233) は楕円形、図 20-4-35 (10020)・37 (9439)・38 (14184)・39 (8042) は丸棒形に近いものである。長径の法量は約 7～11 cm を測り、敲・凹・磨石の複合石器に比較してやや小形である。

## 有溝砥石（矢柄研磨器）

図 20-4-40 (14585) は砂岩製の矢柄研磨器の破片で出土時には脆弱、全体は細身の蒲鉶形で断面形態が半円形を呈し、平坦面には断面形態が半円形に近い凹みが中央に直線的にある。2号壑穴状遺構のものも含めて4地点から出土しているがいずれも小破片で、同一個体と推定される。

## 6層

### 石鏃

図 20-4-41 (6257)・42 (3439) は黒曜石製の石鏃で、41 (6257) は平面形態は基部が無基で二等辺三角形のいわゆる三角鏃である。42 (3439) は断面形態が凸レンズ状の全長が約 4.3 cm と大形形で基部が僅かに挟られる点と欠損部分を摘みとすると、両面加工石器の横形石匙の可能性のあるものである。図 20-4-43 (5184) は凝灰岩製の石鏃で平面形態は基部がやや深く挟られる凹基、側縁が外湾することから鉞形鏃に近い形態である。側縁の調整加工は鋸歯状、剥離面は規則的な四角形となる。図 20-4-44 (5105) も凝灰岩製の石鏃で平面形態は二等辺三角形の基部が深く挟られる凹基で側縁の調整加工は鋸歯状となる。図 20-4-45 (7351) は黒曜石製の石鏃で 44 (5105) と平面形態や調整加工は同様である。図 20-4-46 (6305) は小形で、平面形態が正三角形に近く基部の挟りが浅い凹基である。図 20-4-47 (6311) も平面形態はやや左右非対称な正三角形に近く基部は浅い凹基である。図 20-4-48 (4799) は平面形態が左右非対称で基部の挟りがやや深い凹基である。図 20-4-49 (4220) は平面形態が二等辺三角形で基部の挟りの深い凹基である。46～49 はホルンフェルス製で調整加工は不明瞭である。図 20-4-50 (4023) はチャー

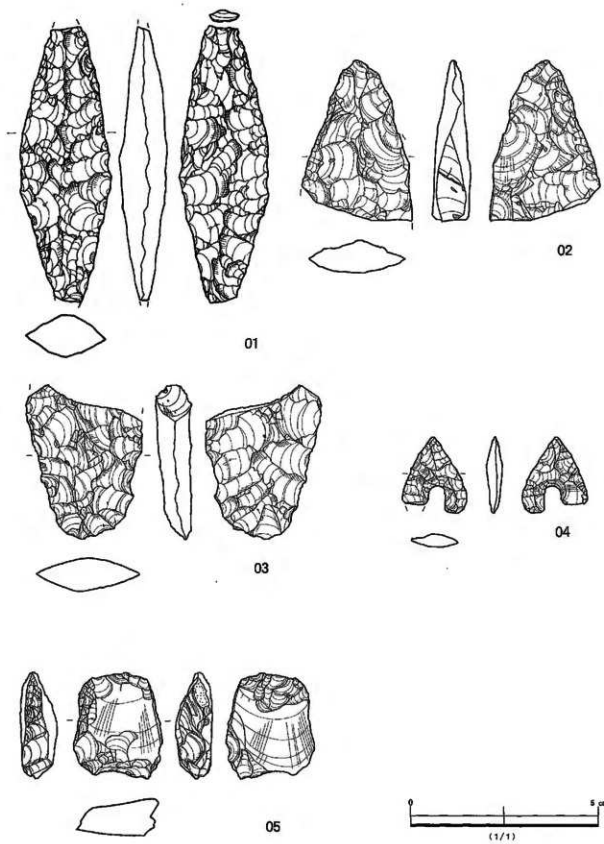


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図①

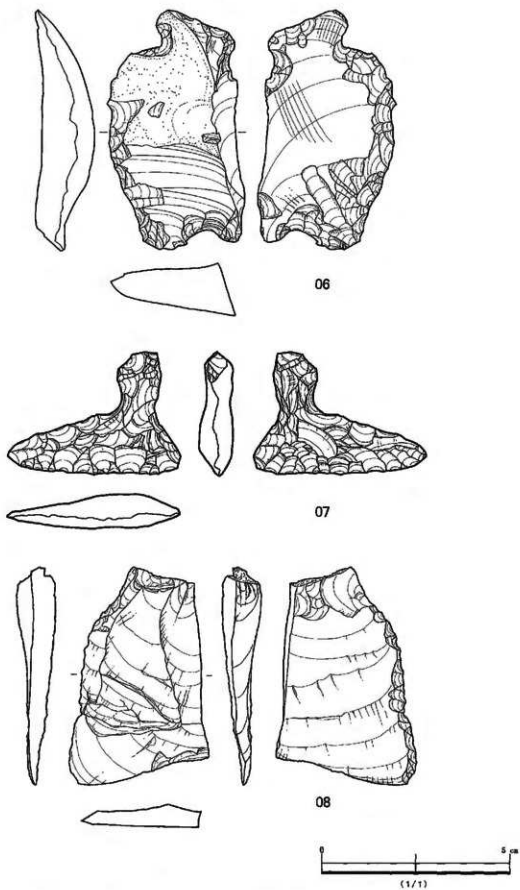
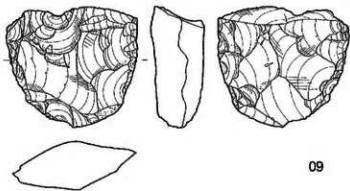
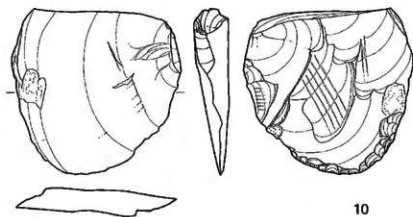


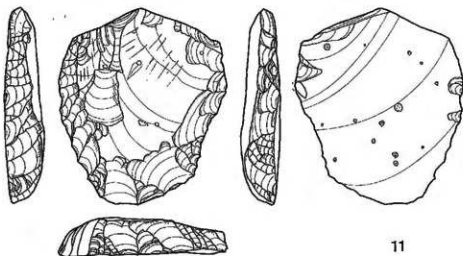
図20-4 3-1調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図②



09



10



11

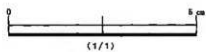


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図③



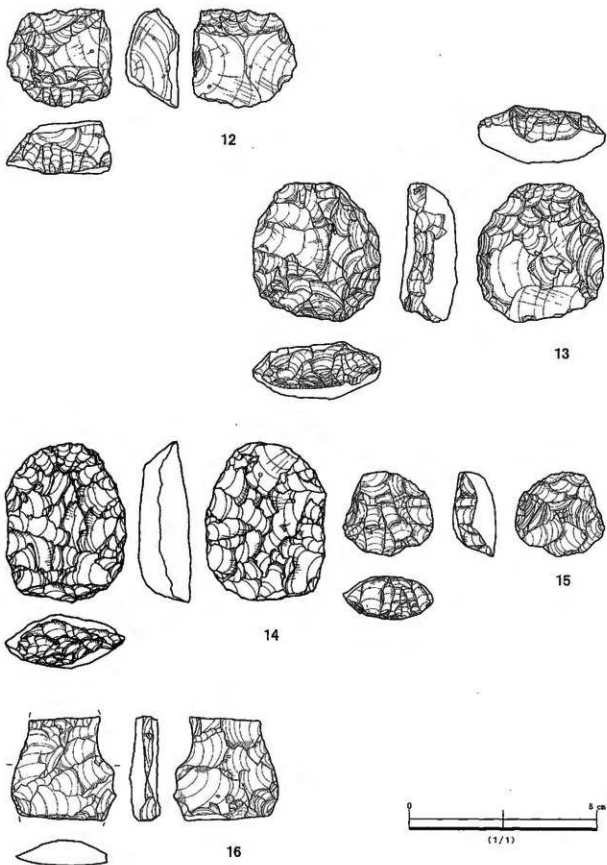
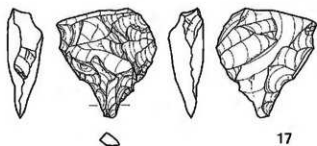
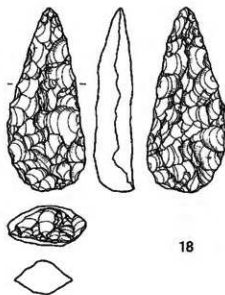


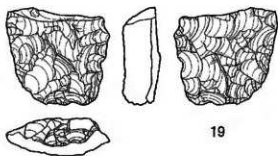
図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図④



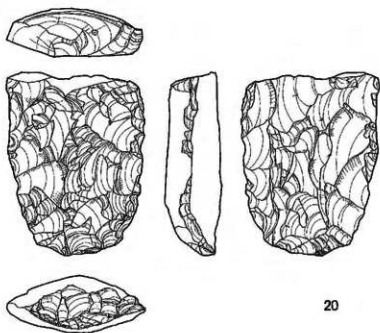
17



18



19



20

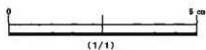


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図⑤

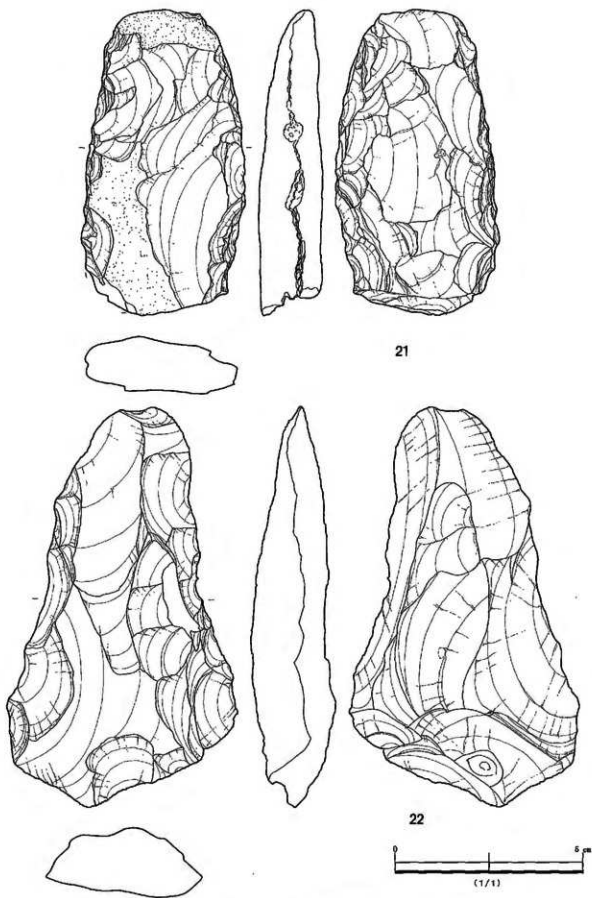


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図⑥

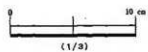
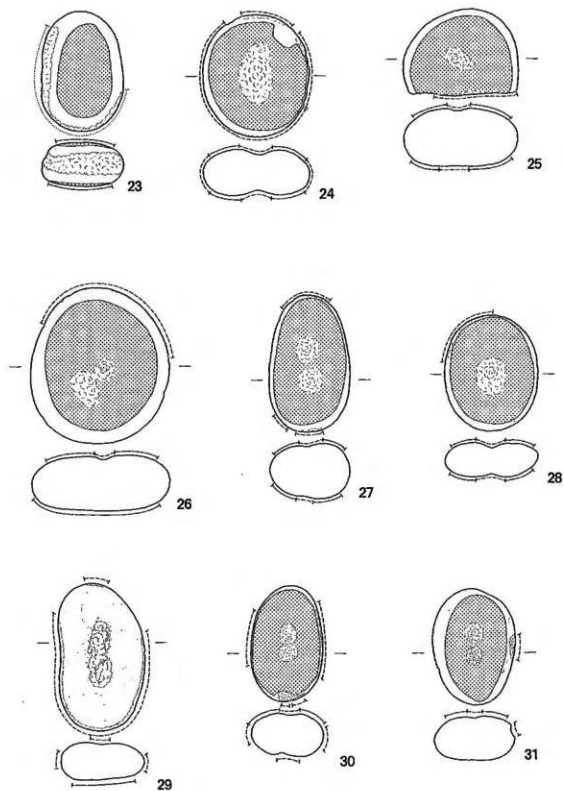


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図⑦

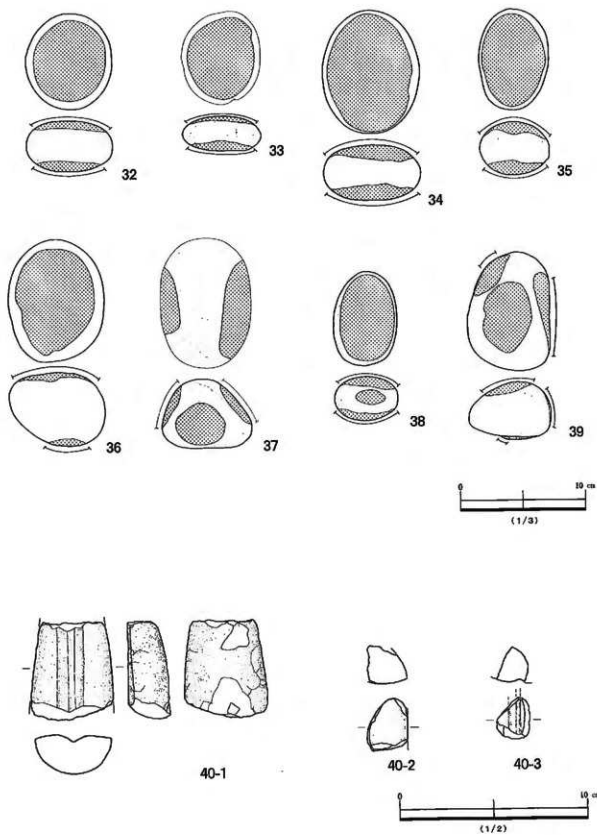


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図④

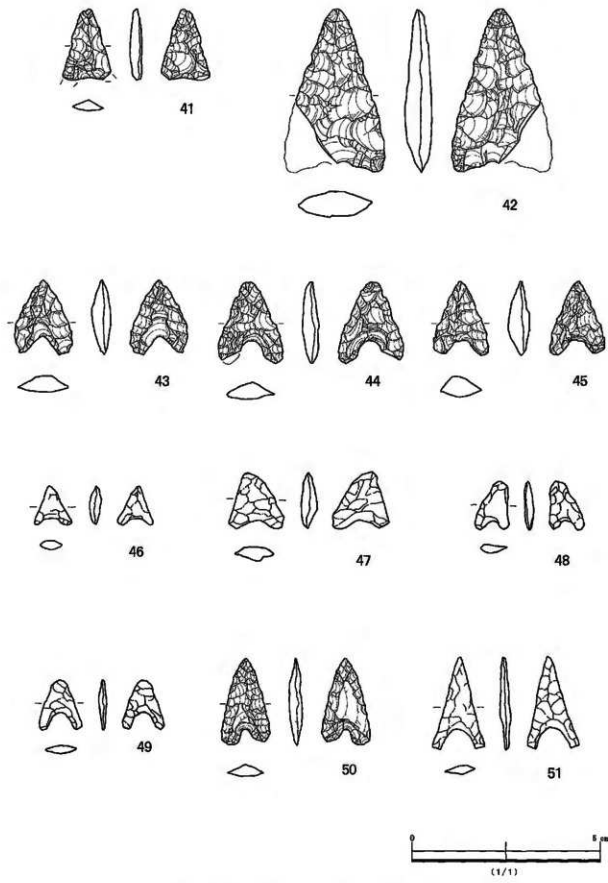
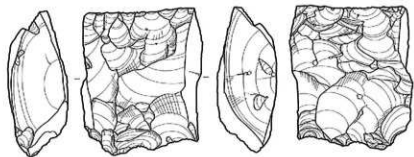
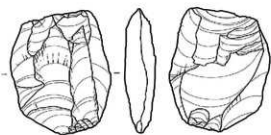


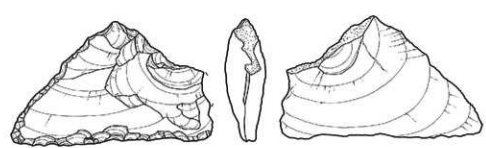
図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図⑨



52



53



54



図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図⑩

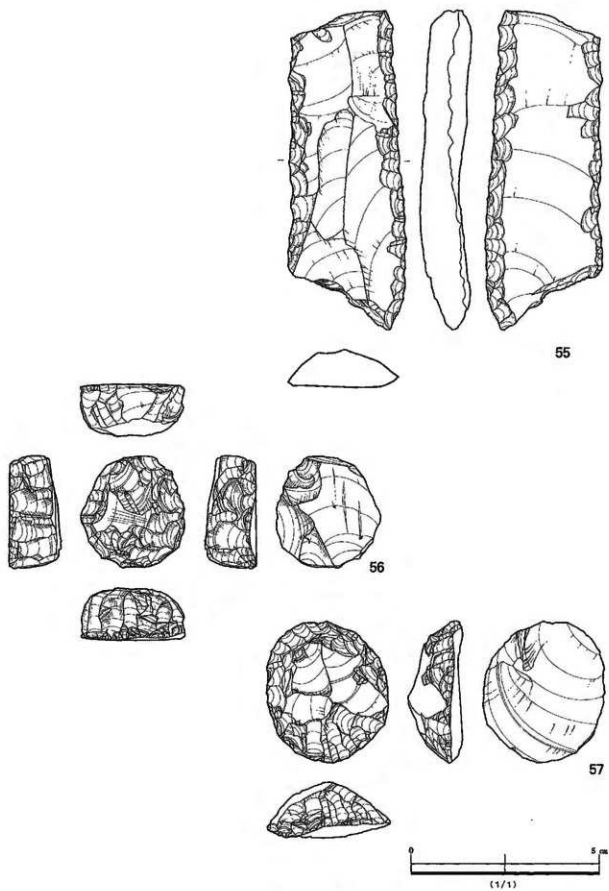
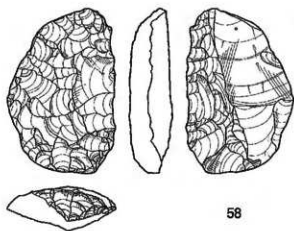
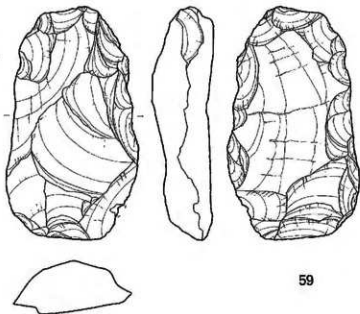


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図①





58



59

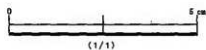


図 20-4 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図⑩

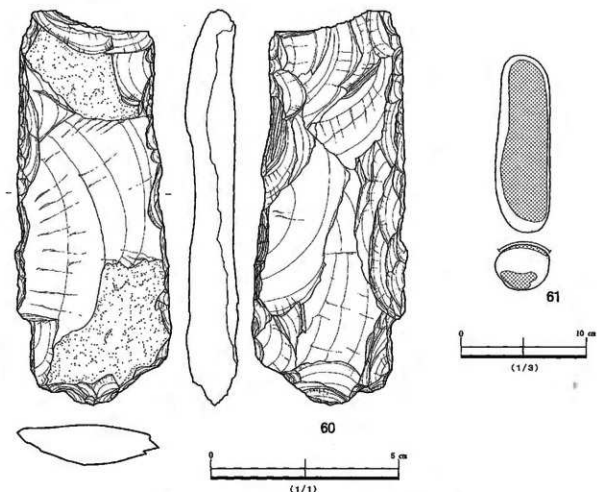


図 20-4 3-1調査区 グリッド出土 石器実測図⑬

ト製の平面形態が縦長の二等辺三角形で基部の抉りの浅い凹基である。側縁の調整加工は鋸歯状で、押圧剥離面は規則的な四角形となる。図 20-4-51 (2477) は平面形態が均整のとれた細長い二等辺三角形で基部が大きく半円形に挟られる凹基である。

#### 両極石器（楔形石器）

図 20-4-52 (7494) は黒曜石製の両面加工石器、本来は尖頭器の破損品で断面形態は凸レンズ状を呈し、1側縁はソフトハンマーの直製打撃によって直線的、1側縁は鋸歯状である。09 (8520) と接合する資料である。

図 20-4-53 (4051) は凝灰岩製の剥片素材の両極石器である。

#### スクレイパー

図 20-4-54 (7058) は凝灰岩製の鋸歯縁削器で、不定型な横長剥片素材の末端縁に急角度の押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成しているものである。図 20-4-55 (7001) は頁岩製の鋸歯縁削器で、縦長剥片の両側縁に急角度の押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成している。また素材末端縁は、叩き折りで成形加工されている。

図 20-4-56 (7575) は黒曜石製の平面形態が円形の搔器で、素材は分厚い剥片を用いて、刃部は縁辺をこするような直接打撃によって成形、刃先角は直角に近く、刃部再生の頻度が高いと推定される。図 20-4-57 (6751) はチャート製の平面形態が円形の搔器で、貝殻状の厚い剥片素材を用いて、刃部は縁辺をこするような直接打撃によって成形される。基部は押圧剥離で成形されている。

図 20-4-58 (2603) は黒曜石製の両面加工石器・搔器で、両面加工体素材の篋状石器を挟み撃ちにして成形されたものである。

#### 打製石斧

図 20-4-59 (5209) は頁岩製の礫器で平面形態が短冊状を呈していることから、石斧としての機能が考えられるものである。図 20-4-60 (2010) も頁岩製の打製石斧で、平面形態が短冊形を呈し、両側縁に直接打撃の刃潰し加工のある典型的な打製石斧である。

#### 磨石

図 20-4-61 (6773) は丸棒状の極めて点数が少ない形態の磨石である。

### 3-2A・B調査区

本調査区は3-1調査区から南側にトレンチ状にのびる調査区である。標高は173.5 m前後の平坦な地形である。

本調査区からは遺物が合計1822点、7層からは計986点、そのうち土器が136点、石器・礫・剥片他が850点、6層からは計836点、そのうち土器が47点、石器・礫・剥片他が789点出土した。

#### グリッド

#### 土器

#### 縄文時代草創期

#### 隆縁文土器

図21-2-01 (18926)・02 (12474)は隆縁文土器の口縁部片で、ほぼ直線的に立ち上がり口唇部を丸く仕上げている。外面は2条の幅3mmの細隆起線文が直線・波状に横位に施文される。隆縁文上には爪状のキザミが押圧される。内面は条痕状調整が施される。硬質で器面には光沢があり色調は暗褐色、胎土は雲母・砂粒が含まれ、器厚は7~8mmである。01と02は同一個体であるが接合せず、開きの傾きがやや異なる。

#### 押圧縄文土器

図21-2-03 (12051)は押圧縄文土器の口縁部片で、ほぼ直線的にやや開いて立ち上がり口唇部にヘラ状具によるキザミが施文される。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた絡条体で横位の押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗茶褐色、胎土に金雲母が多く他に砂粒を含み、器厚は6~9mmである。図21-2-04 (9024)は押圧縄文土器の胴部片で、ほぼ直線的にやや開いて立ち上がる。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた絡条体で斜位の羽状に押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗茶褐色、胎土に雲母に粒の大きな砂粒を含み、器厚は6~8mmである。図21-2-05 (19906)は押圧縄文土器の胴部片で、ほぼ直線的にやや開いて立ち上がる。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた絡条体で横~斜位の押圧縄文を2施文帯に施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は茶褐色、胎土に金雲母が多く他に砂粒を含み、器厚は8~10mmである。図21-2-06 (9236)は押圧縄文土器の胴部片で、ほぼ直線的にやや開いて立ち上がる。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔やや広く左巻き付けた絡条体で横位の押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。粘土接合による小さな段差がある。接合色調は橙褐色、胎土に金雲母が多く他に砂粒を含み、器厚は5~6mmである。図21-2-07 (19893)は押圧縄文土器の胴部片で、内湾気味にやや開いて立ち上がる。外面の施文原体は直線的なやや太い1段の縄Rを間隔広く左巻き付けた絡条体で横位の押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ・条線状調整が施される。色調は淡茶褐色、胎土に雲母に粒の大きな砂粒や獣毛状繊維を含み、器厚は8~9mmである。図21-2-08 (19882)は押圧縄文土器の尖底部片で、丸みのある尖底から内湾気味に開いて立ち上がる。小形品と思われる。外面の施文原体は直線的な1段の縄Lを間隔やや広く左巻き付けた絡条体で多方向の押圧縄文を施文、内面は丁寧な指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗褐色、胎土に金雲母を多く含み、器厚は5~11mmである。

#### 無文土器・沈線文土器

図21-2-09 (8892)は無文土器の口縁部片で、直線的にやや開いて立ち上がる。内面は指頭痕にナデ調整が施される。硬質で色調は淡暗褐色、胎土は粒の大きな砂粒、器厚は7~11mmである。

#### 縄文時代早期

#### 条痕文系土器

図21-2-10 (5588)・11 (18416)・12 (18416)・13 (19871)・14 (19915)・16 (2361)は外面が無文、

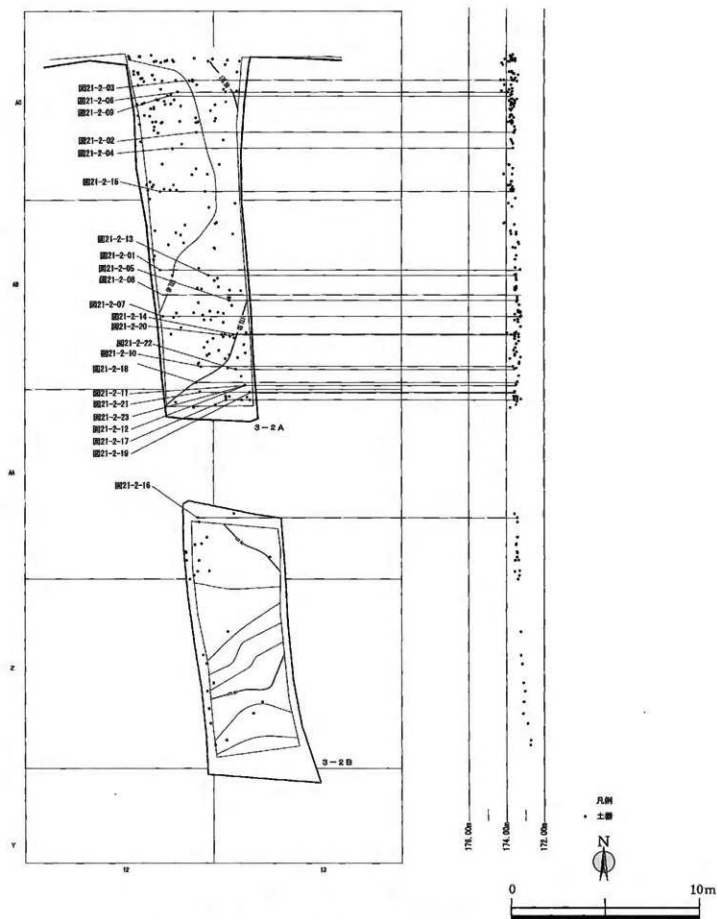


図 21-1 3-2 A・B調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図

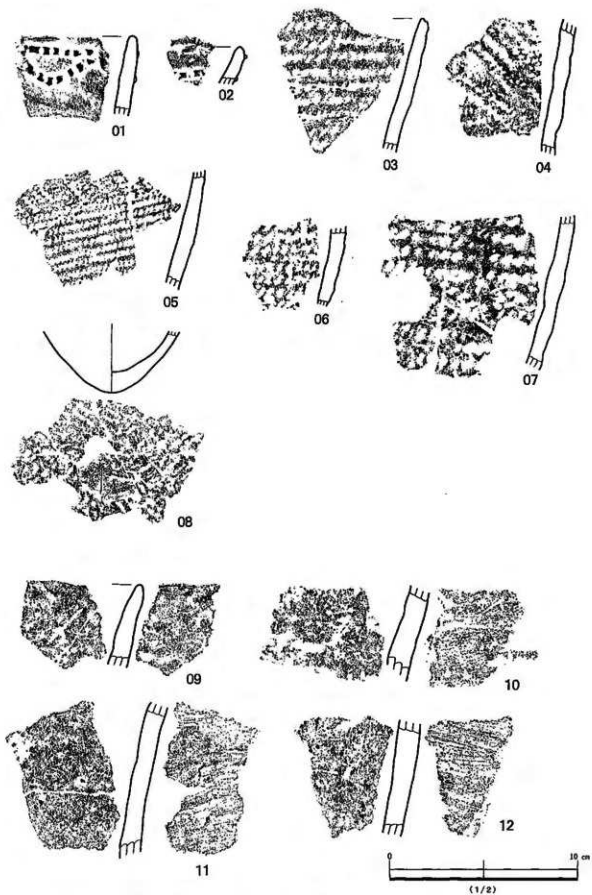


図 21-2 3-2A調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図①

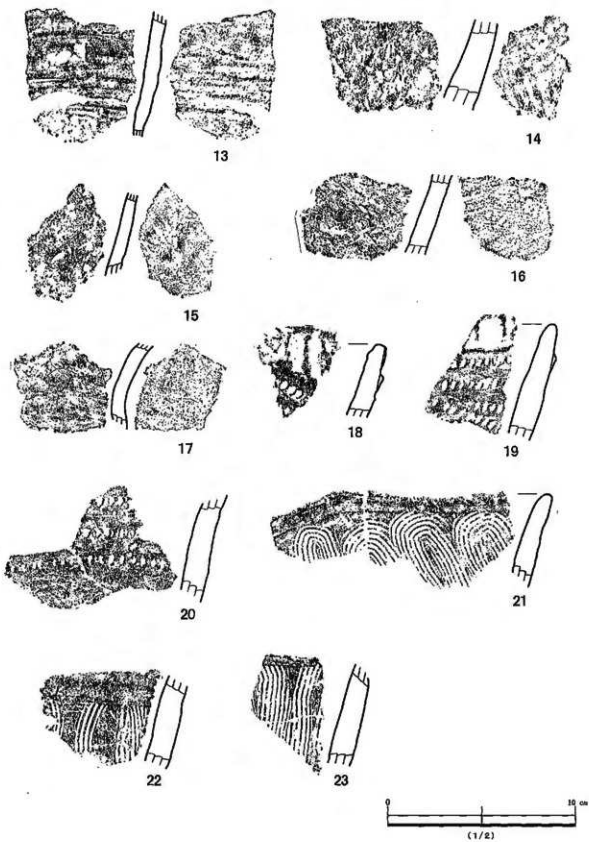


図 21-2 3-2A調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図②

内面が条痕文調整される胴部片である。10は色調が暗褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は12mmである。11は外面が丁寧な調整がされている。色調が暗褐色、胎土は雲母に粒の大きな砂粒や繊維を含み、器厚は11mmである。12も外面が丁寧な調整がされている。硬質で色調が暗褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は12mmである。13は外面に条痕文調整がされる。色調が淡褐色、胎土は砂粒を含み、器厚は12mmである。14は胴部下半の底部に近い破片で、色調が暗褐色、胎土は金雲母を多く他に砂粒・繊維を含み、器厚は12～18mmである。16は外面が丁寧な調整がされている。色調が暗褐色、胎土は雲母・砂粒に繊維が目立って含まれ、器厚は10mmである。

図21-2-15(9113)・17(6407)は内外面ともに無文で硬質である。15は胴部片で内面は指頭痕にヨコナデ調整される。色調が暗褐色、胎土は金雲母が多く他に砂粒を含み、器厚は6mmである。17は胴部片で外面は光沢があり丁寧な調整がされている。色調が茶褐色、胎土は砂粒・繊維を含み、器厚は7mmである。

図21-2-18(18407)・19(18415)・20(6401)は内面が条痕文調整、外面に文様が施文される。18・19はともに口縁部でやや開いて立ち上がり口唇部を丸く仕上げている。外面は縦と横位に細い粘土紐の隆帯が貼り付けられ、横位の絡条体疋痕文が施文される。18は色調が暗褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は11mmである。19は色調が橙褐色、胎土は雲母に粒の大きな砂粒や繊維を含み、器厚は12mmである。20は胴部片で横位の絡条体疋痕文が3条施文される。色調が暗褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は12mmである。これらは清水柳E類土器である。

図21-2-21(5472)・22(6061)・23(18416)は内面が条痕文調整、外面に櫛状沈線文が施文される。21はほぼ直線的にやや開いて立ち上がり口唇部を丸く仕上げ、緩やかな波頂を有する器形の口縁部である。外面は連続した多重孤文が施文される特徴的なものである。色調は褐色、胎土は雲母に粒の大きな砂粒や繊維を含み、器厚は13mmである。22・23はともに胴部片で、色調が暗褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は11mmである。

## 石器

### 7層

#### 尖頭器

図21-4-01(12092)は黒曜石製の尖頭器で身下半が残存する。平面形態は木葉形、断面形態は凸レンズ状を呈する。現存長は4.9cmで大形の可能性がある。厚さは1.4cmとやや厚手である。調整加工は両面、側縁はソフトハンマーの直接打撃と間接打撃で成形されている。背面の規則正しい剥離面が間接打撃と推定される。図21-4-02(18904)は黒曜石製の尖頭器で基部のみ残存する。平面形態は不詳、断面形態は凸レンズ状を呈する。両面調整加工で、側縁はソフトハンマーの直接打撃で成形されている。

#### 石鏃

図21-4-03(9204)・04(9014)はともにホルンフェルス製の石鏃の完形品である。ともに平面形態が左右非対象の二等辺三角形で基部に抉りのある凹基である。

#### 筈状石器

図21-4-05(8197)は玉髄質の珪質頁岩製の筈状石器・搔器である。調整加工は縦長剥片素材の末端に、ソフトハンマーで刃部を形成している。図21-4-06(8855)は黒曜石製の筈状石器である。平面形態から尖頭器に身上半の基部に刃部を成形、断面形態は凸レンズ状を呈している。調整加工は両面、側縁はソフトハンマーによる剥離調整、刃部は角度のある押圧剥離で成形されている。

#### 敲・凹・磨石

図21-4-07(18343)は細礫岩製の平面形態が円形の敲・磨石の複合石器である。両面に磨り面、表面に円形な敲痕が残されている。図21-4-08(8935)は中粒砂岩製の平面形態が円形の凹・磨石の複合石



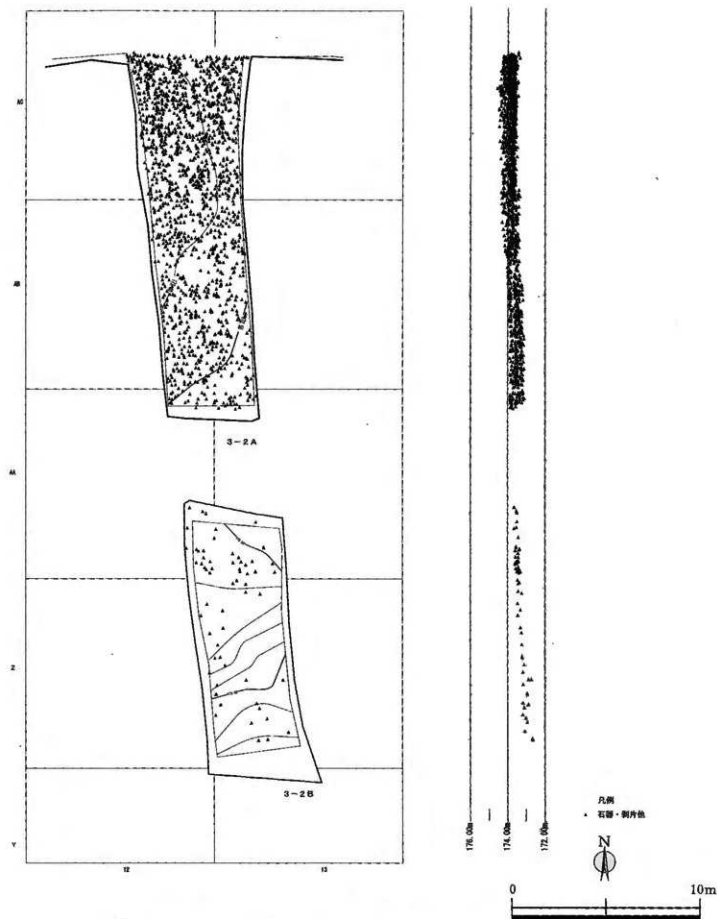


図 21-3 3-2A・B調査区 縄文時代・グリッド出土 石器・剥片他分布図①

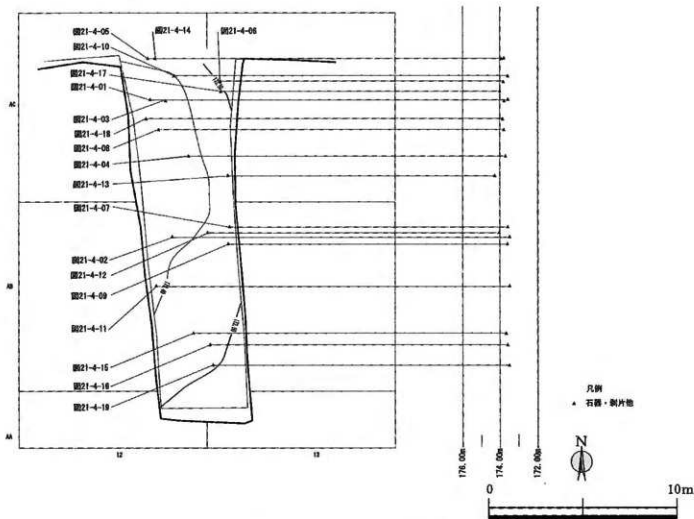


図 21-3 3-2A調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・製片他分布図②

器である。両面に凹痕が残されている。図 21-4-09 (18918)・10 (12050) は平面形態が楕円形の敲・凹・磨石の複合石器である。09 は閃緑岩製、10 は細粒斑輝岩製である。ともに両面に磨り面と凹痕が残されている。図 21-4-11 (18371) は粗粒砂岩製の平面形態が不整な楕円形の敲・磨石の複合石器である。

#### 6 層

##### 石鏃

図 21-4-13 (3725) は黒曜石製の石鏃の完形品である。平面形態が正三角形で縁りが深い凹基で鉄形鏃に近い形態である。調整加工は、押圧剥離はコンタクトエリアの小さなハードハンマーによる。

##### 石匙

図 21-4-14 (3803) は頁岩製で裏面を素材面とする片面調整加工の横形石匙である。調整加工はやや不鮮明であるが刃部は鋸歯状に形成される。

##### スクレイパー

図 21-4-12 (2876) は黒曜石製の両面加工石器で、平面形態が尖頭器の先頭部、断面形態は凸レンズ状を呈している。調整加工はソフトハンマーの直接打撃と押圧剥離で成形されている。稜線に摩耗が観察でき使用痕とも推定される。横形石匙の可能性がある。

図 21-4-15 (5585) は黒曜石製の掘器である。平面形態が円形に近く、断面形態は凸レンズ状を呈している。

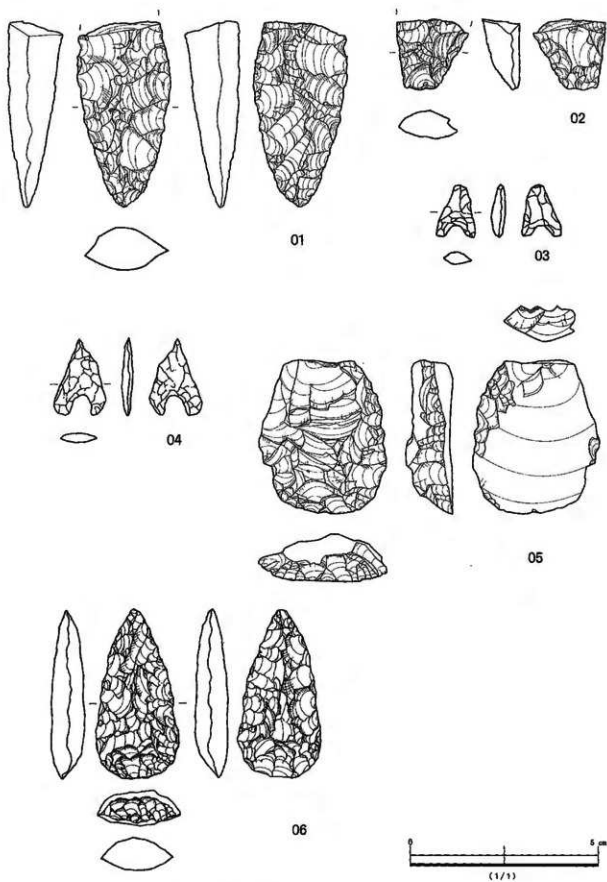


図 21-4 3-2A調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図①

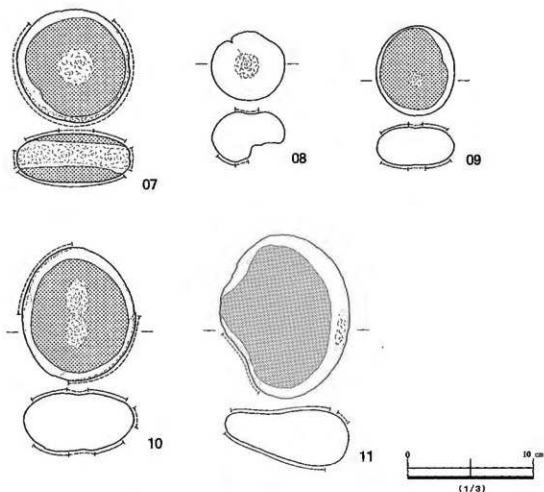
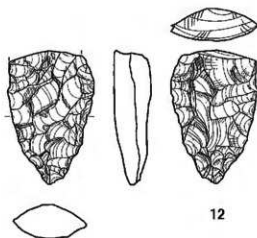


図 21-4 3-2 A 調査区 グリッド出土 石器実測図②

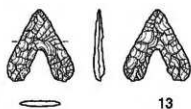
素材は両面加工体で、両面加工体と搔器の成形加工は、ソフトハンマーによる直接打撃で成形されている。刃部はコンタクトエリアの小さなハードハンマーの直接打撃で急角度の片刃に成形されている。刃部側に小さな抉りをいれて小突起が形成されている。

#### 敲・凹・磨石

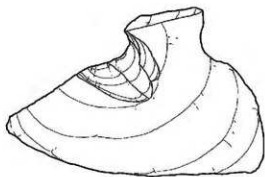
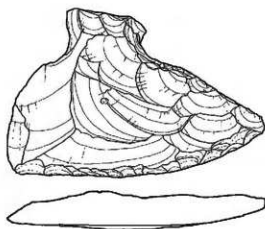
図 21-4-16 (6090)・18 (3617) はともに中粒砂岩製で平面形態が楕円形の敲・凹・磨石の複合石器である。16 は両面、18 は表面のみに凹痕が残される。図 21-4-17 (4149) は細粒砂岩製の隅丸三角形に近い敲・凹・磨石の複合石器である。両面に凹痕が残される。図 21-4-19 (6053) はアブライト製の楕円形の敲・磨石の複合石器である。



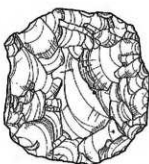
12



13



14



15

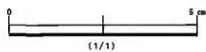


図 21-4 3-2A調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図③

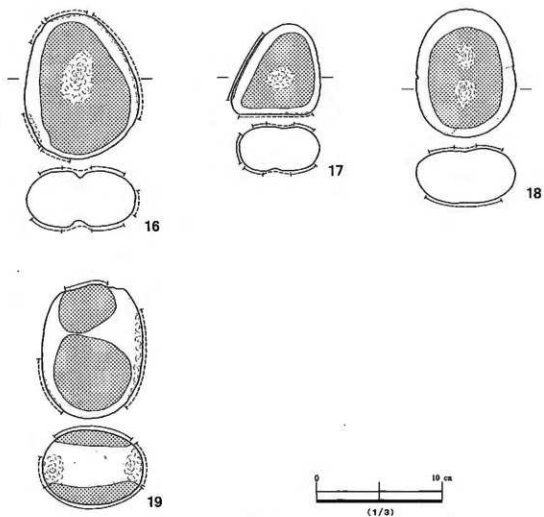


図 21-4 3-2 A 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図④

### 3-3A調査区

本調査区は3-1調査区北側に平行して長さ約26m、幅約4mの細長い形状である。3-1調査区で検出した熔岩帯が本調査区の約1/2を占めている。標高は東に向かって徐々に高くなる緩斜面で174.6～175.1を測る。

本調査区からは遺物が合計153点、7層からは計39点、その内土器は7点、石器・礫・剥片他は32点、6層からは計114点、その内土器は43点、石器・礫・剥片他は71点が出土した。

縄文時代

グリッド

土器

縄文時代早期

押型文土器

図22-2-01(11333)は押型文土器の胴部片でやや開いて立ち上がる。外面は横位の山形押型文が上位に丁寧に施文され、下位は無文となる。内面は丁寧なヨコナデ調整が施される。色調は淡茶褐色、胎土は細かな金雲母・繊維を含み、器厚は5mmである。図22-2-02(16380)は押型文土器の胴部片でやや開いて立ち上がる。外面は横・縦位の山形押型文が上位に施文された後にナデ調整が施され、下位は無文となる。色調は淡褐色、胎土は雲母・砂粒を含み、器厚は6mmである。

条痕文土器

図22-2-03(11327)は胴部片で、外面は丸棒状具による斜位の沈線文による区画文内に斜位方向の連続する刺突文が充填される。内面はナデ調整が施される。色調は淡褐色、胎土は金雲母・砂粒・繊維が含まれ、器厚は10～12mmである。図22-2-04(13230)・05(16400)・06(11341)・07(16401)はいずれも段を有する胴部片で、外面は条痕文調整に櫛がけの幅広の沈線文、円形刺突文に連続刺突文が施文される。内面は顕著な条痕文調整が施される。色調は暗橙褐色、胎土は金雲母・砂粒・繊維が含まれ、器厚は8～13mmである。鶴ヶ島台式に平行するものである。

図22-2-08(13227)は内外面に条痕文調整される胴部片である。色調は暗褐色、胎土は雲母・砂粒・

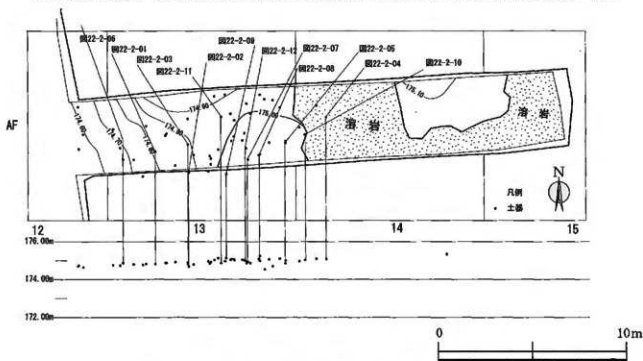


図22-1 3-3A調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図

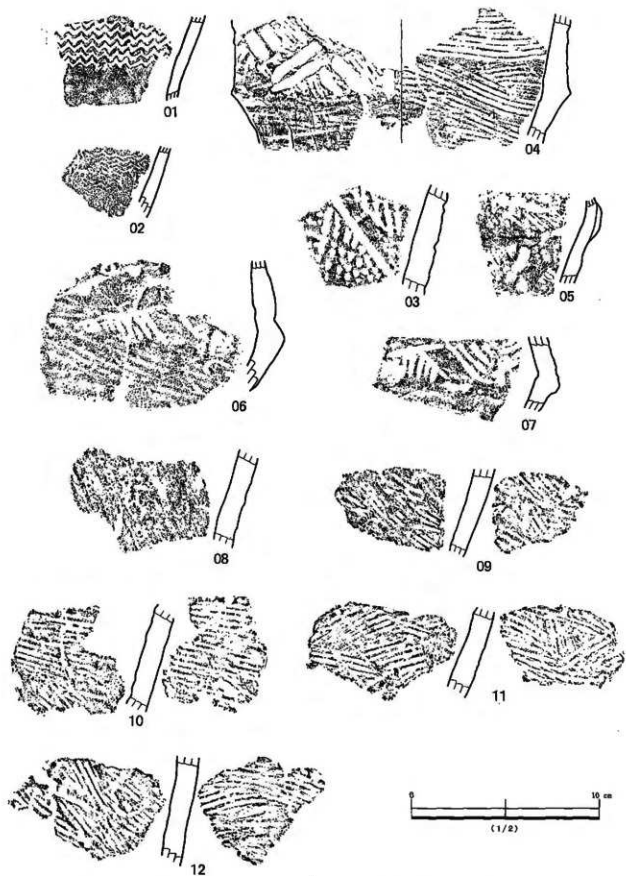


図 22-2 3-3A調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図



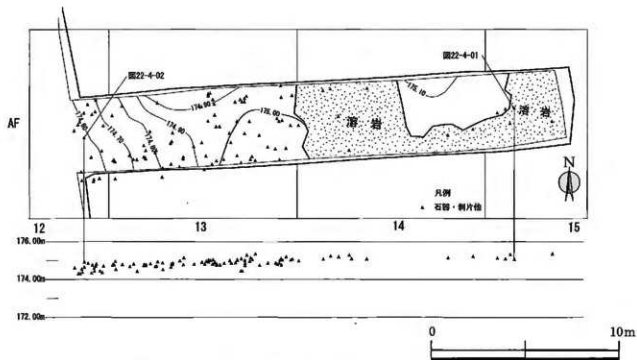


図 22-3 3-3A調査区 縄文時代 グリッド出土 石器・剥片他分布図

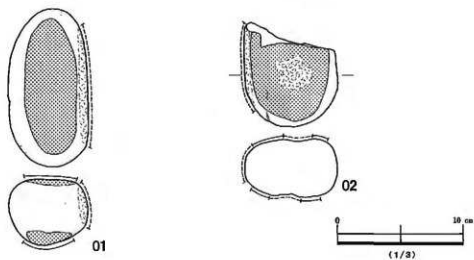


図 22-4 3-3A調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図

繊維が多く含まれ目立つ、器厚は10mmである。

図 22-2-09 (13281)・10 (11292)・11 (13214)・12 (13226) は内外面に条痕文調整される胴部片で接合しない同一個体である。11 では条痕文の方向を変えて幾何学文様や 09 では条痕文にミガキ状の調整が施される。色調は器面に光沢があり橙色、胎土は雲母・砂粒・繊維が含まれ、器厚は10～12mmである。

#### 石器

##### 敲・凹・磨石

図 22-4-01 (11357) は6層から出土した細礫岩製の敲・磨石の複合石器で、平面形態が丸棒状を呈し、表裏面を磨り面、側面を敲面としている。22-4-02 (11346) は6層から出土した粗粒砂岩製の敲・凹・磨石の複合石器で、平面形態が楕円形を呈し、表裏面を磨・凹面、側面を敲面としている。

### 3-3 C調査区

本調査区は3-1調査区から東へ約40mの標高178.5mに位置している。調査区の中央には埋没谷があり谷に向かって地形が傾斜している。その西側の急傾斜面を竪穴状遺構の壁として利用するように10号竪穴状遺構が所在する。

本調査区からは遺物が合計2701点、7層からは計1851点、そのうち土器は73点、石器・礫・剥片他が1778点、6層からは850点、そのうち土器は26点、石器・礫・剥片他が824点出土した。遺物のなかで土器の占める割合が7層では2.7%と極めて低い。また石器・礫・剥片の石材として黒曜石が圧倒的に多いことが特徴的である。

#### 縄文時代草創期

##### 10号竪穴状遺構 (SB3010)

図示した土器は陸線文土器、押圧縄文土器、無文土器の18点、石器は有舌尖頭器、石鏃、スクレイパー類、磨石・敲石類、石皿等の25点である。

#### 土器

##### 陸線文土器

図23-2-01 (19429)は陸線文土器の口縁部片でやや開いて立ち上がり口唇部を丸く仕上げている。外面は口唇部に沿って横位に幅約6mmの陸線文が貼り付けられ、陸線文上を上下交互に連続押圧による押し潰しによって鋸歯状に施文される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒を含み、器厚は6~9mmである。図23-2-02 (18772)は陸線文土器の口縁部片でやや開いて立ち上がり口唇部を細く丸めて仕上げている。外面は口唇部に沿って横位に幅約6mmの陸線文が貼り付けられ、陸線文上を爪状具によって上下交互に連続押圧による押し潰しと斜位にも幅約4mmの同様の陸線文が施文される。内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒を含み、器厚は5~8mmである。図23-2-03 (20130)は陸線文土器の胴部片で僅かに開いて立ち上がる。外面は口唇部に沿って横位に幅約6mmの陸線文が貼り付けられ、陸線文上を連続押圧による押し潰しが施文される。内面は丁寧なナデ調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒を含み、器厚は8mmである。

図23-2-04 (23702)は微陸線文土器の口縁部片でやや開いて立ち上がり口唇部をやや扁平に丸めて仕上げ、口唇部に連続的に押圧されている。外面は口唇部に沿って横位に幅約5mmの3条の陸線文が貼り付けられ、陸線文上を上下交互に連続押圧による押し潰しによって鋸歯状に施文される。さらにその下位に4条の横位の微陸線文が施文される。胎土に砂粒を含み、器厚は5~7mmである。図23-2-05 (17514)は微陸線文土器の口縁部片でやや開いて立ち上がり口唇部をやや扁平に仕上げ、口唇部に連続的に押圧されている。外面は口唇部に沿って横位に幅約5mmの1条の陸線文が貼り付けられ、陸線文上を上下交互に連続押圧による押し潰しによって鋸歯状、下位に7条の横位の微陸線文、さらにその下位に縦位に2条1対の微陸線文が施文される。内面は指頭痕に丁寧なヨコナデ調整が施される。胎土に砂粒・繊維を含み、器厚は4~6mmの薄手である。図23-2-06 (19453)は微陸線文土器の口縁部片でやや開いて立ち上がり口唇部をやや扁平に丸めて仕上げ、口唇部が押圧されている。外面は口唇部に沿って横位に幅約5mmの3条の陸線文が貼り付けられ、陸線文上を上下交互に連続押圧による押し潰しによって鋸歯状に施文される。胎土に砂粒を含み、器厚は5~7mmである。図23-2-07 (17128)は微陸線文土器の胴部片で開いて直線的に立ち上がる。外面は横位に幅約5mmの3条の陸線文が貼り付けられ、陸線文上を上下交互に連続押圧による押し潰しによって鋸歯状に施文される。内面は指頭痕に丁寧なナデ調整が施される。胎土に砂粒を含み、器厚は5~6mmである。図23-2-08 (20290)は微陸線文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は横位に幅約1mmの8条の微陸線文が平行、その下位に2条1対の縦位の微陸線文が上下交互に施文される。内面はヨコナデ調整が施される。胎土に砂粒を含み、器厚

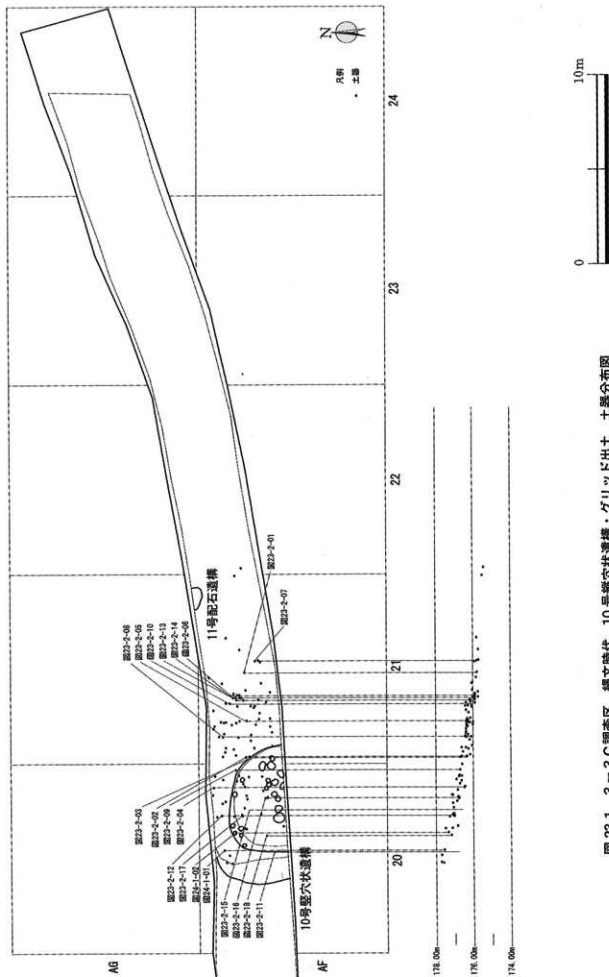


図 23-1 3-3C調査区 縄文時代 10号竪穴遺構・グリッド出土 土器分布図

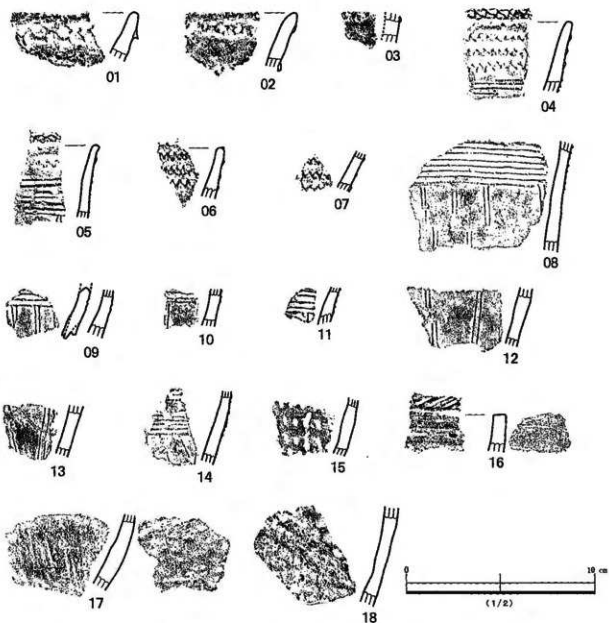


図 23-2 3-3C調査区 縄文時代草創期 10号壑穴状遺構出土 土器拓影・実測図

は5～7mmである。図23-2-09 (17933)は微隆線文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は横位に幅約1mmの4条の微隆線文が平行、その下位に2条1対の縦位の微隆起線文が施文される。内面はヨコナデ調整が施される。胎土に砂粒を含み、器厚は5～7mmである。割れ口に輪積痕の接合部が明瞭に残されている。図23-2-10 (20823)は微隆線文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は横位に幅約1mmの3条の微隆線文が平行、その下位に2条の縦位の微隆起線文が施文される。内面は丁寧なナデ調整が施される。胎土に砂粒を含み、器厚は6mmである。図23-2-11 (21504)は微隆線文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は横位に幅約1mmの5条の微隆線文が平行、その下位に2条1対の縦位の微隆起線文が施文される。内面は丁寧なナデ調整が施される。胎土に砂粒を含み、器厚は5～6mmである。図23-2-12 (17468)は微隆線文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は2条1対の縦位の微隆起線文が2単位施文される。内面はナデ調整が施される。胎土に砂粒を含み、器厚は6～7mmである。図23-2-13 (19448・19449)は微隆線文土器の胴部片でやや開い

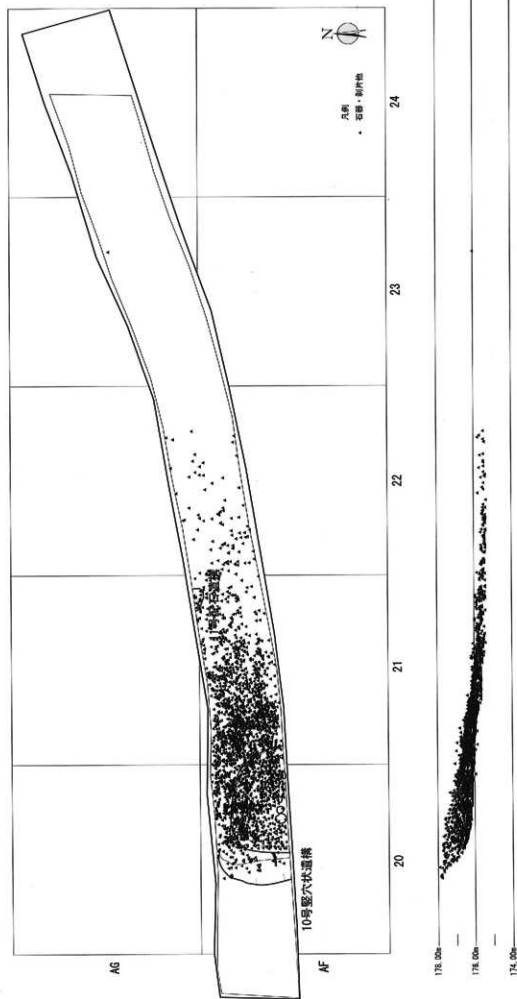


図 23-3 3-3 C調査区 縄文時代 10号竪穴状遺構・グリッド出土 石器・剥片他分布図①

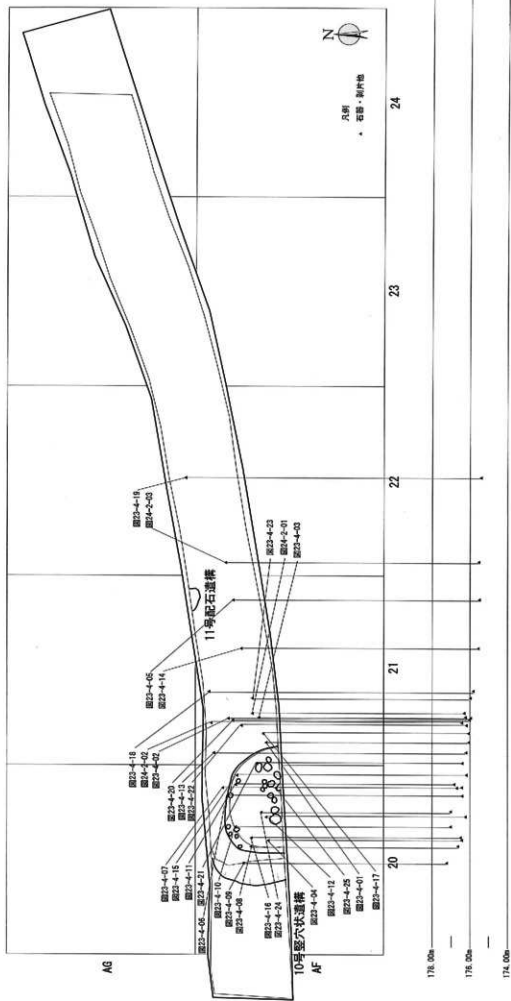


図 23-3 3-C調査区 縄文時代 10号竪穴状遺構・グリッド出土 石器・剥片分布図②

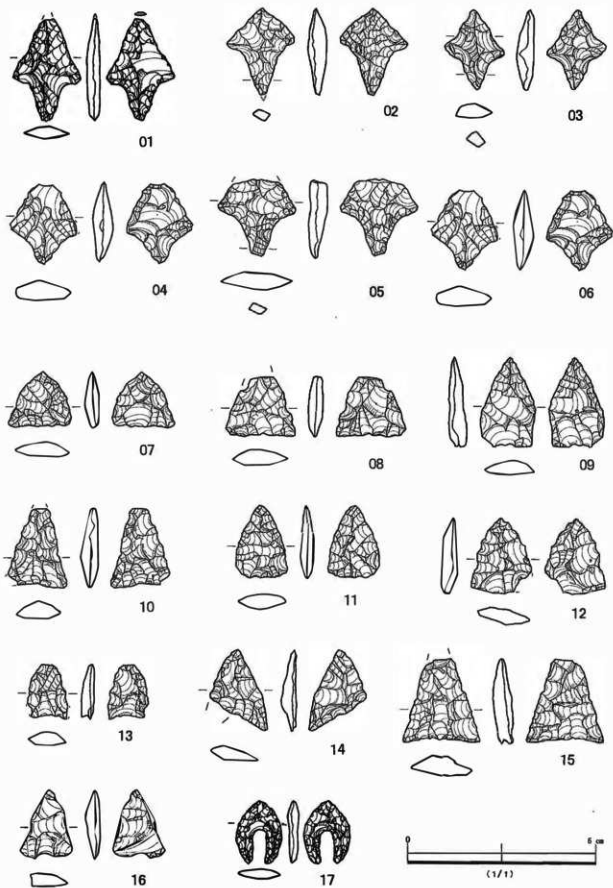


图 23-4 3-3 C 調査区 縄文時代草創期 10号壑穴状遺構出土 石器実測図①

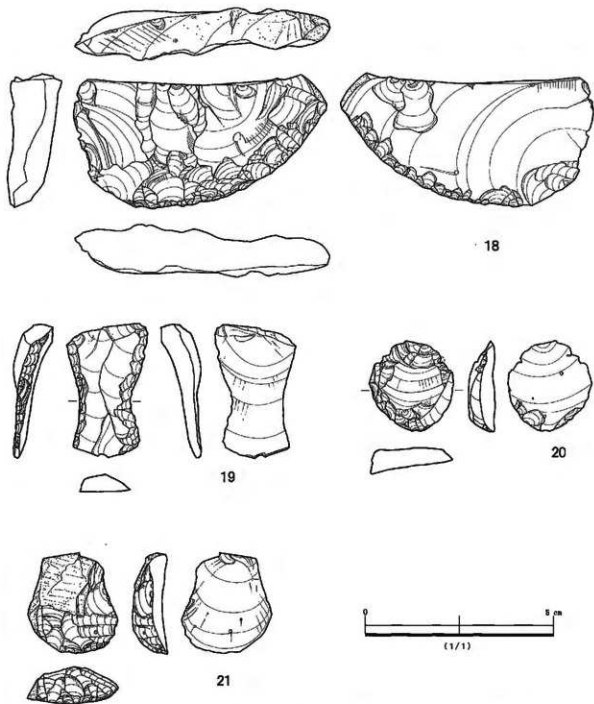


图 23-4 3-3C 調査区 縄文時代草創期 10号竪穴状遺構出土 石器実測図②



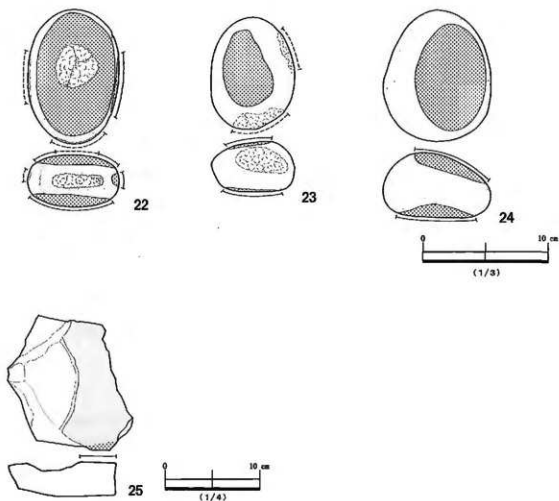


図 23-4 3-3C調査区 縄文時代草創期 10号竪穴状遺構出土 石器実測図③

て直線的に立ち上がる。外面は2条1対の縦位の微隆起線文が施文される。内面は丁寧なナデ調整が施される。胎土に砂粒・金雲母を含み、器厚は5~6mmである。図23-2-14(19454)は微隆起線文土器の胴部片でやや開いて直線的に立ち上がる。外面は横位に幅約1mm強の10条の微隆起線文が平行、その下位に2条1対の斜位の微隆起線文が施文される。内面は丁寧なヨコナデ調整が施される。胎土に砂粒・金雲母を含み、器厚は6mmである。

#### 押圧縄文土器

図23-2-15(20086)は押圧縄文土器の胴部片で直線的にやや開いて立ち上がる。外面は横位に押圧縄文が施文される。内面は指頭痕にナデ調整が施される。胎土に金雲母・砂粒を含み、器厚は6~7mmである。

#### 無文土器

図23-2-16(19340)は無文土器の口縁部片で僅かに開いて立ち上がり口唇部をやや扁平に仕上げ、口唇部に棒状具でキザミ状に連続的に押圧されている。外面は無文で条痕状、内面も条痕状に調整が施される。胎土に金雲母・砂粒を少量含み、器厚は7mmの薄手である。図23-2-17(17580)は無文土器の胴部片で僅かに開き内湾気味に立ち上がる。外面は無文で条痕状、内面も条痕状調整に指頭痕・ヨコナデ調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒を含み、器厚は7~8mmの薄手である。図23-2-18(19285)は

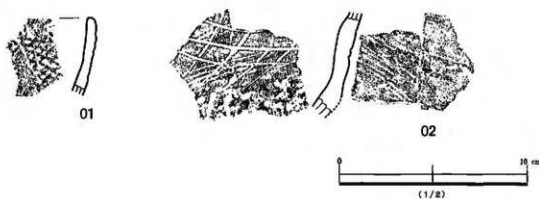


図 24-1 3-3C調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図

無文土器の胴部片で僅かに開き内湾気味に立ち上がる。外面は無文で擦痕状、内面は指頭痕・ヨコナデ調整が施される。胎土に粒の大きな砂粒を含む他に繊維を含み、器厚は6~7mmである。

## 石器

### 有舌尖頭器

図 23-4-01 (20860) は黒曜石製の有舌尖頭器の先端部が僅かに欠損するほぼ完形品である。身は平面形態が左右対称の二等辺三角形で、身に比較して短い長さの小さな二等辺三角形の舌が凸基となる。裏面に素材面を一部に残すが、調整加工は押圧剥離による形態成形されたものである。図 23-4-02 (24739) は黒曜石製の有舌尖頭器の完形品である。身は平面形態が僅かに左右非対称の正三角形で、身に比較して長い二等辺三角形の舌が凸基となる。両面調整加工は押圧剥離による形態成形されたものである。図 23-4-03 (17095) は黒曜石製の有舌尖頭器の完形品である。身は平面形態が左右対称の正三角形で、身に比較して同じ長さの二等辺三角形の舌が凸基となる。両面調整加工は押圧剥離による形態成形されたものである。図 23-4-04 (21528) は黒曜石製の有舌尖頭器の未製品と考えられるものである。身は平面形態が本来左右対称の二等辺三角形であるものが尖頭部を失った形状となっている。身に比較してかなり短い二等辺三角形の舌が凸基となる。両面に素材面を残し、調整加工は押圧剥離による形態成形されたものであるが尖頭部周辺に調整加工が施されていない。図 23-4-05 (18002) は黒曜石製の有舌尖頭器の尖頭部が欠損するものである。身は平面形態が本来左右対称の正三角形と推定されるものである。身に比較してかなり短い二等辺三角形の舌が凸基となる。両面調整加工は押圧剥離による形態成形されたものである。これらの有舌尖頭器は「花見山型」有舌尖頭器と呼ばれているもので縄文時代草創期に特徴的な石鏃である。有舌尖頭器としては最も新しい型とされ、陸線土器に伴ってこれまでも出土していた。本調査区では陸線土器の微隆起線土器に伴って出土している点が明らかとなった。

### 石鏃

図 23-4-06 (20229) は黒曜石製の平面形態がほぼ正三角形の長さ 1.2 cm とかなり小形の三角鏃の完形品である。両面調整加工は押圧剥離による携帯成形されたものである。図 23-4-07 (20814) は黒曜石製の平面形態がほぼ正三角形の長さ 1.5 cm と小形の三角鏃の完形品である。両面調整加工は押圧剥離による携帯成形されたものである。図 23-4-08 (20046) は黒曜石製の平面形態が二等辺三角形の三角鏃の先端部欠損品である。両面調整加工は押圧剥離による形態成形されたものである。図 23-4-09 (24862) は黒曜石製の平面形態が左右非対象二等辺三角形の三角鏃の未製品と考えられるものである。両面調整加工

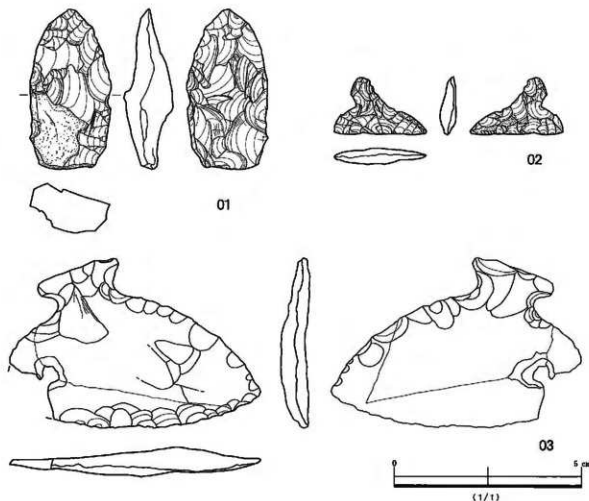


図 24-2 3-3C調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図

は押圧剥離による携帯成形されたものであるが左側縁や基部に細かな調整がされていない。図 23-4-10 (18559) は黒曜石製の平面形態が二等辺三角形の三角鏃の先端部と左基部の一部が欠損品するものである。両面調整加工は押圧剥離による携帯成形されたものである。図 23-4-11 (17573) は黒曜石製の平面形態が二等辺三角形の三角鏃の完形品である。両面調整加工は押圧剥離による携帯成形されたもので、基部両端が丸く仕上げられる。図 23-4-12 (21149) は黒曜石製の平面形態が二等辺三角形の三角鏃の基部右端が欠損品するものである。両面調整加工は押圧剥離による携帯成形されたものである。図 23-4-13 (19492) は黒曜石製の平面形態がやや不整形な二等辺三角形の三角鏃の基部左端部分が欠損するものである。両面調整加工は粗いもので未製品と考えられる。図 23-4-14 (20395) は黒曜石製の本来は平面形態が均整のとれた二等辺三角形のやや深い抉り凹基の左脚部欠損品である。両面調整加工は押圧剥離による携帯成形されたものである。図 23-4-15 (21073) は黒曜石製の平面形態が均整のとれた二等辺三角形の三角鏃の先端部欠損品である。基部は僅かに内湾気味となる。両面調整加工は押圧剥離による携帯成形されたものである。図 23-4-16 (24869) は黒曜石製の平面形態が二等辺三角形の三角鏃である。両面調整加工は粗く未製品の可能性があるものである。これらの三角鏃には未製品と考えられるものも一定量含まれていることから三角鏃は「三角形形態→脚部の部分的形成→形態整形」の製作過程を想定すると最終的に凹基三角鏃とする前段階の未製品であると予想される考えがある。

図 23-4-17 (20000) は黒曜石製の平面形態の脚部が円形となる小形円脚鏃の完形品である。両面調整加工は微細な押圧剥離による携帯成形されたものである。

## スクレイパー

図 23-4-18 (20356) は黒曜石製の削器である。横長剥片素材として側縁に押圧剥離で弧状の刃部を形成している。興味深い点は素材裏面の一部と背面を覆うように両面加工の平坦加工がなされている点から、おそらく両面加工体を作成する途上で放棄され、削器に作り替えられたと推定される。図 23-4-19 (24858) は黒曜石製の削器である。縦長剥片を素材として側縁に押圧剥離で内湾する弧状の刃部を形成している。

## 篋状石器

図 23-4-20 (19613)・21 (19364) は黒曜石製の篋状石器である。縦長剥片を素材として素材末端に押圧剥離で、刃先角がやや急角度の側縁に鋭い刃部を形成している。21 は直接打撃の矩形剥片素材の末端に押圧剥離で、刃先角がやや急角度の鋭い刃部を成形している。

## 敲・凹・磨石

図 23-4-22 (20293)・23 (19414) は敲・磨石の複合石器で、平面形態は楕円形を呈し、22 は両面が磨り面と表面中央と端部に敲痕が残される。23 は両面が磨り面、

側面と端部に敲痕が残される。図 23-4-24 (17037) はやや不整な楕円形磨石で、両面が磨り面である。

## 石皿

23-4-25 (18593) は板状の石皿として利用されたと推定される破損品で、表面を磨り面としている

## 縄文時代早期

### グリッド

#### 土器

#### 押型文系土器

図 24-1-01 (17415) は押型文土器の口縁部片で内湾気味にやや開いて立ち上がる。外面は縦位の沈線文に格子押型文を施文する。内面は指頭痕にナデ調整が施される。胎土に白色粒を多くを含み、器厚は 5～7mm である。

#### 沈線文系土器

図 24-1-02 (17040) は条痕文系土器の沈線文土器の胴部片で開いて立ち上がる。外面は粗い格子状の沈線文、内面は条痕文調整が施される。胎土に白色粒・繊維を含み、器厚は 8～11mm である。

#### 石器

#### 尖頭器

図 24-2-01 (16599) は 6 層から出土したチャート製の両面加工石器で尖頭器の未製品と考えられるものである。断面形態は不整形で表面には自然面を残している。尖頭部から右側縁に押圧剥離による細かな調整が施される。

#### 石匙

図 24-2-02 (16577) は 6 層から出土した黒曜石製の横形の小形石匙である。平面形態は左右非対称な二等辺三角形に浅い抉りの入れた凹基石匙に似ており、全体に丁寧な両面調整加工で成形され、刃部は直線的である。図 24-2-03 (14341) は 6 層から出土したホルンフェルス製の横形石匙である。全体に調整が不明瞭である。

### 3-3D・E調査区

本調査区は今回調査された調査区のなかで最も東側に位置する。3-3E調査区東端は急傾斜面となり、調査区東西で標高176.7～179.5mへと傾斜している。また調査区内の基盤層はほぼ溶岩流でホール状地形や平坦な地形を利用した遺構が検出された。また調査範囲の設定が東西方向約20mの幅の狭いトレンチ状を呈しており南北方向への面的広がり不詳ではあるが、縄文時代草創期と推定される8・13号竪穴状遺構が2基東西方向に並列に検出された。内8号竪穴状遺構内から土器を伴わないで尖頭器が30点以上纏まって出土したことが特筆される調査区である。

本調査区からは遺物合計360点、土器12点、石器・礫・剥片他348点が出土した。

#### 8号竪穴状遺構 (SB3008)

##### 石器

##### 尖頭器

図25-2-01 (23874) はガラス質安山岩製の尖頭器の完形品である。長さが6cmの中形、身部の厚さは0.9cmとやや薄手、平面形態はほぼ左右対称の木葉形で最大幅が身部中央やや上部にあり、そこから先端部に向かって次第に細く、基部は尖基、断面形態はやや不整形な凸レンズ状を呈する。両面調整加工に側縁には押圧剥離による微細な剥離調整が施される。図25-2-02 (21557) は珪質頁岩製の尖頭器で先端部が欠損する。長さが残存部で7.5cm、推定で10cm未満の中形、身部の厚さは0.8cmの薄手、平面形態は左右対称の柳葉形で最大幅が身部中央より上部にあり、そこから基部に向かって次第に細くなり尖基、断面形態は凸レンズ状を呈する。両面調整加工に側縁には押圧剥離による微細な剥離調整が施される。図25-2-03 (24055) は安山岩製の尖頭器のほぼ完形品である。長さが7.3cm前後の中形、身部の厚さは0.9cmとやや薄手、平面形態はほぼ左右対称の木葉形で最大幅が身部下側にあり、そこから基部に向かって細く僅かに欠損、先端部は次第に細く鋭く尖る。断面形態は凸レンズ状を呈する。両面調整加工に側縁にはソフトハンマーの直接打撃、尖頭部には間接打撃に押圧剥離も用いられている。図25-2-04 (23875) は安山岩製の尖頭器で先端部が欠損する。長さが現存で5.0cm、推定で10cm未満の中形、身部の厚さは0.7cmと薄手、平面形態は僅かに左右非対称の柳葉形で最大幅が身部中央にあると推定される。基部は円基、断面形態はやや不整形な凸レンズ状を呈する。両面調整加工に左側縁は押圧剥離による粗い剥離調整が施される。基部には間接打撃による調整も使用されている。

図25-2-05 (22061) は頁岩製の尖頭器で完形品である。長さが7.8cmの中形、身部の厚さは0.8cmと薄手、平面形態は左右対称の柳葉形で最大幅が身部上半にあり、基部に向かって次第に細くなり鋭い尖基、先端部も鋭く尖らせている。断面形態はやや不整形な凸レンズ状を呈する。両面調整加工に両側縁はソフトハンマーによる直接打撃による細かな剥離調整が施される。先頭部と基部には間接打撃による調整加工も使用されている。図25-2-06 (22062) は砂岩製の尖頭器で完形品である。長さが6.1cmの中形、身部の厚さは0.9cmと薄手、平面形態は左右対称の木葉形で最大幅が身部下側にあり、基部に向かって細くなり尖基、先端部も尖らせている。断面形態はやや不整形な凸レンズ状を呈する。両面調整加工に両側縁はソフトハンマーによる直接打撃による細かな剥離調整が施される。先頭部と基部には間接打撃による調整加工も使用されている。図25-2-07 (22024) は砂岩製の尖頭器で完形品である。長さが6.5cmの中形、身部の厚さは0.7cmと薄手、平面形態はほぼ左右対称の木葉形で最大幅が身部中央にあり、基部に向かって直線的に細くなる尖基、先端部も丸みをもって尖らせている。断面形態はやや不整形な凸レンズ状を呈する。両面調整加工に両側縁はソフトハンマーによる直接打撃による細かな剥離調整が施される。先頭部と基部には間接打撃による調整加工も使用されている。図25-2-08 (22112) は頁岩製の尖頭器で先頭部と基部が僅かに欠損するものである。残存長さが5.8cmの中形、身部の厚さは0.7cmと薄手、平面形態はほぼ左右対称の柳葉形で最大幅が身部下側にあり、基部に向かって細くなる。断面形

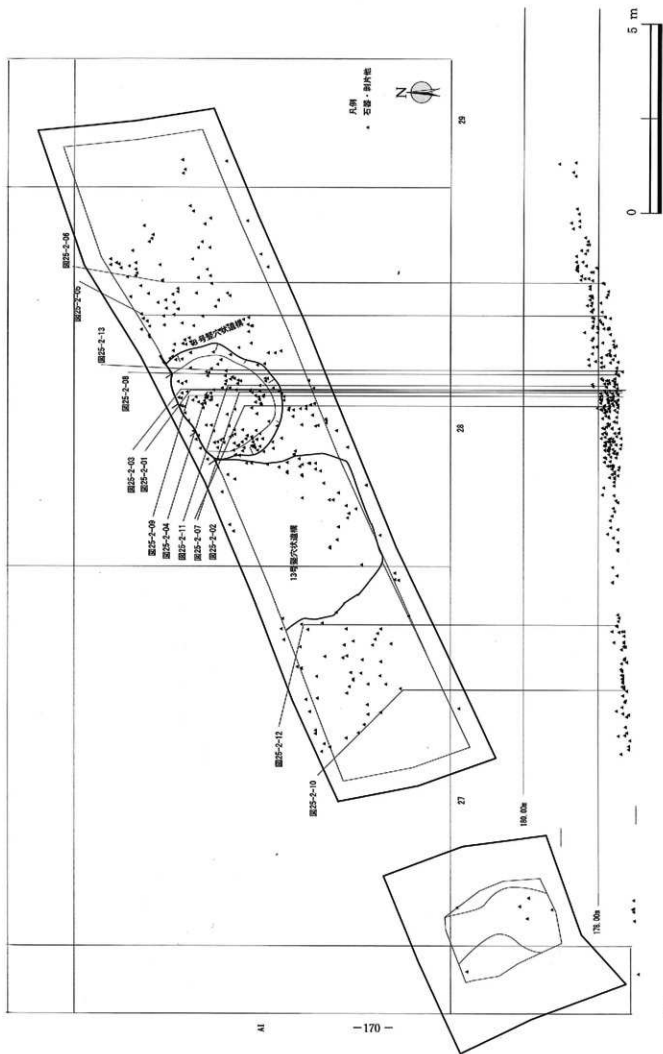


図 25-1 3-3D・E調査区 縄文時代 8号竪穴遺構・グリッド出土 石器・土器片分布図

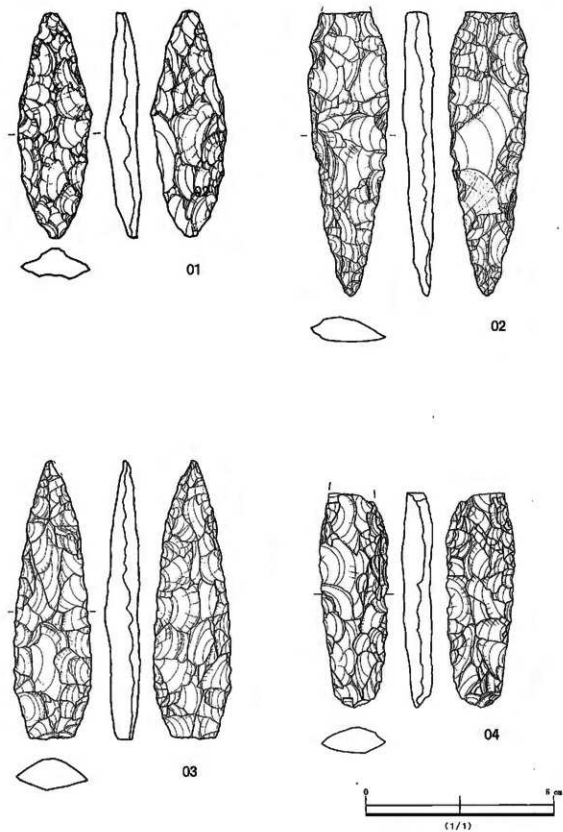


图 25-2 3-3 E 調査区 縄文時代草創期 8号竖穴状遺構出土 石器実測図①

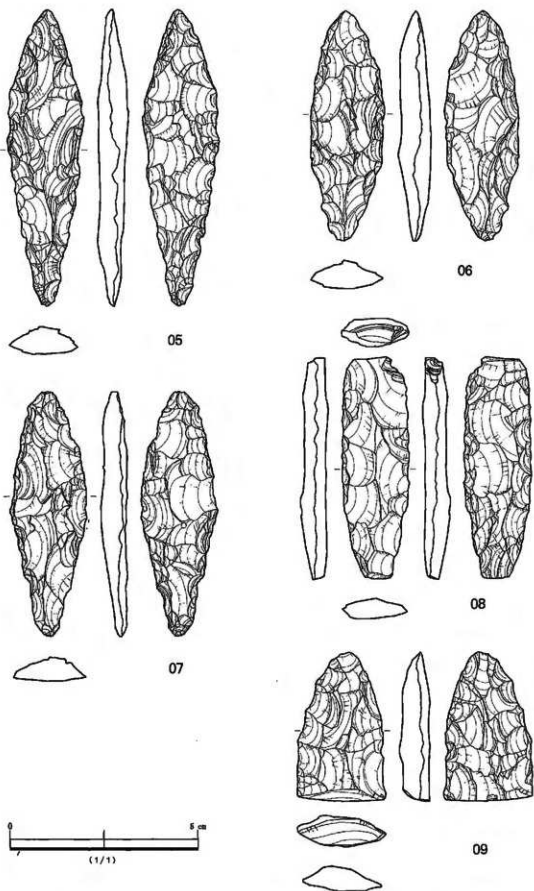


图 25-2 3-3 E 調査区 縄文時代草創期 8号竖穴状遺構出土 石器実測図②



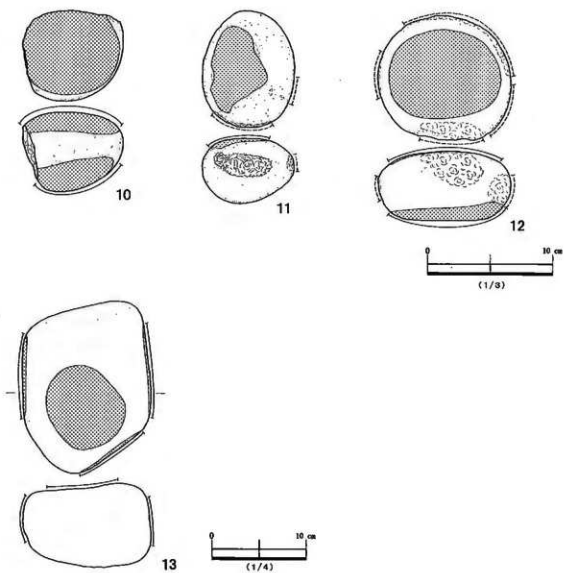


図 25-2 3-3 E調査区 縄文時代草創期 8号堅穴状遺構出土 石器実測図③

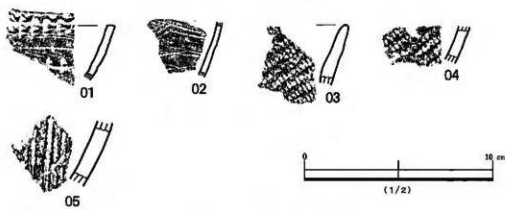
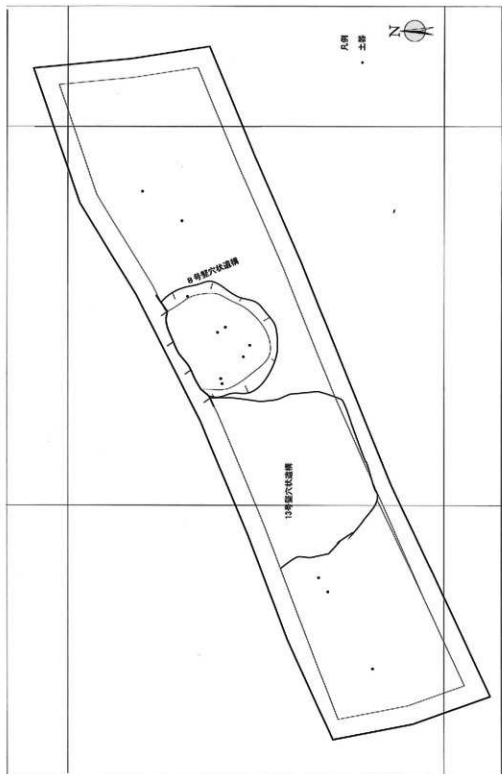
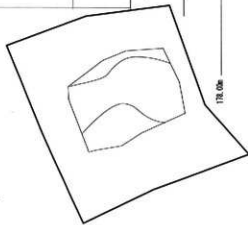


図 26-2 3-3 E調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図



A1



178.00m

178.00m



図 26-1 3-3 E調査区 縄文時代 グリッド出土 土器分布図

態はやや不整形な凸レンズ状を呈する。両面調整加工に両側縁は押圧剥離による細かな剥離調整が施される。先頭部と基部の残存部には間接打撃による調整加工も使用されている。図 25-2-09 (23893) は頁岩製の尖頭器で身部下半が欠損するものである。残存長が 3.9 cm、身部の厚さは 0.8 cm と薄手、平面形態はほぼ左右対称の木葉形と推定され、先端部丸みをもって尖らせている。断面形態はやや不整形な凸レンズ状を呈する。両面調整加工に両側縁は押圧剥離による微細な剥離調整が施される。先頭部には間接打撃による調整加工も使用されている。

#### グリッド

#### 土器

#### 縄文時代早期末葉～前期初頭

#### 薄手土器・木島式土器

図 26-2-01 (20718) は木島式土器の口縁部片で、僅かに内湾気味に立ち上がり口唇部は平坦で刺突状キザミが施される。外面は横位 3 条の連続刺突文間に沈線文が施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は淡黄色、胎土は細かい金雲母を含み、器厚は 4～5 mm と薄手である。図 26-2-02 (20718) は木島式土器の胴部片である。外面は横位の沈線文を施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は淡黄褐色、胎土は細かい金雲母に白色粒を含み、器厚は 3 mm と極めて薄手である。

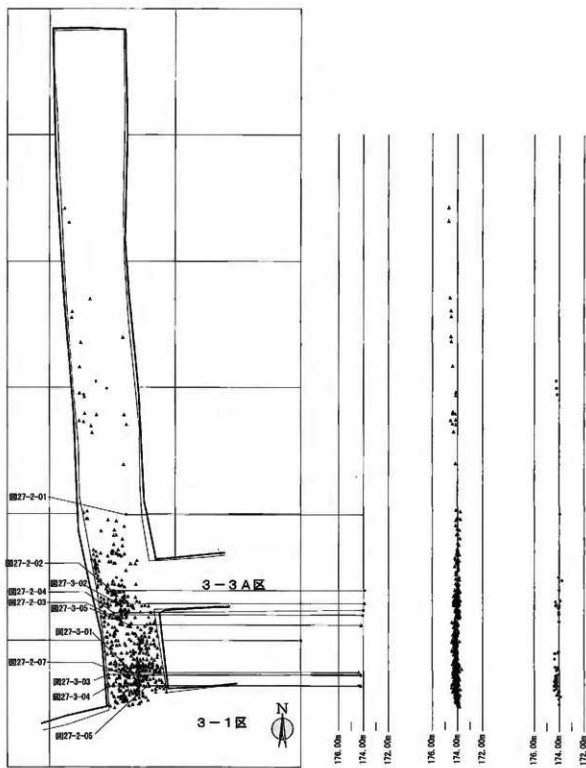
#### 縄文時代前期

#### 縄文施文土器

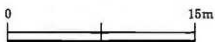
図 26-2-03 (20758) は斜縄文施文の口縁部片で、開いて立ち上がり口唇部は丸く仕上げている。外面は斜縄文が施文、内面はヨコナデ調整が施される。色調は暗褐色、胎土は金雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は 4～7 mm である。図 26-2-04 (20761) は斜縄文施文の胴部片である。外面は斜縄文が施文、内面はヨコナデ調整が施される。色調は淡茶褐色、胎土は金雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は 7 mm である。

#### 撚糸文施文土器

図 26-2-05 (20770) は撚糸文施文の胴部片で、開いて立ち上がる。外面は縦位撚糸文が施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は暗褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は 8 mm である。



3-4区 7層 石器分布図



- 凡例  
 ● 土器  
 ▲ 石器・銅片等

図 27-1 3-4調査区 縄文時代 グリッド出土 遺物分布図

### 3-4 調査区

本調査区は今回調査された調査区の最も北側に位置する。南北方向に約 54 m、幅約 4 m の細長いトレンチ状の調査区である。標高は南～北に 174.4 ～ 174.8 m と変化する。本来は北に行くに従って標高が徐々に高くなる緩斜面地形であったが、水田化によって削平されたため北側に行くに従って本来の縄文時代包含層が極めて薄い状況であった。

本調査区からは遺物が合計 590 点、その内 7 層からは計 511 点、土器が 44 点、石器・礫・剥片他が 467 点、6 層からは計 77 点、土器が 16 点、石器・礫・剥片他が 61 点であった。土器は縄文時代草創期の押圧縄文土器が出土した。

#### グリッド

#### 縄文時代草創期

#### 押圧縄文土器

図 27-2-01 (21493) は押圧縄文土器の口縁部片で、口唇部は平坦に仕上げキザミが施文される。外面

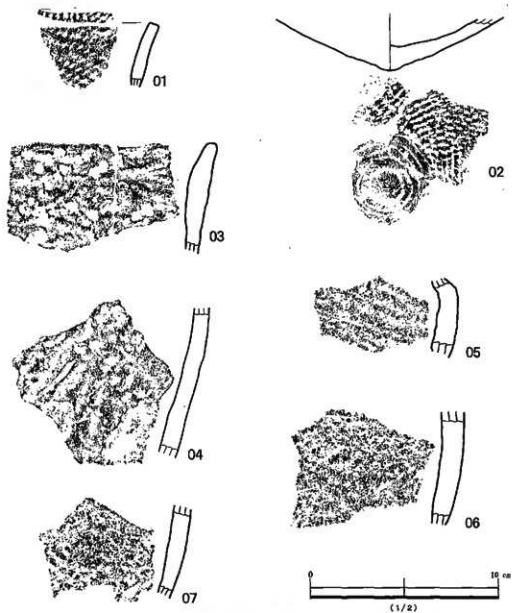


図 27-2 3-4 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器拓影・実測図

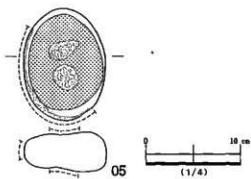
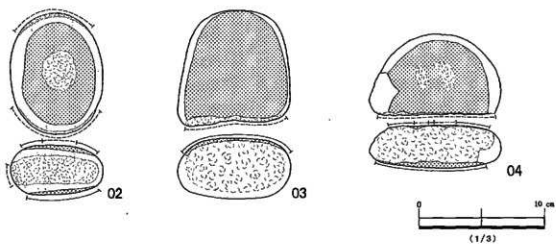
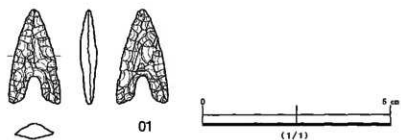


図 27-3 3-4 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器実測図

の施文原体は直線的な不明瞭な縄を間隔やや狭く左巻き付けた絡条体で斜位の押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は黒褐色、胎土に粒の大きい砂粒や雲母・繊維を含み、器厚は5mmである。図27-2-02(16851)は押圧縄文土器の尖底部片で、大きく開いて内湾気味に立ち上がる。尖底部の外面には六角形の螺旋沈線文が施文される点に特徴がある。外面の施文原体は直線的な1段の縄Rを間隔やや狭く左巻き付けた絡条体で多方向に押圧縄文を施文、内面は指頭痕にナデ調整が施される。色調は暗褐色、胎土に金雲母に繊維が目立つ、器厚は4~12mmである。

図27-2-03(16836)は押圧縄文土器の口縁部片で、僅かに外反気味にやや開いて立ち上がり、口唇部を平坦に仕上げている。外面の施文原体は非直線的な太くて不明瞭な縄Rを巻き付けた絡条体と推定され横～斜位に押圧縄文を施文、内面は指頭痕にヨコナデ調整が施される。色調は黒褐色、胎土に雲母に粒の大きな砂粒を含み、器厚は8~11mmである。図27-2-04(16465)は03(16836)と同一個体の胴部片である。押圧縄文の施文、色調・胎土等は他の押圧縄文土器に見られないものである。色調・胎土では爪形土器に共通するものがあるが、本遺跡内では特徴的な押圧縄文土器である。

#### 縄文時代早期

##### 条痕文土器

図27-2-05(5933)は内外面に条痕文調整される胴部片で、段を有している。色調は淡茶褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維が目立ち、器厚は9~11mmである。図27-2-06(5943)・07(15312)は無文土器の胴部片で、僅かに内湾して立ち上がる同一個体である。内面は丁寧なヨコナデ調整が施される。色調は橙褐色、胎土は雲母・砂粒・繊維を含み、器厚は9~12mmである。

##### 石器

##### 石鏃

図27-3-01(6441)は6層から出土した玉髄質の珪質頁岩製の石鏃で、平面形態が細長い均整のとれた二等辺三角形で基部はやや深く抉られている凹基である。微細な両面調整加工で、押圧剥離は細長い規則的な四角形の剥離面である。

##### 蔽・凹・磨石

図27-3-02(17700)は7層から出土した粗粒砂岩製の蔽・磨石の複合石器で、平面形態は楕円形を呈している。両面に磨り面、表面中央と側面に蔽痕がある。図27-3-03(6459)・04(6455)は6層から出土した粗粒砂岩・粗粒砂岩製の蔽・磨石の複合石器で、平面形態が隅丸長方形や円形の礫を半割して割れ口面を光沢のある蔽面としておりスタンプ形石器と同様の形態と機能を有している。図27-3-05(16823)は7層から出土した中粒砂岩製の蔽・凹・磨石の複合石器で、平面形態が楕円形である。

## 小結

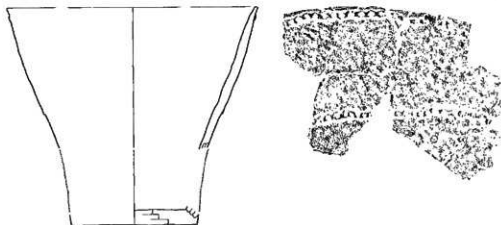
### 土器

ここでは縄文時代草創期の遺構から出土した土器を概観して小結とする。

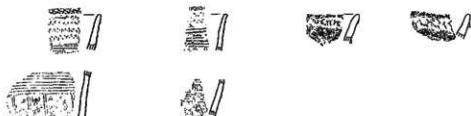
#### 隆線文土器

隆線文土器は3-1調査区においては客体の土器型式である。この土器型式を所属時期とする確実な遺構は52号土坑である。この遺構から出土したのは隆線文土器の太隆起線文土器型式に所属・平行すると分類される一括土器である。平底から外反しながら開いて立ち上がり、口縁部は平口縁とする。法量は推定口径22cm、推定器高23cmを測る深鉢形の器形を推定できるものである。外面には口唇直下に口縁部に平行する1条、胴部中位に1条の計2条の横位と僅かに斜位となる幅6mmの粘土紐による隆線文が貼り付けられ、その上をキザミが連続し施文される。この土器型式に見られる隆線文上の施文にはキザミ・刺突や押圧・押し潰し等が連続し施される。施文原体にはヘラ状具や爪形状具（竹管や人の爪を含む）が想定される。本遺跡内の文様が施文される土器のなかでは最も古い時期の土器型式と考えられる。年代はこの土器の内面に付着した食物残渣と推定された煤状炭化物のAMSによる炭素年代測定から従来の年代で11380年±50年、暦年校正BC11405-11200（西暦2000年から13405-13200）年前の数値が得られている。

3-3C調査区10号竪穴状遺構は、隆起線文土器の微隆起線文土器の口縁部他が主体的にまとまって出土し、この時期に所属する竪穴状遺構である。全体の器形を知ることができる底部が出土していないため不明である。器面は丁寧な調整・施文が施され光沢がある製作で、口唇部にはキザミが施文さ



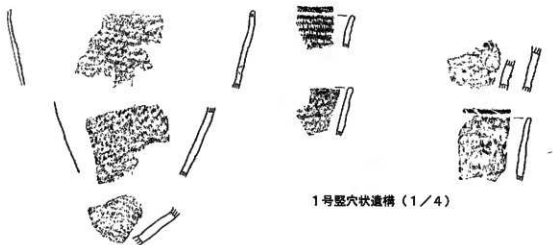
52号土坑(1/4)



10号竪穴状遺構(1/4)

図28-1 大鹿窪遺跡 縄文時代草創期 隆線文土器

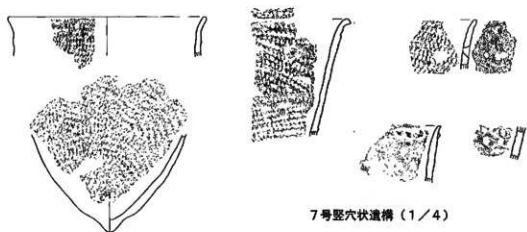




1号竖穴状遗構 (1/4)



2号竖穴状遗構 (1/4)



7号竖穴状遗構 (1/4)

图 28-2 大鹿窪遺跡 縄文時代草創期 押圧縄文土器

れ、外面は上位に薄い粘土紐を貼り付けた隆線文上を押し潰して鋸歯状文様となる特徴的な施文が行われる。その下位には幅約1mmの微隆起線文が横・縦・斜位に複数単位施文される。この土器型式が示す文様・器面調整・色調・胎土は他の土器型式にない特徴的なもので、極めて単独的な様相を示している土器型式である。

隆線文土器のなかで太隆起線文土器と微隆起線文土器には施文方法だけでなく、器面からの観察される調整・色調・胎土等に明瞭な差が存在することは指摘したが、さらにこれら2種類の土器型式が遺構内から伴伴して出土しないことから時間差があったことが推定される。これまで報告された太隆起線文土器→微隆起線文土器への土器編年観のなかで捉えることができると考える。

#### 押圧縄文土器

3-1 調査区1・2・3・4・5・6・7・9・11・12・14号竪穴状遺構から主体的で最も多く出土した土器型式である。施文原体は直線的な棒状具と推定される芯に1段の縄を巻き付けた絡条体を回転せずに押圧して施文する絡条体圧痕文である。施文原体の縄にはRとLがあるがRが主体で、巻きは左巻きが主体、巻きの間隔は1cm当たり3巻きとするものが主体である。しかし出土状況からこの原体の相違が年代差を示していないと考えられる。

1号竪穴状遺構は出土状況から床面に厚さ約10cmの遺物が集中する層が見られ、その層から出土する押圧縄文とその上位の覆土から出土する押圧縄文の器面調整・色調・焼成・胎土には、以下の相違が観察される。床面集中層の押圧縄文土器は器面に微隆起線文土器に観察された同様の丁寧なミガキ状の光沢があり、やや明るい色調、焼成が極めて良好で硬質である。覆土上位から出土する押圧縄文土器は器面に光沢がなく、内面調整は指頭痕による顕著な凹凸、胎土は金雲母を多く含んでいるためか、出土したものは脆弱なものが多く観察され、器厚は薄いものである。1号竪穴状遺構北側に隣接して検出された7号竪穴状遺構は検出された竪穴状遺構の中で最大規模、遺物出土量も最大であるが、この主体の土器は押圧縄文土器である。胴部から直線的にやや開いて立ち上がり口唇部を強く外反させる土器、乳房状を呈する尖底土器等、後者の押圧縄文土器の特徴を示す土器である。前者の押圧縄文土器と混在して出土している。この7号竪穴状遺構の年代は覆土炭化物のAMS測定年代から従来の年代10910±60年、暦年校正BC11005-10865(西暦2000年から13005-12865)年前の数値が得られている。同様の分析を行った5号竪穴状遺構は同じく押圧縄文土器型式の竪穴状遺構であるが、従来の年代10850±40年、暦年校正BC10935-10865(西暦2000年から12935-12865)年前の7号竪穴状遺構の年代に近似する数値が得られていることから、押圧縄文土器型式の年代を大鹿窪遺跡においては、ほぼ得ることができたと考える。

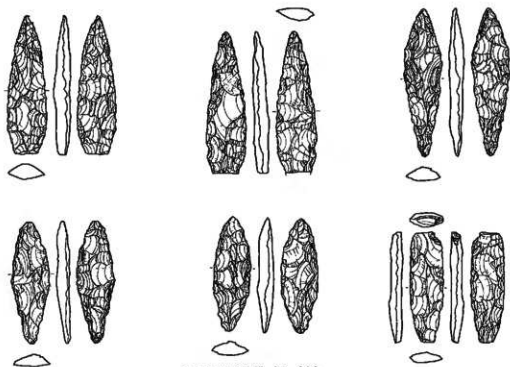
以上から隆線文土器の太隆起線文土器型式は測定年代から押圧縄文土器型式より470年古い型式であること、このことは太隆起線文土器が出土した52号土坑が押圧縄文土器を主体に出土する2・11号竪穴状遺構と重複しながら切られていることから、少なくとも52号土坑→2・11号竪穴状遺構の新旧関係からも測定年代の新旧関係を補完している。そのことは470年間に隆線文土器の太隆起線文土器→微隆起線文土器→押圧縄文土器と変化したことを大鹿窪遺跡は示している。従来の土器編年からはこの年代幅のなかでは5形式が想定され、この間を埋める土器型式として細隆起線文土器や爪形文土器が想定されるがいずれも客体で、主体となって出土する遺構が検出されなかった。さらに押圧縄文土器は型式学的に細分される可能性があることが指摘できた。この点の更なる検証は今後の課題として残された。

(小金澤)

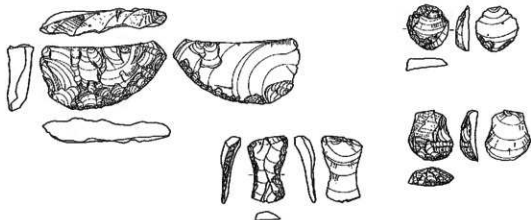
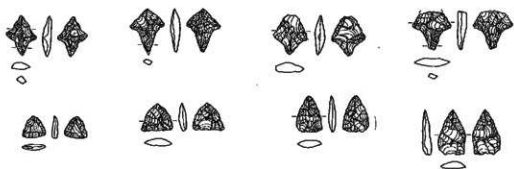
#### 石器

大鹿窪遺跡の石器群の最も大きな特徴は以下の2点に整理される。

1点目は器種分類であり、2点目は器種組成である。以下にその点を記述する。



8号型穴状遺構 (1/2)



10号型穴状遺構 (1/2)

图 28-3 大鹿窪遺跡 縄文時代草創期 石器①

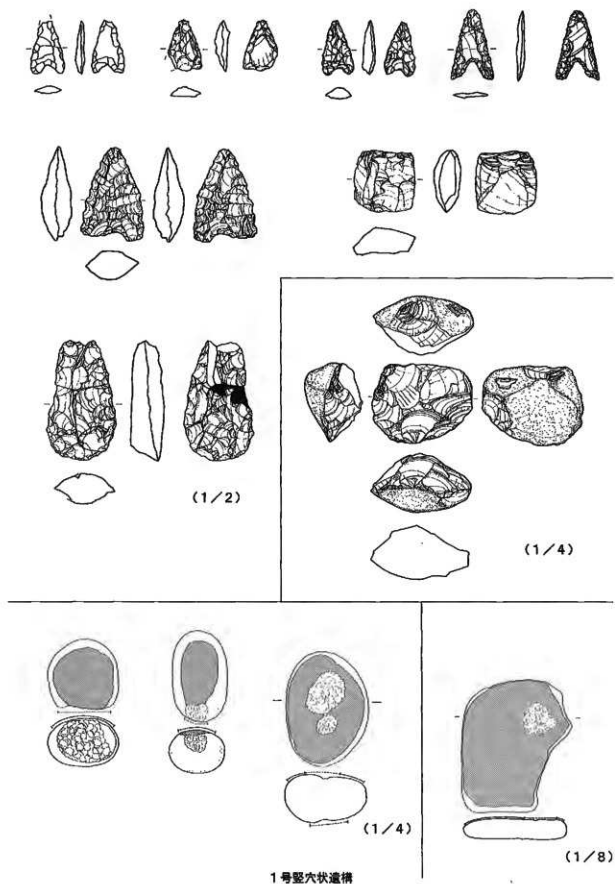


图 28-3 大鹿窪遺跡 縄文時代草創期 石器②

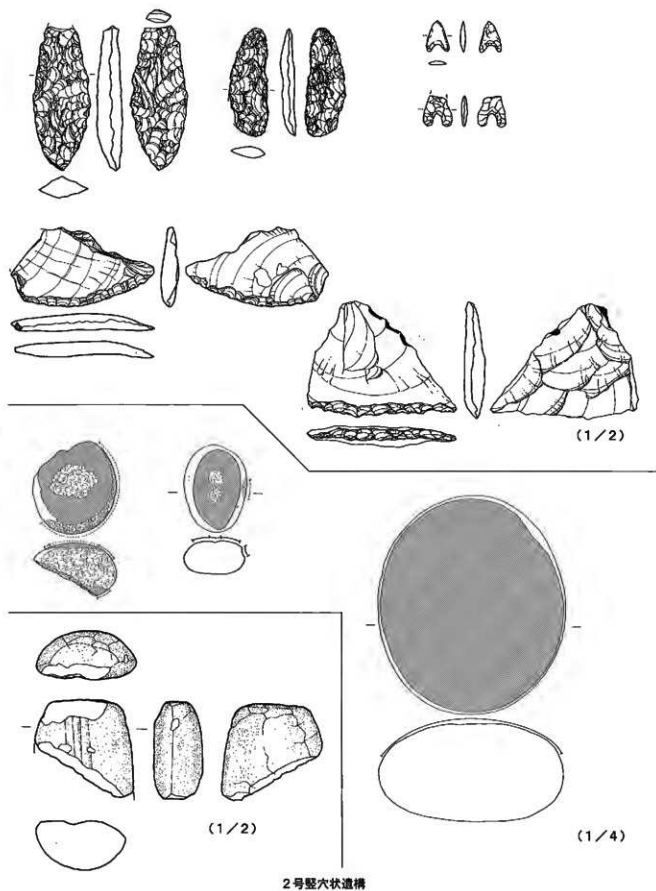


图 28-3 大鹿窪遺跡 縄文時代草創期 石器③



(1/4)

(1/8)

7号堅穴状遺構

图 28-3 大鹿窪遺跡 縄文時代草創期 石器④

## 1 器種分類

器種分類のなかで最も問題になるのは、搔器と篋状石器の区分である。両者は急角度の刃部をもつという点では区分が難しいが、石器を観察すると、搔器の刃部はハードハンマーの直接打撃による急角度剥離で形勢され、さらに分厚い剥片を素材にするという特徴がある。一方篋状石器は、その素材が両面加工体であり、刃部は押圧剥離もしくは間接打撃、ソフトハンマーの直接打撃で、器体と刃先の角度が60度前後となっている。部分的に刃先角が直角に近い小形の篋状石器もあるが、これは刃部再生の可能性を示すであろう。

次に、尖頭器と両面加工体の区分が問題である。尖頭器はソフトハンマーの直接打撃を基調とし、そのハンマーのコンタクトエリアは大きなものと小さなものの2種類がある。中形のホルンフェルス・頁岩製の尖頭器は、基部と尖頭部（刃部）の境に小さな抉りをいれ、基部が断面三角形、刃部が断面凸レンズ状になる。両面加工体はソフトハンマーの直接打撃のみで、コンタクトエリアのやや広いハンマーのみを使用しているようである。

最後に、有舌尖頭器と石鏃についてであるが、石鏃は押圧剥離で凹基鏃である。有舌尖頭器は所謂「花見山型」と呼称され、刃部（尖頭部）が幅広で短く基部の長いもの、尖頭部と基部が1対1となるものなどがある。有舌尖頭器は技術的には石鏃の押圧剥離と同じものであり、刃部（尖頭部）は石鏃、基部形態は尖頭器そのものである。以上の点からは、本遺跡の有舌尖頭器は、石鏃の技術を用いて、凹基鏃に尖頭器の基部を付けた石器で、尖頭器と石鏃の技法の部分を折衷させた石器といえる。この折衷石器は、技術と大きさが石鏃に寄っているので、石鏃文化が尖頭器文化を取り入れた石器といえるだろう。

## 2 器種組成

器種組成の中で大きな特徴は、礫核石器と剥片石器が混在している点にある。礫核石器は、蔽石・石皿や片刃礫器、両刃礫核石器などがある。

一方両面加工体を基調とする剥片石器があり、前者と後者は、通常の縄文草創期遺跡で混在する例は稀少である。

よく知られていることだが、両面加工体石器群は、日本海側の東北日本に広く分布し、「北方系細石刃石器文化」などがすぐに想起される。

この点で、両面加工体の篋状石器・両面加工の尖頭器などは日本海側北方系石器文化の系譜としてみることが妥当であろう。また、大鹿窪遺跡のこれらの石器群は【八森遺跡】（山形県八幡町教育委員会2004）に近似している。

ところで、礫核石器と石鏃の組合せについては、鹿児島市の【掃除山遺跡】の例などが著名であり、南九州の縄文草創期文化と大鹿窪遺跡の関係が注目されてくるだろう。

以上のように、石器の器種組成からみると、南九州系の縄文草創期文化に、北方系の両面加工体石器文化が溶け込んでいるのが大鹿窪遺跡という見方ができる。母体はおそらく南九州系の文化であろうし、その特徴をしめすが、石鏃と尖頭器の技法的折衷を実現した、小形の有舌尖頭器、とくに「花見山型」の有舌尖頭器の存在であろう。（角張淳一）

### 土器と石器

土器と石器の組成では3-3C調査区10号整穴状遺構から微隆起線文土器と花見山型有舌尖頭器尖頭器・小形無基三角鏃が共伴する。この共伴・組成例は神奈川県大和市上野遺跡第1・2地点においては隆起線文土器に小形有舌尖頭器が共伴している。上野遺跡第1地点で復元された隆起線文土器の文様に見られる格子文は図23-2-14の微隆起線文土器に近似する。神奈川県横浜市花見山遺跡において隆起線文土器の隆起線文が鋸歯状に押し潰される型式や微隆起線文に小形有舌尖頭器・小形無基三角鏃が共伴している。奈良県山添叢桐山和田田遺跡では隆起線文土器に小形無基三角鏃が共伴、さらに有溝砥石の矢柄

研磨器も相伴している。同じ北野ウチカタピロ遺跡では陸線文土器に小形無基三角鏃・矢柄研磨器も相伴している。前述したように陸線文土器型式の微隆起線文土器においての相伴例が各地の遺跡で報告されている。

押圧縄文土器型式の石器では楕円形礫を利用した敲・磨石や敲・凹・磨石の複合石器や扁平な板状の石皿と凹基二等辺三角形石鏃の組成が最も典型的な3-1調査区壑穴状遺構の特徴である。敲・磨石や敲・凹・磨石の複合石器や石鏃は壑穴状遺構や包含層から多量出土した。出土量は縄文時代中期の遺跡から出土する量に同じかそれ以上に出土している点が特色として指摘でき、この時期、植物質を中心とした食生活や小動物の捕獲が想像される。その複合石器のなかに礫を半割して割口を敲き面として利用するものが出土している。こうした形状・機能の石器は縄文時代早期に相伴することが報告されているスタンプ形石器に近似するものとなっている。この石器の半割した割口の敲き面には光沢があり、平坦面であることから敲きの対象物が草・木・動物等の繊維質・軟質なものを敲いたと推定される。その他の剥片石器では微隆起線文土器に相伴した小形有舌尖頭器や小形向基三角鏃は押圧縄文土器には相伴しない。そのなかで黒曜石製のみの篋状石器と分類された、平面・断面形態が尖頭器に近似し、基部を搔器と同様な刃部調整加工するものが相伴する。静岡県東部の愛鷹山麓や箱根山西麓での出土例が報告される石器である。スクレーパーでは不定型な鋸歯縁削器や搔器・石錐が相伴している。

また2号壑穴状遺構では断面形態が半月形の矢柄研磨器が相伴した。この形態の矢柄研磨器は静岡県内では初例である

以上のように押圧縄文土器型式は矢柄研磨器や篋状石器・尖頭器・不定形石器以外は典型的な縄文時代中期に見られる石器組成であることが最大の特色である。(小金澤)



# 窪 B 遺 跡

# 1 遺物

## (1)調査区の遺物

### 縄文時代

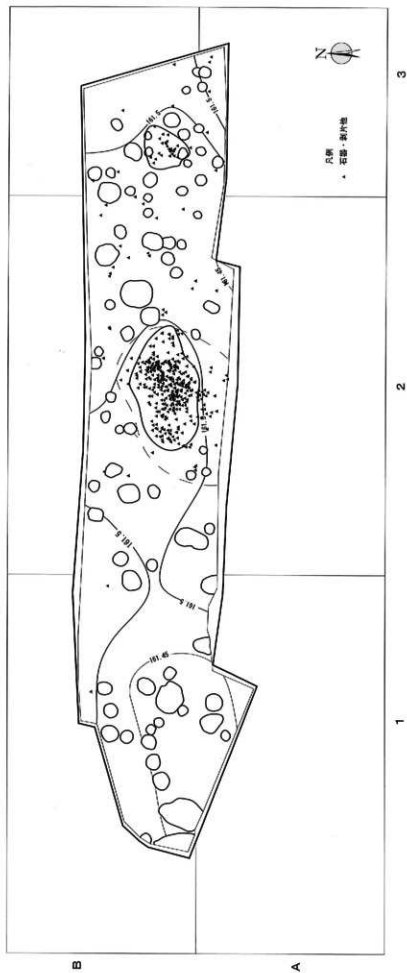
#### 遺物

本調査区は大鹿窪遺跡3-1調査区から南南西へ約290m程の水田に所在し、縄文時代遺構確認面で標高約161.5mに測る。調査区は東西に約21.5m、南北約4mの細長いグリッド状である。

### 縄文時代

#### 遺物

本調査区からは合計450点の遺物が出土した。1号集石遺構からは378点、2号集石遺構からは26点、7層グリッドからは計1点、6層グリッドからは45点であった。出土遺物の内、土器は出土していない。1号集石遺構から石器・礫・剥片が出土したが礫が主体であった。石器は平面形態が楕円形の自然礫との判別が困難な磨石状のものであったが、明瞭な使用痕を示すものがなかった。しかし、これらの楕円形礫は自然堆積層には存在しないことからこの遺跡内に持ち込まれたものであるが、使用目的は不明である。



162.00m

160.00m



図1-1 蓮B遺跡 縄文時代 グリッド出土 石器・割片他分布図

表

表1 調査区出土 土器観察表

2-4 調査区

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺物	層位	型式等	部位	施文・装飾	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図4-4-01	547	2-4	SK34	様土	片断焼	胴部	(外)縦線付文(内)外面ともに黒入工事な製作	精製	淡緑色	良	-	-	-	0.6~2.6	調査員確認	-	83765.952	5725.034	172.243

2-5 調査区

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺物	層位	型式等	部位	施文・装飾	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図5-2-01	1369	2-5	-	5B	片断焼	胴部	(外)縦線文 巾6mm 突起。胴部上を押し込み加減深に押状ヨコナデ調整	砂粒多い	褐色~暗茶褐色	良	-	-	-	0.7~10.8	調査員確認	AC-010	83770.600	5787.441	172.582
図5-2-02	1632	2-5	-	7	片断焼	胴部	(外)縦文 斜線部(内)押状具による条状文状ヨコナデ調整	砂粒多い	褐色~暗茶褐色	良	-	-	-	1.0	調査員確認	AC-011	83772.77	5791.402	172.815
図5-2-03	10457	2-5	-	7	片断焼	胴部	(外)縦文 (内)2段のヨコナデ調整	金葉多、砂粒多い	暗褐色	良	-	-	-	0.7		AC-011	83772.006	5793.955	173.102
図5-2-04	16272	2-5	-	7	片断焼	胴部	(外)斜~縦文 (内)押状具にヨコナデ調整	金葉、砂粒	淡茶褐色	良	-	-	-	0.6~0.8		AC-011	83771.391	5793.425	173.057
図5-2-05	1381	2-5	-	6B	片断焼	胴部	(外)縦線状ヨコナデ。押状具(内)加減深にヨコナデ調整	砂粒の粒大、暗赤、暗緑	暗~暗褐色	良	-	-	-	0.7~0.8	調査員確認	AC-006	83776.005	5748.841	173.247

3-1 調査区 遺構

図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺物	層位	型式等	部位	施文・装飾	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図6-2-01	18021	3-1	SB3001	層位焼	胴部	(外)縦線付文を写す突起にヨコナデ調整(内)加減深にヨコナデ調整	砂粒多い、暗緑?	茶~灰褐色	良	-	-	-	-	0.7~0.9	外面の器厚はヤ中穴れ	-	83761.22	5800.464	173.464
図6-2-02	14895	3-1	SB3001	片断焼	口縁部	(口)押状具によるキザニ状押圧(外)「ハ」の字(内)加減深にヨコナデ調整	金葉多、砂粒、暗緑	暗茶褐色	良	-	-	-	-	0.5~0.7	調査員確認	-	83768.27	5800.029	173.465
図6-2-03	25164	3-1	SB3001	片断焼	口縁部	(口)キザニ状押圧。原形は押圧焼文(外)原形にヨコナデ調整	砂粒の粒大、暗赤	暗褐色	良	-	-	-	-	0.5~0.6	調査員確認 原形は1段の縦状左巻き	-	83769.551	5800.046	172.988
図6-2-04	24289	3-1	SB3001	片断焼	口縁部	(外)胴部に広く施す(内)加減深にヨコナデ調整	金葉、砂粒	暗褐色	良	-	-	-	-	0.5~0.6	口縁部は丸い、調査員確認 原形は1段の縦状左巻き	-	83769.27	5801.137	173.267
図6-2-05	14867	3-1	SB3001	片断焼	胴部	(外)縦・斜線に広い(内)加減深条状ヨコナデ調整	金葉多、暗赤、暗緑	暗褐色	良	-	-	-	-	0.6~0.8	調査員確認 胴口が開口部 原形は1段の縦状左巻き	-	83767.883	5800.621	173.516
図6-2-06	13368	3-1	SB3001	片断焼	胴部	(外)縦・斜線に広い(内)加減深にヨコナデ調整	金葉多、暗赤、暗緑	淡茶褐色	良	-	-	-	-	0.6~0.7	調査員確認 原形は1段の縦状左巻き	-	83766.254	5799.906	173.550
図6-2-07	21973	3-1	SB3001	片断焼	胴部	キザニ状(外)縦・斜線に広い(内)加減深にヨコナデ調整	砂粒	暗茶~暗褐色	良	◎	-	-	-	0.5~0.8	調査員確認 原形は1段の縦状左巻き	-	83769.85	5801.787	173.106
図6-2-08	15205	3-1	SB3001	片断焼	胴部	(外)縦・斜線に広い(内)加減深にヨコナデ調整	砂粒多、暗赤、暗緑	茶褐色	良	-	-	-	-	0.5~0.8	1500、1800と条状部は1段の縦状左巻き	-	83768.111	5799.554	173.440
図6-2-09	21972	3-1	SB3001	片断焼	胴部	(外)斜線に明瞭に施す(内)加減深にヨコナデ調整	砂粒多、暗赤、暗緑	淡茶褐色	良	-	-	-	-	0.7~0.8	調査員確認 縦穴部 原形は17cm 原形は1段の縦状左巻き	-	83767.541	5798.674	173.097
図6-2-10	24543	3-1	SB3001	片断焼	胴部	(外)斜線に施す(内)2段のヨコナデ調整	金葉多、暗赤、暗緑	淡茶褐色	良	-	-	-	-	0.7~0.8	調査員確認 原形は1段の縦状左巻き	-	83768.32	5800.315	173.030
図6-2-11	24544	3-1	SB3001	片断焼	胴部	(外)多方向(内)加減深にヨコナデ調整	金葉多、暗赤、暗緑	淡茶褐色	良	-	-	-	-	0.8~1.0	調査員確認 原形は1段の縦状左巻き	-	83768.533	5798.164	173.015
図6-2-12	19071	3-1	SB3001	片断焼	胴部	(外)加文(内)加減深にヨコナデ調整	金葉多、暗赤、暗緑	淡茶褐色	良	-	-	-	-	0.6~0.7	器面ヤ中穴れ	-	83768.220	5800.225	173.394

調査番号	建物番号	地土調査区	地土調査	型式等	形状	施文・装束	地土	色調	装束	口縁	胎底	底径	胎高	備考	グッド	X線照	Y線照	Z線照
第62-13	14622	3-1	SB3001	施文・文様	胴部	(外) 胎底の縁が内径による法線(内)指環部にヨコナデ	黒緑、砂粒	黒褐色～灰黒褐色	黒	—	—	0.6	0.8	破綻、胎口が僅く口縁、胎底に凸部有り	—	4390.110	5801.321	173.525
第72-01	22185	3-1	SB3002	黒線文	口縁部	(外) 胎口0mm斜位。縁線と灰黒砂状押圧(内)指環部にナデ	金雲母少ない、砂粒	黄褐色	黒	—	—	0.6	0.6	口唇部やや中央、金雲母に偏り等でない	—	4376.538	4902.229	173.055
第72-02	15160	3-1	SB3002	黒線文	胴部	(外) 胎口0mmへう状によるキザミ状押圧(内)指環部にヨコナデ	砂粒縁かいく多い	茶褐色	黒	—	—	0.6	1.2	破綻	—	4374.536	5799.166	173.282
第72-03	18158	3-1	SB3003	点状文	胴部	(外) Hの字 胎口指環部にヨコナデ(内)胎口にによる胎底指環部に成状(横位)	金雲母多し、砂粒	黄褐色～灰黒褐色	黒	—	—	0.4	0.7	—	—	4373.287	5799.053	173.318
第72-04	21823	3-1	SB3002	押圧施文・点状文	胴部	(外) 胎底指環部による点状文(内)胎底部にヨコナデ	砂粒の粒大きい	淡茶～茶褐色	黒	—	—	0.9	1.0	破綻 胎底は1段の縄状凸部	—	4373.638	5802.260	173.193
第72-05	16082	3-1	SB3002	押圧施文	口縁部	(口) キザミ状押圧(胎) 斜位(内) 指環部にヨコナデ指環部	金雲母多し	暗黒～黄褐色	黒	—	—	0.4	0.5	口唇部胎底指環部は1段の縄状凸部	—	4374.978	5800.500	173.159
第72-06	21870	3-1	SB3002	押圧施文	口縁部	(外) 胎口(内) 胎底指環部にナデ	砂粒の粒大きい、金雲母少ない	淡茶～茶色	黒	—	—	0.4	0.5	口唇部は丸く強く外反 胎底は1段の縄状凸部	—	4374.038	5802.228	173.043
第72-07	21430	3-1	SB3002	押圧施文	口縁部	(外) 胎口、胎底凸部と胎(内)胎底指環部強いヨコナデ	金雲母多し、砂粒の粒やや大きい、縞線	茶～茶緑色	黒	—	—	0.5	0.8	口唇部にかけて外反 胎底は1段の縄状凸部	—	4374.574	5798.277	173.180
第72-08	18146	3-1	SB3003	押圧施文	口縁部	胎口にキザミ状押圧(外)胎底(内)指環部にヨコナデ	金雲母多し、縞線	暗黒～暗褐色	黒	—	—	0.5	0.6	口唇部 偏平に近い丸 やや大きく外反 胎底は1段の縄状凸部	—	4374.776	5801.400	173.255
第72-09	21958	3-1	SB3002	押圧施文	口縁部	(口) キザミ状押圧(内)胎底指環部下位斜位、胎底ヨコナデ(内)指環部にヨコナデ	砂粒の粒大きい、縞線	暗褐色～黄褐色(縞線)	黒	—	—	0.6	1.0	破綻、口唇部は偏平やや凸部 胎底は1段の縄状凸部	—	4374.888	5801.062	173.056
第72-10	19018	3-1	SB3003	押圧施文	口縁部	(外) 胎口(内)胎底による胎底指環部にヨコナデ丁字型上段押圧	金雲母多し、砂粒少ない	暗褐色	黒(胎)	—	—	0.5	1.0	破綻 口唇部やや中央、胎底は1段の縄状凸部	—	4374.783	5798.618	173.253
第72-11	11206	3-1	SB3002	押圧施文	口縁部	(外) 胎口(内)胎底指環部に丁字型ヨコナデ	金雲母少ない、砂粒多い	淡黄褐色～暗褐色	黒	—	—	0.3	0.9	破綻 口唇部細く丸い 胎底は1段の縄状凸部	—	4373.666	5800.522	173.653
第72-12	14000	3-1	SB3002	押圧施文	胴部	(外) 胎口(内)胎底指環部にヨコナデ	金雲母、砂粒多し、縞線	暗茶褐色～黒褐色	黒	—	—	0.7	1.0	破綻 胎底は不明瞭 胎口凸部	—	4374.679	5802.073	173.404
第72-13	21831	3-1	SB3002	押圧施文	胴部	(外) 胎口強い胎文 胎底状(内)指環部	砂粒多く粒やや大きい、縞線	暗茶褐色～黒褐色	黒	—	—	0.7	0.8	破綻 胎底は1段の縄状凸部	—	4374.112	5802.207	173.282
第72-14	21818	3-1	SB3002	押圧施文	胴部	(外) 胎口～胎底(内)指環部	砂粒多く粒大きい、縞線	茶褐色～暗褐色	黒	—	—	0.7	1.0	破綻 胎底は1段の縄状凸部	—	4374.251	5801.638	173.250
第72-15	16084	3-1	SB3002	押圧施文	胴部	(外) 胎口(内)胎底指環部にヨコナデ	金雲母少ない、砂粒少ない	淡黄褐色～暗褐色	黒	—	—	0.6	1.0	破綻 胎底は1段の縄状凸部	—	4374.140	5802.712	173.000
第72-16	15205	3-1	SB3002	押圧施文	胴部	(外) 胎口(内)胎底指環部成状	金雲母多し、砂粒の粒大きい	淡茶褐色～暗褐色	黒	—	—	0.7	0.7	破綻 胎底は1段の縄状凸部	—	4374.880	5800.722	173.248
第72-17	13642	3-1	SB3002	押圧施文	胎底部	(内) 胎口多方向(内)丁字型ヨコナデ	金雲母多し、縞線	淡茶～暗褐色	黒	—	—	0.4	1.0	13642 胎底 胎底は1段の縄状凸部	—	4373.608	5802.528	173.522
第72-18	22205	3-1	SB3002	施文・条痕	胴部	(外) 胎口胎底指環部に丁字型ヨコナデ	金雲母多し、砂粒	茶褐色～暗褐色	黒	—	—	0.6	0.7	破綻	—	4374.886	5800.284	173.332
第72-19	21886	3-1	SB3002	施文・条痕	胴部	(外) 胎口胎底指環部の縁線の胎底(内)指環部にヨコナデ	砂粒、赤色少ない	暗茶褐色	黒	—	—	0.5	0.8	破綻	—	4374.594	5800.343	173.882
第72-20	21971	3-1	SB3002	施文	胴部	(外) 胎口胎底指環部に丁字型ヨコナデ(内)指環部にヨコナデ	砂粒少ない	淡茶～黄褐色	黒	—	—	0.8	1.0	破綻 胎底指環部は16cm幅施文土層の施文部分に成状	—	4382.937	5800.693	173.193

図版 番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺層	型式等	部位	施文・文様	胎土	色調	線画	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胴径 (cm)	備考	グリップ	X線像	Y線像	Z線像
図8-2-01	22279	3-1	SB3003	押注焼文	口縁部	(外) 縦・斜位 (内) 押注焼文に横位の 糸雲母状	金雲母多い	黒褐色～ 赤褐色	黒	1(16)	—	—	0.4 0.6	口唇部は細く丸 い、底径 量定口 径 16cm 胴体は 1段脚R左巻き	—	—	—	—
図8-2-02	25753	3-1	SB3003	押注焼文	胴部	(外) 縦・斜位(内) 糸雲母多い、砂粒 多量にコナダ	金雲母多 い、砂粒 多量	黒褐色～ 赤褐色	黒	—	—	—	0.7	硬質 胴体は不明瞭な 左巻き	—	—	—	—
図8-2-03	25740	3-1	SB3003	押注焼文	胴部	(外) 縦位 (内) 下野 砂雲母丸	金雲母、白 色粒多い	灰褐色	黒	—	—	—	0.4 0.5	接合痕有り 胴体は1段脚 R左巻き	—	—	—	—
図8-2-04	22200	3-1	SB3003	押注焼文	胴部	(外) 縦位 (内) 留痕部にコナダ	金雲母、 砂粒多い	灰褐色	黒	—	—	—	0.4 0.8	接合痕有り 胴体は1段脚 R左巻き	—	—	—	—
図8-2-05	21998	3-1	SB3003	押注焼文	胴部	(外) 横位 (内) 押 注焼文にコナダ	金雲母多い	灰褐色	黒	—	—	—	0.5 0.6	硬質 接合部は胴体 は1段脚R左 巻き	—	—	—	—
図8-2-06	25700	3-1	SB3003	押注焼文	胴部	(外) 横位 糸雲母 (内) 留痕部にコナダ	金雲母、 砂粒	灰褐色	黒	—	—	—	0.5 0.8	接合による膨 張不明瞭な脚 左巻き	—	—	—	—
図8-2-07	25712	3-1	SB3003	焼文	口縁部	(外) 斜位に横ナゲ 焼文(内) 留痕部に コナダを垂れ	金雲母少 ない、砂 粒多い	黒褐色～ 赤褐色	黒	—	—	—	0.6 0.7	口唇部は丸い	—	—	—	—
図8-2-08	25714	3-1	SB3003	焼文	口縁部	(外) 斜位横ナゲ 留痕(内) 留痕部に コナダを垂れ	砂粒多い、 金雲母	灰褐色	黒	—	—	—	0.7	口唇部厚やか な丸、硬質	—	—	—	—
図8-2-09	17162	3-1	SB3003	焼文	口縁部	(外) 丁家なナゲ (内) 留痕部にコ ナダ	雲母・砂 粒・線粒	黒褐色	黒	—	—	—	0.6 0.7	硬質	—	—	—	—
図8-2-10	11084	3-1	SB3003	焼文	胴部	(外) 横位 糸雲母 (内) 留痕部に丁家 なナゲ	砂粒多い	灰褐色	黒	—	—	—	0.7 1.0	硬質 胴体は文土器の 類文土器と推定 される	—	—	—	—
図8-2-11	25736	3-1	SB3003	焼文・ 文様	胴部	(外) 上位 焼文 斜 位 位 下位 糸雲母 (内) 留痕部にコナダ	金雲母多 い、砂粒	灰褐色～ 赤褐色	黒	—	—	—	0.6 0.8	硬質	—	—	—	—
図9-2-01	16207	3-1	SB3004	爪形文	胴部	(外) 「ハ」の字と 押注 (内) 留痕部 丸 下野	砂粒、線 粒	灰褐色	黒	—	—	—	0.9	—	—	—	—	—
図9-2-02	16212	3-1	SB3004	押注焼文	口縁部	(口) キズ状押注 (外) 横(内) 押注 焼文にコナダ	金雲母多 い、砂粒	黒褐色	黒	—	—	—	0.8	胴体は1段の 脚R左巻き	—	—	—	—
図9-2-03	16883	3-1	SB3004	押注焼文	胴部	(外) 縦一両位、コ コナダ(内) 留痕 部にコナダ	金雲母多 い、砂粒	黒褐色	黒	—	—	—	0.6 0.7	胴体は不明瞭 な横左巻き	—	—	—	—
図9-2-04	22832	3-1	SB3007	押注焼文	胴部	(外) 横位 接合部 に砂による見栄 (内) 留痕部にヤウ 丁家なコナダ	金雲母多 い、砂粒	灰褐色 褐色	黒	—	—	—	0.6 0.7	接合痕 胴体、 胴体は1段の 脚R左巻き	—	—	—	—
図9-2-05	21995	3-1	SB3004	押注焼文	胴部	(外) 横位(内) 押 注焼文にコナダ	金雲母多い	灰褐色	黒	—	—	—	0.5 0.7	接合痕 胴体、 胴体は1段の 脚R左巻き	—	—	—	—
図9-2-06	18896	3-1	SB3004	焼文・ 文様	下半	(外) 横位の文様、 コナダ(内) 留痕 部にコナダ	線粒、雲 母、砂粒	灰褐色～ 黒褐色	黒	—	—	—	0.4 0.7	硬質 推定胴体径 15cm	—	—	—	—
図9-2-07	16200	3-1	SB3004	焼文・ 糸雲母	下半	(外) 斜位の糸雲 母状、コナダ(内) 留痕部にヤウ丁家 なコナダ	砂粒、白 色粒	灰褐色	黒	—	—	—	0.6 0.7	硬質	—	—	—	—
図9-2-08	13327	3-1	SB3004	焼文	胴部	(外) ココナダ 局 部 留痕(内) 留痕 部にコナダ	砂粒が多い	灰褐色	黒	—	—	—	0.7 0.9	硬質	—	—	—	—
図9-2-09	11938	3-1	SB3004	不群	胴部	(外) 留痕部が丸 不群(内) 留痕部 にコナダ	粒の大き な砂粒、 金雲母、 赤色粒	灰褐色	黒	—	—	—	0.5 0.6	接合部に肥厚 な縁口巻	—	—	—	—
図10-1-01	18049	3-1	SB3005	爪形文	胴部	(外) 「ハ」の字と 縦位(内) 留痕部 丸 下野	粒の大き な砂粒、 赤褐色	灰褐色	黒	—	—	—	—	16224と同一 胴体裏面は丸 で厚み不群	—	—	—	—
図10-1-02	16224	3-1	SB3005	爪形文	胴部	(外) 「ハ」の字と 縦位(内) 留痕部 丸 下野	粒の大き な砂粒、 赤褐色	灰褐色	黒	—	—	—	—	18049と同一 胴体裏面は丸 で厚み不群	—	—	—	—
図10-1-03	22489	3-1	SB3005	爪形文	胴部	(外) 縦位に2条連 続 糸雲母(内) ヤウ 丁家なナゲ	金雲母多 い、砂粒、 赤褐色	灰褐色	黒	—	—	—	0.5 0.8	—	—	—	—	—
図10-1-04	17322	3-1	SB3005	爪形文	胴部	(外) 縦位に1条連 続 糸雲母(内) ヤウ 丁家なナゲ	粒の大き な砂粒、 赤褐色	灰褐色	黒	—	—	—	0.6 0.7	硬質	—	—	—	—

図取 番号	通称 番号	組 番	組 名	形式 番号	部位	施工・調整	防土	色調	肌合	口幅 (cm)	高さ (cm)	標準 高 (cm)	標準 幅 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図10-1-05	16228 21854	3-1	SS3005	洋正洋文	口縁部	〔外〕階段 高形状 階段に光沢 (内) 指縁部に丁字型ナ ズ調整	細かな砂 粒を多量	緑褐色	良	—	—	0.5 1.0	—	硬質 口縁部 奥深い奥縁部結 構に於ける 土質調整	—	4372.86	5798.59	173.041
図10-1-06	15231	3-1	SS3005	洋正洋文	口縁部	〔外〕階段 (内) 指縁部にナズ調整	金剛砂	茶褐色 暗褐色	良	—	—	0.5	—	硬質 口縁部細 く深い 指縁は1段の 構成を有す	—	4371.02	5798.59	173.092
図10-1-07	21278	3-1	SS3005	洋正洋文	脚部	〔外〕壁—削壁で切 取 (内)指縁部に コナズ調整	金剛砂多 い、砂粒 少ない	茶褐色 暗褐色	良	—	—	0.5	—	硬質 削壁部19cm 厚厚に0段の 構成を有す	—	4372.27	5800.254	172.941
図10-1-08	22805	3-1	SS3005	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁 (内) 指縁部にナズ調整	細かな金 剛砂多い、 細粒	淡黄褐色	良	—	—	0.4 0.5	—	硬質 深縁は1段の 構成を有す	—	4372.63	5799.878	172.927
図10-1-09	18077	3-1	SS3005	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁で切取 (内)指縁部にナ ズ調整	金剛砂多い	淡黄褐色	良	—	—	0.4 0.7	—	硬質 深縁は1段の 構成を有す	—	4371.278	5799.670	172.882
図10-1-10	24210	3-1	SS3005	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁で切取 (内)指縁部にナ ズ調整	細かな金 剛砂多い	淡黄褐色	良	—	—	0.4 0.7	—	硬質 深縁は1段の 構成を有す	—	4372.713	5799.723	172.862
図10-1-11	16083	3-1	SS3005	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁で切取 (内)指縁部にナ ズ調整	金剛砂、粒 の大きき 多し	緑褐色	良	—	—	0.7	—	硬質 深縁は1段の 構成を有す	—	4371.534	5800.066	172.922
図10-1-12	18993	3-1	SS3005	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁 (内) 指縁部にナズ調整	金剛砂、砂 粒多い	淡褐色	良	—	—	0.5	—	硬質 深縁は1段の 構成を有す	—	4371.988	5799.365	173.040
図10-1-13	16242	3-1	SS3005	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁 (内) 指縁部にナズ調整	金剛砂多い	淡褐色	良	—	—	0.4 0.5	—	硬質 深縁は不明瞭 な構成を有す	—	4372.424	5797.984	173.151
図10-1-14	15603	3-1	SS3005	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁 (内)切 取部にナズ調整	金剛砂	淡茶褐色 暗褐色	良	—	—	0.5 0.6	—	硬質 深縁は不明瞭 な構成を有す	—	4371.812	5796.497	173.225
図10-1-15	13764	3-1	SS3005	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁で切取 (内)指縁部にナ ズ調整	金剛砂多い	淡茶褐色 暗褐色	良	—	—	0.7	—	硬質 深縁は不明瞭 な構成を有す	—	4371.148	5798.664	173.155
図10-1-16	16227	3-1	SS3005	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁 (内) 指縁部にコナズ 調整、緩合部調整	金剛砂多い	暗褐色	良	—	—	0.5 0.6	—	硬質 深縁は0段の 構成を有す	—	4372.665	5798.665	173.047
図10-1-17	20001	3-1	SS3005	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁 高形状 部分ナズ (内)指 縁部 指縁部に ナズ調整	金剛砂多 い、砂粒 多し	淡茶褐色 暗褐色	良	—	—	0.5 0.8	—	硬質 深縁は1段の 構成を有す	—	4372.382	5800.701	173.056
図10-1-18	18076	3-1	SS3005	洋正洋文	口縁部	指縁部にナズ調整	細かな白 色粒	暗褐色	良	—	—	0.4 0.8	—	硬質	—	4371.930	5799.885	172.967
図10-1-19	13765	3-1	SS3005	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁の構造具 による成層 (内)指 縁部にコナズ	粒の大き な砂粒	黄褐色	良	—	—	0.6 0.7	—	硬質	—	4371.223	5798.788	173.143
図10-1-20	15508	3-1	SS3005	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁で切取 (内)指縁部に コナズ調整	金剛砂、 砂粒	淡茶褐色 暗褐色	良	—	—	0.4 0.7	—	硬質	—	4371.858	5798.519	173.130
図10-1-21	13960	3-1	SS3006	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁 指縁 (内)コナズ調整	砂粒	淡黄褐色	良	—	—	1.0	—	硬質	—	4370.260	5807.695	173.287
図10-1-22	11667	3-1	SS3006	洋正洋文	口縁部	〔外〕削壁—削壁 (内)指縁部にコ ナズ調整	金剛砂多 い、細粒	黄褐色	良	—	—	0.6 0.7	—	硬質 深縁は1段の 構成を有す	—	4371.148	5807.474	173.570
図10-1-23	22914	3-1	SS3006	洋正洋文	口縁部	〔口〕へう状具に いるキヤミ (外) 削壁 (内)指縁 部にコナズ調整	金剛砂多い	黄褐色	良	—	—	0.3 0.7	—	硬質 深縁は不明瞭 な構成を有す	—	4371.468	5806.562	173.410
図10-1-24	21952	3-1	SS3006	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁—削壁 (内)指縁部にコ ナズ調整	金剛砂多い	黄褐色	良	—	—	0.5 0.6	—	硬質 深縁は不明瞭 な構成を有す	—	4370.338	5806.016	173.221
図10-1-25	13924	3-1	SS3006	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁—削壁 (内)指縁部にコ ナズ調整	金剛砂多 い、黄土	暗褐色	良	—	—	0.5	—	硬質 深縁は不明瞭 な構成を有す	—	4369.774	5807.298	173.310
図10-1-26	22502	3-1	SS3006	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁 (内)丁 字型コナズ調整	金剛砂多い	淡茶褐色 暗褐色	良	—	—	0.5	—	硬質 深縁は1段の 構成を有す	—	4370.216	5807.731	173.363
図10-1-27	22596	3-1	SS3006	洋正洋文	脚部	〔外〕削壁 (内) 指縁部にコナズ 調整	砂粒	淡黄褐色	良	—	—	0.5	—	硬質 接合部に凹凸 開口部 深縁 は1段の構成 を有す	—	4370.178	5807.068	173.213
図10-1-28	11667	3-1	SS3006	洋正洋文	口縁部	〔外〕削壁 (内) 指縁部にコナズ 調整	砂粒の粒 大きい、 黄土、長 石	淡茶褐色 黄褐色	良 (劣)	—	—	0.5 0.8	—	13411 - 13481 と接合	—	4370.997	5807.347	173.457
図10-1-29	13481	3-1	SS3006	洋正洋文	脚部	〔外〕ナズ (内) 指縁部にコナズ 調整	砂粒、黄 土、黄土、 細粒	淡黄褐色	良	—	—	0.9 1.4	—	乳剤	—	4370.923	5807.357	173.368
図10-1-30	21291	3-1	SS3007	洋正洋文	口縁部	〔口〕壁か半壁化 (外)市5mmクラ ック状へう状具 による削壁 (内)指 縁部に深いナズ調整	砂粒多く 粗大、黄 土、黄土、 赤色粒	淡黄褐色 暗褐色	良	—	—	0.6 0.8	—	硬質	—	4369.626	5808.202	173.630



図版番号	遺物番号	出土調査区	出土遺構	形式等	部位	施文・調染	胎土	色調	構成	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図12-2-01	24329	3-1	SB3007	灰彩文	胴部	(外)赤色の羽状ヨコナデ(内)斜位帯状に黒よりナゲテ調染	砂粒	淡茶～緑褐色	真	—	—	—	0.7～0.8	破片	—	4033.48	5808.094	173.666
図12-2-03	24019	3-1	SB3007	灰彩文	胴部	(外)灰彩文(内)帯状に赤褐色(内)赤褐色帯状に黒からナゲテ調染	砂粒の粗大多い、赤褐色、黒粒	淡茶～赤褐色	真	—	—	—	0.9～1.0	破片	—	4032.50	5806.916	173.581
図12-2-04	21368	3-1	SB3007	灰彩文	口縁部	(口)キザミ状帯状(外)斜位帯状のヨコナデ調染(内)斜位帯状に黒ヨコナデ調染	金雲母多量、赤褐色、黒粒	赤褐色～黒褐色	真	—	—	—	0.5～0.7	21988と組合せると厚さは1段の胴片左巻き	—	4034.58	5807.876	173.571
図12-2-05	25407	3-1	SB3007	灰彩文	口縁部	(口)キザミ状帯状(外)斜位帯状(内)斜位帯状に黒ヨコナデ調染	金雲母多量、赤褐色、黒粒	赤褐色	真	—	—	—	0.5～0.6	胴片は外面から14×10～4×3mm厚体は1段の胴片左巻き	—	4038.05	5807.603	173.697
図12-2-06	24542	3-1	SB3007	灰彩文	口縁部	(口)キザミ状帯状(外)斜位帯状(内)斜位帯状に黒ヨコナデ調染	金雲母多い	赤褐色	真	(2)	—	—	0.5～0.7	底径口径21.0cm厚体は1段の胴片左巻き	—	4035.65	5809.790	173.843
図12-2-07	20494	3-1	SB3007	灰彩文	口縁部	(口)キザミ状帯状(外)斜位帯状(内)斜位帯状に黒ヨコナデ調染	金雲母、赤褐色、黒粒	淡茶～緑褐色	真	—	—	—	0.5～0.7	厚体は1段の胴片左巻き	—	4034.64	5806.941	173.778
図12-2-08	25817	3-1	SB3007	灰彩文	胴部	(外)斜位(内)帯状に黒ヨコナデ調染	金雲母多い、砂粒、黒粒	淡茶褐色	真	—	—	—	0.6～0.8	破片厚体は1段の胴片左巻き	—	4033.29	5808.072	173.647
図12-2-09	21001	3-1	SB3007	灰彩文	胴部	(外)斜位(内)帯状に黒ヨコナデ調染(内)斜位帯状に黒ヨコナデ調染	砂粒多く粗大、赤褐色、黒粒	赤褐色～赤褐色	真	—	—	—	0.6～0.8	破片厚体は1段の胴片左巻き	—	4035.67	5808.134	173.692
図12-2-10	17647	3-1	SB3007	灰彩文	胴部	(外)斜位(内)帯状に黒ヨコナデ調染(内)斜位帯状に黒ヨコナデ調染	砂粒の粗大、赤褐色、黒粒	淡茶～赤褐色	真	—	—	—	0.5～0.7	17648と組合せると厚さは1段の胴片左巻き	—	4035.04	5806.151	173.807
図12-2-11	21352	3-1	SB3007	灰彩文	胴部	(外)斜位(内)帯状に黒ヨコナデ調染	砂粒の粗大、赤褐色、黒粒	淡茶褐色	真	—	—	—	0.6～0.8	厚体は不明瞭な斜位左巻き	—	4034.48	5807.380	173.660
図12-2-12	20900	3-1	SB3007	灰彩文	胴部	(外)斜位(内)帯状に黒ヨコナデ調染	砂粒の粗大、赤褐色、黒粒	淡茶褐色～淡茶褐色	真	—	—	—	1.0～1.3	破片厚体は不明瞭な斜位左巻き	—	4035.61	5806.692	173.650
図12-2-13	24401	3-1	SB3007	灰彩文	胴部	(外)斜位(内)帯状に黒ヨコナデ調染	金雲母多い	淡茶～赤褐色	真	—	—	—	0.5～0.8	破片厚体は1段の胴片左巻き	—	4038.36	5809.154	173.775
図12-2-14	22160	3-1	SB3007	灰彩文	口縁部	(外)斜位(内)帯状に黒ヨコナデ調染	砂粒の粗大、赤褐色、黒粒	淡茶～赤褐色	真	(2)	—	—	1.0～1.2	破片厚体は不明瞭な斜位左巻き	—	4034.84	5808.200	173.628
図12-2-15	22155	3-1	SB3007	灰彩文	口縁部	(外)斜位(内)帯状に黒ヨコナデ調染	砂粒の粗大、赤褐色、黒粒	淡茶～赤褐色	真	(1)	—	—	0.4～0.7	破片厚体は不明瞭な斜位左巻き	—	4035.95	5807.891	173.598
図12-2-16	25099	3-1	SB3007	灰彩文	口縁部	(外)斜位(内)帯状に黒ヨコナデ調染	砂粒の粗大、赤褐色、黒粒	淡茶～赤褐色	真	—	—	—	0.3～0.5	破片	—	4038.37	5809.485	173.707
図12-2-17	21652	3-1	SB3007	灰彩文	胴部	(外)斜位(内)帯状に黒ヨコナデ調染	金雲母、砂粒、黒粒	淡茶～赤褐色	真	—	—	—	0.5～0.7	破片厚体は不明瞭な斜位左巻き	—	4036.91	5808.683	173.685
図12-2-18	25881	3-1	SB3007	灰彩文	胴部	(外)斜位(内)帯状に黒ヨコナデ調染	砂粒	淡茶～赤褐色	真	—	—	—	0.7～0.8	破片	—	4033.02	5808.602	173.733
図12-2-19	19731	3-1	SB3007	灰彩文	胴部	(外)斜位(内)帯状に黒ヨコナデ調染	砂粒多く粗大、赤褐色、黒粒	赤褐色	真	—	—	—	0.9～1.0	破片厚体は不明瞭な斜位左巻き	—	4036.50	5808.608	173.737
図12-2-20	21267	3-1	SB3007	灰彩文	胴部	(外)斜位(内)帯状に黒ヨコナデ調染	砂粒、黒粒	赤褐色	真	—	—	—	0.6～1.1	21268と組合せると厚さは1段の胴片左巻き	—	4034.59	5808.116	173.610
図12-2-21	17614	3-1	SB3007	灰彩文	口縁部	(外)斜位(内)帯状に黒ヨコナデ調染	砂粒、黒粒	淡茶褐色	真	—	—	—	0.6～0.7	破片	—	4035.815	5808.532	173.754
図12-2-22	21974	3-1	SB3009	灰彩文	口縁部	(口)赤褐色によるキザミ(外)斜位(内)斜位帯状に黒ヨコナデ調染	粗大、赤褐色、黒粒	赤褐色	真	—	—	—	0.7～1.0	22232と組合せると厚さは1段の胴片左巻き	—	4036.20	5804.224	173.444
図12-2-23	22326	3-1	SB3009	灰彩文	口縁部	(口)赤褐色によるキザミ(外)斜位(内)斜位帯状に黒ヨコナデ調染	砂粒多い、赤褐色、黒粒	赤褐色	真	—	—	—	0.4～0.6	厚体は不明瞭な斜位左巻き	—	4036.98	5804.080	173.403
図12-2-24	22233	3-1	SB3009	灰彩文	胴部	(外)斜位(内)斜位帯状に黒ヨコナデ調染	砂粒、赤褐色、黒粒	淡茶～赤褐色	真	—	—	—	0.5～0.8	厚体は1段の胴片左巻き	—	4036.365	5804.165	173.397
図12-2-25	22234	3-1	SB3009	灰彩文	胴部	(外)斜位(内)斜位帯状に黒ヨコナデ調染	金雲母	淡茶褐色	真	—	—	—	0.5	破片厚体は不明瞭な斜位左巻き	—	4036.208	5804.101	173.432

国産 番号	通称 番号	品 目	仕 主 通称	型式等	部位	題文・類型	起土	色調	顔色	口径 (cm)	容積 (cm)	総厚 (cm)	備考	グランド	X座標	Y座標	Z座標
国13-205	19166	3-1	SK3009	押圧機文	胴部	(外)筒底文に斜一線状(内)筒壁に黒帯ヨコナテ調整	金属粉	黒褐色	黒	—	—	0.5	硬質 光沢 原厚は1段の 筒尺を定巻き	—	4820.438	5804.136	173.491
国13-206	22231	3-1	SK3009	無文	口縁部	(外)押圧機文斜一線状(内)筒壁に黒帯ヨコナテ調整	砂粒豊富	黒褐色	中々	—	—	1.0 1.1	滑り孔 13×9mm	—	4820.558	5804.000	173.403
国14-201	25176	3-1	SK3011	押圧機文	胴部	(外)筒底(内)ヨコナテ調整	金属粉、砂粒	黒褐色	黒	—	—	0.8	原厚は1段の 筒尺を定巻き	—	4820.228	5798.534	172.823
国14-203	23368	3-1	SK3011	無文・ 黒帯	口縁部 (丸)	(外)筒底に黒帯 金帯を調整(内) 筒壁にヨコナテ 大きい	金属粉、 砂粒の物 大きい	黒褐色	黒	(10)	—	0.5- 0.9	筒口径 18.0cm	—	4820.670	5803.134	172.835
国15-201	13517	3-1	SK3012	押圧機文	口縁部	(口)縁状具キザシ (外)斜一線状 (内)筒壁にやや 丁寧なヨコナテ	金属粉多 く、灰石、 腐石	黒褐色	黒	—	—	0.4- 0.6	硬質 原厚は1段の 筒尺を定巻き	—	4821.908	5802.816	173.506
国15-202	24691	3-1	SK3012	押圧機文	胴部	(口)筒口縁(外) 筒底(内)筒壁に ヨコナテ	金属粉豊富	黒褐色	黒	—	—	0.4	筒口縁部に真 化粉付着 原厚は1段の 筒尺を定巻き	—	4821.882	5802.314	173.150
国15-203	24391	3-1	SK3012	無文・ 鉄線	口縁部	(口)丸(外)斜一 線の丸厚状による鉄 線文 筒底 光沢 (内)筒壁にヨコ ナテ調整	金属粉	黒褐色	黒	—	—	0.4- 0.6	25597と同一 型を継ぎ合せず 調整	—	4821.438	5802.746	173.236
国15-204	25597	3-1	SK3012	無文・ 鉄線	口縁部	(口)丸(外)斜一 線の丸厚状による鉄 線文 筒底 光沢 (内)筒壁にヨコ ナテ調整	金属粉	黒褐色	黒	—	—	0.4- 0.6	24391と同一 型を継ぎ合せず 調整	—	4820.594	5803.106	173.207
国15-205	24602	3-1	SK3012	無文	胴部	(外)ナテ(内) 筒壁に 鉄化粉付 着のため不滑	鉄の大き い砂粒、 腐石	黒褐色	黒	—	—	0.5- 0.6	—	—	4821.596	5803.106	173.245
国16-201	11201	3-1	SK3014	押圧機文	胴部	(外)筒一斜一線状 (内)筒壁にヨコ ナテ	粗大鉄一 角褐色	黒	—	—	—	0.4- 0.7	原厚は1段の 筒尺を定巻き	—	4822.181	5801.727	173.518
国16-202	11022	3-1	SK3014	無文	胴部	(外)筒壁に斜一 線ナテ(内)筒壁 に黒帯状ヨコナテ 調整	筒の大き な砂粒、 赤色粒、 腐石	黒褐色	黒	—	—	0.7	筒底文調整の —	—	4822.148	5801.885	173.498
国17-201	10610	3-1	SK51	押圧機文	胴部	(外)筒底(内) 筒壁にヨコナテ 調整	腐石、砂粒	淡茶～ 黒褐色	黒	—	—	0.6- 0.7	硬質 原厚は不明 な筒尺を定巻き	—	4826.172	5804.051	173.550
国17-202	10628	3-1	SK51	押圧機文	筒底部	(外)多方向 光沢 あり(内)筒壁に やや丁寧なヨコ ナテ調整	腐石、砂粒	黒～ 暗褐色	黒	—	—	0.5- 1.4	硬質 原厚は1段の 筒尺を定巻き	—	4826.198	5802.815	173.511
国18-1-01	24970	3-1	SK52	無縫文	全体	(口)黒丸(外) 筒口φ8mmの部位2条 上段1クランク状、 押し出し(内)筒底 に黒帯調整(底)厚 調整	砂粒	淡茶～ 暗褐色	黒	○	○	0.6- 1.9	25892・25899・ 25900・25906・ 26104・26111・ 26136	—	4826.984	5803.236	173.000
国18-1-01	14052	3-1	SK53	押圧機文	口縁部	(外)筒一斜一線・3 線調整(内)筒壁 にヨコナテ調整	金属粉多い	暗褐色～ 暗褐色	黒	—	—	0.6- 0.8	原厚は不明 な筒尺を定巻き	—	4826.554	5799.375	173.072
国18-1-02	25324	3-1	SK53	押圧機文	胴部	(外)筒一斜一線(内) 筒壁にやや丁寧な ヨコナテ調整	金属粉多い	暗褐色	黒	—	—	0.6- 0.7	硬質 原厚は1段の 筒尺を定巻き	—	4826.702	5799.029	172.853
国18-1-03	13742	3-1	SK53	押圧機文	胴部	(外)筒一斜一線(内) 筒壁にやや丁寧な ヨコナテ調整	金属粉多い	暗褐色	黒	—	—	0.4- 0.8	原厚は1段の 筒尺を定巻き	—	4826.838	5799.022	173.264
国18-1-04	12677	3-1	SK53	無文	胴部	(外)筒壁にヨコ ナテ調整(内)筒壁 にヨコナテ調整	金属粉多い	暗茶～ 暗褐色	黒	—	—	0.6- 0.7	—	—	4826.700	5799.689	173.296
国18-1-05	25805	3-1	SK53	無文・ 黒帯	胴部	(外)筒底に黒帯状 調整(内)筒壁に ヨコナテ調整	腐石、砂粒	淡茶～ 暗褐色	黒	—	—	0.7- 0.8	硬質	—	4827.425	5799.152	172.942

### 3-1 調査区 グリッド

調査 番号	建物 番号	目 録 区分	出土 遺物	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	身長 (cm)	底径 (cm)	取厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
昭20-201	グリッド	3-1	トレンチ 一括	陶磁文	口縁部	(外) 頸部に2条の線に 8押(内) 頸部に線 位の赤褐色 ココナデ	黄赤、石 灰、黄土、 白色粒	暗褐色	良	(21)	—	—	0.6 0.8	原裝 厚板一括	—	—	—	—
昭20-202	7016	3-1	—	陶磁文	口縁部	(外) 頸部に1条 の線に8押(内) 頸部にココナデ	黄赤、石 灰、黄土、 白色粒	暗褐色	良	—	—	—	0.5 0.8	9400 鎌倉 6層	AD-012	4330.02	5900.47	173.676
昭20-203	グリッド	3-1	トレンチ 一括	陶磁文	口縁部	(外) 頸部に1条に 線の線部に8押 (内) 頸部にココナデ	石灰、白色 粒、砂粒	暗褐色	良	—	—	—	0.5 0.6	原裝一括	—	—	—	—
昭20-204	7801	3-1	—	陶磁文	胴部	(外) 頸部に1条の 波状線部に8押 (内) 頸部にココナデ	赤色、白色 粒、砂粒	明茶緑 色	良	—	—	—	1.0 1.1	7層	AD-012	4334.00	5808.05	173.670
昭20-205	11020	3-1	—	陶磁文	胴部	(外) 頸部2条の線 上を8押(内) 頸 部にココナデ	石灰、砂粒	明褐色	良	—	—	—	0.6 0.9	7層	AC-012	4372.98	5802.139	173.621
昭20-206	11018	3-1	—	陶磁文	胴部	(外) 頸部に2条の 波状線部に8押 (内) 頸部にココナデ		明褐色	良	—	—	—	0.7 0.9	7層	AC-012	4372.20	5802.466	173.690
昭20-207	5754	3-1	—	陶磁文	胴部	(外) 頸部2条の線 上を8押(内) 頸 部にココナデ	黄赤、砂粒	赤褐色	良	—	—	—	0.7	7層	AC-013	4371.80	5814.798	173.762
昭20-208	7757	3-1	—	陶磁文	胴部	(外) 頸部と胴部 2条の線部に8押 (内) 頸部にココナデ	赤色、白色 粒、砂粒	黄褐色	良	—	—	—	0.6 0.8	7層	AD-012	4335.82	5808.045	173.829
昭20-209	5785	3-1	—	陶磁文	胴部	(外) 頸部文を縦に (内) 赤褐色	黄赤、白 砂粒多い	褐色	良	—	—	—	0.5 0.7	6層	AD-012	4337.06	5805.545	173.952
昭20-210	グリッド	3-1	トレンチ 一括	点群文	口縁部	(再)「ハ」の字系 文を縦に8押(内) 頸部にココナデ	黄赤、白 砂粒	黄褐色	良	—	—	—	0.3 0.6	原裝一括	—	—	—	—
昭20-211	11688	3-1	—	点群文	胴部	(再)「ハ」の字系 文を縦に8押(内) 頸部にココナデ	黄赤、白 砂粒多い	明茶褐色	良	—	—	—	0.5 0.7	7層	AC-013	4371.81	5811.046	173.654
昭20-212	11412	3-1	—	点群文	胴部	(再) 頸部に8押 の赤褐色(内) 頸 部にココナデ	黄赤、白 砂粒	褐色	良	—	—	—	1.0 1.1	7層	AD-013	4338.80	5811.007	173.606
昭20-213	3603	3-1	—	押圧陶文	口縁部	(口) 小さな波状 (外) 胴部(内) 頸 部にココナデ、 赤褐色	黄赤、白 砂粒	黄褐色一 段褐色	良	(18)	—	—	0.6 0.9	3955 鎌倉・6層 原装は1段の 胴部左巻き	AD-011	4335.016	5798.587	174.000
昭20-214	15474	3-1	—	押圧陶文	口縁部	(口) 小さな波状 (外) 胴部(内) 頸部にやや7層 なココナデ	黄赤、白 砂粒	黄褐色一 段褐色	良	—	—	—	0.6 0.9	7層 原装は1段の 胴部左巻き	AE-013	4335.594	5810.853	174.231
昭20-215	11161	3-1	—	押圧陶文	口縁部	(口) 小さな波状 (外) 胴部(内) 頸部にやや7層 なココナデ	黄赤、白 砂粒、黄 土の大きな 粒、黄赤	黄褐色一 段褐色	良	—	—	—	0.6 0.9	7層 原装は1段の 胴部左巻き	AD-012	4338.10	5803.827	173.740
昭20-216	10075	3-1	—	押圧陶文	口縁部	(口) 押圧陶文による 小さな波状 (外) 胴部(内) 頸部にココナ デ、黄赤	黄赤、白 砂粒	黄褐色一 段褐色	良	—	—	—	0.4 0.6	7層 原装は1段の 胴部左巻き	AD-012	4338.16	5805.744	173.716
昭20-217	10330	3-1	—	押圧陶文	口縁部	(口) 押圧陶文による 小さな波状 (外) 胴部(内) 頸部にココナ デ、黄赤	黄赤、白 砂粒	黄褐色一 段褐色	良	—	—	—	0.4 0.6	7層 原装は1段の 胴部左巻き	AD-013	4338.404	5810.282	173.671
昭20-218	10170	3-1	—	押圧陶文	胴部	(外) 胴部(内) 頸部にココナ デ、黄赤	黄赤、白 砂粒、黄 土の大きな 粒、黄赤	黄褐色一 段褐色	良	—	—	—	0.7 0.8	7層 原装は1段の 胴部左巻き	AD-012	4335.385	5804.484	173.855
昭20-219	11588	3-1	—	押圧陶文	胴部	(外) 胴部(内) 頸部にココナ デ、黄赤	黄赤、白 砂粒	暗褐色	良	—	—	—	0.6 0.8	7層 原装は不明 な胴部左巻き	AC-013	4370.004	5812.764	173.949
昭20-220	11080	3-1	—	押圧陶文	胴部	(外) 胴部(内) 頸部にココナ デ、黄赤	黄赤、白 砂粒	黄褐色一 段褐色	良	—	—	—	0.6 0.7	7層 原装は1段の 胴部左巻き	AD-011	4338.819	5796.426	173.374
昭20-221	14029	3-1	—	押圧陶文	胴部	(外) 胴部(内) 頸部にココナ デ、黄赤	黄赤、白 砂粒、黄 土の大きな 粒、黄赤	黄褐色一 段褐色	良	—	—	—	0.6 0.8	7層 原装は1段の 胴部左巻き	AD-012	4335.363	5806.601	173.802
昭20-222	10139	3-1	—	押圧陶文	胴部	(外) 胴部(内) 頸部にココナ デ、黄赤	黄赤、白 砂粒、黄 土の大きな 粒、黄赤	黄褐色一 段褐色	良	—	—	—	0.7 0.9	7層 原装は不明 な胴部左巻き	AD-012	4335.592	5804.354	173.842
昭20-223	22493	3-1	—	押圧陶文	胴部	(外) 胴部(内) 頸部にココナ デ、黄赤	黄赤、白 砂粒、黄 土の大きな 粒、黄赤	黄褐色一 段褐色	良	—	—	—	0.6 0.9	7層 原装は不明 な胴部左巻き	AC-012	4335.549	5821.703	174.307
昭20-224	20029	3-1	—	押圧陶文	胴部	(外) 胴部(内) 頸部にココナ デ、黄赤	黄赤、白 砂粒、黄 土の大きな 粒、黄赤	黄褐色一 段褐色	良	—	—	—	0.8	7層 原装は1段の 胴部左巻き	AE-014	4372.468	5795.228	173.204

原産 番号	産物 番号	出 土 状況	出土 遺物	型式等	部位	施文・調整	胎土	色調	質感	口径 (cm)	胎高 (cm)	胎厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
原20-205	9672	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉横位〈内〉 指環痕にナズ調整	砂粒多い	初灰褐色	良	-	-	0.6 0.7	7層 原坯は不明瞭 な縄文帯奇	AC-011	4370.885	5803.955	173.407
原20-206	5649	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉斜位の羽状 〈内〉指環痕にココ ナズ調整 横位に は横口線	金剛砂多い	黒褐色～ 緑茶褐色	良	-	-	0.4 0.9	7層 原坯は1段の 縄文帯奇	AC-013	4372.782	5812.940	173.745
原20-207	12992	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉斜位の羽状 〈内〉指環痕にココナズ 調整 横位に横口線	金剛砂多い	暗褐色～ 初灰褐色	良	-	-	0.4 0.7	7層 原坯は1段の 縄文帯奇	AC-013	4371.782	5811.607	173.570
原20-208	20036	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉横位〈内〉 指環痕にやや丁寧 なココナズ調整	金剛砂多 く、砂粒	淡茶～ 淡灰褐色	良	-	-	0.8 0.7	7層 原坯は1段の 縄文帯奇	AE-014	4374.674	5826.053	174.256
原20-209	11024	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉横位〈内〉 指環痕に丁寧なナ ズ調整	金剛砂多 く、砂粒	淡茶～ 淡灰褐色	良	-	-	0.8 0.7	7層 原坯は不明瞭 な縄文帯奇	AC-012	4371.822	5801.421	173.445
原20-210	13029	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉斜位〈内〉指環 痕にココナズ調整	金剛砂多い	暗褐色	良	-	-	0.5 0.6	7層 原坯は1段の 縄文帯奇	AD-012	4368.676	5801.265	173.287
原20-231	8276	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉横位 〈内〉指環痕にココ ナズ調整 横位には 横口線	金剛砂多い	黒褐色～ 初灰褐色	良	-	-	0.6 0.9	7層 原坯は1段の 縄文帯奇	AE-011	4370.946	5796.078	173.452
原20-232	13580	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉横位〈内〉指 環痕にココナズ調 整 横位部に肥厚 と横口線	金剛砂多い	暗褐色	良	-	-	0.6 0.9	7層 原坯は不明瞭 な縄文帯奇	-	-	-	-
原20-233	9746	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉斜位の羽状 〈内〉指環痕にココ ナズ調整 横位部 に肥厚	金剛砂多 い	暗茶～ 褐色	良	-	-	0.5 0.7	7層 原坯は1段の 縄文帯奇	AD-019	4368.227	5811.253	173.772
原20-234	10784	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉斜位〈内〉指 環痕にココナズ	金剛砂、砂 粒、繊維	淡茶～ 淡灰褐色	良	-	-	0.5 0.8	7層 原坯は不明瞭 な縄文帯奇	AC-012	4376.255	5820.534	173.581
原20-235	10925	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉横位〈内〉指 環痕にやや丁寧な ココナズ調整 横 位部の肥厚部	繊維、砂粒	明茶～ 淡灰褐色	良	-	-	0.4 0.5	7層 原坯は1段の 縄文帯奇	AC-012	4370.252	5804.509	173.660
原20-236	15359	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉斜位の羽状 〈内〉指環痕にココ ナズ調整	繊維、砂 粒多い	初灰褐色	良	-	-	0.5 0.7	7層 原坯は1段の 縄文帯奇	AE-012	4376.149	5808.874	173.929
原20-237	10976	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉横～斜位の3段 大帯中帯の3段の 横位にココナズ調整	金剛砂多 い	黒褐色	良	-	-	0.4 0.7	7層 原坯は1段の 縄文帯奇	AD-013	4376.424	5815.112	173.946
原20-238	10777	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉横位 横位部 にココナズ調整 横 位部に肥厚	金剛砂、 砂粒	淡茶褐色	良	-	-	0.6 0.8	7層 原坯は不明瞭 な縄文帯奇	AC-012	4370.127	5803.995	173.610
原20-239	26141	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉横位部並置 横位〈内〉指環痕に ココナズ調整 横位 部に肥厚	金剛砂多 い	淡茶～ 淡灰褐色	良	-	-	0.3 0.6	7層 原坯は1段の 縄文帯奇	AE-012	4376.920	5821.181	173.544
原20-240	11830	3-1	-	押注焼文	胴部	〈外〉横位 横位部 横位〈内〉指環痕に ココナズ調整	金剛砂多 い	初灰褐色	良	-	-	0.5 0.6	7層 原坯は1段の 縄文帯奇	AC-012	4371.748	5804.645	173.619
原20-241	11007	3-1	-	押注焼文	尖部部	〈外〉多方向 〈内〉 指環痕にナズ調整	粒の大き い	淡茶～ 淡灰褐色	良	-	-	0.6 1.1	7層 原坯は1段の 縄文帯奇	AC-012	4372.417	5823.685	173.621
原20-242	11516	3-1	-	押注焼文	尖部部	〈外〉多方向 〈内〉 指環痕にナズ調整 乳房状突起	粒の大き い	淡茶～ 淡灰褐色	良	-	-	0.8 1.2	7層 原坯は1段の 縄文帯奇	AD-013	4364.574	5812.123	173.986
原20-243	9383	3-1	-	押注焼文	尖部部	〈外〉多方向 横位 横位 〈内〉指環痕 にナズ調整 乳房 状突起	金剛砂多 く、繊維	淡茶～ 淡灰褐色	良	-	-	0.7 1.8	7層 原坯は不明瞭 な縄文帯奇	AD-011	4368.810	5799.318	173.519
原20-244	10938	3-1	-	無文	口縁部	〈口〉太い 〈外・内〉 指環痕にココナズ 調整	金剛砂多 い	黒褐色～ 初灰褐色	良	-	-	0.5 0.7	7層	AD-013	4365.281	5810.170	173.674
原20-245	8767	3-1	-	無文	口縁部	〈口〉太い 〈外・内〉 指環痕にココナズ 調整 横位	粒の大き い	黒褐色	良	-	-	0.8 0.7	7層	AC-013	4371.035	5811.066	173.694
原20-246	8129	3-1	-	無文	胴部	〈外・内〉指環痕 にナズ調整 横位	粒の大き い	淡茶褐色	良	-	-	1.3	7層 勝越文土器の 横位部と胎文	AD-012	4361.852	5800.649	173.590
原20-247	9676	3-1	-	無文	胴部	〈外・内〉指環痕 にやや丁寧なナズ 調整	粒の大き い	暗褐色	良	-	-	1.3	7層 勝越文土器の 横位部と胎文	AC-011	4372.423	5794.888	173.719
原20-248	9300	3-1	-	無文	胴部	〈外・内〉帯並置 横位 横位にやや 丁寧なナズ調整	粒の大き い	初灰褐色	良	-	-	0.9 1.1	7層 勝越文土器の 横位部と胎文	AD-012	4369.520	5800.308	173.715

図版 番号	遺物 番号	出土 位置	出土 遺構	型式等	部位	意文・訳語	胎土	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	器径 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図20-2-49	10000	3-1	—	無文	平底部	{外・内} 胎面底にナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	淡褐色	良	—	—	1.0~2.0	7層 麻織文土器と判定	AD-012	4378.945	500.881	173.653
図20-2-50	8640	3-1	—	無文	平底部	{外・内} 胎面底にナゾ調整	胎の大きな砂調整	淡褐色	良	—	—	1.3	7層 麻織文土器と判定	AD-012	4378.971	500.285	173.715
図20-2-51	8753	3-1	—	無文	底面付注	{外} 胎面底にナゾ調整 {内} 胎面底にヨコナゾ調整	胎の大きな砂、雲母	淡褐色	良	—	—	0.8~1.3	7層 小形・器形別用	AC-013	4375.608	500.584	173.713
図20-2-52	12434	3-1	—	無文・条痕	口縁部	{外} 胎面 辻状 {内} 胎面底にナゾ調整	金雲母多い	黄褐色～淡褐色	良	(10)	—	0.4~0.8	硬質 厚底口径18cm 厚唇 縄文土器3層に属	AC-013	4371.192	502.358	173.615
図20-2-53	7643	3-1	—	無文・条痕	胴部	{外} 胎面 ヘウ状 {内} 胎面底にヨコナゾ調整	砂粒多い	黄褐色～淡褐色	良	—	—	1.0	7層	AC-013	4371.857	501.702	173.827
図20-2-54	11481	3-1	—	無文・条痕	胴部	{外} 胎面 ヘウ状 {内} 胎面底にヨコナゾ調整	砂粒多い	暗褐色	良	—	—	—	7層	AD-012	4376.335	503.558	173.052
図20-2-55	9603	3-1	—	無文・条痕	胴部	{外} 胎面底にナゾ調整 {内} 胎面底にヨコナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	淡褐色	良	—	—	1.0	173.70・7820 と同一器体 7層 麻織文土器に属	AC-011	4372.956	507.033	173.358
図20-2-56	17370	3-1	—	無文・条痕	胴部	{外} 胎面底にナゾ調整 {内} 胎面底にヨコナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	淡褐色	良	—	—	0.5~0.8	9603・7820 と同一器体 7層 麻織文土器に属	AD-012	4354.823	508.640	173.664
図20-2-57	7820	3-1	—	無文・条痕	胴部	{外} 胎面底にナゾ調整 {内} 胎面底にヨコナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	淡褐色	良	—	—	0.5~0.8	9003・17370 と同一器体 7層 麻織文土器に属	AD-012	4370.032	505.856	173.685
図20-2-58	2067	3-1	—	押型文	胴部	{外} 胎面押型文に 無文部 {内} 胎面底にナゾ調整	胎の大きな砂、雲母	淡褐色	良	—	—	0.5~0.7	6層	AD-015	4376.257	504.034	175.048
図20-2-59	8574	3-1	—	無条文	口縁部	{口} 胎面底による 縁キヤミ {外} 胎面底にヨコナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	赤褐色	良	—	—	0.7	厚底7層 硬質 器体はL	AD-012	4367.253	503.540	173.819
図20-2-60	2585	3-1	—	無条文	口縁部	{口} 胎面底による 縁キヤミ {外} 胎面底にヨコナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	赤褐色	良	—	—	0.7	厚底6層 硬質 器体はL	AD-012	4366.370	503.333	174.289
図20-2-61	6779	3-1	—	無条文	胴部	{外} 胎面底にヨコナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	暗褐色	良	—	—	0.5~0.7	厚底6層 硬質 器体はL	AD-012	4336.854	509.284	173.944
図20-2-62	7023	3-1	—	無条文	胴部	{外} 胎面底にヨコナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	暗褐色	良	—	—	0.5~0.7	厚底7層	AD-012	4336.948	504.140	173.709
図20-2-63	13552	3-1	—	波線文系	胴部	{外} 胎面底に波線文にナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	淡褐色	良	—	—	0.5~0.8	6層 硬質	AD-012	4334.437	500.505	173.419
図20-2-64	4892	3-1	—	波線文系	胴部	{外} 胎面底に波線文にナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	淡褐色	良	—	—	0.4~0.6	6層 硬質	AD-012	4332.307	500.723	173.848
図20-2-65	5981	3-1	—	波線文系	胴部	{外} 胎面底に波線文にナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	淡褐色	良	—	—	0.7	6層 硬質	AD-012	4332.407	501.776	173.854
図20-2-66	7406	3-1	—	波線文系	口縁部	{外} 胎面底に波線文にナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	淡褐色	良	—	—	0.6~0.7	6層 硬質	AD-013	4326.489	501.014	173.894
図20-2-67	13553	3-1	—	波線文系	胴部	{外} 胎面底に波線文にナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	淡褐色	良	—	—	0.7	6層 硬質	AD-012	4324.422	500.422	173.447
図20-2-68	7237	3-1	—	波線文系	胴部	{外} 胎面底に波線文にナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	淡褐色	良	—	—	0.7	6層 硬質	AC-011	4371.136	578.014	173.430
図20-2-69	6404	3-1	—	波線文系	口縁部	{外} 胎面底に波線文にナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	淡褐色	良	—	—	0.7	6層 硬質	AA-013	4338.818	501.114	173.542
図20-2-70	1921	3-1	—	条痕文	口縁部	{口} 胎面底による 縁キヤミ {外} 胎面底に波線文にナゾ調整	胎の大きな砂、雲母、炭粉調整	暗褐色～赤褐色	良	—	—	0.9~1.2	6層・硬質	AE-013	4335.406	502.588	174.694

国産 番号	産物 番号	品目 品名	仕立 選別	型式等	部位	紙文・網紋	胎土	色調	肌感	口径 (cm)	器高 (cm)	器底 (cm)	器厚 (cm)	備考	グッド	X線照	Y線照	Z線照
国産2-71	17797	3-1	—	糸織文	口縁部	(口) 連続キザミ (外) 連続押引文の 横線半文様 (内) 指線部にキザミ	粒の大きな 砂粒、葉形、 網紋	緑濁～ 茶褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.2	7層・硬質	AE-014	4055.182	5626.462	174.930
国産2-72	3099	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 波線文と連続 押引文の充塞 (内) 糸織文にヨコナデ	粒の大きな 砂粒、 金・雲母、 網紋	淡黄褐色	良	—	—	—	1.0～ 1.2	6層・硬質 段あり	AE-011	4039.312	5797.224	173.966
国産2-73	4124	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 連続押引文 による充塞 (内) 糸 織文にヨコナデ	粒の大きな 砂粒、 金・雲母、 網紋	淡黄褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.2	6層・硬質 段あり	AD-012	4036.200	5604.222	174.121
国産2-74	5960	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 波線文と連続 押引文による充塞 (内) 糸織文にヨコナデ	粒の大きな 砂粒、 金・雲母、 網紋	淡黄褐色	良	—	—	—	1.0～ 1.4	6層・硬質 段あり	AD-012	4036.487	5803.327	173.943
国産2-75	5997	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 連続押引文に よる充塞 (内) 帯 線部にヨコナデ	粒の大きな 砂粒、 金・雲母、 網紋	淡黄褐色	良	—	—	—	1.0～ 1.4	6層・硬質 段あり	AE-012	4038.408	5926.360	174.105
国産2-76	6264	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 横位の連続押 引文 (内) 波線文 にヨコナデ	粒の大きな 砂粒、 金・雲母、 網紋	淡黄褐色	良	—	—	—	0.8～ 1.2	6層・硬質 段あり	AD-012	4039.129	5809.779	174.052
国産2-77	2773	3-1	—	糸織文	口縁部	(口) 連続キザミ (外) 糸織文と波線文 と円形網紋文 (内) 中 や下帯にヨコナデ	砂粒、葉形、 網紋	緑濁～ 淡黄褐色	良	—	—	—	0.5～ 0.9	6層・硬質	AE-012	4036.612	5802.357	174.414
国産2-78	5033	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 糸織文に波線 文と円形網紋文 (内) 中や下帯にヨ コナデ	砂粒、葉形、 網紋	緑濁～ 淡黄褐色	良	—	—	—	0.8～ 1.0	6層・硬質	AE-013	4036.048	5811.270	174.424
国産2-79	20946	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 波線文と連続押 引文の横帯半文様 (内) 指線部に糸織文	粒の大きな 砂粒、葉形、 網紋	緑濁～ 淡黄褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.3	7層・硬質 段あり	AC-015	4070.283	5830.876	174.633
国産2-80	17860	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 糸織文に波線 文と円形網紋文 (内) 糸織文	砂粒、葉形、 網紋	淡黄褐色	良	—	—	—	1.0～ 1.2	7層・硬質	AC-015	4070.387	5830.190	174.816
国産2-81	17830	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 波線文と連続 押引文の横帯半 文様 (内) 指線部 に糸織文	粒の大きな 砂粒、葉形、 網紋	緑濁～ 淡黄褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.4	7層・硬質 段あり	AE-014	4070.132	5821.628	174.604
国産2-82	17843	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 連続押引文に よる充塞 (内) 糸 織文にヨコナデ	粒の大きな 砂粒、 金・雲母、 網紋	淡黄褐色	良	—	—	—	1.2	7層・硬質 段あり	AE-014	4070.025	5826.389	174.843
国産2-83	13446	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 糸織文と波線文 と円形網紋文 (内) 中 や下帯にヨコナデ	砂粒、葉形、 網紋	淡黄褐色	良	—	—	—	1.2	7層・硬質	AD-011	4066.268	5799.000	173.582
国産2-84	3950	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 糸織文に波線 文と円形網紋文 (内) 糸 織文	砂粒、葉形、 網紋	淡黄～ 淡黄褐色	良	—	—	—	0.7～ 1.2	6層	AD-011	4061.210	5798.900	174.030
国産2-85	2977	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 波線文と連続 押引文 (内) 指線 部に糸織文	粒の大きな 砂粒、葉形、 網紋	緑濁～ 淡黄褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.4	6層・硬質 段あり	AE-012	4056.987	5803.127	174.279
国産2-86	4103	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 糸織文と横列半 波線文 (内) 糸織文	砂粒、葉形、 網紋	淡黄～ 淡黄褐色	良	—	—	—	0.7～ 1.2	6層	AE-011	4038.001	5798.908	173.849
国産2-87	5946	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 糸織文に横列半 波線文 (内) 糸織文	砂粒、葉形、 網紋	淡黄～ 淡黄褐色	良	—	—	—	0.7～ 1.0	6層	AE-011	4050.280	5798.259	173.688
国産2-88	2758	3-1	—	糸織文	胴部	内外面に糸織文調 影が行われる口縁 部片で段を有する	粒の大きな 砂粒、葉形、 網紋	緑濁～ 淡黄褐色	良	—	—	—	—	6層	AD-012	4061.098	5809.536	174.302
国産2-89	6038	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 糸織文に横列半 波線文 (内) 糸織文	砂粒、葉形、 網紋	淡黄～ 淡黄褐色	良	—	—	—	0.7～ 1.2	6層	AE-013	4056.072	5810.073	174.331
国産2-90	2776	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 糸織文 (内) 指線部に糸織文	粒の大きな 砂粒、葉形、 網紋	緑濁～ 淡黄褐色	良	—	—	—	—	6層	AE-012	4024.980	5808.806	174.431
国産2-91	2781	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 糸織文 (内) 指線部に糸織文	粒の大きな 砂粒、葉形、 網紋	緑濁～ 淡黄褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.4	6層	AE-012	4025.268	5807.385	174.270
国産2-92	2154	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 糸織文 (内) 指線部に糸織文	粒の大きな 砂粒、葉形、 網紋	緑濁～ 淡黄褐色	良	—	—	—	0.9～ 1.4	5層	AC-011	4072.814	5798.820	173.607
国産2-93	7600	3-1	—	糸織文	胴部	(外) 糸織文 (内) 指線部に糸織文	粒の大きな 砂粒、葉形、 網紋	緑濁～ 淡黄褐色	良	—	—	—	0.8～ 1.4	6層	AD-012	4068.260	6006.256	173.002

図録 番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺物	形式等	部位	原文・調整	胎土	色調	織成	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図20-294	11255	3-1	-	条倉文	胴部	(外)条倉文(内)指環部に条倉文	灰の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐色	織	1	-	-	0.9-1.4	7層	AE-012	4052260	5905.003	174.209
図20-295	3573	3-1	-	条倉文	胴部	(外)条倉文(内)指環部に条倉文	灰の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐色	織	1	-	-	0.9-1.4	6層	AG-012	40722	5905.035	173.851
図20-296	4927	3-1	-	条倉文	胴部	(外)条倉文(内)指環部に条倉文	灰の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐色	織	1	-	-	0.9-1.4	6層	AD-011	4081.371	5796.244	173.627
図20-297	3453	3-1	-	条倉文	胴部	(外)条倉文(内)指環部に条倉文	灰の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐色	織	1	-	-	0.9-1.4	6層	AE-012	4059.234	5902.016	173.985
図20-298	5567	3-1	-	条倉文	胴部	(外)条倉文(内)指環部に条倉文	灰の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐色	織	1	-	-	0.9-1.4	6層	AD-012	4034.748	5907.82	174.028
図20-299	5352	3-1	-	条倉文	胴部	(外)条倉文(内)指環部に条倉文	灰の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐色	織	1	-	-	0.9-1.4	6層	AD-012	4034.300	5901.547	173.82
図20-300	5270	3-1	-	条倉文	胴部	(外)条倉文(内)指環部に条倉文	灰の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐色	織	1	-	-	0.9-1.4	6層	AE-012	4057.948	5906.549	174.153
図20-301	4093	3-1	-	条倉文	胴部	(外)条倉文(内)指環部に条倉文	灰の大きな砂粒、雲母、繊維	暗褐色	織	1	-	-	0.9-1.4	6層	AE-011	4058.64	5796.95	173.706
図20-302	5431	3-1	-	輪文	口縁部	(外)環状筋線文(内)丁字型ナギ調整	灰の大きな砂粒、雲母、繊維	淡黄褐色	織	1	-	-	0.6-0.8	6層	AC-013	4070205	5819.205	174.389
図20-303	17796	3-1	-	竹筥文土器	口縁部	(外)道結爪形文・斜位平行比線文(内)丁字型ナギ調整	金雲母多い	暗褐色	織	1	-	-	0.4-0.8	7層	AE-014	4036.422	5926.461	174.692
図20-304	17805	3-1	-	竹筥文土器	胴部	(外)道結爪形文・斜位平行比線文(内)丁字型ナギ調整	金雲母多い	暗褐色	織	1	-	-	0.7	7層	AE-014	4036.898	5925.082	174.920
図20-305	9894	3-1	-	竹筥文土器	胴部	(外)道結爪形文・斜位平行比線文(内)丁字型ナギ調整	金雲母多い	暗褐色	織	1	-	-	0.6-0.7	7層	AE-014	4056.265	5926.988	174.971
図20-306	9696	3-1	-	竹筥文土器	底部	(外)斜線文(内)丁字型ナギ調整	金雲母多い	暗褐色	織	1	-	-	0.7	6層	AE-014	4054.705	5925.098	174.938

### 3-2 A 調査区

図録 番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺物	形式等	部位	原文・調整	胎土	色調	織成	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	器厚 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
図21-201	18906	3-2A	-	輪文	口縁部	(外)環状2条線文にナギ調整(内)条倉文調整	雲母、砂粒	暗褐色	織	1	-	-	0.7-0.8	7層	AB-012	4070.723	5907.204	173.302
図21-202	12474	3-2A	-	輪文	口縁部	(外)環状2条線文にナギ調整(内)条倉文調整	雲母、砂粒	暗褐色	織	1	-	-	0.7-0.8	7層	AC-012	4076.418	5909.111	173.801
図21-203	12051	3-2A	-	押圧瓦文	口縁部	(外)環状押圧線文(内)環状2条線文	金雲母多量、砂粒	黄褐色	織	1	-	-	0.6-0.9	7層 環状は1段の幅だけ巻く	AC-012	4073.893	5908.768	173.626
図21-204	9024	3-2A	-	押圧瓦文	胴部	(外)単一位押圧線文(内)指環部にナギ調整	雲母、砂粒	黄褐色	織	1	-	-	0.6-0.8	7層 環状は1段の幅だけ巻く	AC-012	4077.362	5907.895	173.682
図21-205	19006	3-2A	-	押圧瓦文	胴部	(外)単一位押圧線文(内)指環部にナギ調整	金雲母多量、砂粒	黄褐色	織	1	-	-	0.6-1.0	7層 環状は1段の幅だけ巻く	AB-013	4036.264	5810.889	173.441
図21-206	9236	3-2A	-	押圧瓦文	胴部	(外)環状押圧線文(内)環状2条線文	金雲母多量、砂粒	黄褐色	織	1	-	-	0.6-0.6	7層 環状は1段の幅だけ巻く	AC-012	4074.332	5908.132	173.714
図21-207	19963	3-2A	-	押圧瓦文	胴部	(外)環状押圧線文(内)環状2条線文	雲母、砂粒、繊維	黄褐色	織	1	-	-	0.6-0.9	7層 環状は1段の幅だけ巻く	AB-012	4076.195	5907.38	173.259
図21-208	10982	3-2A	-	押圧瓦文	未定部	(外)多方向押圧線文(内)丁字型条倉文調整	金雲母多い	暗褐色	織	1	-	-	0.5-1.1	7層 環状は1段の幅だけ巻く	AB-012	4036.018	5907.332	173.249
図21-209	8852	3-2A	-	瓦文	口縁部	(外)瓦文(内)指環部にナギ調整	灰の大きな砂粒	黄褐色	織	1	-	-	0.7-1.1	7層	AC-012	4074.498	5907.298	173.807
図21-210	5588	3-2A	-	条倉文	胴部	(外)瓦文(内)条倉文調整	雲母、砂粒、繊維	黄褐色	織	1	-	-	1.2	6層	AB-012	4036.782	5909.367	173.677
図21-211	18416	3-2A	-	条倉文	胴部	(外)瓦文(内)条倉文調整	雲母、砂粒、繊維	黄褐色	織	1	-	-	1.2	7層	AB-013	4089.779	5811.688	173.518
図21-212	18416	3-2A	-	条倉文	胴部	(外)瓦文(内)条倉文調整	雲母、砂粒、繊維	黄褐色	織	1	-	-	1.2	7層	AB-013	4089.779	5811.688	173.518
図21-213	19871	3-2A	-	条倉文	胴部	(外)条倉文(内)条倉文調整	砂粒、雲母	黄褐色	織	1	-	-	1.2	7層	AB-012	4036.974	5908.74	173.517
図21-214	19915	3-2A	-	条倉文	胴部	(外)瓦文(内)条倉文調整	金雲母多量、砂粒、繊維	黄褐色	織	1	-	-	1.2-1.8	7層	AB-013	4032.164	5811.045	173.385

調査 番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺跡	型式等	部位	原文・調整	粘土	色調	焼成	口径 (cm)	径高 (cm)	底径 (cm)	脚径 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
第21-215	9113	3-2A	-	条状文	胴部	(外)原文(内)目録位にヨコナデ	赤褐色	黄	-	-	-	0.6	7層	AC-012	4878.593	5807.19	173.602	
第21-216	2361	3-2A	-	条状文	胴部	(外)原文(内)目録位にヨコナデ	赤褐色	黄	-	-	-	1.0	6層	AA-012	4876.761	5809.181	173.456	
第21-217	6407	3-2A	-	条状文	胴部	(外)原文(内)目録位にヨコナデ	赤褐色	黄	-	-	-	0.7	6層	AA-013	4876.566	5810.677	173.626	
第21-218	18407	3-2A	-	高弁休正直文	口縁部	(外)原位焼結文に斜位高弁休正直文(内)条状文調整	黄褐色	黄	-	-	-	1.1	7層 清水帯E層	AB-012	4878.624	5809.095	173.443	
第21-219	18415	3-2A	-	高弁休正直文	胴部	(外)原位焼結文に斜位高弁休正直文(内)条状文調整	赤褐色	黄	-	-	-	1.2	7層 清水帯E層	AA-013	4876.163	5811.981	173.583	
第21-220	6041	3-2A	-	高弁休正直文	胴部	(外)原位焼結文に斜位高弁休正直文(内)条状文調整	赤褐色	黄	-	-	-	1.2	7層 清水帯E層	AB-013	4877.114	5810.457	173.604	
第21-221	5472	3-2A	-	条状文	口縁部	(外)原位焼結文に斜位高弁休正直文(内)条状文調整	赤褐色	黄	-	-	-	1.3	6層 9061・18416と同一器体	AA-012	4876.113	5809.272	173.62	
第21-222	0061	3-2A	-	条状文	胴部	(外)原位の条状文(内)条状文調整	赤褐色	黄	-	-	-	1.1	6層 5472・18416と同一器体	AB-013	4878.942	5811.193	173.624	
第21-223	18416	3-2A	-	条状文	胴部	(外)原位の条状文(内)条状文調整	赤褐色	黄	-	-	-	1.1	7層 5472・6061と同一器体	AB-013	4876.723	5811.68	173.616	

### 3-3A 調査区

調査 番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺跡	型式等	部位	原文・調整	粘土	色調	焼成	口径 (cm)	径高 (cm)	底径 (cm)	脚径 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
第22-201	11333	3-3A	-	押型文	胴部	(外)原位山形文(内)丁寧なヨコナデ調整	赤褐色	黄	-	-	-	0.5	6層	AF-013	4876.371	5812.57	174.809	
第22-202	16380	3-3A	-	押型文	胴部	(外)原・原位山形文(内)ヨコナデ調整	赤褐色	黄	-	-	-	0.5	7層	AF-013	4877.028	5814.338	174.684	
第22-203	11327	3-3A	-	条状文	胴部	(外)原位焼結文に連絡焼結文充填(内)条状文	赤褐色	黄	-	-	-	0.8-1.3	6層	AF-013	4876.098	5814.293	174.897	
第22-204	13230	3-3A	-	条状文	胴部	(外)原位付足焼結文(内)条状文調整	赤褐色	黄	-	-	-	0.8-1.3	6層	AF-014	4874.967	5812.623	175.077	
第22-205	16400	3-3A	-	条状文	胴部	(外)原位付足焼結文(内)条状文調整	赤褐色	黄	-	-	-	0.8-1.3	7層	AF-013	4876.935	5816.447	174.846	
第22-206	11341	3-3A	-	条状文	胴部	(外)原位付足焼結文に斜位山形文(内)条状文調整	赤褐色	黄	-	-	-	0.8-1.3	6層	AF-013	4874.658	5810.847	174.871	
第22-207	16401	3-3A	-	条状文	胴部	(外)原位焼結文(内)条状文	赤褐色	黄	-	-	-	0.8-1.3	7層	AF-013	4874.767	5817.474	174.931	
第22-208	13227	3-3A	-	条状文	胴部	(外)(内)条状文	赤褐色	黄	-	-	-	1.0	6層	AF-013	4876.630	5818.063	174.986	
第22-209	13281	3-3A	-	条状文	胴部	(外)(内)条状文	赤褐色	黄	-	-	-	1.0-1.2	6層 09-12と同一器体	AF-013	4877.576	5816.325	175.128	
第22-210	11292	3-3A	-	条状文	胴部	(外)(内)条状文	赤褐色	黄	-	-	-	1.0-1.2	6層	AF-014	4874.642	5820.694	175.029	
第22-211	13214	3-3A	-	条状文	胴部	(外)(内)条状文	赤褐色	黄	-	-	-	1.0-1.2	6層	AF-013	4874.952	5816.098	174.899	
第22-212	13226	3-3A	-	条状文	胴部	(外)(内)条状文	赤褐色	黄	-	-	-	1.0-1.2	6層	AF-013	4874.222	5817.265	174.871	

### 3-3C 調査区

調査 番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺跡	型式等	部位	原文・調整	粘土	色調	焼成	口径 (cm)	径高 (cm)	底径 (cm)	脚径 (cm)	備考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
第23-201	19429	3-3C	SB3010	焼結文	口縁部	(外)原位の条状文に原位の山形文に押し出し(内)原位の山形文にヨコナデ	赤褐色	黄	-	-	-	0.6-0.9	-	AF-021	4874.441	5814.814	175.794	
第23-202	18772	3-3C	SB3010	焼結文	口縁部	(外)原位の条状文に原位の山形文に押し出し(内)原位の山形文にヨコナデ	赤褐色	黄	-	-	-	0.5-0.8	-	AF-021	4874.877	5810.287	176.302	
第23-203	20130	3-3C	SB3010	焼結文	口縁部	(外)原位の条状文に原位の山形文に押し出し(内)丁寧なナデ	赤褐色	黄	-	-	-	0.8	-	AF-021	4874.916	5810.465	176.255	
第23-204	23702	3-3C	SB3010	焼結文	口縁部	(外)原位の条状文に原位の山形文に押し出し(内)丁寧なナデ	赤褐色	黄	-	-	-	0.5-0.7	-	AF-020	4876.777	5818.746	176.498	
第23-205	17514	3-3C	SB3010	焼結文	口縁部	(外)原位の条状文に原位の山形文に押し出し(内)原位の山形文にヨコナデ	赤褐色	黄	-	-	-	0.4-0.6	-	AF-021	4874.54	5812.271	175.298	



調査 番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺構	型式等	部位	施文・調染	粘土	色調	焼成	口径 (cm)	群高 (cm)	底径 (cm)	群厚 (cm)	備考	グリフ	X線検	Y線検	Z線検
第23-206	19453	3-3C	SB3010	捺線文	口縁部	(外)青～緑色の縦線状 細線文(内)黒 丁取エリコナデ	砂粒	黒濁～ 暗褐色	黒	—	—	—	0.5～ 0.7		AF-021	4041.86	5893.373	175.935
第23-207	17128	3-3C	SB3010	捺線文	胴部	(外)緑色の縦線文 に濃紺押し出し 模様の幾何形線文 (内)丁取エリコナデ	砂粒	黒濁～ 暗褐色	黒	—	—	—	0.5～ 0.6		AF-021	4042.64	5895.427	175.814
第23-208	20290	3-3C	SB3010	捺線文	胴部	(外)緑位と2条1 単位縦位捺線文 (内)エリコナデ	砂粒	黒濁～ 暗褐色	黒	—	—	—	0.5～ 0.7		AF-021	4041.24	5891.619	176.119
第23-209	17933	3-3C	SB3010	捺線文	胴部	(外)緑位と2条1 単位縦位捺線文 (内)エリコナデ	砂粒	黒濁～ 暗褐色	黒	—	—	—	0.5～ 0.7		AF-020	4041.08	5899.674	176.712
第23-210	20623	3-3C	SB3010	捺線文	胴部	(外)緑位と2条1 単位縦位捺線文 (内)エリコナデ	砂粒	黒濁～ 暗褐色	黒	—	—	—	0.5		AF-021	4041.96	5893.2	175.922
第23-211	21504	3-3C	SB3010	捺線文	胴部	(外)緑位と2条1 単位縦位捺線文 (内)エリコナデ	砂粒	茶濁～ 暗褐色	黒	—	—	—	0.5～ 0.6		AF-020	4041.03	5895.351	176.701
第23-212	17468	3-3C	SB3010	捺線文	胴部	(外)2条1単位縦 位捺線文(内) エリコナデ	砂粒	黒濁～ 暗褐色	黒	—	—	—	0.6～ 0.7		AF-020	4041.17	5897.251	177.091
第23-213	19448	3-3C	SB3010	捺線文	胴部	(外)2条1単位縦 位捺線文(内) エリコナデ	砂粒・金 箔	茶濁～ 暗褐色	黒	—	—	—	0.5～ 0.6		AF-021	4041.67	5893.625	175.824
第23-214	19454	3-3C	SB3010	捺線文	胴部	(外)緑位と斜位縦 線文(内)丁取 エリコナデ	砂粒・金 箔	茶濁色	黒	—	—	—	0.6		AF-021	4041.70	5893.48	175.927
第23-215	20068	3-3C	SB3010	押出線文	胴部	(外)押出線文(内) 捺線文にナデ	金箔・金 箔	茶濁～ 暗褐色	黒	—	—	—	0.6～ 0.7		AF-020	4042.00	5897.573	176.574
第23-216	10340	3-3C	SB3010	赤点文	口縁部	(外)縦位捺線文 (内)赤点文・エリコナデ	金箔・金 箔	茶濁～ 暗褐色	黒	—	—	—	0.7～ 1.0		AF-020	4043.08	5888.201	176.738
第23-217	17680	3-3C	SB3010	赤点文	胴部	(外)赤点文(内) 赤点文	砂多量、 金箔等少な い、磁器	茶濁～ 暗褐色	黒	—	—	—	0.7	22233と結合 測定器底径31cm	AF-020	4042.24	5897.209	177.067
第23-218	19265	3-3C	SB3010	無文	胴部	(外)無文(内) 捺線文 黒色ナデ	砂多量、 金箔等少な い、磁器	茶濁～ 暗褐色	黒	—	—	—	0.7～ 0.9	24974と結合	AF-020	4043.37	5895.225	177.202
第24-201	17415	3-3C	—	山岳文	口縁部	(外)紅位捺線文 に楊子押出文寛狭 (内)ナデ	白色粒	茶濁色	黒	—	—	—	0.5～ 0.7	7層	AF-020	4043.24	5895.436	177.576
第24-202	17046	3-3C	—	赤点文・ 捺線文	胴部	(外)楊子捺線文 (内)赤点文	白色粒、 磁器	暗褐色	黒	—	—	—	0.8～ 1.1	6層	AF-020	4041.96	5896.377	177.386

### 3-3E 調査区

調査 番号	遺物 番号	出土 調査区	出土 遺構	型式等	部位	施文・調染	粘土	色調	焼成	口径 (cm)	群高 (cm)	底径 (cm)	群厚 (cm)	備考	グリフ	X線検	Y線検	Z線検
第25-201	20718	3-3E	—	木舟式	口縁部	(外)緑位の縦線文 に捺線文(内)黒 顔面にナデ	細かい金 箔	淡黄色	黒	—	—	—	0.4～ 0.5	7層	AI-028	4013.50	5922.814	177.96
第25-202	20718	3-3E	—	木舟式	胴部	(外)緑位の縦線文 (内)捺線文にナデ	細かい金箔 も、白色粒	淡黄色	黒	—	—	—	0.3	7層	AI-028	4013.50	5922.814	177.96
第25-203	20768	3-3E	—	縄文	口縁部	(外)斜線文 (内)エリコナデ	金箔等、砂 粒、磁器	暗褐色	黒	—	—	—	0.4～ 0.7	7層	AI-027	4015.93	5957.81	177.400
第25-204	20761	3-3E	—	縄文	胴部	(外)斜線文 (内)ナデ	金箔等、砂 粒、磁器	茶濁色	黒	—	—	—	0.7	7層	AI-027	4014.29	5957.438	177.406
第25-205	20770	3-3E	—	捺線文	胴部	(外)縦位捺線文 (内)捺線文にエリコナデ	金箔等、砂 粒、磁器	茶濁色	黒	—	—	—	0.8	7層	AI-027	4017.39	5965.414	177.159

### 3-4 調査区

調査 番号	遺物 番号	出土 位置	出土 遺構	型式等	部位	施文・調整	胎土	色別	質地	口径 (cm)	胎高 (cm)	底径 (cm)	厚径 (cm)	備考	グリフ	X座標	Y座標	Z座標
遺27-201	21493	3-4	-	押注焼文	口縁部	(口)キザミ(外) 斜注押注焼文(内) 微調整にナズ調整	雲母、珪 に大きな砂 粒、繊維	黒褐色	良	-	-	-	0.5	7層 不明確 な厚体左巻キ 付付	AF-012	4040.040	5005.089	173.982
遺27-202	16851	3-4	-	押注焼文	口高部	(外)多方向押注焼 文 突起部に六角形 突起部が環状(内) 微調整にナズ調整	雲母、砂 粒、繊維	黒褐色	良	-	-	-	0.4- 1.2	7層 1段縞 状厚体左巻キ 付付	AF-012	4040.060	5005.095	174.040
遺27-203	16636	3-4	-	押注焼文	口縁部	(口)先い(外) 斜注に太い厚体の 押注焼文(内)微 調整にナズ調整	雲母、珪 に大きな 砂粒	黒褐色	良	-	-	-	0.8- 1.1	7層 不明確 な縞状厚体	AF-012	4039.989	5004.889	174.073
遺27-204	16465	3-4	-	押注焼文	胴部	(外)斜注に太い厚 体の押注焼文(内) 微調整にナズ調整	雲母、珪 に大きな 砂粒	黒褐色	良	-	-	-	0.8- 1.0	7層	AF-012	4039.840	5005.101	174.072
遺27-205	5933	3-4	-	朱塗文	胴部	(外)(内)朱塗文	雲母、砂 粒、繊維	赤褐色	良	-	-	-	0.8- 1.1	6層	AE-012	4039.644	5007.871	174.458
遺27-206	5943	3-4	-	焼文	胴部	(外)焼文(内) 微調整にナズ調整	雲母、砂 粒、繊維	赤褐色	良	-	-	-	0.9- 1.2	7層	AO-013	4071.703	5014.009	173.761
遺27-207	15312	3-4	-	焼文	胴部	(外)焼文(内) 微調整にナズ調整	雲母、砂 粒、繊維	赤褐色	良	-	-	-	0.9- 1.2	7層	AE-012	4032.765	5005.177	174.209











### 3-3 D・E 調査区

調査番号	遺物番号	出土調査区	出土遺物	層位	形 種	石 材	測 量				備 考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
							最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)					
遺25-401	23874	3-3E	883008	—	尖頭鏃	ガラス質黒色 安山岩	5.05	2.0	0.9	9.4	発射品	AI-028	-83713.091	5964.609	177.392
遺25-402	21957	3-3E	883008	—	尖頭鏃	珪質頁岩	7.5	2.1	0.8	13.0	先端部欠損	AI-028	-83714.034	5964.292	177.627
遺25-403	24055	3-3E	883008	—	尖頭鏃	安山岩	7.3	2.0	0.8	14.3	鋒部磨損	AI-028	-83712.765	5964.703	177.311
遺25-404	23875	3-3E	883008	—	尖頭鏃	安山岩	5.0	1.8	0.7	9.9	先端部欠損	AI-028	-83713.48	5964.634	177.318
遺25-405	22061	3-3E	883008	—	尖頭鏃	頁岩	7.8	2.0	0.8	11.4	発射品	AI-028	-83711.773	5966.642	177.842
遺25-406	22062	3-3E	883008	—	尖頭鏃	砂岩	8.1	2.0	0.9	10.4	発射品	AI-028	-83712.335	5957.517	177.885
遺25-407	22024	3-3E	883008	—	尖頭鏃	砂岩	6.5	2.1	0.7	8.5	発射品	AI-028	-83714.306	5964.64	177.541
遺25-408	22112	3-3E	883008	—	尖頭鏃	頁岩	5.8	1.8	0.7	8.8	先端部欠損	AI-028	-83713.508	5965.113	177.493
遺25-409	23893	3-3E	883008	—	尖頭鏃	頁岩	(3.3)	2.3	0.8	8.5	1/2 残存(先端部)	AI-028	-83713.28	5964.829	177.36
遺25-410	22081	3-3E	883008	—	鏃・鏃石	アブライト	5.1	7.3	6.4	476.0	1/2 残存・半割	AI-027	-83719.665	5956.782	177.267
遺25-411	21568	3-3E	883008	—	鏃・鏃石	輝石安山岩	9.4	7.4	5.3	464.0	発射品・後凹部	AI-028	-83714.008	5964.796	177.793
遺25-412	22073	3-3E	883008	—	鏃・鏃石	石英珪岩	10.7	10.2	5.4	803.0	発射品・後凹部	AI-027	-83716.036	5958.478	177.512
遺25-413	22113	3-3E	883008	—	鏃・鏃石	輝石安山岩	10.6	10.2	9.7	3940.0	五角形	AI-028	-83713.632	5965.201	177.373

### 3-4 調査区

調査番号	遺物番号	出土調査区	出土遺物	層位	形 種	石 材	測 量				備 考	グリッド	X座標	Y座標	Z座標
							最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)					
遺26-401	6441	3-4	—	6B	石鏃	珪質頁岩	2.5	1.9	0.4	1.0	発射品・凹溝	AE-012	-83752.960	5806.692	174.415
遺26-402	17300	3-4	—	7	鏃・鏃石	珪質砂岩	9.7	7.4	4.0	369.0	発射品・後凹部	AF-012	-83747.100	5805.496	175.936
遺26-403	6459	3-4	—	6B	鏃・鏃石	珪質砂岩	(9.0)	9.0	6.0	642.0	1/2 残存・半割 タンプ	AE-012	-83752.670	5804.718	174.238
遺26-404	6455	3-4	—	6B	鏃・鏃石	珪質砂岩	(9.4)	10.7	3.2	327.0	1/2 残存・半割 タンプ	AE-012	-83753.605	5804.784	174.216
遺26-405	16823	3-4	—	7B	鏃・鏃石	中粒砂岩	8.9	6.6	3.3	225.0	発射品・後凹部	AF-012	-83748.824	5806.382	174.215



## 参考・引用文献

### 論文

- 秋元真澄 1987 「芝川町小塚遺跡出土の縄文時代草創期の土器」『加藤学園考古学研究所報』14 所収
- 安達厚三 1995 「石皿」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 阿部芳郎 2001 「縄文土器の誕生」『NHKスペシャル 日本人はるかな旅 マンモスハンター、シベリアからの旅立ち』第1巻所収
- 池谷信之 1995 「駿豆地方縄文時代草創期の居住地について」日本考古学協会第61回総会発表要旨
- 池谷信之 1996a 「愛鷹山麓の縄文時代草創期の遺物」『静岡県考古学会シンポジウムIX 「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年」収録集』所収
- 池谷信之 1996b 「愛鷹山麓旧石器時代主要文献一覧」『静岡県考古学会シンポジウムIX 「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年」収録集』所収
- 池谷信之 1996c 「愛鷹山麓旧石器時代調査遺跡一覧」『静岡県考古学会シンポジウムIX 「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年」収録集』所収
- 池谷信之 1996d 「愛鷹山麓旧石器時代調査遺跡分布図」『静岡県考古学会シンポジウムIX 「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年」収録集』所収
- 池谷信之 1996e 「追加図版」『静岡県考古学会シンポジウムIX 「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年」収録集』所収
- 池谷信之 2003 「本州島中部の様相 東海地方の隆帯土器と列島南岸」『季刊考古学 特集縄文文化の起源を探る』第83集 所収
- 大竹憲昭 2003 「移行期の石器群の変遷」『季刊考古学 特集縄文文化の起源を探る』第83集 所収
- 大塚正典 1987 『考古学ライブラリー 49 配石遺構』ニュー・サイエンス社
- 岡村道夫 1995 「ピエス・エスキュー、楔形石器」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 岡本東三 2003 「多岐亡羊の縄紋文化起源論」『季刊考古学 特集縄文文化の起源を探る』第83集 所収
- 小田静雄 1995 「スタンプ形石器」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 小野田正樹 1995 「半月形石器」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 小金澤保雄 2002 「遺跡速報 静岡県芝川町 窪A遺跡の調査」『考古学ジャーナル』所収
- 小林謙一 1999 「花見山遺跡の縄文草創期土器に就いて」『横浜市歴史博物館紀要』第三号所収
- 小林泰男 1995 「組成論」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 五味一郎 1995 「石匙」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 坂本彰・望月芳 1999 「花見山式土器の出土状況補遺」『横浜市歴史博物館紀要』第三号所収
- 白石浩之 2003 「縄文文化のはじまり」『季刊考古学 特集縄文文化の起源を探る』第83集所収
- 鈴木次郎 1995 「打製石斧」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 鈴木正博 2003 「草創期「古文様帯」の分析視点」『季刊考古学 特集縄文文化の起源を探る』第83集所収
- 鈴木道之助 1995 「石織」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 砂田佳弘 1995 「石槍」『縄文文化の研究 7 道具と技術』(第2版) 所収
- 関野哲夫 1990 「第IV篇所見 第I章先土器時代 第II章縄文時代第1節先土器時代終末～縄文時代草創期前半に遺物について」『清水柳北遺跡発掘調査報告書 その2』沼津市文化財発掘調査報告書48所収
- 田中英司 2003 「デボの視点」『季刊考古学 特集縄文文化の起源を探る』第83集 所収
- 谷口康浩 2001 「縄文時代遺跡の年代」『季刊考古学 特集 年代と産地の考古学』第77集所収
- 前嶋秀張・森島富士夫 2003 「ホルンフェルスの入手先を明らかにする」『静岡県考古学

研究】No.35 所収

- 光石嘯巳 2003 「本州島西半部の様相 東海西部・近畿地方」『季刊考古学 特集縄文文化の起源を探る』第 83 集 所収
- 宮下健司 1995 「有溝砥石」『縄文文化の研究 7 道具と技術』（第 2 版）所収
- 矢島國男・前山清明 1995 「石錐」『縄文文化の研究 7 道具と技術』（第 2 版）所収

書籍

愛知県 『愛知県史』

朝日新聞編 2000 『考古学クロニクル 2000』

池谷信之 2005 『シリーズ「遺跡を学ぶ」014 黒潮を渡った黒曜石 見高段間遺跡』新泉社

稲田孝司 2001 『先史日本を復元する 1 遊動する旧石器人』岩波書店

大塚達朗 2000 『縄文土器研究の新展開』同成社

大塚初重・戸沢光則・佐原眞 1979 『日本考古学を学ぶ② 原始・古代の生産と生活』（新版）有斐閣選書

可見通宏 2005 『考古学研究調査ハンドブック② 縄文土器の技法』同成社

加藤晋平・小林達雄・藤本強編 1995 『縄文文化の研究 7 道具と技術』（第 2 版）雄山閣

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 1999 『出土品図録』

坂本彰 2005 『鶴見川流域の考古学 最古の縄文土器やなぞの中世城館にいどむ』百水社

佐々木高明 1991 『日本の歴史① 日本史誕生』集英社

佐原眞 2005 『佐原眞の仕事 道具の考古学』（金関恕・春成秀爾編）岩波書店

静岡県 『静岡県史 資料編 考古一』

静岡県 『静岡県史 資料編 考古一』

静岡県 『静岡県史 通史編 一』

静岡県考古学会シンポジウム実行委員会 1996 『静岡県考古学会シンポジウムⅨ 「愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年」収録集』

鈴木公雄 2002 『歴史文化ライブラリー 140 銭の考古学』吉川弘文館

泉福寺洞穴研究編刊行会 2002 『泉福寺洞穴研究編』

谷口康浩 2005 『感情集落と縄文社会構造』学生社

堤隆 2004a 『シリーズ「遺跡を学ぶ」009 氷河期を生き抜いた狩人 矢出川遺跡』新泉社

堤隆 2004b 『黒曜石 3 万年の旅』NHKブックス 1015

長門町立黒曜石体験ミュージアム編 2004 『シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊 01 黒曜石の原産地を探る 廣山遺跡群』新泉社

長野県 1988 『長野県史 考古資料編 全一巻（4）遺構・遺物』

奈良県立橿原考古学研究所所屬博物館 2001 『縄文文化の起源を探る はじめての土器を手にしたひとびと』特別展図録第 56 冊

林謙作 2004 『縄紋時代史Ⅱ』雄山閣

文化庁編 2000 『2000 発掘された日本列島 新発見考古速報』朝日新聞

文化庁編 2001 『2001 発掘された日本列島 新発見考古速報』朝日新聞

文化庁編 2002 『2002 発掘された日本列島 新発見考古速報』朝日新聞

文化庁編 2003 『2003 発掘された日本列島 新発見考古速報』朝日新聞

文化庁編 2004 『2004 発掘された日本列島 新発見考古速報』朝日新聞

山梨県史 1999 『山梨県史 資料編2 原始・古代2』

雄山閣 2001 『季刊考古学 特集 年代と産地の考古学』第77集

雄山閣 2003 『季刊考古学 特集 縄文文化の起源を探る』第83集

横浜市歴史博物館・(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター 1996 『縄文時代  
草創期 資集』NHKスペシャル「日本人」プロジェクト編 2001 『NHKスペシャル  
日本人はるかな旅 マンモスハンター、シベリアからの旅立ち』第1巻

## 報告書

大仁町教育委員会・加藤学園考古学研究所 1986 『仲道A遺跡』大仁町埋蔵文化財調査報告9

函南町教育委員会 1989 『柳沢B遺跡』『函南スプリングゴルフ場用地内埋蔵文化財発掘調査報告書』

芝川町教育委員会・1972 『駿河小塚』

中伊豆町教育委員会 1996 『甲之背遺跡』

沼津市教育委員会 1989 『中見代Ⅰ遺跡 (a・b区) 発掘調査報告書』沼津市文化財発掘調査報告書 45

沼津市教育委員会 1989 『清水柳北遺跡発掘調査報告書 その1』沼津市文化財発掘調査報告書 47

沼津市教育委員会 1990 『清水柳北遺跡発掘調査報告書 その2』沼津市文化財発掘調査報告書 48

沼津市教育委員会 1992 『尾上イラウネ遺跡発掘調査報告書Ⅱ』沼津市文化財発掘調査報告書 53

沼津市教育委員会 1999 『西洞遺跡 (b区-1) 発掘調査報告書』沼津市文化財発掘調査報告書 69

沼津市教育委員会 2001 『葛原沢第Ⅳ遺跡 (a・b区) 発掘調査報告書』沼津市文化財発掘調査報告書 77

富士川町教育委員会 1981 『木島』

三島市教育委員会 1992 『三島市スプリングCCゴルフ場用地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』

大和市教育委員会 1990 『長堀北遺跡 資料編』大和市文化財調査報告書第39集

大和市教育委員会 1991 『長堀北遺跡 本文編』大和市文化財調査報告書第39集

報告書抄録

ふりがな	おおしかくぼいせき・くぼびーいせき		
書名	大鹿窪遺跡・窪B遺跡		
副書名	県営中山間地域総合整備事業柚野の里ほ場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（遺物編）		
シリーズ名		シリーズ番号	
編著者名	小金澤保雄		
編集機関	静岡県富士郡芝川町教育委員会		
所在地	静岡県富士郡芝川町長貫 1211-1	TEL	(0544) 65-0402
発行年月日	西暦 2006年3月17日		

所収遺跡名	所在地	コード	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村 遺跡番号	北緯 東経		m <sup>2</sup>	
おおしかくぼいせき・くぼびーいせき	しばかわちょうお おしかくぼ	22316	35° 14' 10" 138° 33' 51"	2001年10月27日 ?	3846	ほ場整備事業
大鹿窪遺跡・窪B 遺跡	静岡県富士郡芝川 町大鹿窪			2002年3月22日		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大鹿窪遺跡	集落跡	縄文時代草創期 縄文時代早前期 中世	堅穴状遺構 土坑 配石遺構 集石遺構	縄文土器 石器 銭貨	縄文時代草創期の集落跡が検出された

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
窪B遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代以降	土坑 集石遺構 竪立柱建物跡	石器	

## 大鹿窪遺跡 窪B遺跡

一 県営中山間地域総合整備事業柚野の里ほ場整備に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書一  
(遺物編)

2006年3月17日 発行

芝川町教育委員会  
静岡県富士郡芝川町長貫 1211-1  
TEL 0544-65-0402

印刷：株式会社きうちいんさつ

写

真



01

写真 1-1 2-3 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器



01



02



03



04

写真 2-1 2-4 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器



01

写真 2-2 2-4 調査区 中世 34号土坑出土 陶磁器

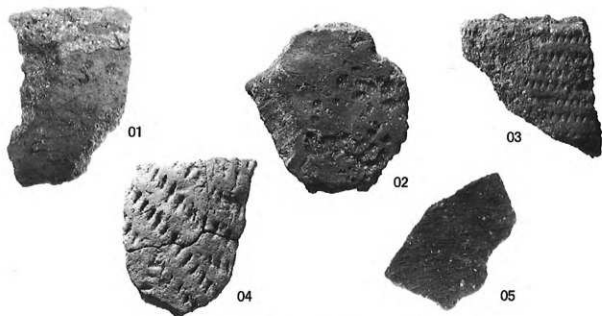


写真 3-1 2-5 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器

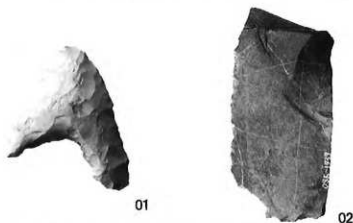


写真 3-2 2-5 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器

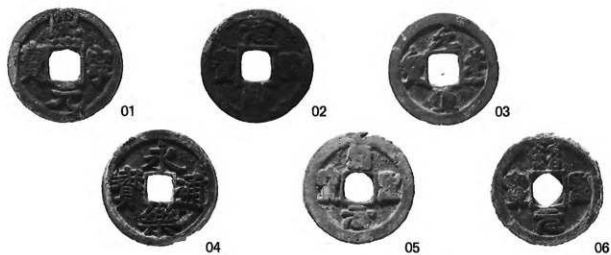


写真 3-3 2-5 調査区 中世 土壌墓出土 銭貨

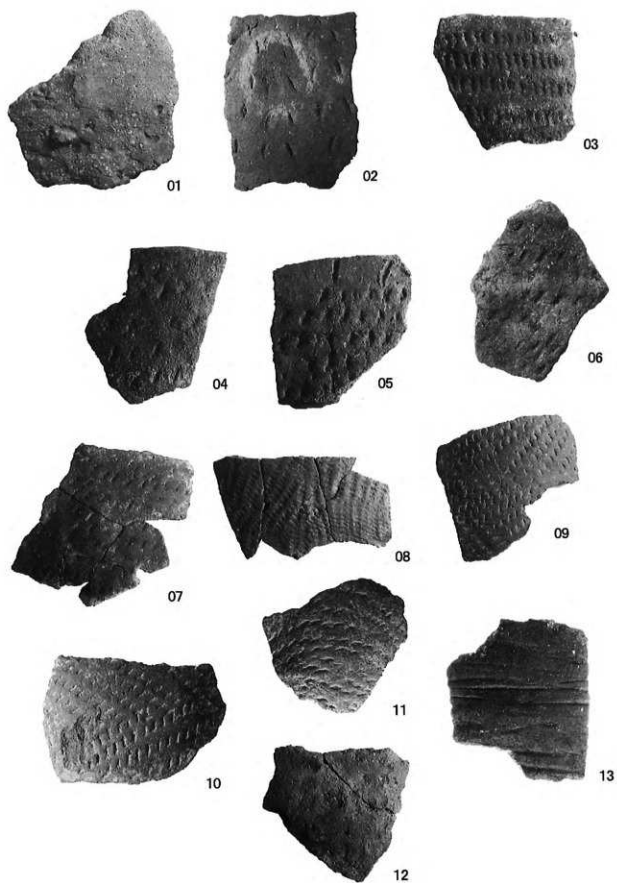


写真 4-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 土器



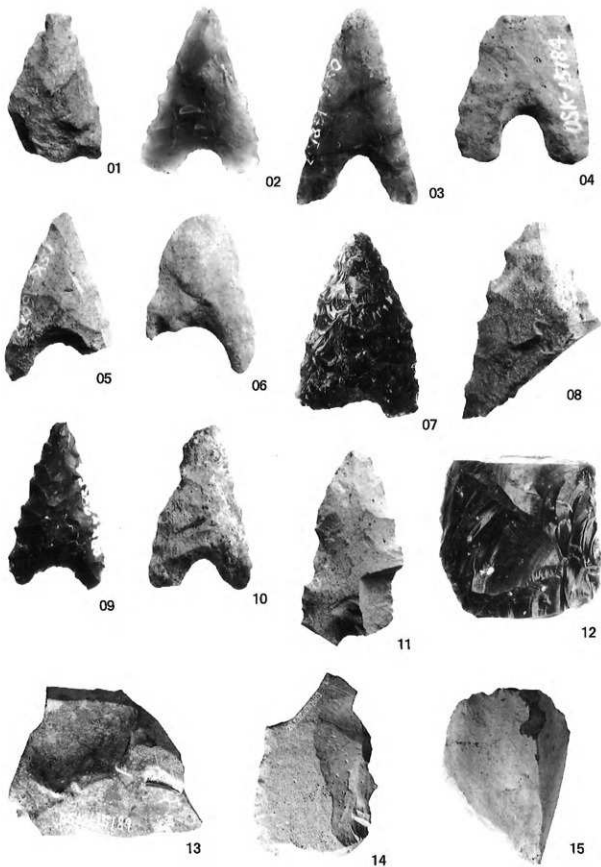


写真 4-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 石器①

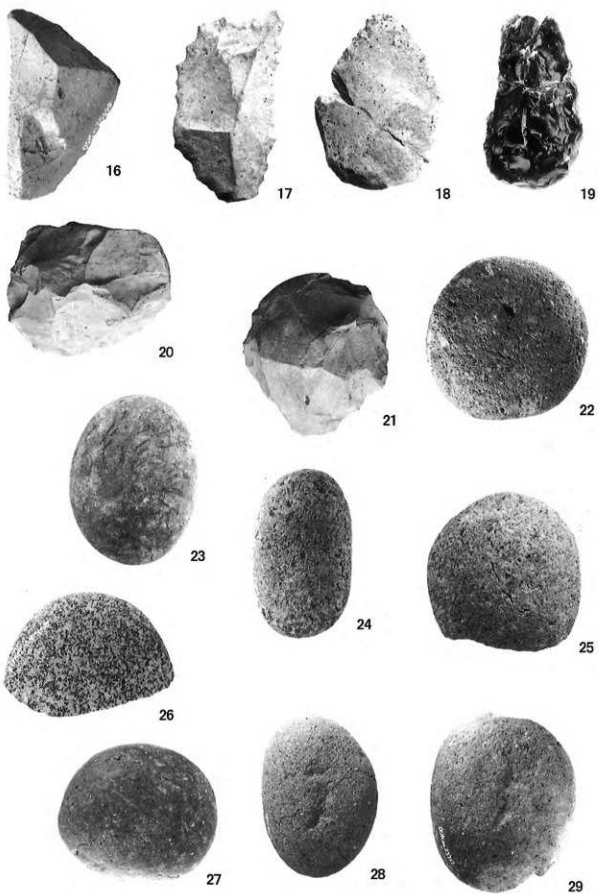


写真4-2 3-1調査区 縄文時代草創期 1号竖穴状遺構出土 石器②

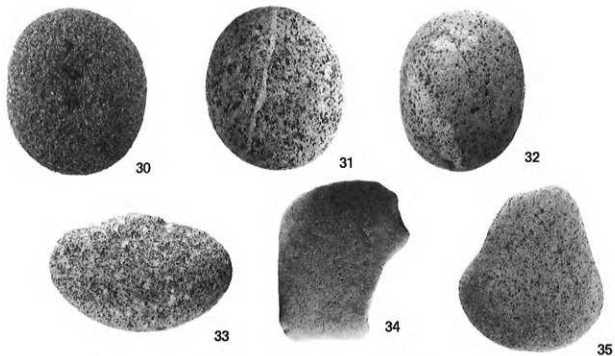


写真 4-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号竪穴状遺構出土 石器③

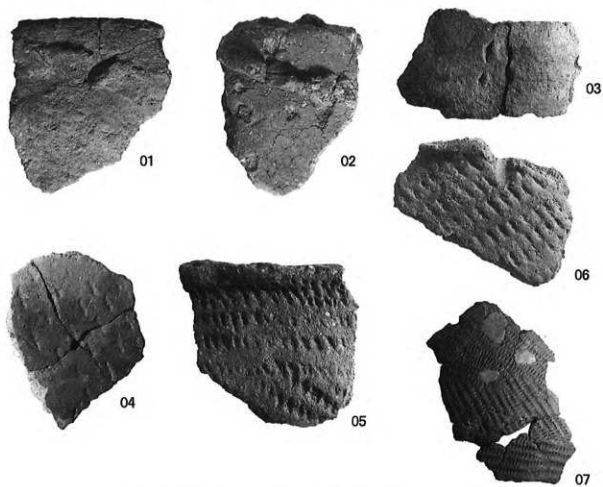


写真 5-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 土器①

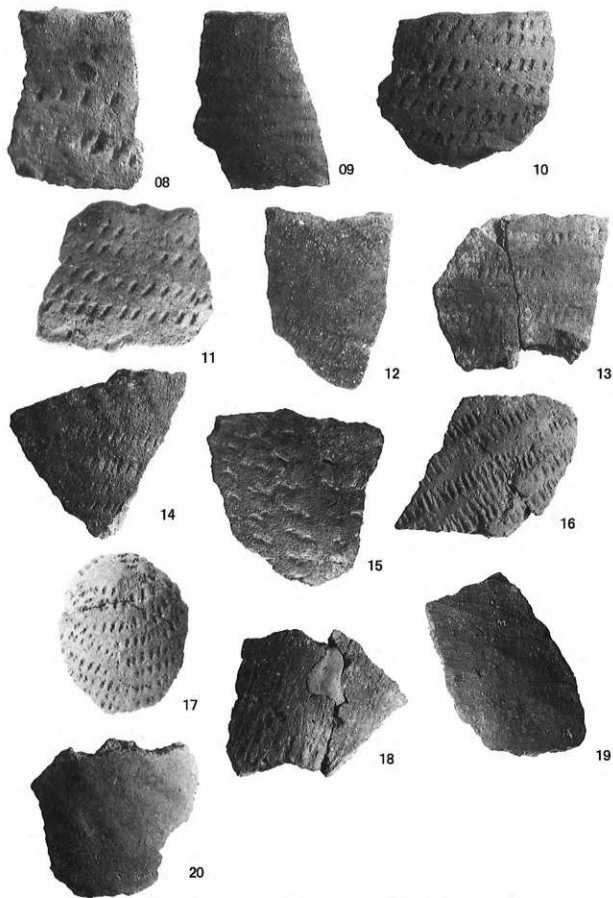


写真 5-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 土器②

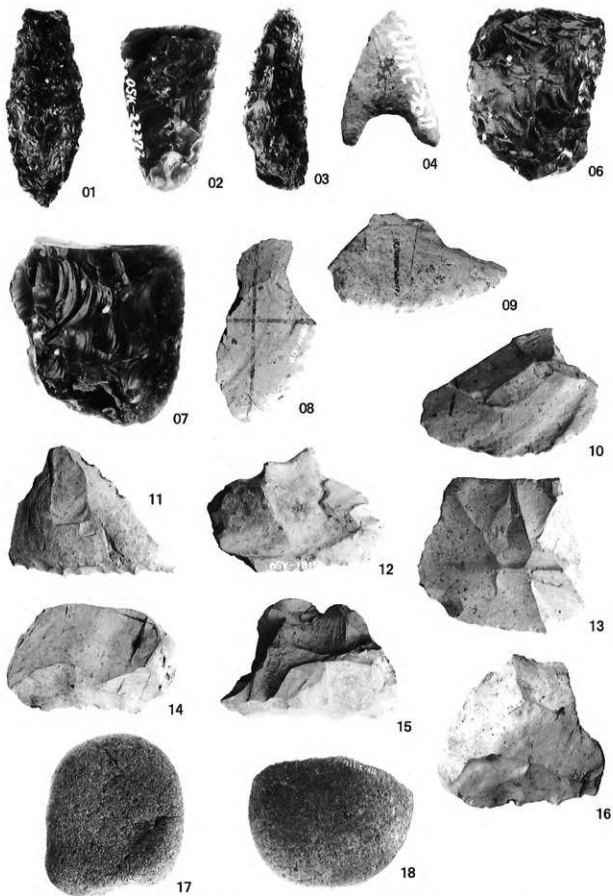


写真 5-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号堅穴状遺構出土 石器①

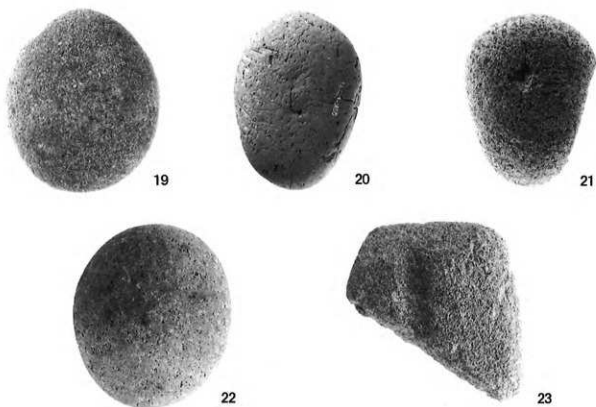


写真 5-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号竪穴状遺構出土 石器②

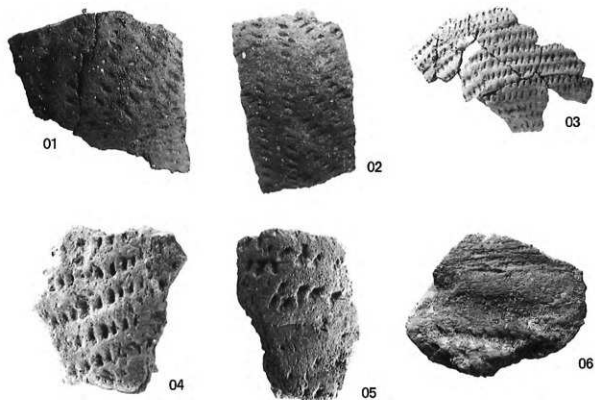


写真 6-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 土器①

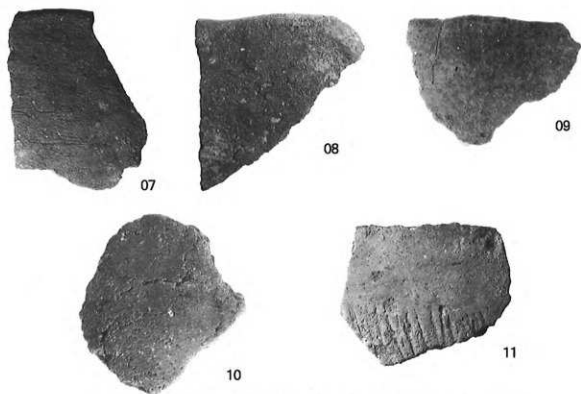


写真 6-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 土器②

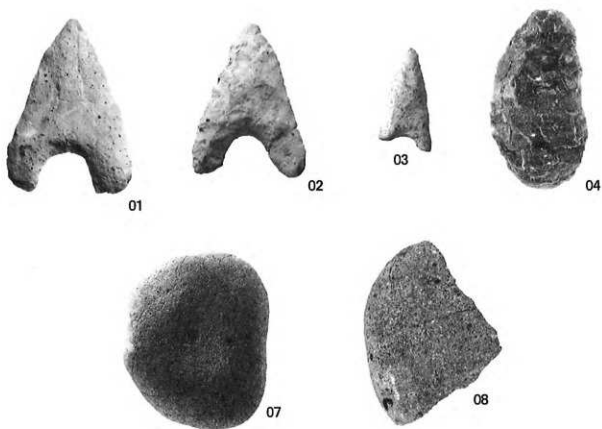


写真 6-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構出土 石器

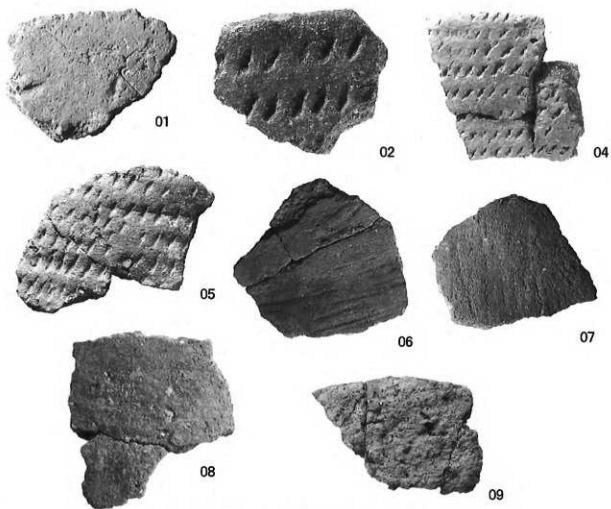


写真 7-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 4号竪穴状遺構出土 土器

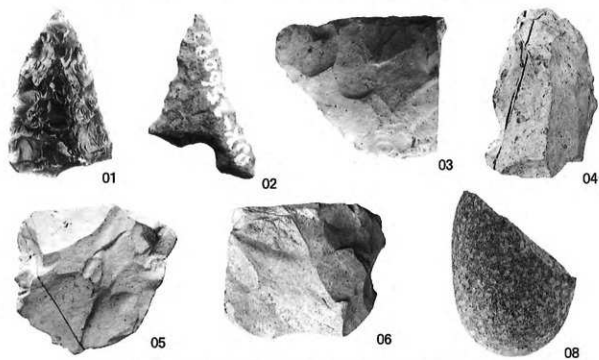


写真 7-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 4号竪穴状遺構出土 石器①



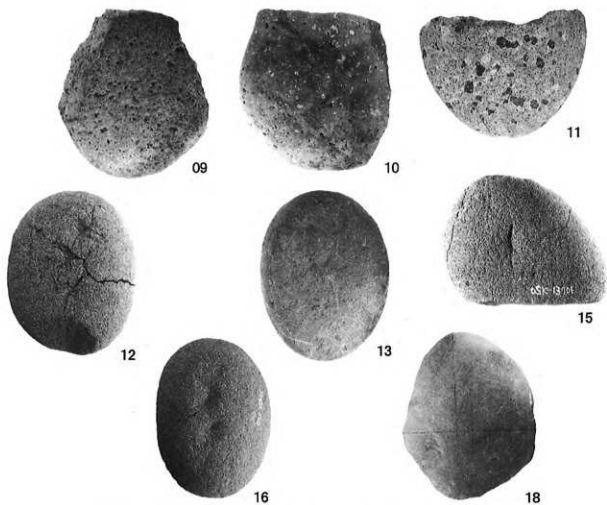


写真 7-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 4号竪穴状遺構出土 石器②

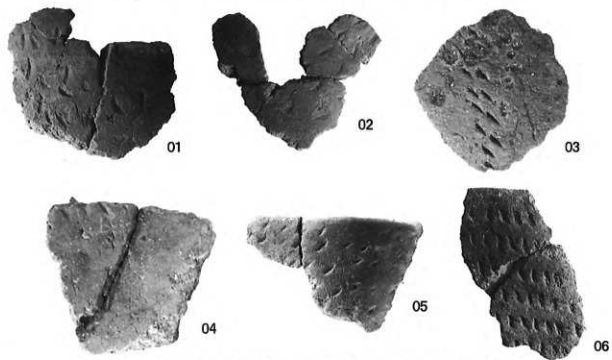


写真 8-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号竪穴状遺構出土 土器①

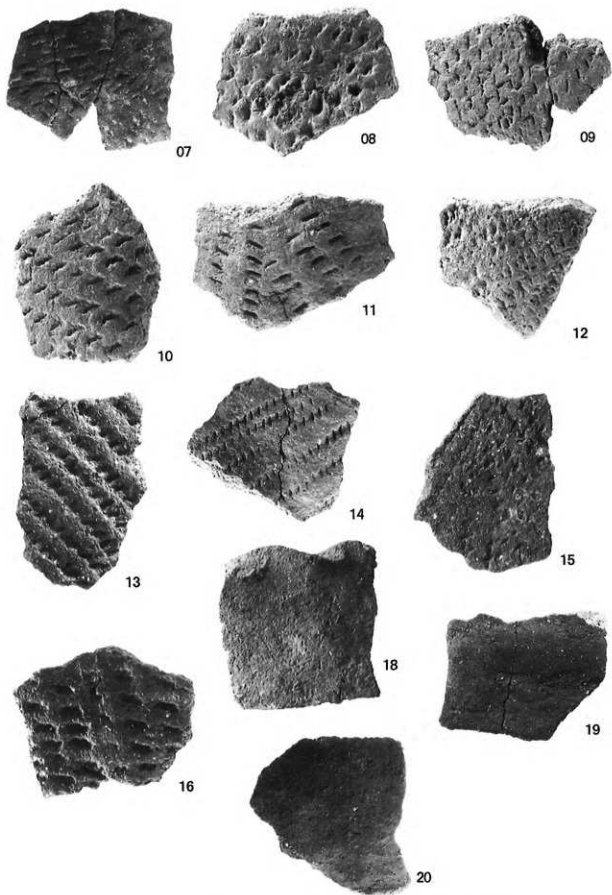


写真 8-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号竪穴状遺構出土 土器②

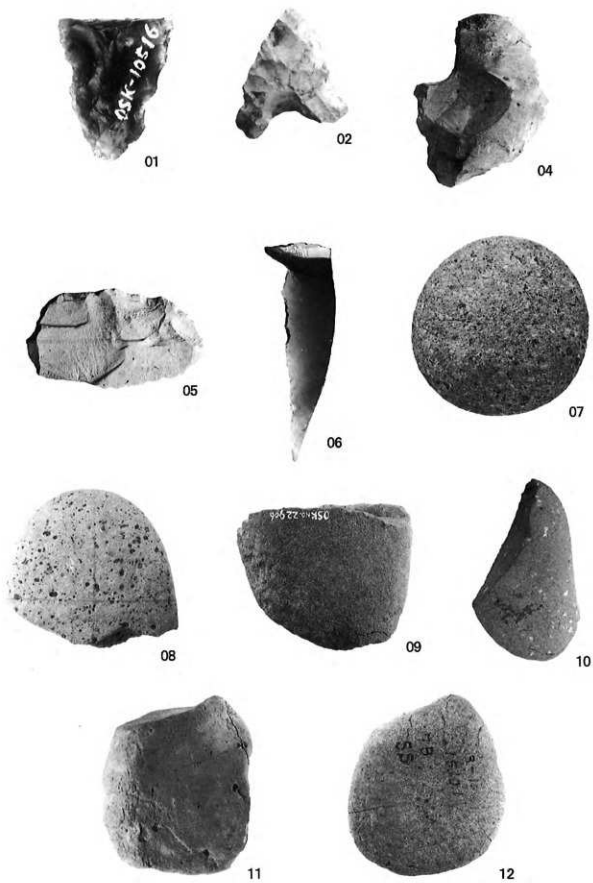


写真 8-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号竪穴状遺構出土 石器



01



02



03



04



05



06



07



08

写真 9-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号竪穴状遺構出土 土器

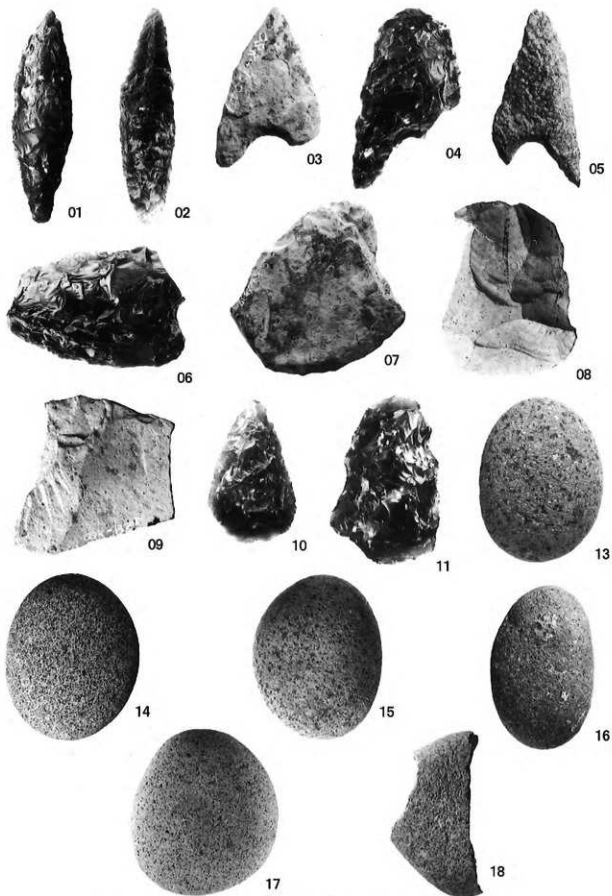


写真9-2 3-1調査区 縄文時代草創期 6号豎穴状遺構出土 石器

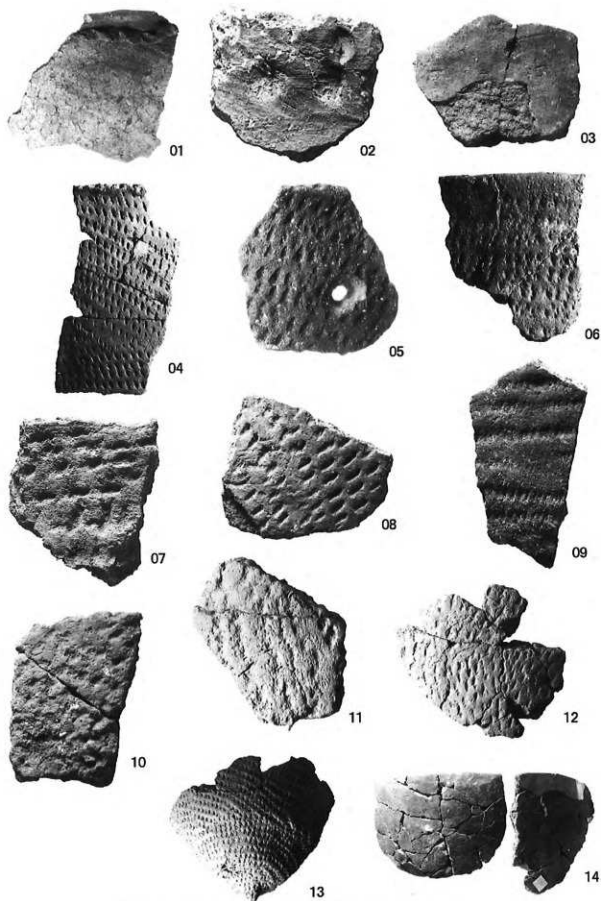


写真 10-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竖穴状遺構出土 土器①

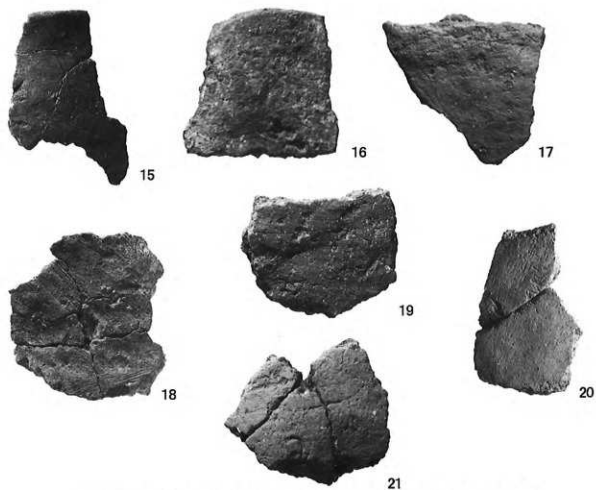


写真 10-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竪穴状遺構出土 土器②

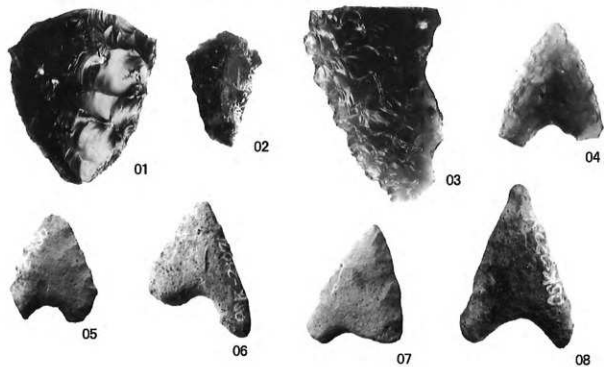


写真 10-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竪穴状遺構出土 石器①

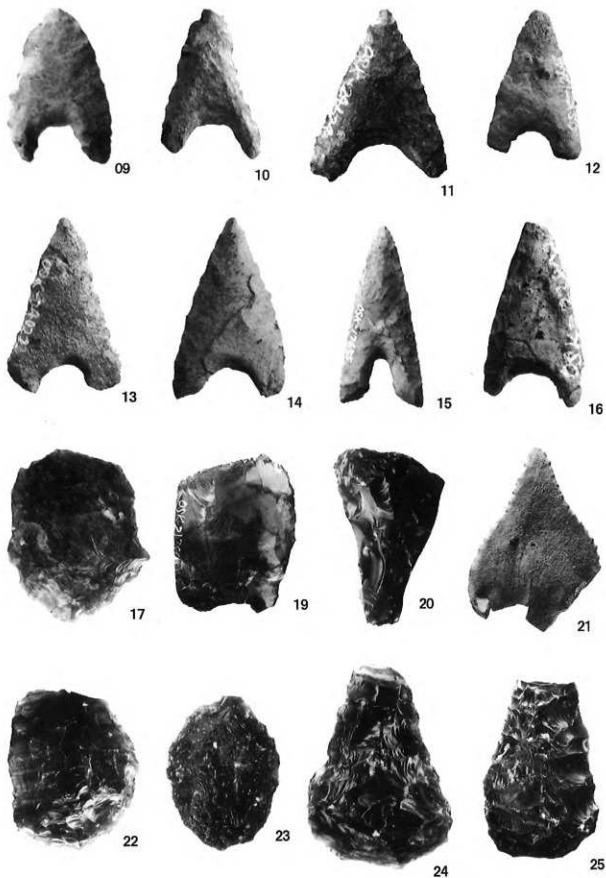


写真10-2 3-1調査区 縄文時代草創期 7号竪穴状遺構出土 石器②



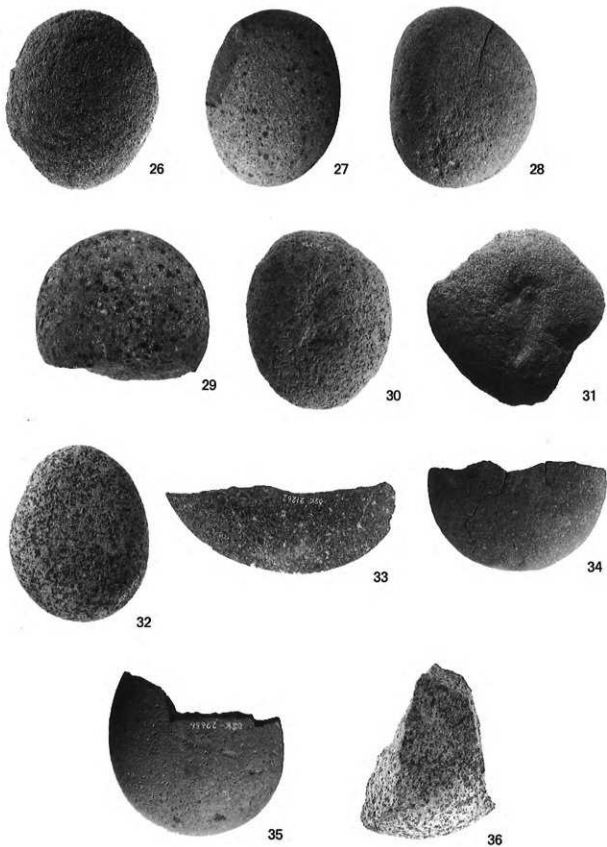


写真 10-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 7号竪穴状遺構出土 石器③

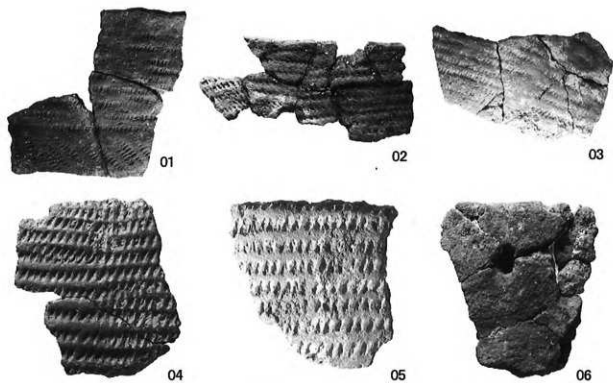


写真 11-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 9号壺穴状遺構出土 土器

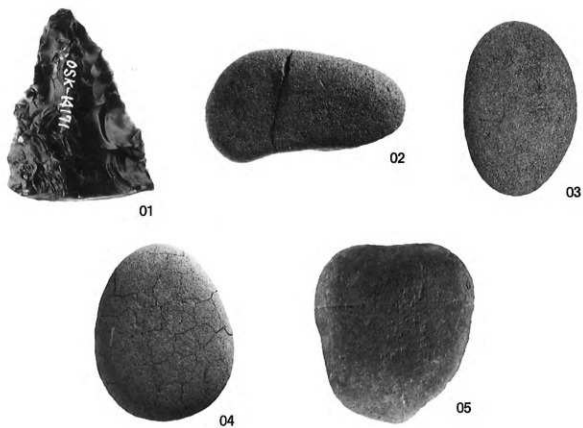


写真 11-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 9号壺穴状遺構出土 石器



写真 12-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竖穴状遺構出土 土器

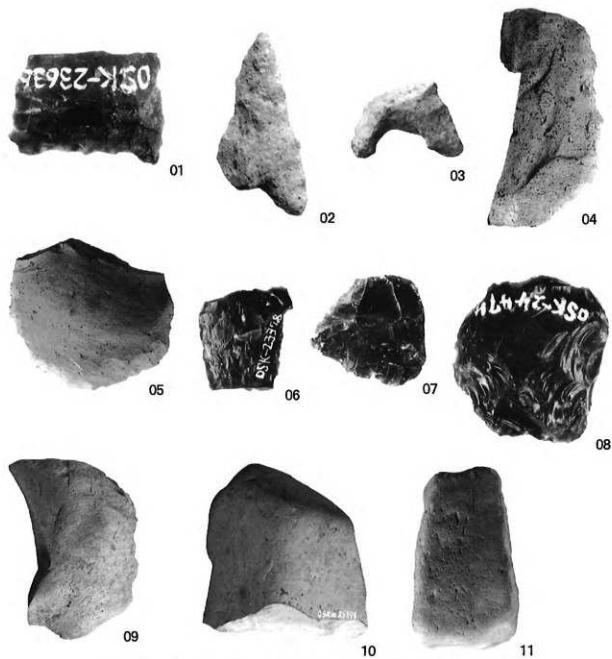


写真 12-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号竖穴状遺構出土 石器

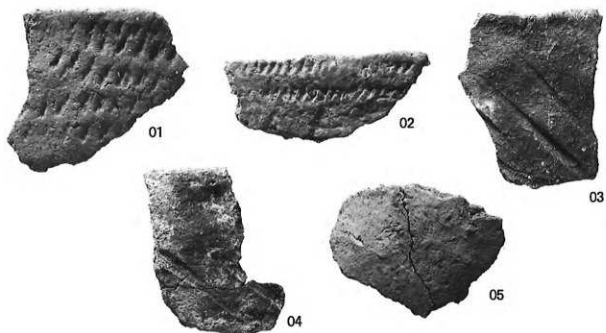


写真 13-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 12号竪穴状遺構出土 土器

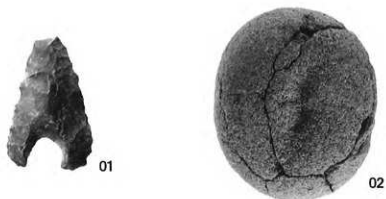


写真 13-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 12号竪穴状遺構出土 石器

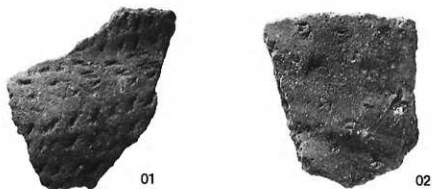


写真 14-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 14号竪穴状遺構出土 土器



01



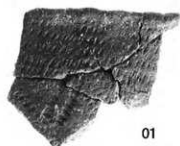
02

写真 15-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 51号土坑出土 土器



01

写真 16-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 52号土坑出土 土器



01



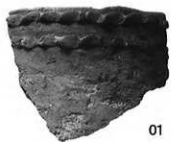
05

写真 17-1 3-1 調査区 縄文時代草創期 53号土坑出土 土器



01

写真 17-2 3-1 調査区 縄文時代草創期 53号土坑出土 石器



01



02



03



04



05



06

写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器①

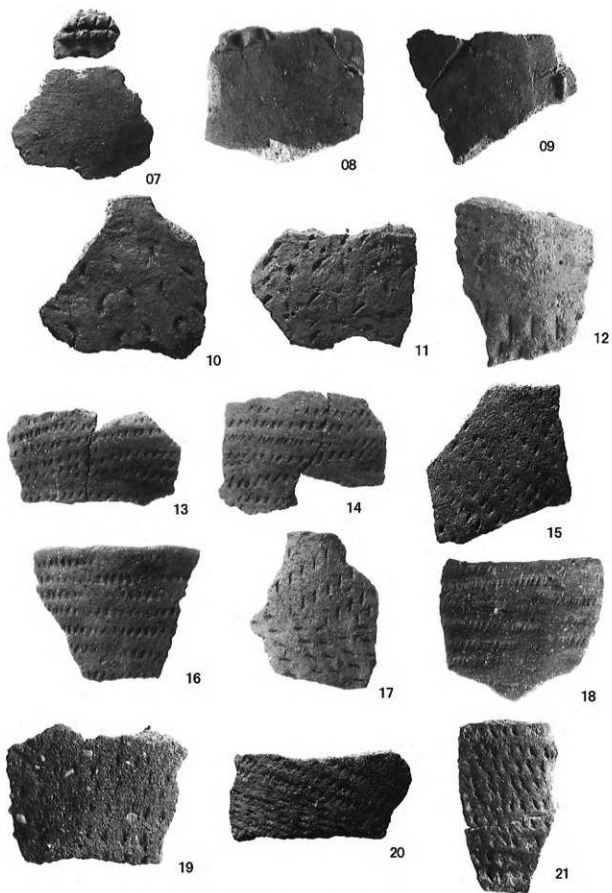


写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器②

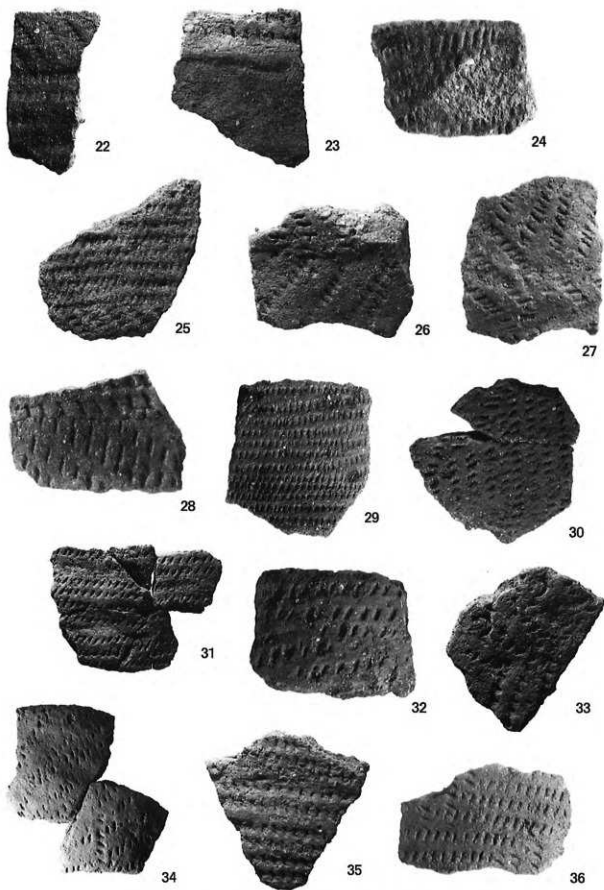


写真 18-1 3-1調査区 縄文時代 グリッド出土 土器③



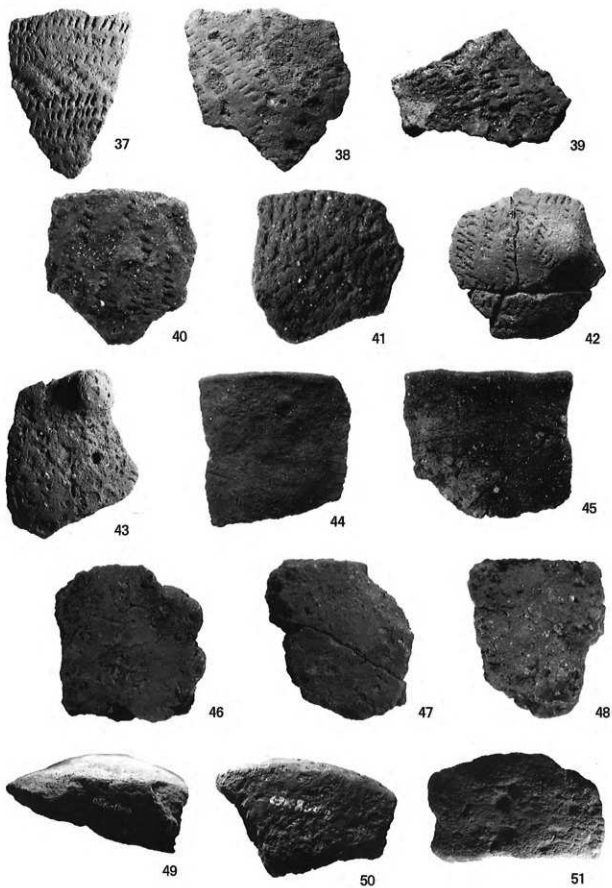


写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器④



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63

写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器⑤

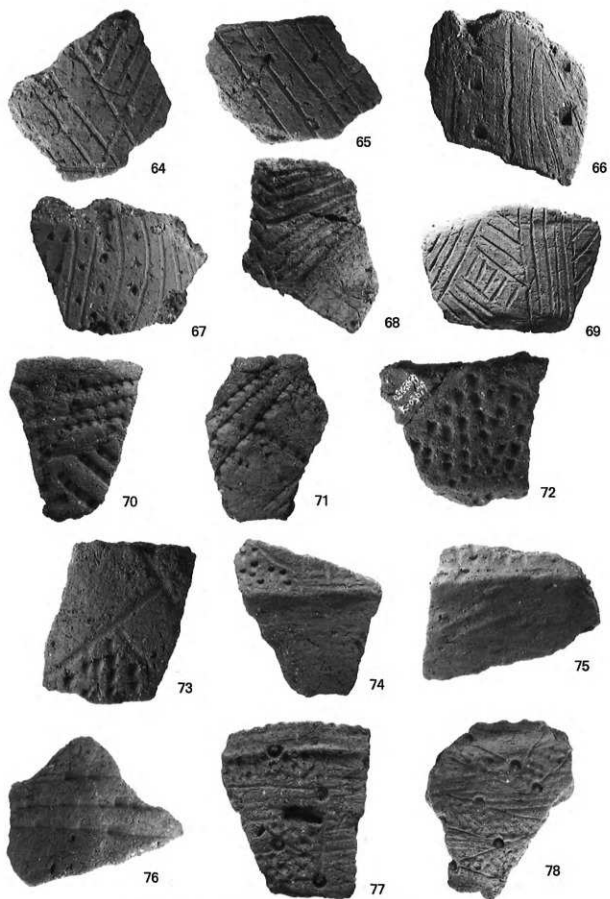


写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器⑥

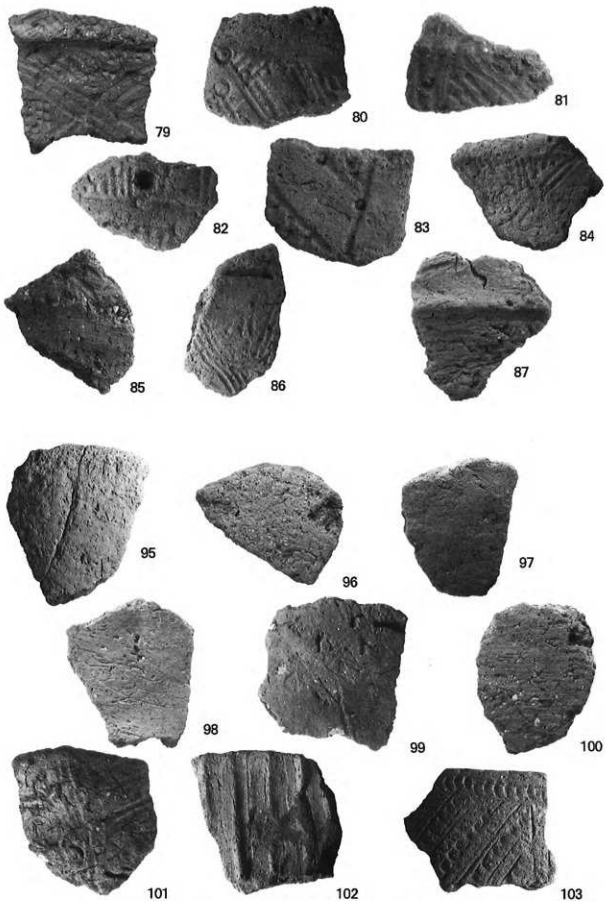


写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器の



写真 18-1 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器⑧

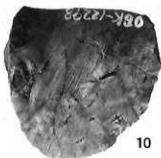
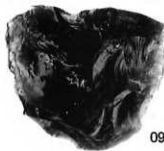


写真 18-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器①



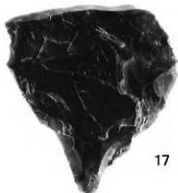
14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



29



31



39



41

写真 18-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器②

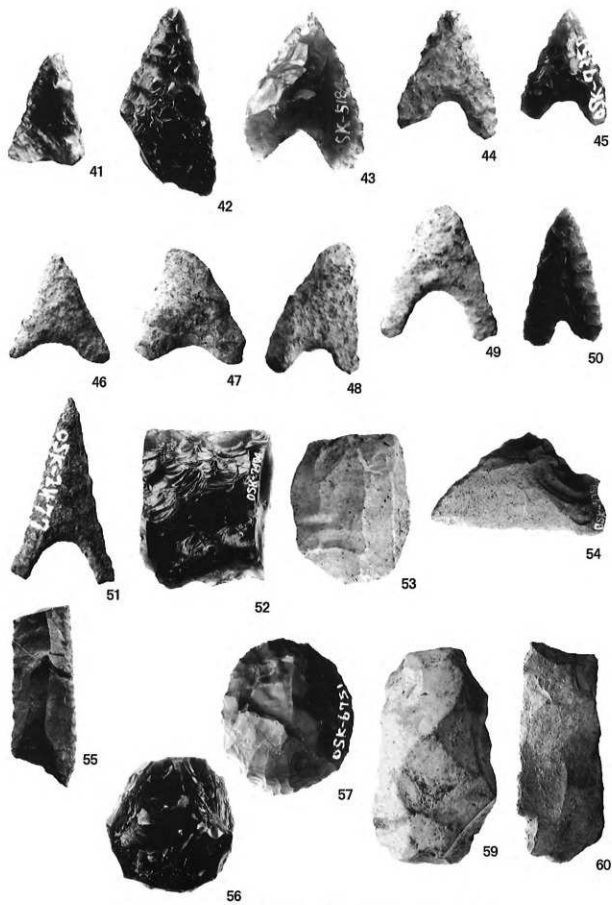


写真 18-2 3-1 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器③

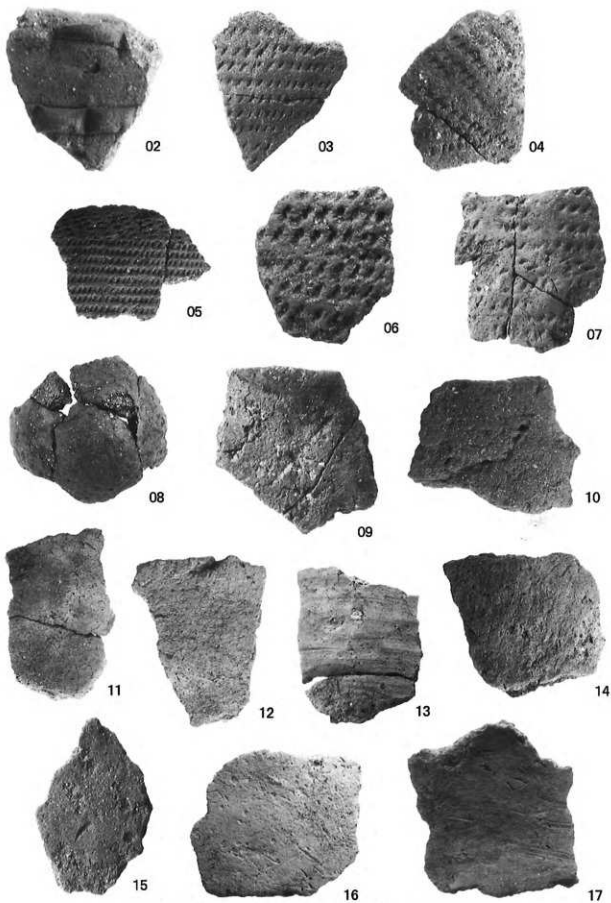


写真 19-1 3-2 A調査区 縄文時代 グリッド出土 土器①



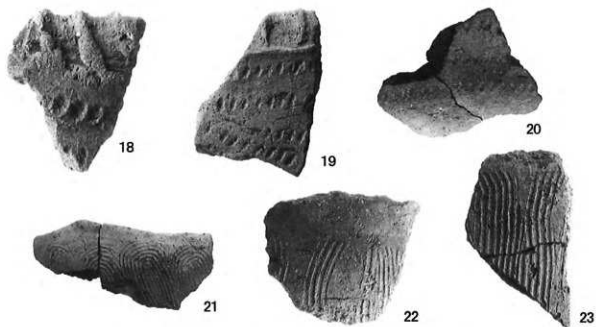


写真 19-1 3-2 A調査区 縄文時代 グリッド出土 土器②

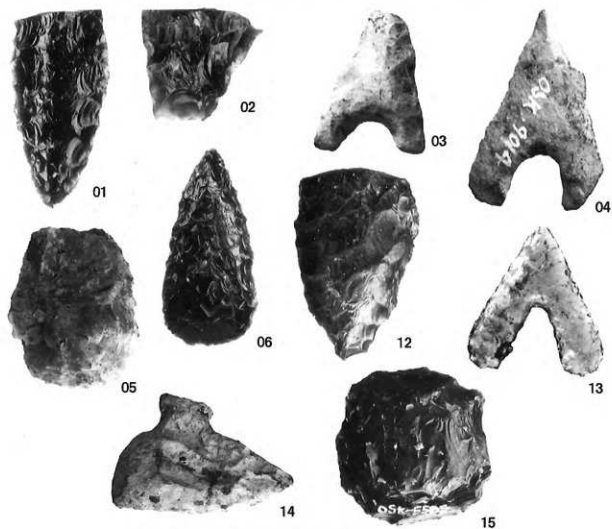


写真 19-2 3-2 A調査区 縄文時代 グリッド出土 石器

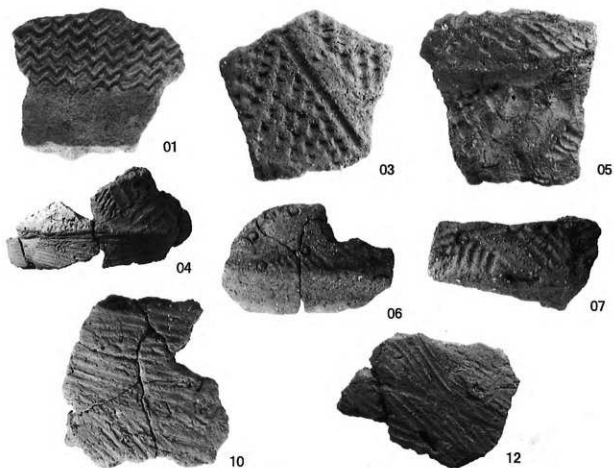


写真 20-1 3-3A調査区 縄文時代 グリッド出土 土器

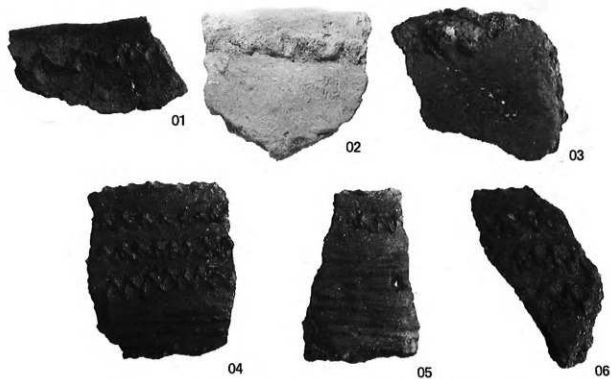


写真 21-1 3-3C調査区 縄文時代草創期 10号竖穴状遺構出土 土器①

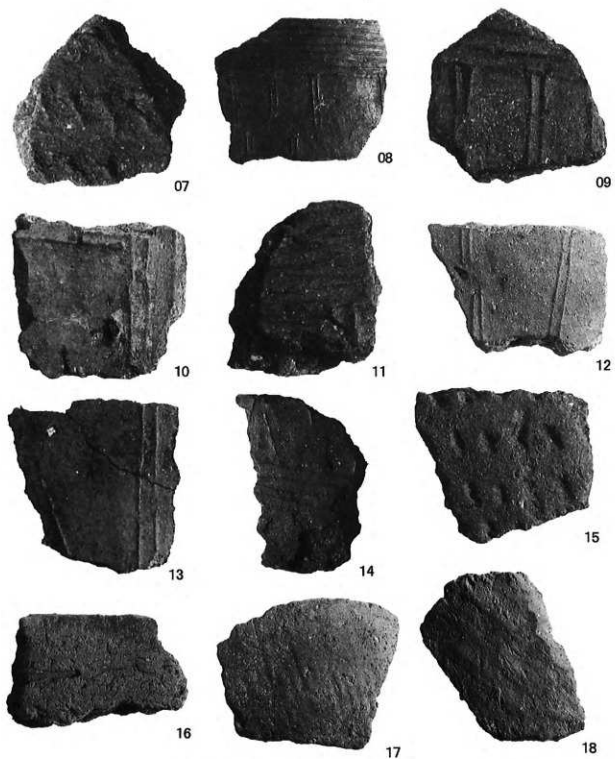


写真 21-1 3-3 C調査区 縄文時代草創期 10号竪穴状遺構出土 土器②

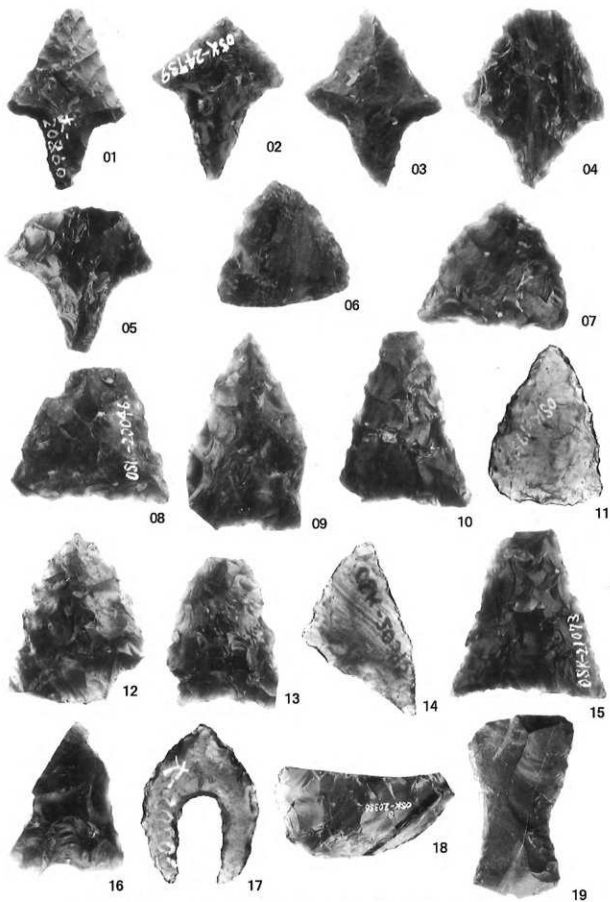


写真 21-2 3-3C調査区 縄文時代草創期 10号竪穴状遺構出土 石器①

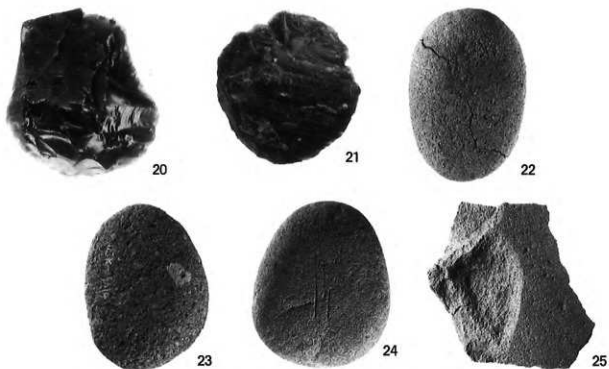


写真 21-2 3-3C調査区 縄文時代草創期 10号竪穴状遺構出土 石器②

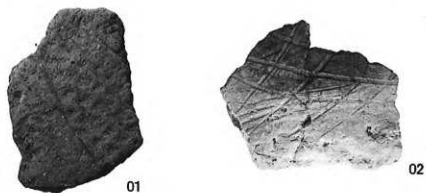


写真 22-1 3-3C調査区 縄文時代 グリッド出土 土器

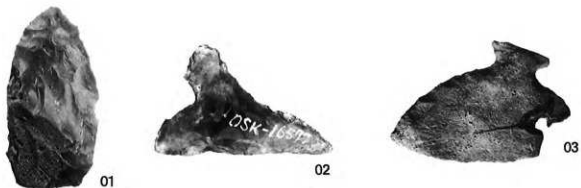


写真 22-2 3-3C調査区 縄文時代 グリッド出土 石器

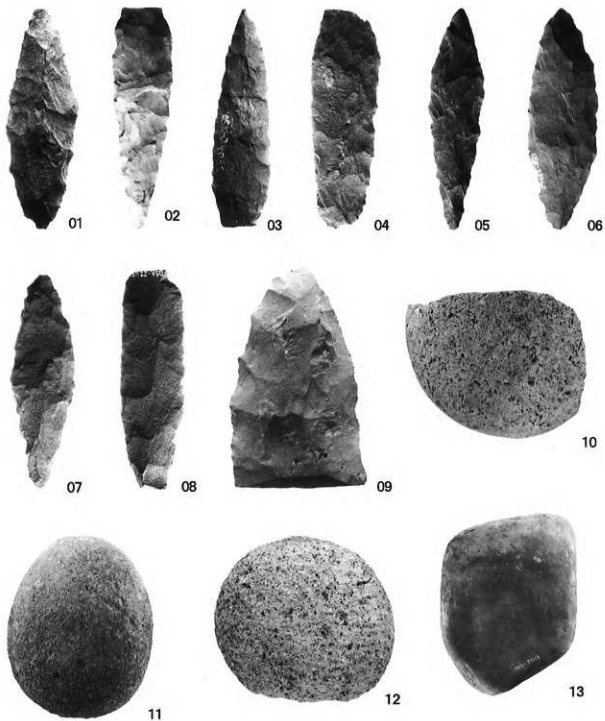


写真 23-1 3-3 E調査区 縄文時代草創期 8号竖穴状遺構出土 石器

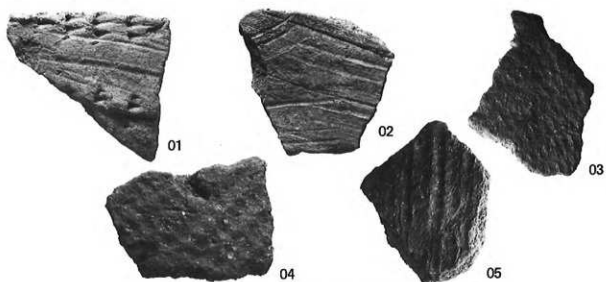


写真 24-1 3-3 E 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器

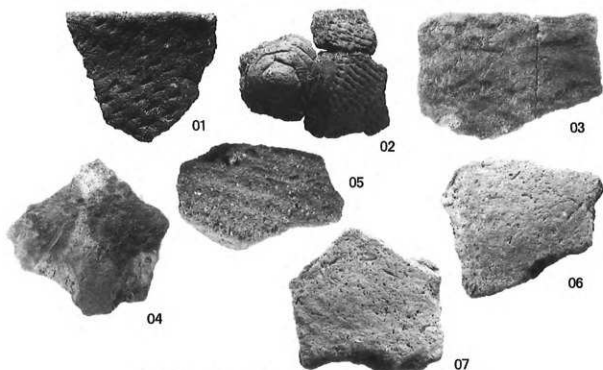


写真 25-1 3-4 調査区 縄文時代 グリッド出土 土器

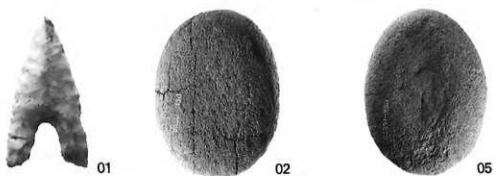


写真 25-2 3-4 調査区 縄文時代 グリッド出土 石器

附

編



## 大鹿窪遺跡出土黒曜石の原産地推定

池谷 信之

### 1. はじめに

静岡東部は後期旧石器時代から縄文時代を通して黒曜石が石材の主要な位置を占めている。周辺地域の縄文時草創期は非黒曜石が石材の主体となることが多く、大鹿窪遺跡出土石器の原産地推定は、当該期の貴重なデータを提供することになる。

分析資料の選定についての調査担当者との打ち合わせでは、黒曜石出土状況の良好な住居地の全点と草創期の石器全点について原産地推定を行うという方針が確認されが、整理作業期間が限定されていたこと、また石器の実測が委託に出されていたこともあり、必ずしもその方針は徹底されていない。

調査担当者から提供された資料は、SB3001 から抽出された黒曜石製石器（石片）19 点、SB3010 から抽出された黒曜石製石器（主として石片）142 点、石器製品 57 点である。SB3001 は葛原沢鬮式段階（池谷 2003）、SB3010 は葛原沢鬮式（陸帯文段階）に後続する陸練文段階に比定される。また石器製品については、遺構・包含層出土のものが含まれているが、推定結果の表中にその帰属を示した。

### 2. 分析方法

#### a. 産地推定法

黒曜石の産地推定には幾つかの化学的方法が実用化されている。その中でも蛍光X線分析法は、試料を破壊せずに、比較的短時間に、しかも低いコストで分析が行えるという利点を持っている。その原理と方法については望月明彦や筆者による紹介が複数あるので（望月 1998）、ここでは重複を避けるが、筆者と望月の提唱する「全点分析」は、試料の破壊を伴ったり、コストがより高くなる他の分析法では事実上不可能であり、蛍光X線分析法の利点を活かした分析の方向性といえることができる。

分析に用いた装置はセイコー電子工業社（現 SII ナノテクノロジー社）製エネルギー分散蛍光X線装置 SEA-2110 である。この分析装置は 2003 年に筆者が個人的に購入したものであるが、望月研究室のものと同型であり、望月の指導と協力を得て実際の分析作業も行われている。したがって測定条件やその後の測定値の統計処理についてもまったく方法がとられている。

測定条件を次に示す。

電 圧：50kV

電 流：2-36  $\mu$ A

照 射 径：10mm

測定時間：産地試料 500sec

遺跡出土試料 300sec

雰 囲 気：真空

計測した元素は以下の 11 元素である。

アルミニウム (Al)、ケイ素 (Si)、カリウム (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr)

一般の蛍光X線分析法ではファンダメンタル・パラメータ法 (F P 法) と呼ばれる計算法で算出された重量%を用いる場合がある。しかし F P 法は試料（出土黒曜石）の形状や厚さによる影響を受けやすく、強度比を用いた時よりもグラフ上での分散が大きくなる傾向がある。また産地の違いを最もよく示すのはルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) の 4 つの元

素であるが、これらは他の元素に比べれば微量で、F P法が求めた重量%の数値にほとんど差の出ない場合がある。こうした理由から、ここでは分析装置が計数した強度をそのまま用いる。

得られた元素の強度を用いて以下の2つの方法によって産地を決定している。

#### ①判別図法 (図による産地推定)

測定の結果得られる各元素の蛍光X線強度から次のような産地推定のための4つの指標を計算する。

指標1  $Rb \text{ 分率} = Rb \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$

指標2  $Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度}$

指標3  $Sr \text{ 分率} = Sr \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$

指標4  $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$

指標1・2と指標3・4をそれぞれX軸とY軸とした2つの判別図を作成し、原産地黒曜石の散布域と遺跡出土黒曜石の照合によって産地を決定する。

#### ②判別分析 (多変量解析による産地推定)

判別図法による産地推定結果を検証するために、多変量解析の一手法である判別分析を行っている。判別図法による産地の推定は、縦軸と横軸の2次元で行われるが、数学的には3次元以上でも原産地黒曜石からの距離を計算することが可能である。判別分析では遺跡出土の試料1点ごとに、各原産地との距離(マハラノビス距離と呼ばれる)を計算し、試料との距離がもっとも小さい産地がその試料の産地であると推定される。またそれぞれの産地とのマハラノビス距離から、試料が各原産地に属する確率も計算され、その数値が1に近いほど推定結果の信頼性は高くなる。

推定結果の表では紙数の関係から推定候補の第2位までのマハラノビス距離と確率を示している。判別図法で原産地黒曜石の散布域内にあり、かつ確率が0.9以上であることを条件に最終的な推定産地を決定している。この条件を満たさない場合には、試料の洗浄をやり直したり、部位を変えて再測定を行う。それでもこの条件満たない場合は「測定不可」として扱った。

#### b. 原産地黒曜石の測定

推定の基準試料となる原産地黒曜石については、以下の産地の原石を測定している。

高原山エリア: 桜沢

和田(WD)エリア: 芙蓉ライト・丁子御領・鷹山・小深沢・東餅屋土屋橋・土屋橋北(3地点)

土屋橋東(2地点)・土屋橋西・土屋橋南・鷲ヶ峰・ウツギ沢・古峠

和田(WO)エリア: ブドウ沢・牧ヶ沢下・牧ヶ沢上・高松沢・本沢下

諏訪エリア: 星ヶ台・星ヶ塔・水月霊園

蓼科エリア: 麦草峠・麦草峠東・渋ノ湯・冷山・双子池

箱根エリア: 芦ノ湯・畑宿・黒岩橋・甘酒橋・鍛冶屋・上多賀

天城エリア: 柏峠

神津島エリア: 愚馳島・長浜・沢尻・砂糠崎

これらの原石については、芙蓉ライト・双子池の一部の試料を除き、すべて筆者の手によって採取されたものである。試料の借用にとまらぬ原石の混在を防ぐ目的もあるが、特に和田峠周辺では原石の散布域と遺跡が重複することがあり、人為的に持ちこまれた石器や原石を「原産地黒曜石」としてサンプリングする可能性をはらんでいる。信頼できる原産地データを与えるためには、原産地の産状と原石の外観に注意しながら慎重に採取する必要がある。

また関東・中部以外の原石は測定していない。しかし同じ機器・測定法を用いているため、原石群の位置は望月による判別図とほぼ相似の関係にプロットされている。したがって筆者の判別図の原産地群から外れる(原産地不明な)遺跡出土資料に遭遇した場合でも、望月の判別図を参照することで原産地

を推測することは可能である。

### 3. 分析結果

SB3001・SB3010・石器製品のそれぞれについて、「判別図」「推定結果」「集計表」を示した。葛原沢Ⅱ式段階（押圧縄文）のSB3001では、分析できた18点中16点が神津島恩馳産という結果であり、葛原沢遺跡第1号住居址出土石器の分析で得られた結果（望月・池谷2001）と協調的なあり方が確認された。葛原沢遺跡の分析では葛原沢Ⅰ式段階（隆帯文段階）に諏訪屋ヶ台産黒曜石が増加する傾向が認められたが、葛原沢Ⅰ式に後続する本遺跡のSB3010（隆線文段階）では天城柏峠産黒曜石が86%を占めていた。

愛鷹・箱根山麓周辺では細石器段階に神津島恩馳産が主体となり（池谷・望月1998）、その傾向は縄文時代中期末まで継続するが、SB3010の分析結果は草創期において一時的に他の産地が増加する可能性を示している。

### 参考文献

- 池谷信之・望月明彦 1998 「愛鷹山麓における石材組成の変遷」静岡県考古学研究 30  
望月明彦 1998 「黒曜石の原産地を推定する 蛍光X線分析法」  
【文化財を語る科学の眼2 石器・土器・装飾品を語る】国土社  
望月明彦・池谷信之 2001 「葛原沢第Ⅳ遺跡出土草創期石器の黒曜石原産地推定」  
【葛原沢第Ⅳ遺跡（a・b区）発掘調査報告書1】沼津市文化財調査報告 77  
池谷信之 2003 「本州島中部の様相—東海地方の隆帯文土器と列島南岸—」季刊考古学 83号 雄山閣

大鹿産 SB3001 推定結果集計表

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	フヨーライト	WDHY	0	0.0
	麓山	WDTY	0	0.0
	小深沢	WDKB	0	0.0
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	0	0.0
	古峠	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	0	0.0
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	星ヶ台	SWHD	1	5.6
蓼科	冷山	TSTY	0	0.0
	双子山	TSHG	0	0.0
天城	柏峠	AGKT	1	5.6
	畑宿	HNHJ	0	0.0
箱根	鏡冶屋	HNKJ	0	0.0
	黒岩橋	HNKI	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	恩馳島	KZOB	16	88.9
	砂籬崎	KZSN	0	0.0
	砂籬崎X	KZSX	0	0.0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.0
	合計		18	100
不可			1	
総計			19	

大鹿産 SB3001 推定結果

分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析による候補と距離・確率					
				候補1	距離	確率	候補2	距離	確率
SB3001・001	14858	KZOB	KZOB	KZOB	8.88	1.00	KZSN	20.06	0.00
SB3001・002	14860	SWHD	SWHD	SWHD	0.69	1.00	WDTN	76.50	0.00
SB3001・003	16009	不可	不可	KZOB	3.75	1.00	KZSN	25.77	0.00
SB3001・004	16017	KZOB	KZOB	KZOB	24.31	1.00	WOMS	36.19	0.00
SB3001・005	16028	KZOB	KZOB	KZOB	6.58	1.00	KZSN	32.64	0.00
SB3001・006	16040	KZOB	KZOB	KZOB	0.54	1.00	KZSN	21.92	0.00
SB3001・007	17902	KZOB	KZOB	KZOB	2.02	1.00	KZSN	26.92	0.00
SB3001・008	19057	KZOB	KZOB	KZOB	6.64	1.00	KZSN	25.85	0.00
SB3001・009	20024	KZOB	KZOB	KZOB	9.51	1.00	KZSN	24.83	0.00
SB3001・010	20031	KZOB	KZOB	KZOB	0.18	1.00	KZSN	25.27	0.00
SB3001・011	20034	KZOB	KZOB	KZOB	2.74	1.00	KZSN	19.37	0.00
SB3001・012	20284	AGKT	AGKT	AGKT	4.86	1.00	HNKT	57.49	0.00
SB3001・013	23596	KZOB	KZOB	KZOB	9.61	1.00	KZSN	29.10	0.00
SB3001・014	24557	KZOB	KZOB	KZOB	0.32	1.00	KZSN	22.39	0.00
SB3001・015	25074	KZOB	KZOB	KZOB	9.79	1.00	KZSN	29.98	0.00
SB3001・016	25157	KZOB	KZOB	KZOB	1.77	1.00	KZSN	28.10	0.00
SB3001・017	25449	KZOB	KZOB	KZOB	2.61	1.00	KZSN	23.35	0.00
SB3001・018	25490	KZOB	KZOB	KZOB	1.00	1.00	KZSN	21.11	0.00
SB3001・020	25801	KZOB	KZOB	KZOB	4.89	1.00	KZSN	15.60	0.00



大鹿窟 SB3010 推定結果集計表

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	フヨーライト	WDHY	0	0.0
	蔵山	WDTY	1	0.9
	小深沢	WDKB	0	0.0
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	0	0.0
	古峠	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	0	0.0
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	墨ヶ台	SWHD	5	4.3
琴科	冷山	TSTY	0	0.0
	双子山	TSHG	0	0.0
天城	柏峠	AGKT	100	86.2
箱根	畑宿	HNHJ	0	0.0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0.0
	黒岩橋	HNKI	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	恩馳島	KZOB	10	8.6
	砂隠崎	KZSN	0	0.0
	砂隠崎 X	KZSX	0	0.0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.0
合計			116	100
不可			26	
総計			142	

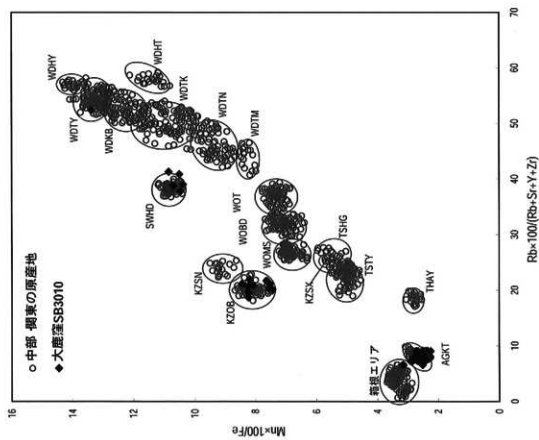
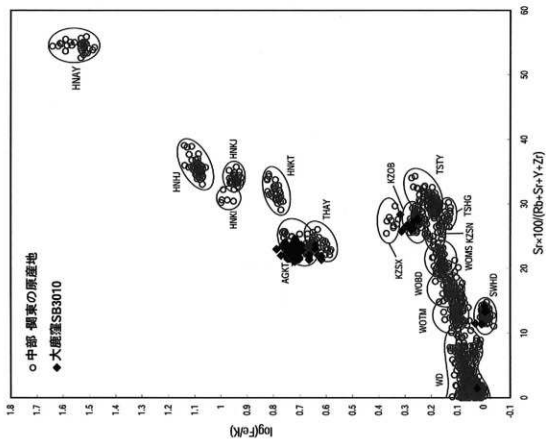
## 大鹿産 SB3010 推定結果

分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析による候補と距離・確率					
				候補1	距離	確率	候補2	距離	確率
SB3010・1001	14327	AGKT	AGKT	AGKT	3.09	1.00	HNKT	72.86	0.00
SB3010・1002	14331	WDTY	WDTY	WDTY	3.86	1.00	WDXB	20.82	0.00
SB3010・1003	14334	AGKT	AGKT	AGKT	3.71	1.00	HNKT	64.65	0.00
SB3010・1004	14337	AGKT	AGKT	AGKT	4.31	1.00	HNKT	65.07	0.00
SB3010・1005	14344	AGKT	AGKT	AGKT	2.88	1.00	HNKT	72.13	0.00
SB3010・1007	14352	AGKT	AGKT	AGKT	23.61	1.00	HNKT	94.02	0.00
SB3010・1008	14353	AGKT	AGKT	AGKT	9.15	1.00	HNKT	97.12	0.00
SB3010・1009	14379	AGKT	AGKT	AGKT	3.50	1.00	HNKT	62.90	0.00
SB3010・1010	14381	SWHD	SWHD	SWHD	3.75	1.00	WDTN	65.62	0.00
SB3010・1011	14382	不可	不可	AGKT	21.65	1.00	HNKT	113.04	0.00
SB3010・1012	14384	AGKT	AGKT	AGKT	4.02	1.00	HNKT	71.23	0.00
SB3010・1013	14387	AGKT	AGKT	AGKT	6.72	1.00	HNKT	72.21	0.00
SB3010・1015	14391	不可	不可	AGKT	16.21	1.00	HNKT	102.05	0.00
SB3010・1016	14392	AGKT	AGKT	AGKT	5.91	1.00	HNKT	54.06	0.00
SB3010・1017	15731	AGKT	AGKT	AGKT	5.08	1.00	HNKT	68.08	0.00
SB3010・1019	15776	AGKT	AGKT	AGKT	9.73	1.00	HNKT	96.43	0.00
SB3010・1020	15777	不可	不可	AGKT	11.99	1.00	HNKT	94.15	0.00
SB3010・1021	15788	不可	不可	AGKT	23.06	1.00	HNKT	90.80	0.00
SB3010・1022	15789	SWHD	SWHD	SWHD	2.11	1.00	WDTN	70.58	0.00
SB3010・1023	15795	AGKT	AGKT	AGKT	1.67	1.00	HNKT	62.37	0.00
SB3010・1024	15826	AGKT	AGKT	AGKT	7.09	1.00	HNKT	64.34	0.00
SB3010・1025	15831	AGKT	AGKT	AGKT	5.01	1.00	HNKT	79.35	0.00
SB3010・1026	15833	AGKT	AGKT	AGKT	7.81	1.00	HNKT	91.75	0.00
SB3010・1027	16735	不可	不可	AGKT	15.99	1.00	HNKT	83.28	0.00
SB3010・1028	16762	AGKT	AGKT	AGKT	2.20	1.00	HNKT	59.07	0.00
SB3010・1029	16765	AGKT	AGKT	AGKT	4.52	1.00	HNKT	55.08	0.00
SB3010・1030	16790	不可	不可	AGKT	40.61	1.00	HNKT	120.10	0.00
SB3010・1031	16792	不可	不可	AGKT	24.74	1.00	HNKT	117.47	0.00
SB3010・1032	17137	不可	不可	AGKT	16.08	1.00	HNKT	89.47	0.00
SB3010・1033	18605	AGKT	AGKT	AGKT	10.77	1.00	HNKT	102.42	0.00
SB3010・1034	18631	AGKT	AGKT	AGKT	10.43	1.00	HNKT	87.64	0.00
SB3010・1035	18723	AGKT	AGKT	AGKT	7.76	1.00	HNKT	58.31	0.00
SB3010・1036	18735	SWHD	SWHD	SWHD	5.16	1.00	WDTN	41.05	0.00
SB3010・1037	18736	AGKT	AGKT	AGKT	16.69	1.00	HNKT	89.81	0.00
SB3010・1038	18768	AGKT	AGKT	AGKT	17.16	1.00	HNKT	57.29	0.00
SB3010・1040	18777	AGKT	AGKT	AGKT	9.17	1.00	HNKT	75.97	0.00
SB3010・1041	19349	KZOB	KZOB	KZOB	7.56	1.00	KZSN	38.03	0.00
SB3010・1042	19350	AGKT	AGKT	AGKT	2.68	1.00	HNKT	89.63	0.00
SB3010・1043	19351	不可	不可	AGKT	19.53	1.00	HNKT	93.14	0.00
SB3010・1044	19352	AGKT	AGKT	AGKT	5.41	1.00	HNKT	74.25	0.00
SB3010・1045	19353	不可	不可	AGKT	20.60	1.00	HNKT	104.74	0.00
SB3010・1046	19355	KZOB	KZOB	KZOB	2.86	1.00	KZSN	20.87	0.00
SB3010・1047	19357	AGKT	AGKT	AGKT	6.75	1.00	HNKT	77.79	0.00
SB3010・1048	19358	AGKT	AGKT	AGKT	4.44	1.00	HNKT	65.47	0.00
SB3010・1049	19366	不可	不可	AGKT	6.48	1.00	HNKT	76.76	0.00
SB3010・1050	19367	不可	不可	AGKT	10.44	1.00	HNKT	74.52	0.00
SB3010・1051	19368	KZOB	KZOB	KZOB	9.56	1.00	KZSN	45.24	0.00
SB3010・1052	19370	AGKT	AGKT	AGKT	3.39	1.00	HNKT	67.41	0.00
SB3010・1054	19496	AGKT	AGKT	AGKT	6.68	1.00	HNKT	75.92	0.00
SB3010・1056	19498	AGKT	AGKT	AGKT	4.70	1.00	HNKT	71.66	0.00
SB3010・1057	19502	不可	不可	AGKT	18.34	1.00	HNKT	92.79	0.00
SB3010・1058	19503	AGKT	AGKT	AGKT	1.65	1.00	HNKT	69.15	0.00
SB3010・1059	19506	AGKT	AGKT	AGKT	9.55	1.00	HNKT	80.26	0.00
SB3010・1060	19509	不可	不可	KZOB	8.82	1.00	KZSN	27.93	0.00
SB3010・1061	19510	AGKT	AGKT	AGKT	4.54	1.00	HNKT	72.00	0.00
SB3010・1062	19524	AGKT	AGKT	AGKT	4.38	1.00	HNKT	65.69	0.00
SB3010・1063	19526	AGKT	AGKT	AGKT	6.15	1.00	HNKT	67.27	0.00

分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析による候補と距離・破率					
				候補1	距離	破率	候補2	距離	破率
SB3010・1064	19527	不可	不可	AGKT	22.60	1.00	HNKT	107.09	0.00
SB3010・1065	19528.1	KZOB	KZOB	KZOB	7.19	1.00	KZSN	34.85	0.00
SB3010・1066		AGKT	AGKT	AGKT	3.35	1.00	HNKT	42.77	0.00
SB3010・1067	19531	AGKT	AGKT	AGKT	12.17	1.00	HNKT	72.79	0.00
SB3010・1068	19534	AGKT	AGKT	AGKT	5.87	1.00	HNKT	74.87	0.00
SB3010・1069	19535	AGKT	AGKT	AGKT	2.11	1.00	HNKT	51.35	0.00
SB3010・1070	19536	AGKT	AGKT	AGKT	2.73	1.00	HNKT	67.96	0.00
SB3010・1071	19541	AGKT	AGKT	AGKT	1.87	1.00	HNKT	62.62	0.00
SB3010・1072	19546	AGKT	AGKT	AGKT	1.11	1.00	HNKT	61.19	0.00
SB3010・1073	19547	不可	不可	AGKT	28.60	1.00	HNKT	91.06	0.00
SB3010・1074	19553	不可	不可	AGKT	8.75	1.00	HNKT	82.47	0.00
SB3010・1075	19582	AGKT	AGKT	AGKT	1.47	1.00	HNKT	57.31	0.00
SB3010・1076	19627	AGKT	AGKT	AGKT	6.93	1.00	HNKT	78.53	0.00
SB3010・1077	20124	AGKT	AGKT	AGKT	2.39	1.00	HNKT	70.38	0.00
SB3010・1078	20125	AGKT	AGKT	AGKT	4.59	1.00	HNKT	63.10	0.00
SB3010・1079	20126	AGKT	AGKT	AGKT	3.32	1.00	HNKT	71.29	0.00
SB3010・1080	20127	AGKT	AGKT	AGKT	5.00	1.00	HNKT	53.40	0.00
SB3010・1081	20128	AGKT	AGKT	AGKT	1.82	1.00	HNKT	59.02	0.00
SB3010・1082	20129.1	AGKT	AGKT	AGKT	2.62	1.00	HNKT	67.63	0.00
SB3010・1083	20135	不可	不可	AGKT	31.34	1.00	HNKT	124.88	0.00
SB3010・1084	20138	AGKT	AGKT	AGKT	2.77	1.00	HNKT	66.23	0.00
SB3010・1085	20141	AGKT	AGKT	AGKT	5.80	1.00	HNKT	78.22	0.00
SB3010・1086	20146	KZOB	KZOB	KZOB	7.74	1.00	KZSN	28.25	0.00
SB3010・1087	20148	AGKT	AGKT	AGKT	8.52	1.00	HNKT	82.13	0.00
SB3010・1088	20149	AGKT	AGKT	AGKT	6.82	1.00	HNKT	91.44	0.00
SB3010・1089	20150	AGKT	AGKT	AGKT	7.83	1.00	HNKT	82.19	0.00
SB3010・1090	20156	AGKT	AGKT	AGKT	5.14	1.00	HNKT	72.45	0.00
SB3010・1091	20159	AGKT	AGKT	AGKT	5.17	1.00	HNKT	63.30	0.00
SB3010・1092	20161	AGKT	AGKT	AGKT	2.85	1.00	HNKT	49.61	0.00
SB3010・1093	20162	AGKT	AGKT	AGKT	13.82	1.00	HNKT	91.32	0.00
SB3010・1094	20166	不可	不可	KZOB	1.69	1.00	KZSN	25.14	0.00
SB3010・1095	20167	AGKT	AGKT	AGKT	9.35	1.00	HNKT	91.91	0.00
SB3010・1096	20168	不可	不可	AGKT	12.19	1.00	HNKT	94.35	0.00
SB3010・1097	20169	AGKT	AGKT	AGKT	2.94	1.00	HNKT	53.76	0.00
SB3010・1098	20236	AGKT	AGKT	AGKT	6.51	1.00	HNKT	77.89	0.00
SB3010・1099	20239	AGKT	AGKT	AGKT	11.35	1.00	HNKT	82.78	0.00
SB3010・1100	20242	AGKT	AGKT	AGKT	9.91	1.00	HNKT	88.68	0.00
SB3010・1101	20246	AGKT	AGKT	AGKT	17.07	1.00	HNKT	86.74	0.00
SB3010・1102	20258	KZOB	KZOB	KZOB	5.71	1.00	KZSN	25.94	0.00
SB3010・1103	20259	AGKT	AGKT	AGKT	5.32	1.00	HNKT	72.38	0.00
SB3010・1104	20266	AGKT	AGKT	AGKT	4.10	1.00	HNKT	63.61	0.00
SB3010・1105	20268	AGKT	AGKT	AGKT	5.25	1.00	HNKT	64.71	0.00
SB3010・1106	20276	AGKT	AGKT	AGKT	7.20	1.00	HNKT	87.18	0.00
SB3010・1107	20278	AGKT	AGKT	AGKT	10.62	1.00	HNKT	75.81	0.00
SB3010・1108	20285	AGKT	AGKT	AGKT	2.67	1.00	HNKT	70.14	0.00
SB3010・1109	20806	AGKT	AGKT	AGKT	5.44	1.00	HNKT	83.97	0.00
SB3010・1110	20812	AGKT	AGKT	AGKT	1.87	1.00	HNKT	62.00	0.00
SB3010・1111	21042	AGKT	AGKT	AGKT	4.72	1.00	HNKT	69.31	0.00
SB3010・1112	21049	AGKT	AGKT	AGKT	3.80	1.00	HNKT	66.10	0.00
SB3010・1113	21059	AGKT	AGKT	AGKT	8.93	1.00	HNKT	80.79	0.00
SB3010・1114	21061	AGKT	AGKT	AGKT	1.20	1.00	HNKT	48.79	0.00
SB3010・1115	21062	AGKT	AGKT	AGKT	3.49	1.00	HNKT	78.69	0.00
SB3010・1116	21063	AGKT	AGKT	AGKT	4.22	1.00	HNKT	75.34	0.00
SB3010・1117	21066	SWHD	SWHD	SWHD	5.49	1.00	WDTN	49.12	0.00
SB3010・1118	21067	AGKT	AGKT	AGKT	7.28	1.00	HNKT	62.64	0.00
SB3010・1119	21069	不可	不可	AGKT	34.62	1.00	HNKT	122.93	0.00
SB3010・1120	21070	KZOB	KZOB	KZOB	4.48	1.00	KZSN	34.39	0.00
SB3010・1121	21074	不可	不可	AGKT	26.94	1.00	HNKT	104.73	0.00
SB3010・1122	21076	AGKT	AGKT	AGKT	12.54	1.00	HNKT	60.98	0.00
SB3010・1123	21078	AGKT	AGKT	AGKT	10.96	1.00	HNKT	74.25	0.00



分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析による候補と距離・確率					
				候補1	距離	確率	候補2	距離	確率
SR3010・1124	21079	AGKT	AGKT	AGKT	13.48	1.00	HNKT	57.39	0.00
SR3010・1125	21081	AGKT	AGKT	AGKT	9.12	1.00	HNKT	71.91	0.00
SR3010・1126	21089	AGKT	AGKT	AGKT	6.10	1.00	HNKT	57.44	0.00
SR3010・1127	21102	AGKT	AGKT	AGKT	0.75	1.00	HNKT	54.43	0.00
SR3010・1128	21104	AGKT	AGKT	AGKT	10.28	1.00	HNKT	72.10	0.00
SR3010・1129	21106	AGKT	AGKT	AGKT	7.69	1.00	HNKT	78.80	0.00
SR3010・1130	21107	AGKT	AGKT	AGKT	3.46	1.00	HNKT	60.49	0.00
SR3010・1131	21110	SWHD	SWHD	SWHD	18.22	1.00	WDTN	66.69	0.00
SR3010・1132	21111	AGKT	AGKT	AGKT	4.92	1.00	HNKT	77.04	0.00
SR3010・1133	21117	AGKT	AGKT	AGKT	3.45	1.00	HNKT	63.34	0.00
SR3010・1134	21119	AGKT	AGKT	AGKT	3.23	1.00	HNKT	71.42	0.00
SR3010・1135	21123	AGKT	AGKT	AGKT	5.15	1.00	HNKT	79.43	0.00
SR3010・1136	21124	KZOB	KZOB	KZOB	1.18	1.00	KZSN	21.15	0.00
SR3010・1137	21125	AGKT	AGKT	AGKT	2.14	1.00	HNKT	56.36	0.00
SR3010・1138	21126	AGKT	AGKT	AGKT	10.82	1.00	HNKT	76.23	0.00
SR3010・1139	21127	不可	不可	AGKT	29.13	1.00	HNKT	113.25	0.00
SR3010・1140	21131	AGKT	AGKT	AGKT	4.50	1.00	HNKT	53.45	0.00
SR3010・1141	21133	不可	不可	AGKT	18.34	1.00	HNKT	107.25	0.00
SR3010・1142	21134	AGKT	AGKT	AGKT	4.66	1.00	HNKT	77.11	0.00
SR3010・1143	21137	KZOB	KZOB	KZOB	5.38	0.99	KZSN	12.26	0.01
SR3010・1144	21155	AGKT	AGKT	AGKT	4.31	1.00	HNKT	59.86	0.00
SR3010・1145	23711	KZOB	KZOB	KZOB	5.20	1.00	KZSN	41.77	0.00
SR3010・1146	23712	不可	不可	AGKT	39.37	1.00	HNKT	111.48	0.00
SR3010・1147	23713	AGKT	AGKT	AGKT	6.33	1.00	HNKT	68.38	0.00
SR3010・1148	24839	不可	不可	AGKT	5.34	1.00	HNKT	62.47	0.00

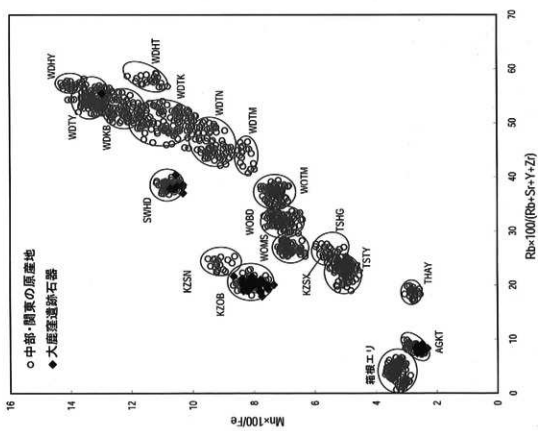
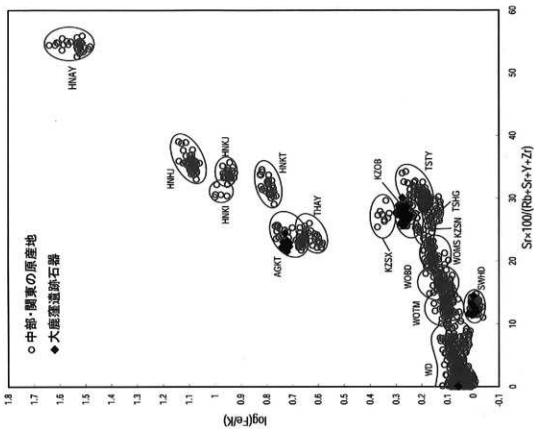


大鹿産遺跡石器集計表

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	フヨーライト	WDHY	0	0.0
	廣山	WDTY	1	2.0
	小深沢	WDKB	0	0.0
	土屋橋北	WDTK	0	0.0
	土屋橋西	WDTN	0	0.0
	土屋橋南	WDTM	0	0.0
	古峠	WDHT	0	0.0
和田(WO)	高松沢	WOTM	0	0.0
	ブドウ沢	WOBD	0	0.0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0.0
諏訪	星ヶ台	SWHD	7	13.7
蓼科	冷山	TSTY	0	0.0
	双子山	TSHG	0	0.0
天城	拍峠	AGKT	16	31.4
箱根	畑宿	HNHJ	0	0.0
	飯治屋	HNKJ	0	0.0
	黒岩橋	HNKI	0	0.0
	上多賀	HNKT	0	0.0
	芦ノ湯	HNAY	0	0.0
神津島	恩馳島	KZOB	27	52.9
	砂糠崎	KZSN	0	0.0
	砂糠崎X	KZSX	0	0.0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0.0
合計			51	100
不可			6	
総計			57	

大鹿窪遺跡石器推定結果

分析番号	遺物番号	遺構/調査区	層位	推定産地	判別図判別群	判別分析					
						候補1	距離1	確率1	候補2	距離2	確率2
大鹿窪石器2001	24462	SB3001	301	KZOB	KZOB	KZOB	4.34	1.00	KZSN	29.24	0.00
大鹿窪石器2002	21796	SB3001	201	KZOB	KZOB	KZOB	9.61	1.00	KZSN	54.37	0.00
大鹿窪石器2003	19266	SB3002	201	KZOB	KZOB	KZOB	10.95	1.00	KZSN	49.29	0.00
大鹿窪石器2004	17606	SB3002	201	KZOB	KZOB	KZOB	10.13	1.00	KZSN	42.24	0.00
大鹿窪石器2005	19262	SB3002	201	KZOB	KZOB	KZOB	4.49	1.00	KZSN	34.14	0.00
大鹿窪石器2006	21821	SB3002	201	SWHD	SWHD	SWHD	4.66	1.00	WDTN	74.19	0.00
大鹿窪石器2007	10630	SB3002	7B	KZOB	KZOB	KZOB	0.66	1.00	KZSN	27.54	0.00
大鹿窪石器2008	19039	SB3002	201	KZOB	KZOB	KZOB	5.23	1.00	KZSN	34.14	0.00
大鹿窪石器2009	18095	SB3004	201	KZOB	KZOB	KZOB	5.30	1.00	KZSN	28.95	0.00
大鹿窪石器2010	13313	SB3004	7B	KZOB	KZOB	KZOB	1.33	1.00	KZSN	33.04	0.00
大鹿窪石器2011	12679	SB3005	7B	WDTY	WDTY	WDTY	2.66	1.00	WDHY	15.59	0.00
大鹿窪石器2012	11787	SB3005	7A	SWHD	SWHD	SWHD	4.93	1.00	WDTN	71.87	0.00
大鹿窪石器2013	17175	SB3006	201	KZOB	KZOB	KZOB	0.73	1.00	KZSN	31.35	0.00
大鹿窪石器2014	17176	SB3006	201	不可	不可	KZOB	4.02	1.00	KZSN	30.97	0.00
大鹿窪石器2015	22336	SB3007	201	KZOB	KZOB	KZOB	2.40	1.00	KZSN	19.44	0.00
大鹿窪石器2016	25705	SB3007	201	KZOB	KZOB	KZOB	13.95	1.00	KZSN	26.79	0.00
大鹿窪石器2017	20000	SB3010	7	SWHD	SWHD	SWHD	3.61	1.00	WDTN	46.73	0.00
大鹿窪石器2018	20880	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	7.24	1.00	HNKT	67.54	0.00
大鹿窪石器2019	17969	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	4.17	1.00	HNKT	67.41	0.00
大鹿窪石器2020	20779	SB3010	7	KZOB	KZOB	KZOB	6.04	1.00	KZSN	23.95	0.00
大鹿窪石器2021	20791	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	5.11	1.00	HNKT	74.94	0.00
大鹿窪石器2022	18729	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	4.63	1.00	HNKT	77.06	0.00
大鹿窪石器2023	18570	SB3010	7	SWHD	SWHD	SWHD	3.94	1.00	WDTN	53.21	0.00
大鹿窪石器2024	18745	SB3010	7	KZOB	KZOB	KZOB	15.20	1.00	KZSN	51.09	0.00
大鹿窪石器2025	23704	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	7.15	1.00	HNKT	78.28	0.00
大鹿窪石器2026	18042	SB3010	7	KZOB	KZOB	KZOB	4.03	1.00	KZSN	43.02	0.00
大鹿窪石器2027	19489	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	5.76	1.00	HNKT	55.39	0.00
大鹿窪石器2028	18680	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	6.86	1.00	HNKT	67.92	0.00
大鹿窪石器2029	23868	SB3010	7B	AGKT	AGKT	AGKT	6.06	1.00	HNKT	82.02	0.00
大鹿窪石器2030	17936	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	5.36	1.00	HNKT	79.11	0.00
大鹿窪石器2031	19537	SB3010	7	KZOB	KZOB	KZOB	7.29	1.00	KZSN	39.31	0.00
大鹿窪石器2032	18627	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	2.85	1.00	HNKT	70.09	0.00
大鹿窪石器2033	20195	SB3010	7	不可	不可	AGKT	8.20	1.00	HNKT	82.63	0.00
大鹿窪石器2034	20187	SB3010	7	不可	不可	AGKT	15.90	1.00	HNKT	96.38	0.00
大鹿窪石器2035	17435	SB3010	7	KZOB	KZOB	KZOB	0.92	1.00	KZSN	34.14	0.00
大鹿窪石器2036	18630	SB3010	7	不可	不可	AGKT	25.45	1.00	HNKT	109.20	0.00
大鹿窪石器2037	17413	SB3010	7	SWHD	SWHD	SWHD	5.07	1.00	WDTN	83.58	0.00
大鹿窪石器2038	17977	SB3010	7	AGKT	AGKT	AGKT	5.60	1.00	HNKT	74.13	0.00
大鹿窪石器2039	23730	SB3011	301	KZOB	KZOB	KZOB	2.05	1.00	KZSN	23.65	0.00
大鹿窪石器2040	14188	SK51(SK26)	7B	不可	不可	KZOB	13.92	1.00	KZSN	24.55	0.00
大鹿窪石器2041	26165	SY3011	201	KZOB	KZOB	KZOB	1.58	1.00	KZSN	29.07	0.00
大鹿窪石器2042	2256	3-1	5B	SWHD	SWHD	SWHD	3.35	1.00	WDTN	60.41	0.00
大鹿窪石器2043	14190	3-1	7B	KZOB	KZOB	KZOB	2.23	1.00	KZSN	27.18	0.00
大鹿窪石器2044	10573	3-1	7B	KZOB	KZOB	KZOB	1.49	1.00	KZSN	21.02	0.00
大鹿窪石器2045	8650	3-1	7B	KZOB	KZOB	KZOB	6.99	1.00	KZSN	28.59	0.00
大鹿窪石器2046	8750	3-1	7B	KZOB	KZOB	KZOB	1.76	1.00	KZSN	30.63	0.00
大鹿窪石器2047	10983	3-1	7B	KZOB	KZOB	KZOB	10.91	1.00	KZSN	42.84	0.00
大鹿窪石器2048	9841	3-1	7B	SWHD	SWHD	SWHD	3.94	1.00	WDTN	59.21	0.00
大鹿窪石器2049	8855	3-2A	7A	KZOB	KZOB	KZOB	5.50	1.00	KZSN	17.62	0.00
大鹿窪石器2050	16542	3-3C	6B	AGKT	AGKT	AGKT	2.06	1.00	HNKT	47.88	0.00
大鹿窪石器2051	15553	3-3C	6B	AGKT	AGKT	AGKT	0.63	1.00	HNKT	56.27	0.00
大鹿窪石器2052	14356	3-3C	6B	AGKT	AGKT	AGKT	9.21	1.00	HNKT	86.57	0.00
大鹿窪石器2053	16603	3-3C	6B	KZOB	KZOB	KZOB	1.19	1.00	KZSN	23.08	0.00
大鹿窪石器2054	16680	3-3C	6B	不可	不可	AGKT	14.39	1.00	HNKT	109.96	0.00
大鹿窪石器2055	16572	3-3C	6B	AGKT	AGKT	AGKT	2.05	1.00	HNKT	66.69	0.00
大鹿窪石器2056	15638	3-3C	6B	KZOB	KZOB	KZOB	10.52	1.00	KZSN	32.83	0.00
大鹿窪石器2057	16597	3-3C	6B	AGKT	AGKT	AGKT	3.93	1.00	HNKT	77.39	0.00



## 大鹿窪遺跡出土土器の産地について

### —胎土の重鉱物組成と元素組成から見た—

沼津工業高等学校 増 島 淳

#### 1 目的

土器胎土は、粘土と砂粒から成る。これらはともに岩石の風化物なので、胎土に含まれている造岩鉱物の組成や、胎土の元素組成を知れば、母岩が推定できる。その分析結果をもとに遺跡周辺の地質を比較すれば、産地が推定できる。

また、生産窯がわかり産地がはっきりしている瓦や須恵器などの土製品や、産地推定作業により、産地が確定した土器を比較試料として検討すれば、産地が推定できる。

上記の手法を用い、本遺跡から出土した縄文時代草創期の土器45点を対象に、胎土に含まれている砂粒鉱物の重鉱物組成と胎土全体の元素組成を調べ、それらの特徴を他の土器試料等と比較し、産地を推定する。

#### 2 方法

##### (1) 重鉱物組成の観察について

試料土器10～20gを乳鉢で粉砕し、10%塩酸を加え約10分間煮沸し、胎土中の土壌粒子の分散と造岩鉱物のクリーニングを行う。この操作を2回繰り返した後、乾燥させ、篩い分けして105～250 $\mu$ mの砂粒子を抽出し、カナダバルサムとキシレンの混液で加熱封入し、検鏡試料とする。この間、粉砕時の土器の硬さ、砂粒子抽出時の濁りの色、乾燥後の砂粒の色なども観察記載する。

検鏡は100倍の鉱物顕微鏡で重鉱物を中心に観察し、重鉱物200粒の鑑定を目安とする。黒雲母(bi)は作業中に流出あるいは塩酸によって変質するので、作業中に肉眼でその有無を確認するにとどめカウントしない。

##### (2) 蛍光X線分析について

分析装置は、国立沼津工業高等専門学校、望月研究室所有の「セイコー電子工業製卓上型蛍光X線分析装置SEA2001」を用いた。

試料は#400のアラウンドで表面あるいは断面を削り、新鮮な面に対し、真空の試料室でロジウム管球をターゲットとし、管電圧50KV、管電流2～3 $\mu$ A、照射直径10mmで、240秒間一次X線を照射し、二次(蛍光)X線はSi(Li)半導体検出器で検出した。

定量した元素は、Al(アルミニウム)、Si(ケイ素)、K(カリウム)、Ca(カルシウム)、Ti(チタン)、Mn(マンガン)、Fe(鉄)、Zn(亜鉛)、As(ヒ素)、Rb(ルビジウム)、Sr(ストロンチウム)、Y(イットリウム)、Zr(ジルコニウム)の13種類である。各試料の元素組成の特徴を識別するための数値は、測定した元素の蛍光X線強度の合計値で、個々の元素の強度を割り求めた「各元素の強度比」を用いた。

#### 3 結果

##### (1) 重鉱物組成による分類

試料土器片の多くに黒雲母が認められる。観察に費やす時間を短縮するために、黒雲母が認められる土器の一部は、蛍光X線分析結果を参考にして、観察を省略することにした。45点中30点を分析した(表1)。

試料の重鉱物組成の特徴は、斜方輝石 (opx)・単斜輝石 (cpx)・角閃石 (ho)・普通角閃石と酸化角閃石)の量比を用いた三角ダイアグラムで表すことができる(図1)。黒雲母を含み角閃石に圧倒的に富むもの(I類)、黒雲母を含み両輝石に富むもの(II類)、黒雲母を含まず斜方輝石に富むもの(III類)、黒雲母を含まず単斜輝石に富むもの(IV類)の4類に大別できる。さらに元素組成の違いから8類に細分される。

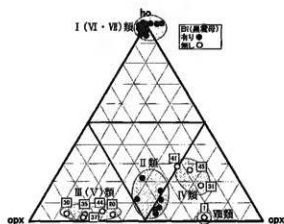


図1 大鹿遺跡出土土器の分類

(2) 蛍光X線分析による分類

45点全点を分析した(表2)。測定した13元素のうち、ZnとAsを除いた11元素で主成分分析を行い、重鉱物組成観察の結果を加味し分類を行った(図2)。

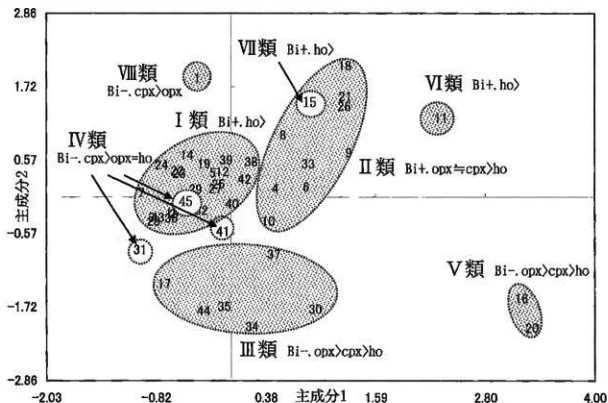


図2 元素組成による分類と重鉱物組成の関係

I類とIV類、及びII類とVII類は元素組成は近似しているが重鉱物組成が異なる。これは粘土の種類は似ているが、混入した砂の種類が異なることを示している。I類とVI・VII類、及びIII類とV類の場合は、逆の関係である。

### (3) 肉眼観察による分類

各土器片の表面や内部を子細に肉眼観察すると、多くの特徴が認められる。沼津市教育委員会勤務の池谷信之氏の協力を得て、考古学的な特徴も含め観察した(表1・図3)。

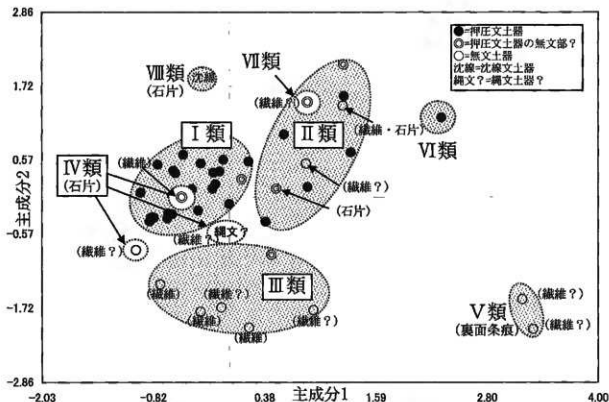


図3 元素組成による分類と肉眼観察の関係

#### a) 土器形式

42点が葛原沢Ⅱ式である。No34は葛原沢Ⅰ式の可能性を持ち、No41,45は不明である。

#### b) 文様など

27点は表面に絡条体圧痕文(以下、押圧文と略す)を持つ。16点は無文だが、うち6点は押圧文の無文部の可能性がある(無文部?で示した)。No1は沈線文、No41は縄文を持つようであり、No16,20には裏面に条痕が認められ、No19の裏面には指頭圧痕が認められた。

#### c) 黒雲母の有無

33点が黒雲母を確認した。黒雲母は角閃石と共に、花崗岩や花崗閃緑岩(以下合わせて、花崗岩類と呼ぶ)に起源する造岩鉱物である。

黒雲母を含む土器はⅠ(VI・VII)・Ⅱ類である。Ⅰ類土器は軽鉱物を多量に含み(花崗岩類の特徴である)、重鉱物組成では角閃石に圧倒的に富んでいることから、黒雲母を他地域から搬入し意図的に混入したのではなく、花崗岩類の風化砂だけが堆積している河川の河原で土器作製時に、補強材として砂粒を混入する際、付近に堆積している黒雲母を集め混入したものであろう。

Ⅱ類土器も黒雲母を含む量が少ない(Ⅰ類はbi+, Ⅱ類はbi-, 表1参照)。角閃石も少量であり軽鉱物量もそれほど多くない(砂粒が黒ゴマ色)。これは、花崗岩類の風化砂の量が相対的に少ない、河川の中・下流域で土器が作製されたためだろう。

#### d) 繊維混入の有無

土器片が小さく確認困難な個体が多いが、5点には確実に繊維が入り、8点には混入されているようである(図表に?で示す)。繊維入りの土器はⅢ・Ⅳ・Ⅴ類に集中している。



e) 石片の有無

重鉱物組成観察のために土器片から砂粒鉱物を抽出する際、鉱物粒以外に石片が残る場合がある。6点(Ⅱ類2点・Ⅳ類3点・Ⅶ類1点)で認められた。すべて無文土器である。

各類の特徴を以下にまとめる。

Ⅰ類：黒雲母を含み、角閃石に圧倒的に富み、1点を除き押圧文を持つことで共通している。

Ⅱ類：黒雲母を含み、両輝石に富み角閃石がこれに次ぎ、押圧文を持つものが多い。

Ⅲ類：黒雲母を含まず、斜方輝石に富み、無文で繊維を含んでいる。

Ⅳ類：黒雲母を含まず、単斜輝石に富み角閃石と斜方輝石がこれに次ぎ、無文で繊維を含み、石片を含む点で共通している。Ⅰ類と元素組成は似ているが、重鉱物組成や肉眼観察結果が異なる。

Ⅴ類：黒雲母を含まず、斜方輝石に富み、無文で繊維を含み、裏面に条痕を持つ点で共通している。

Ⅲ類とは元素組成が異なる。

Ⅵ・Ⅶ類：鉱物組成、肉眼観察結果ではⅠ類と同じ特徴を示すが、元素組成が異なる。

Ⅷ類：重鉱物組成、肉眼観察結果ではⅣ類と似た特徴を持つが、角閃石をほとんど含まず、元素組成もやや異なる。沈線文を持つ点で他と異なる。

これら(1)~(3)の関係をまとめ、クラスターで表したのが図4である。

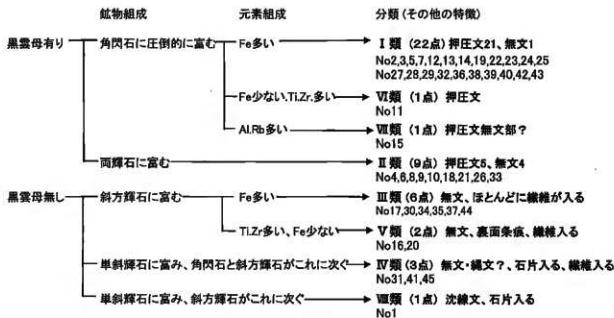


図4 各類の特徴と関係一覧

#### 4 産地推定

本遺跡出土土器すべてが「本州内で作られた」という前提のもとに産地推定を行う。

##### (1) 大まかな産地推定

本州を東西に分断するフォッサマグナを境にして、堆積物中の元素組成が異なる(文献1)。これを利用して試料土器の産地がフォッサマグナの東なのか、西なのかを推定する。比較試料は産地が確定している瓦・土師器・須恵器等、827点を用いた(表3)。結果は図5(横軸はケイ素の強度比を10倍し、鉄の強度比で割った値。縦軸はジルコニウムの強度比を100倍した値。目盛りは対数で表してある)に示しておいた、45点の本遺跡出土土器は、すべてがフォッサマグナ以東の領域に入る。フォッサマグナより東の地域で作られたとしてよいだろう。図中にⅡ・Ⅴ類の位置を示したが、各類ごとにおよそまとまり分布している。

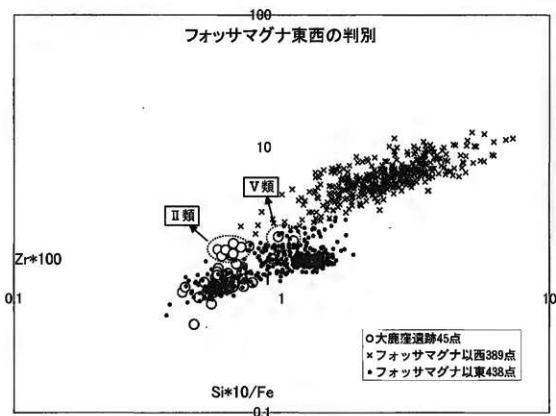


図5 大鹿窪遺跡土器、フォッサマグナ東西の判別

## (2) 限定した産地推定

以下に、各種比較試料の元素組成データを用いた主成分分析結果と重鉱物組成観察結果を使い、具体的な産地の推定を行う。

### 1) 周辺地域の遺跡から出土した土器との比較

33点の土器には黒雲母が認められる。しかし本遺跡を含めた富士山周辺や伊豆半島には黒雲母を含む岩体は存在しない(文献2, 3, 4, 5, 6, 7)。

本遺跡は新富士火山の古期溶岩流上に立地し(玄武岩からなり、主な造岩重鉱物はカンラン石や単斜輝石である)、遺跡近くの芝川にも黒雲母は存在しない。

フォッサマグナ以東の遺跡近辺で、黒雲母を含む岩体は甲府盆地周辺と丹沢山地に存在する(文献8, 9, 10, 図6)。これらの岩体の風化物が堆積する河川は、富士川流域・酒匂川流域・相模川流域・多摩川流域などである。

遺跡の地理的な位置からして、黒雲母の入った土器の産地は富士川流域、あるいは酒匂川流域にある可能性が高い。

黒雲母を含まない12点の土器は、玄武岩に一般的なカンラン石もほとんど含まないので、母岩は安山岩系と思われる。安山岩の風化堆積物は、遺跡近辺を含む県東部各地に広く分布している。

以上のような地域による地質の違いを配慮しながら、筆者が今までに行った産地推定結果で「出土地と産地が一致する」と結論された土器等を産地推定の比較試料とした。

比較試料は、八ヶ岳山麓と甲府盆地南側5遺跡(縄文中期・勝坂～曾利式)、酒匂川流域と近辺の2遺跡(勝坂式)、富士市(在地性の強い古代瓦)、沼津市(在地性の強い弥生式土器)、函南町(在地性の強い駿東型土器)出土の土器等である(表3、図6)。これらの試料は全点蛍光X線分析を行った。

県東部地域出土の縄文土器を比較試料としなかったのは、筆者のこれまでの産地推定結果で、その大

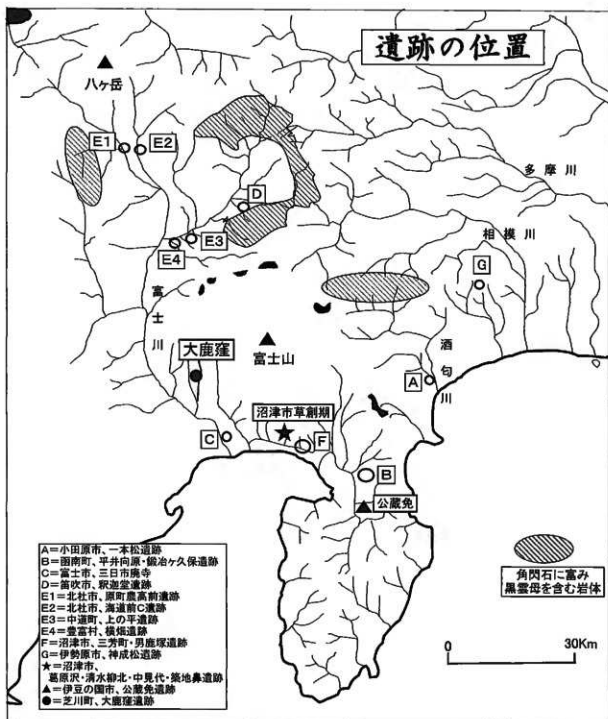


図6 各遺跡の位置と花崗岩類の分布

部分が甲府盆地周辺や神奈川県内産と判断されているからである(文献11,12,13,14)。

比較試料の一部は重鉱物組成も調べた(図7)。小田原市一本松遺跡の土器は両輝石に富むものと角閃石に圧倒的に富むものに大別できる。両輝石に富む土器には箱根山系の砂粒が、角閃石に圧倒的に富む土器には酒匂川系の砂粒が混入されているのだろう(文献12)。

伊勢原市神成松遺跡の場合も、砂粒の起源は未確認だが一本松遺跡と同様な傾向が認められる。

笛吹市釈迦堂遺跡の土器は角閃石に圧倒的に富んでいる。同遺跡が花崗岩類の分布域に接しているので、遺跡近辺を流れる笛吹川流域の砂粒が混入しているのだろう(文献12)。

本遺跡土器と比較試料の元素組成をもちいて主成分分析を行った(図8)。図中に一本松遺跡の傾城

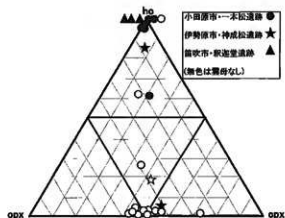


図7 比較試料（勝板式土器）の特徴

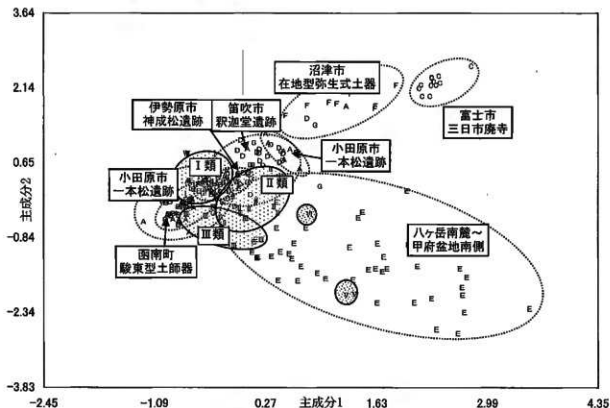


図8 比較試料との関係

を示すリングが二つあるが、駿東型土師器と重複しているリングが重鉱物組成で兩輝石に富む土器グループであり、釈迦堂遺跡と重複しているのが角閃石に圧倒的に富む土器グループである。

本遺跡土器は富士市や沼津市から出土した在地性の強い土器の領域には入らない。I類土器は釈迦堂遺跡・一本松遺跡・神成松遺跡及び因南町出土の駿東型土師器の領域と重複している。II・III類土器はI類よりもやや八ヶ岳山麓と甲府盆地南側の領域側に位置している。V・VI類土器は八ヶ岳山麓と甲府盆地南側の領域側に入る。

参考資料として筆者が以前分析した、八ヶ岳山麓と甲府盆地周辺の7遺跡（表3）から出土した曾利II～V式土器の重鉱物組成を図9に示しておいた。釈迦堂遺跡のような花崗岩類の分布地域に接する遺跡は入っていない。

八ヶ岳山麓遺跡の土器は兩輝石に富み、八ヶ岳火山を造る安山岩の風化堆積砂が混入されているものと思われる。甲府盆地周辺の土器は3成分に富んだ土器が多く、笛吹川と釜無川が合流した富士川の堆

積砂が混入されているのだろう。八ヶ岳山麓土器の一部が甲府盆地周辺土器の中に紛れているが、甲府盆地周辺からの搬入が考えられる。

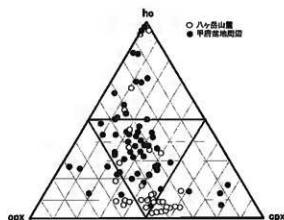


図9 八ヶ岳山麓と甲府盆地周辺の菅笠式土器の特徴

図1に示した本遺跡土器の重鉱物組成と比較すると、甲府盆地周辺遺跡の土器とは図中での主たる分布領域が異なっている。八ヶ岳山麓遺跡の土器は両輝石に富み、本遺跡のⅡ類に近似している。しかし、Ⅱ類土器は黒雲母を含むが、八ヶ岳山麓遺跡の土器は含まない。これら7遺跡の試料は、本遺跡土器の重鉱物組成の特徴とはあまり一致しない。

つまり、本遺跡土器の大部分が甲府盆地周辺産であるとするのは、重鉱物組成から見て困難である。なお、7遺跡の試料の元素組成は、図が煩雑になるので掲載しないが、図8の八ヶ岳山麓と甲府盆地南側5遺跡の領域と重なる。

## 2) 県東部出土の縄文草創期土器を加えた考察

伊豆の国市の多賀火山西麓に立地する公蔵免遺跡(多縄文段階)40点、沼津市の愛鷹南麓に立地する、葛原沢遺跡(押圧文と隆帯文)14点、及び清水柳北遺跡10点・中見代遺跡3点・築地鼻遺跡6点(押圧文と無文)計73点の縄文草創期土器を比較試料とした。

提供試料の制約から、公蔵免遺跡土器のうち20点は重鉱物組成のみを観察し(文献15)、20点は元素組成のみを調べた。葛原沢遺跡土器は全点両方の観察を行い(文献16)、清水柳北遺跡・中見代遺跡・築地鼻遺跡土器は全点元素組成を分析したが、重鉱物組成を観察したのは一部である。

図10、図11に重鉱物組成の観察結果を示しておいた。注目されるのは、どの遺跡の場合も重鉱物組成がワンパターンではないこと。つまり土器の産地が複数あることだろう。

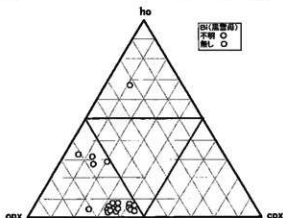


図10 公蔵免遺跡出土土器の特徴

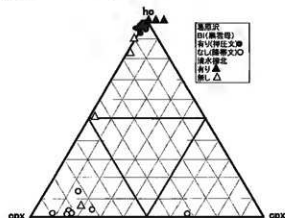


図11 葛原沢・清水柳北遺跡出土土器の特徴

フォッサマグナ東西の判別では、全試料がフォッサマグナ以東の領域におよそ収まっている（図12）。

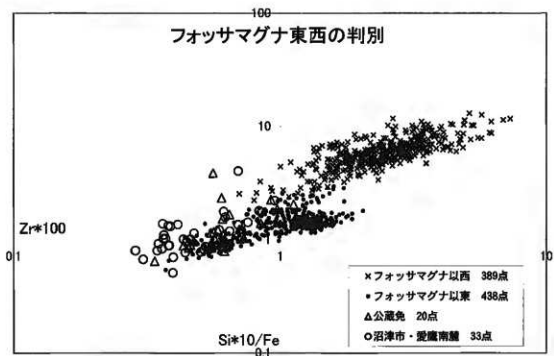


図12 縄文時代草創期土器、フォッサマグナ東西の判別

図13は、1) で用いた比較試料の領域図に、蛍光X線分析した縄文草創期土器全試料、および公蔵免遺跡付近に堆積する、土器胎土に成りうる古い堆積物（文献17）と、愛鷹南麓ニカ所の発掘現場で得た休場層を加え、主成分分析を行ったものである。図14は、主要部分の拡大図である。

図13、14をもとにして、以下に各類土器の産地について考察を行う（表4）。

#### I類土器（押圧文21点、無文1点）

I類土器および他遺跡出土の黒雲母を含む土器は、一本松遺跡の領域に入っている。大仁神社付近のローム層と大仁高校グラウンド地下に堆積しているシルト層（崖4のマーク）はI類土器の集団内に埋没している。

一本松遺跡土器の胎土は、箱根火山系の堆積物を胎土に使用した面南町出土の駿東型土師器（文献18）と重複することや、大仁神社付近に堆積している箱根火山起源のローム層や大仁高校グラウンド地下のシルト層（湯河原火山や多賀火山を含む箱根火山系の堆積物）とも重複することから、一本松遺跡付近にある箱根火山起源の古い堆積物が粘土として使用され、砂粒の起源も箱根火山系の安山岩の風化砂だろう。

I類土器は元素組成において一本松遺跡土器と同様な特徴を持つことから箱根火山系の粘土を使い、酒匂川流域に堆積している黒雲母を含む花崗岩類の風化砂を補強剤にして、黒雲母を装飾のために追加し作製されたと考えるのが適当だろう。その産地は、22点の元素組成、重鉱物組成がよくまとまっている事から、同一地点の可能性もある。

#### II類土器（押圧文5点、無文4点）

重鉱物組成は八ヶ岳火山や箱根火山を造る安山岩系の特徴を示しているが、黒雲母を含むことから、富士川下流域あるいは酒匂川下流域（ともに角閃石や黒雲母の含有量が少ない）に産地があるものと思われる。元素組成と鉱物組成の特徴だけでは判別は困難である。

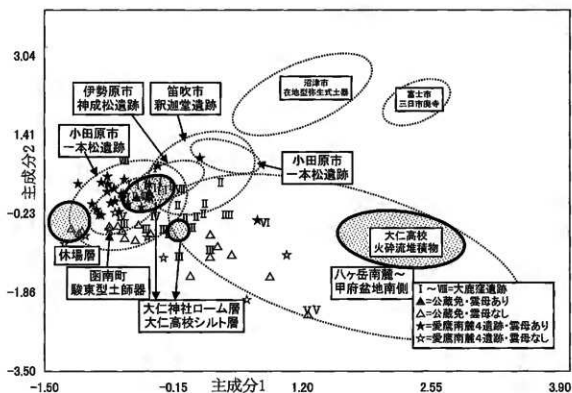


図 13 縄文時代草創期土器との比較

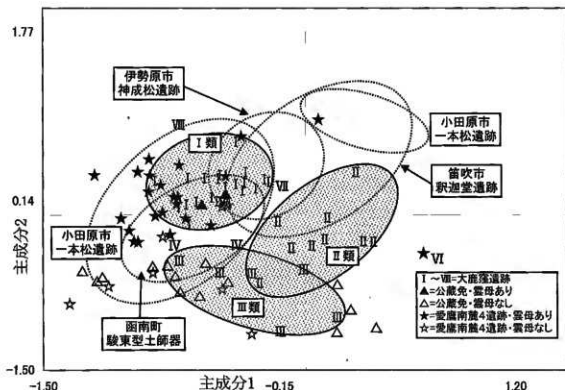


図 14 図 13 の主要部分拡大図

しかし、同じ押圧文を持つⅠ類土器の存在や、本遺跡から出土した黒曜石の多くが神津島産（神津島で採取された黒曜石は、黒潮の流路の関係で東伊豆～南関東へ上陸した。文献20）や、箱根山系の柏峠産であり、信州系はまれであることも考え合わせると、Ⅰ類土器同様に酒匂川下流域に産地がある可能性が高い。

#### Ⅲ類土器（無文、ほとんどが繊維入り6点）

重鉱物組成において斜方輝石に富むのが特徴である。同様な鉱物組成を持つ土器は公蔵免遺跡や葛原沢遺跡にも認められる。しかし甲府盆地周辺遺跡には認められない。元素組成では一本松遺跡の領域と一部が重複しており、公蔵免遺跡の無文土器とも重複している。箱根火山系の粘土に、同起源の砂粒を混入して作製された可能性が高い。

しかし、本遺跡の立地する芝川流域の重鉱物組成も斜方輝石や単斜輝石に富んでおり（文献12,19）、遺跡の近辺に産地がある可能性を残す。今後の現地調査が必要である。

#### Ⅳ類土器（無文、繊維入り3点）

元素組成はⅠ・Ⅲ類土器と類似しているが、重鉱物組成は富士川下流域の特徴を示している。元素組成の特徴を重視して産地を求めると、砂粒に石片が目立ち、装飾の黒雲母の混入が認められないことから、箱根火山系の粘土に、酒匂川流域で支流からの土砂の供給が卓越した地点に堆積している川砂を無作為に混入して作製された可能性もある。

#### Ⅴ類土器（無文、繊維入り2点）

重鉱物組成の特徴はⅠ類土器と同一だが、元素組成が異なる。しかし、他の類型と比べるとⅢ類土器が一番近い。また箱根火山系に産地を持つと思われる公蔵免遺跡の無文土器の重鉱物組成の特徴や図13上での分布範囲は、Ⅲ・Ⅴ類土器の範囲と一致する。Ⅲ・Ⅴ類土器ともに繊維入りの土器で製法が似ているなど類似点が多い。

これらよりⅢ類土器とは胎土の採取地は異なるが、箱根火山系の粘土に、同起源の砂粒を混入して作製された可能性が高い。芝川流域の可能性も残る。

#### Ⅵ類土器（押圧文1点）

重鉱物組成でⅠ類土器と同じ特徴を示し、元素組成でⅡ類土器に近似した特徴を示している。Ⅰ・Ⅱ類土器がともに押圧文であることを考えると、酒匂川流域でⅡ類土器と同様な粘土を使い、Ⅰ類土器と同様な砂粒を混入して作製されたものだろう。

#### Ⅶ類土器（無文1点）

黒雲母を含み、重鉱物組成でⅠ類土器と同じ特徴を示すが、元素組成はⅡ類土器の領域に入る。土器表面に押圧文がない。たぶんⅠ類押圧文土器の無文部で、粘土の採取地がⅠ類土器とやや異なっているのだろう。酒匂川流域で作製された可能性が高い。

#### Ⅷ類土器（沈線文1点）

重鉱物組成は単斜輝石に富みⅣ類土器に似るが、角閃石をほとんど含まない。沈線文を持ち他と異なる。元素組成も他と異なる、産地は不明である。

## 5 まとめ

今回分析した45点の土器について、わがったことをまとめる。

- 土器の産地は、すべてフォッサマグナより東側にある。
- 土器の産地は大まかに4地域、細分すると8地域ある。
- 土器の産地は、2系統に大別できる。

一つは、Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ・Ⅶ類土器33点で、押圧文土器（27点）と、その無文部（6点）と考えられる



グループで、すべてに黒雲母が混入されている。これらの産地は、本遺跡から出土した黒曜石の大部分が神津島産や伊豆の柏峠産であることを考慮すると、遺跡から直線距離で50 km以上離れた酒匂川流域の複数箇所で作られ、本遺跡に搬入された可能性が高い。なお、Ⅱ類土器は富士川下流域で作られた可能性もある。

他の一つは、Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ類の11点で、黒雲母を含まない無文土器のグループで、元素組成や重鉱物組成が公蔵免遺跡の無文土器とよく似ていることから、箱根火山東麓を含む酒匂川流域で作られた可能性が高い。しかし、富士川下流域を含む本遺跡の比較的 nearby の複数箇所で作製された可能性も若干残っている。

最後に、比較試料とした縄文草創期土器の産地について、若干の考察を行う。

黒雲母を含む土器についてみると、図13において公蔵免遺跡の2点の土器はⅠ類土器の中に埋没していることから、産地はⅠ類土器と同一と考えられる。愛鷹南麓4遺跡から出土した土器もⅠ類土器と混在していることから、Ⅰ類土器と産地が近いと考えるのが適当だろう。つまり、これらの土器は箱根火山系の堆積物を粘土に用い、酒匂川流域に堆積している花崗岩類の砂粒を混入して作製された可能性が高い。

黒雲母を含まない土器は、元素組成において公蔵免遺跡、愛鷹南麓4遺跡及び、Ⅲ・Ⅴ類が図13において混在しており、重鉱物組成もよく似ていることから、大部分が箱根火山系の堆積物を粘土に用いて、箱根火山系の砂粒を混入して作製されたと考えるのが適当だろう。

## 6 おわりに

縄文草創期土器の胎土分析は、出土数も少なくあまり行っておらず、同時期の比較試料が少なく、現段階では産地推定は簡単ではない。

今回の報告では、元素組成の分析は主成分分析を中心にまとめたが、実際にはその他の多変量解析や、各種の判別分析も行っている。しかし、それらの結果は主成分分析結果と同様であったので省略した。

今後さらに調査を続け、試料数を増やし、より精度の高い結果を出すようにしたい。

なお、本報告をまとめるに当たり、沼津工業高等専門学校の望月明彦教授や、沼津市教育委員会の池谷信之氏をはじめ、山梨県、神奈川県、静岡県内の各教育委員会に所属される、多くの専門職員の方々には、貴重なご助言や、試料を提供していただいた。ここに感謝の意を表し終わりとします。

## 文 献

- 1 三辻 利一 (1983) : 古代土器の産地推定法 考古学ライブラリー14 ニューサイエンス社
- 2 沢村孝之助 (1955) : 五万分の一地質図「修善寺」地質調査所
- 3 (1955) : 七万五千分の一地質図「沼津」地質調査所
- 4 倉沢 一 (1972) : 伊豆半島の火山・火山岩 伊豆半島 東海大学出版会
- 5 第四紀火山カタログ委員会 (1999) : 日本の第四紀火山カタログ Ver.1.0 日本火山学会
- 6 火山岩の産状編集委員会 (2000) : 日本の新生代火山岩の分布と産状 Ver.1.0 地質調査所
- 7 町田 洋 新井 房夫 (2003) : 新編火山灰アトラス 東京大学出版会
- 8 山梨県地質図編集委員会 (1970) : 山梨県地質図 内外書院
- 9 神奈川県立博物館 (1997) : 南の海から来た丹沢 有隣新書
- 10 藤岡換太郎・他 (2004) : 伊豆・小笠原弧の衝突 有隣新書
- 11 増島 淳 (1974) : 東東部地方の縄文中期土器の作製地に関して

『静岡県考古学会連絡誌・Vol.12』静岡県考古学会

- 12 (1990)：静岡県東部地域における縄文土器の作製地について  
『沼津市博物館紀要 14』p21～48 沼津市
- 13 (1994)：曾利V式（連八紋）土器の胎土分析－静岡県東部地域及び山梨県出土土器を  
中心とした－『沼津市博物館紀要 18』p21～46 沼津市
- 14 (1998)：天間沢遺跡出土土器の産地について  
『静岡の考古学』植松章八選層記念論文集 p19～36  
静岡県の考古学編集委員会
- 15 (1986)：鉱物組成から見た仲道A遺跡出土土器について  
『仲道A遺跡』p298～303 大仁町
- 16 (2001)：葛原沢第IV遺跡出土草創期土器の胎土分析－産地の推定－  
『沼津市文化財調査報告書 第77集』p306～317 沼津市教育委員会
- 17 (2005)：大仁高校グラウンド周辺の地史－二十数万年前も大仁高校は海底だった－  
『研究紀要・城山論叢』第3号 P103～134 静岡県立大仁高等学校
- 18 (1995)：老町田C遺跡出土土器の胎土分析『大場川遺跡群』P158～185 三島市
- 19 (1975)：千居出土土器の母材『千居』p245～259  
千居遺跡をつくる岩石『千居』p260～262 加藤学園考古学研究所
- 20 池谷 信之 (2005)：黒潮を渡った黒曜石 見高段間遺跡 新泉社

表1 肉眼観察結果と重鉱物組成

No	産地	重晶石式	文様	硬さ	清の色	砂の色	結晶	その他	分級	比	sp	ep	ep	計
1	大塚	重晶石式	不明	ややもろい	無色	少ない、灰黒	石片のこも		Ⅰ	++			11	214
2	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			25	214
3	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
4	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
5	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
6	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
7	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
8	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
9	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
10	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
11	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
12	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
13	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
14	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
15	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
16	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
17	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
18	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
19	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
20	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
21	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
22	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
23	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
24	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
25	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
26	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
27	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
28	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
29	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
30	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
31	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
32	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
33	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
34	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
35	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
36	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
37	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
38	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
39	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
40	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
41	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
42	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
43	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
44	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
45	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214
46	大塚	重晶石式	何れか正晶文	硬	透明無色	白ゴマ	粗粒物多い		Ⅰ	++			11	214

※粗粒物?は重晶石の無縁部 注:比(無縁部), di(カタン石), cax(多角形石), oho(普通角閃石), oho(東北角閃石), z(シロン石), ep(綠泥石), op(不透明結晶)



表3 比較試料一覽

選別名・寺	所在地	種類	時期	数	備考	遺跡名・寺	所在地	種類	時期	数	備考
公原 矢	伊豆の国市	縄文式土器	縄文草創期	40	○20	東・仁和寺	京都府	かわらけ	鎌倉	10	※
高屋 天	沼津市	縄文式土器	縄文中期	14		京・内裏	京都府	かわらけ	鎌倉	5	※
清水 柳北	沼津市	縄文式土器	縄文草創期	10		京・瓦葺	京都府	かわらけ	鎌倉	5	※
中見 代	沼津市	縄文式土器	縄文草創期	3		京・芝草八	京都府	かわらけ	鎌倉	10	※
新地 泉	沼津市	縄文式土器	縄文草創期	6		園成京院	伊豆の国市	瓦	奈良・平安	41	※
神成 弘	沼津市	縄文式土器	縄文Ⅱ～Ⅲ式	29		御所ノ内	伊豆の国市	瓦	奈良・平安	29	※
一本 松	山梨県	縄文式土器	縄文Ⅰ式	34		伊豆園分寺	三島市	瓦	奈良・平安	100	※
釈迦 堂	山梨県	縄文式土器	縄文Ⅰ式	30		伊豆園分寺	三島市	瓦	奈良・平安	45	※
港 廻南 C	山梨県	縄文式土器	縄文～骨利	10		三日月庵寺	富士市	瓦	奈良・平安	12	
原町 長瀬前	山梨県	縄文式土器	縄文～骨利	15		竹林寺薬師	島田市	瓦	奈良・平安	23	※
上の 平	山梨県	縄文式土器	縄文～骨利	16		瑞江園分寺	磐田市	瓦	奈良・平安	31	※
横 畑	山梨県	縄文式土器	縄文～骨利	12		瑞江園分寺	磐田市	瓦	奈良・平安	6	※
全 尾	山梨県	縄文式土器	骨利Ⅰ式	12	○	大室院院寺	磐田市	瓦	奈良・平安	20	※
穂 呼 B	山梨県	縄文式土器	骨利Ⅰ式	13	○	花坂古窯	伊豆の国市	瓦(瓦葺)	奈良・平安	40	※
上の 原	山梨県	縄文式土器	骨利Ⅰ式	14		蓮下瓦窯	三島市	瓦(瓦葺)	奈良・平安	17	※
頭 上	山梨県	縄文式土器	骨利Ⅰ式	13	○	鎌田・敏彰	磐田市	瓦(瓦葺)	奈良・平安	6	※
頭 上	山梨県	縄文式土器	骨利Ⅰ式	13	○	鎌田・敏彰	磐田市	瓦(瓦葺)	奈良・平安	6	※
頭 上	山梨県	縄文式土器	骨利Ⅰ式	20	○	鎌田・敏彰	磐田市	瓦(瓦葺)	奈良・平安	24	※
井 石田	山梨県	縄文式土器	骨利Ⅰ式	20	○	湖西古窯群	湖西市	瓦(瓦葺)	奈良・平安	9	※
井 戸瓦	山梨県	縄文式土器	骨利Ⅰ式	7	○	下総園分寺	千歳県	瓦	奈良・平安	10	※
三 芳	沼津市	弥生式土器	弥生終期(在産性)	6		相模園分寺	神奈川県	瓦	奈良・平安	34	※
尾 瀬	沼津市	弥生式土器	弥生終期(在産性)	5		相模園分寺	神奈川県	瓦	奈良・平安	5	※
尾 瀬	沼津市	弥生式土器	弥生終期(在産性)	46	※	甲斐園分寺	山梨県	瓦	奈良・平安	10	※
尾 瀬	沼津市	弥生式土器	弥生終期(在産性)	13	※	三河園分寺	愛知県	瓦	奈良・平安	20	※
尾 瀬	沼津市	弥生式土器	弥生終期(在産性)	28	※	三河園分寺	愛知県	瓦	奈良・平安	15	※
尾 瀬	沼津市	弥生式土器	弥生終期(在産性)	26	※	三河園分寺	愛知県	瓦	奈良・平安	23	※
尾 瀬	沼津市	弥生式土器	弥生終期(在産性)	11	※	尾張園分寺	愛知県	瓦	奈良・平安	30	※
尾 瀬	沼津市	弥生式土器	弥生終期(在産性)	17	※	尾張園分寺	愛知県	瓦	奈良・平安	30	※
尾 瀬	沼津市	弥生式土器	弥生終期(在産性)	9		尾張園分寺	愛知県	瓦	奈良・平安	6	
尾 瀬	沼津市	弥生式土器	弥生終期(在産性)	23	※	大仁神社西切り通し	伊豆の国市	パリス・ルーム	約1万4千年前	2	
尾 瀬	沼津市	弥生式土器	弥生終期(在産性)	10		大仁高校グラウンド裏	伊豆の国市	火伴流巻遺物	約20万年以上前	3	
尾 瀬	沼津市	弥生式土器	弥生終期(在産性)	67	※	大仁高校グラウンド地下	伊豆の国市	シルト	約20万年以上前	2	

※印はフォッサマグナの東西の別別に用いた試料。 ○印は発掘物組成のみ解した試料。 合計試料数 1194

表4 各類型土器の産地推定結果

分類	個体数	文 様	黒雲母	おおまかな産地推定	推定産地
I類	22	押圧文 21 無 文 1	+	フォッサマグナ以東	酒匂川流域
II類	9	押圧文 5 無 文 4	+	フォッサマグナ以東	酒匂川流域？ (富士川下流域？)
III類	6	無 文	-	フォッサマグナ以東	酒匂川流域・箱根 (芝川流域？)
IV類	3	無 文	-	フォッサマグナ以東	酒匂川流域？ (富士川下流域？)
v類	2	無 文	-	フォッサマグナ以東	酒匂川流域・箱根 (芝川流域？)
VI類	1	押圧文	+	フォッサマグナ以東	酒匂川流域
VII類	1	無 文	+	フォッサマグナ以東	酒匂川流域
VIII類	1	沈線文	-	フォッサマグナ以東	不 明

## 静岡県大鹿窪遺跡出土炭化物の<sup>14</sup>C年代測定

国立歴史民俗博物館研究部

考古研究系助手

小林 謙一

静岡県大鹿窪遺跡出土炭化物の<sup>14</sup>C年代測定を試みた。試料は、大鹿窪遺跡発掘調査現地において、小林が遺構やセクションから2点採集した炭化材である。

SSK-01は、3号焼土跡燃焼面上に遺存していた小粒の炭化材である。この遺構からは、縄文時代早期条痕文土器を中心に出土している。

SSK-02は、5号竪穴状遺構土層に遺存していた小粒の炭化材である。この遺構からは、縄文時代草創期押圧縄文土器が出土している。

### 1 炭化物の処理

試料については、以下の手順で試料処理を行った。(1)の作業は、国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室において小林、(2)(3)は、地球科学研究所を通してベータアナリティック社へ委託した。

(1)前処理：酸・アルカリ・酸による化学洗浄（AAA処理）。

AAA処理として、80℃、各1時間で、希塩酸溶液（1N-HCl）で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去（2～3回）し、さらにアルカリ溶液（1N-NaOH）でフミン酸等を除去した。アルカリ溶液による処理は3～4回行い、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに酸処理（1N-HCl 12時間）を行い、アルカリ分を除いた後、純水により洗浄した（4回）。

(2)二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を燃焼（二酸化炭素化）、真空ラインを用いて不純物を除去。

(3)グラファイト化：鉄触媒のもとで水素還元し、二酸化炭素をグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

### 2 測定結果と暦年較正

AMSによる<sup>14</sup>C測定は、2002年度に地球科学研究所を通してベータアナリティック社（機関番号Beta）へ委託した。

年代データの<sup>14</sup>CBPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した<sup>14</sup>C年代（モデル年代）であることを示す。<sup>14</sup>C年代を算出する際の半減期は、5,568年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差（1標準偏差、68%信頼限界）である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比により、<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比に対する同位体効果を調べ補正する。<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比は、標準体（古生物belemnite化石の炭酸カルシウムの<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比）に対する千分率偏差 $\delta^{13}\text{C}$ （パーミル、‰）で示され、この値を-25‰に規格化して得られる<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比によって補正する。補正した<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比から、<sup>14</sup>C年代値（モデル年代）が得られる。

測定値を較正曲線IntCal04（<sup>14</sup>C年代を暦年代に修正するためのデータベース、2004年版）（Reimer et al 2004）と比較することによって暦年代（実年代）を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計学的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。暦年較正プログラムは、国立歴史民俗博物館で作成したプログラムRHCAL（OxCal Programに準じた方法）を用いている。統計誤差は2

標準偏差に相当する、95%信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦 cal BC で示す。() 内は推定確率である。図は、各試料の暦年較正の確率分布である。

表1 測定結果と暦年較正年代

試料番号	測定機関番号	炭素年代 $\delta^{13}\text{C}\text{‰}$	$^{14}\text{C}$ BP (補正值)	暦年較正 cal BC (%)	は確率密度
SSK-01	Beta-167429	-25.7	7580 ± 40	6495-6385	95.6%
SSK-02	Beta-167428	-27.2	10850 ± 40	10935-10865	91.8%

### 3 年代的考察

暦年較正年代についてみると、縄文早期条痕文土器の時期に比定される SSK-1 は、紀元前 6495 ~ 6385cal BC に含まれる可能性が95%、縄文草創期押圧縄文の時期に比定される SSK-2 は、紀元前 10935 ~ 10865cal BC に含まれる可能性が92%の確率密度分布である。これらの年代は、小林らのこれまでの測定からみると、それぞれの時代に整合的な結果ととらえられる(小林・西本 2003)。

塚B遺跡では、我々が測定した以外に以下の2点の年代測定が行われている(小金澤 2003)。参考までに、本稿での暦年較正と同様の方法で算出した結果を提示しておく。

Beta-167672 52号土坑出土陶土器付着物 11390 ± 5014C BP、 $\delta^{13}\text{C}$ -24.1%、較正年代(2 $\sigma$ ) 11405-11200calBC (95.4%)

Beta-170267 7号竪穴状遺構出土炭化材(縄文草創期押圧文期) 10910 ± 6014C BP、 $\delta^{13}\text{C}$ -26.7%、較正年代(2 $\sigma$ ) 11005-10865calBC (95.7%)

この年代測定については、平成14年度科学研究費補助金「基盤研究(A・1)(一般)縄文弥生時代の高精度年代体系の構築」(代表今村峯雄 課題番号13308009)、暦年較正の算出や分析については国立歴史民俗博物館 平成17年度基盤研究「高精度年代測定法の活用による歴史資料の総合的研究」(研究代表 今村峯雄)および平成17年度科学研究費補助金「基盤研究(C) AMS 炭素14年代測定を利用した東日本縄紋時代前半期の実年代の研究」(研究代表 小林謙一 課題番号17520529)の成果を用いている。

本稿を草するにあたり、暦年較正については今村峯雄氏のご教示を得た。感謝します。

#### (参考文献)

- 今村 峯雄 2004『課題番号13308009 基盤研究(A・1)(一般)縄文弥生時代の高精度年代体系の構築』(代表今村峯雄)
- 小金澤保雄 2003『大鹿塚遺跡 塚B遺跡(遺構編)』芝川町教育委員会
- 小林謙一・西本豊弘 2003『年代がわかると歴史観が変わる・2』『歴史を探る サイエンス』国立歴史民俗博物館
- Reimer, Paula J.; Baillie, Mike G.L.; Bard, Edouard; Bayliss, Alex; Beck, J Warren; Bertrand, Chanda J.H.; Blackwell, Paul G.; Buck, Caitlin E.; Burr, George S.; Cutler, Kirsten B.; Damon, Paul E.; Edwards, R Lawrence; Fairbanks, Richard G.; Friedrich, Michael; Guilderson, Thomas P.; Hogg, Alan G.; Hughen, Konrad A.; Kromer, Bernd; McCormac, Gerry; Manning, Sturt; Ramsey, Christopher Bronk; Reimer, Ron W.; Remmele, Sabine; Southon, John R.; Stuiver, Minze; Talamo, Saha; Taylor, F.W.; van der Plicht, Johannes; Weyhenmeyer, Constanze E. 2004 IntCal04 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration, 0726 Cal Kyr BP Radiocarbon 46(3), 1029-1058(30).